

授 業 計 画

平成 29 年度

Syllabus 2017

生涯福祉学部 社会福祉学科

平成29～28（2017～2016）年度

共通教育科目

平成27～26（2015～2014）年度

基礎科目・教養科目

《共通教育科目 建学の精神》

科目名	宗教と人生	科目ナンバリング	SFOL11001
担当者氏名	本多 彩		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

本講義では、兵庫大学の「建学の精神」と仏教について理解を深める。また宗教へ多角的にアプローチすることによって宗教に対する理解を進める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。

《授業の到達目標》

- ・「建学の精神」への理解を深め、自らの言葉で説明できるようになり、兵庫大学学生としての自覚を涵養する。
- ・日常生活領域に潜むさまざまな宗教を通して、①人間や世界や生や死について考え自分自身を見つめなおしていくきっかけとし、②異文化や他者理解を促進する。
- ・社会で起こっている様々な課題を仏教という視点からとらえなおし説明することができる。

《成績評価の方法》

受講態度（講義中の質問、建学の精神に関する宗教行事への参加を含む）30%、レポート 20%、定期テスト50%、この3項目で評価する。
分らないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

建学の精神に関連する宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。
 仏教の本を読んでみよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教についてその機能を理解し説明することができる。
2	宗教の種類	分布や特徴によって分けられる宗教の種類を理解し説明することができる。
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性について理解し説明することができる。
4	建学の精神①	建学の精神である和と聖徳太子について学び説明することができる。
5	建学の精神②：学内宗教ツアー	学内の宗教施設をめぐるという体験を通して各施設の説明をすることができるようになり、建学の精神への理解を進める。
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。
7	キリスト教を知る②	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学び説明することができる。
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。
9	仏教を知る①	建学の精神にある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解し説明することができる。
10	仏教を知る②	初期仏教の展開と社会とのかかわりについて学び説明することができる。
11	仏教を知る③	大乘仏教の広がりや特徴について理解し説明することができる。
12	日本の仏教を知る①	日本仏教の特徴と展開について理解し説明することができる。
13	日本の仏教を知る②	日本の浄土系仏教の流れと教えについて理解し説明することができる。
14	建学の精神③	兵庫大学の建学の精神について理解を深め共有しお互いに説明し合うことができる。
15	建学の精神④	兵庫大学生としての誇りを持ち、建学の精神と自身の将来との関連を自分の言葉で説明することができる。

科目名	仏教と現代社会		科目ナンバリング	SFOL21002
担当者氏名	本多 彩			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

宗教研究は民俗学・民族学や人類学や社会学など多くの学問領域と関連する学際的性格をもつ。周りを観察するといかに仏教が生活や思想に関わっているかに気づく。本講義では幅広く仏教と文化について解説し、さらに仏教と人間・グローバル社会・生と死・医療・環境等についての理解を深める。仏教と現代社会や文化について理解し自分自身を見つめるきっかけとする。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

※身近にある仏教について考え説明することができる。
 ※仏教と現代社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解し説明することができる。
 ※浄土系の教えについて理解を深め社会とのかかわりについて理解し説明することができる。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への参加を積極的に評価する。
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー

《成績評価の方法》

受講態度（宗教行事への参加、講義中の質問も含む） 30%
 レポート 30%
 期末プロジェクトと発表 40%
 この3項目で評価する。
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

その他に宗教ツアーや花まつり法要もあるので参加してほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解し説明ができる。
2	仏教の教え(1)	仏教の歴史と基本となる教えについて説明することができる。
3	仏教の教え(2)	仏教の教えについて説明することができる。
4	日本社会と仏教①	日本文化と仏教の関連について理解し説明することができる。
5	日本社会と仏教②	日本人の暮らしと仏教の関連について理解し説明することができる。
6	日本社会と仏教③	日本人の死生観と仏教について理解し説明することができる。
7	日本社会と仏教④	日本社会で起きている問題について仏教の視点を理解し説明することができる。
8	グローバル化と仏教①	仏教の視点からグローバル化や宗教多元社会について考え説明することができる。
9	グローバル化と仏教②	海外でみられる仏教の広がりについて学び説明することができる。
10	グローバル化と仏教③	世界的な規模で起きている社会問題について仏教の視点をもって理解し説明することができる。
11	現代社会と浄土仏教①	浄土仏教の教えの特徴とその展開について学び説明することができる。
12	現代社会と浄土仏教②	海外展開する浄土仏教について理解し説明することができる。
13	現代社会と浄土仏教③	現代社会がかかえる課題について浄土仏教の視点から取り上げ、考えて説明することができる。
14	仏教と現代社会	仏教の教えと現代社会のつながりを整理し発表することができる。
15	仏教と現代社会（まとめ）	現代社会と仏教の関連について関心を持ったテーマで整理し発表することができる。

《共通教育科目 建学の精神》

科目名	兵庫大学の学びと和		科目ナンバリング	SFOL21003	
担当者氏名	本多 彩、北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力			

《授業の概要》

兵庫大学は聖徳太子の説かれた和を建学の精神とし、太子や創始者の先生方が貴ばれた仏教を大切にしています。本講義では建学の精神について深く学びます。教員によるオムニバス形式の講義を通して、所属する学科の専門教育と建学の精神のつながりについて理解を進めます。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

入学時に配布した「ふんだりーか」と『仏教聖典』

《授業の到達目標》

本講義の目的は兵庫大学の建学の精神を深く知り建学の精神が自らの学びとどのように関連しているかを理解することです。
 ・本講義では聖徳太子の説かれた和、そして仏教について学び説明できるようになります。
 ・建学の精神があなたの学科の専門教育とどのように関係しているのかを知り伝えることができるようになります。

《授業時間外学習》

現在履修している専門科目授業の中で、建学の精神とつながっていると思うことを発見しよう。
 一度、仏教の本を読んでみましょう。

《成績評価の方法》

講義への積極的な参加・建学の精神に関連する宗教行事への参加 50%
 レポート・課題・提出物 50%
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	兵庫大学の歴史	兵庫大学の歴史を学び説明することができる。
2	兵庫大学と建学の精神	建学の精神と兵庫大学が掲げる人間力、実践力について学び説明することができる。
3	兵庫大学の建学の精神と仏教①	兵庫大学の建学の精神である和と仏教について学び説明することができる。
4	兵庫大学の建学の精神と仏教②	兵庫大学の創始者である3人の先生と和と仏教との関連を理解し説明することができる。
5	兵庫大学の教育と建学の精神の重要性	大学教育で建学の精神が重要であることを学ぶ。
6	健康システム学科の学びと和	健康システム学科の専門教育と和について学び説明することができる
7	社会福祉学科の学びと和	社会福祉学科の専門教育と和について学び説明することができる。
8	日本の仏教① 聖徳太子と仏教	聖徳太子の時代の仏教について学び十七条憲法にある和と仏教について理解を深め説明することができる。
9	日本の仏教② 龍谷総合学園	浄土系の仏教について学び本学との関係について説明することができる。
10	現代ビジネス学部の学びと和	現代ビジネス学科の専門教育と和について学び説明することができる。
11	栄養マネジメント学科の学びと和	栄養マネジメント学科の専門教育と和について学び説明することができる。
12	看護学部の学びと和	看護学部の専門教育と和について学び説明することができる。
13	こども福祉学科の学びと和	こども福祉学科の専門教育と和について学び説明することができる。
14	兵庫大学と建学の精神	話し合いを通して各学科の学びと和について理解を深め、整理して説明することができる。
15	兵庫大学と建学の精神 (まとめ)	兵庫大学の学びと和について自らの言葉で伝えることができる。

科目名	日本語(読解と表現)		科目ナンバリング	SCOS11001
担当者氏名	野田 直恵、辻本 恭子			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

大学での学習・就職活動および、日常生活・社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・文章表現法・敬語の用法といった日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。原則として、課題の答え合わせ・説明のあと、設問に取り組むというスタイルで授業をすすめる。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、内容が伝わりやすい文や文書の書き方、敬語の適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって日本語についての知識を深め、コミュニケーション能力を高める。

《成績評価の方法》

6回以上欠席した場合は単位を与えない。授業時に複数回実施する課題の提出(50%)と定期試験(50%)によって評価する。提出物には状況に応じてコメントを付し、返却する。授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 漢字の習得	授業についての説明 ※ () はテキストの該当箇所。 (第1課) 「漢字習得の近道」漢字を習得するための効果的な方法
2	敬語の種類 同音異義語	(第25課) 「待遇表現①」さまざまな敬語の種類とその用法 (第2課) 「同音異義語」同音異義語の識別方法
3	敬意の表現 同訓異義語	(第26課) 「待遇表現②」敬語の使い分けや言い回しを通じた敬意の表現法 (第3課) 「同訓異義語」同訓異義語の識別方法
4	手紙の形式 生活の中の難読語	(第15課) 「手紙と葉書①」手紙などの基本的な書き方 (第4課) 「音訓と熟語」特別な読み・難しい読みの日常語
5	手紙の文面 熟語の成り立ち	(第16課) 「手紙と葉書②」手紙や葉書の文面を書くときの注意点 (第5課) 「熟語の構造」熟語の意味のとらえ方
6	一般的な文書の書式 生活の中の四字熟語	(第20課) 「ビジネス文書」会社などにおける書類の形式 (第6課) 「四字熟語」誤用しやすい四字熟語
7	さまざまな文書の書式 送り仮名の付け方	(第17・21課) 「日誌」・「案内状」さまざまな文書の書式 (第7課) 「仮名遣いと送り仮名」仮名と日本語
8	文の書き方 生活の中の慣用表現	(第8課) 「文のしくみ」文の内容をわかりやすくする工夫 (第13課) 「慣用表現の誤用」慣用表現の本来の意味と誤用の例
9	文と文章 日本語の表記	(第9・10課) 「文章構成」・「文章の要約」文章としての文の組み立て方 (第14課) 「原稿用紙の使い方」縦書き・横書きにおける表記法の違い
10	思考と言葉 感情と言葉	(第11・12課) 「アイデアの開発」・「レトリック」柔軟な発想と道具としての言葉 (第24課) 「広告のキャッチコピー」言葉が感情に与える作用
11	文章をまとめる方法 他者の文章に学ぶ事	(第22課) 「レポート・小論文」論文の基本的な構造 (第23課) 「論説文と批評文」目的によって異なる文章の書き方
12	自身について知るべき事 自身を表現する手段	(第18・19課) 「履歴書」・「エントリーシート」言葉がもたらす印象 (第30課) 「面接の作戦・自己アピール」言葉の効果的な使い方
13	敬語表現の応用	(第27・28課) 「来客の応対」・「電話の応対」敬語表現の復習
14	言葉が表現にしめる位置	(第29課) 「プレゼンテーション」総合的な表現
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《テキスト》

丸山顯徳編『キャリアアップ国語表現法』(嵯峨野書院)

《参考図書》

資格試験対策研究会編『漢字検定2級頻出度順問題集』(高橋書店)
佐藤一明『秘書検定3級に面白いほど受かる本』(KADOKAWA)
佐藤一明『秘書検定2級に面白いほど受かる本』(KADOKAWA)
他は授業時に紹介する。

《授業時間外学習》

当日の授業の復習をしたうえで与えられた課題を解き、次回の授業で取り組む内容を予習しておく。また、日本漢字能力検定などの受検も視野に入れた学習を心がけるようにする。
わからないことは担当者に遠慮なく質問してください。

《備考》

国語辞典(電子辞書可)の積極的な活用を心がけること。
テキスト改訂により学習内容を変更する場合がある。

科目名	英語	科目ナンバリング	SCOS11002
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英語を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切的な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する。生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることは禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視し、ぜひ精一杯に努力すること。分らないことはoffice hours等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Orientation	自己紹介をする
2	Describing People	人を述べる事
3	Everyday Activities	毎日の活動・習慣を喋る
4	Food and Drinks	食べ物と飲み物の話
5	Snacks	スナックの世界
6	Housing	家・住宅をデザインし、話す事
7	Free Time Activities	暇と活動
8	Popular Sports	人気なスポーツは？
9	Life Events	一生の一大事な行事
10	Weekend Plans	週末を過ごす
11	Movies	映画が好きですか？
12	TV Programs	テレビとその番組
13	Health Problems	健康と病気
14	On the telephone	電話の言葉
15	まとめ or 自己評価	まとめ or 自己評価

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	SCOS21003
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 国際感覚・異文化理解力 ◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、基礎教の「英語」で身につけたリスニング・スピーキングの基礎力をさらにレベルアップすることを目的とする。原則として、英語のみを使用して授業を展開する。ペア・グループ活動においても、すべて英語で実践することによって、英語で聞き、話すことを「日常化」する。そのため、授業は「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する

《テキスト》

Susan Stempleski他著「World Link 3rd Edition: Intro Combo Split B」(センゲージ出版) ISBN:978-1-3056-4780-0

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

日常語800語程度を使って次のことができるようになる：
 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる；2) 話す：身の回りの出来事(日課、人間関係、仕事など)について意見交換できる；3) 読む：読んだ内容について話し合える；4) 書く：聞き、話し、読んだ内容を基にまとまった英文が書ける

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；
 2) 復習：仲間で会話練習をして、その日の内容をマスターする

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：
 1) 授業参加 30% 2) 課題 20%
 3) 復習テスト 20% 4) 発表 30%
 フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 7: Time	授業方針説明； A:日課などをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み・書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
2	Unit 7: Time	B:週末・余暇の過ごし方などをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
3	unit 8: Special Occasions	A:休日、祭りをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
4	unit 8: Special Occasions	B: 祭りについてプレゼンテーションを行う。そのために必要な、語彙、文法を学ぶ
5	Unit 9: Come Together	A:休日、友達関係をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
6	Unit 9: Come Together	B: デートをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
7	Review Quiz& Presentation	1) Unit 7からUnit 9までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 9で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う
8	Unit 10: Home	A:休日、自分の部屋、アパートなどをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
9	Unit 10: Home	A:休日、自分の部屋、アパートなどをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
10	Unit 11: Clothing	A:衣服、買い物などをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
11	Unit 11: Clothing	B: ファッションをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
12	Unit 12: Jobs	A:アルバイトなどの仕事をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
13	Unit 12: Jobs	B: 将来のキャリアをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
14	Review Quiz& Presentation	1) Unit 10からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 10からUnit 12で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う
15	Presentation and General Review	1) 前回ははじめたプレゼンテーションを実施する；2) 全体のまとめ

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	SCOS21003
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

このコースに、日本語を話せる外国人講師が、親切指導をしながら、国際理解とコミュニケーション能力を目指すものである。

《テキスト》

教科書『Four Corners Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を評価する。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視し、ぜひ精一杯に努力すること。分からないことはoffice hours等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	自己紹介をする
2	My Interests	趣味・興味を述べる
3	Geography	地理学を語る
4	Weather	気候や天気を述べる
5	Everyday Activities	日常活動を喋る
6	Life Experiences	人生の主な体験を語る
7	School Subjects	学内の教科・科目について語る
8	At School	大学にて。。話し合い
9	Phone Messages	電話で英語を
10	Favors and Requests	依頼とお願いを述べる
11	Wishes	将来の希望
12	Opinions	意見を述べる事
13	Getting Away	海外へ旅行
14	Talking About Sports	暇とスポーツ活動
15	Review and Self-Evaluation	復習と自己評価

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	SCOS21003
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につける。特にリスニングパートでは、ディクテーションや発話活動を通して英語独特のリズムや発音に慣れる。文法パートでは、基本的な文法事項を再確認する。

《テキスト》

Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC Test Listening and Reading Intro—レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』（桐原書店、2018年）

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。学習した文法事項を使って日常の出来事を英作文できるようにする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、ディクテーションや音読の練習などに活用すること

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

小テストやレポートにコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。
2	Unit 1 Daily Life	日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。
3	Unit 2 Places	場所を表す単語や表現を身につける。文法：日常的によく使われるフレーズを身につける。
4	Unit 3 People	職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法：代名詞を正しく使う。
5	Unit 4 Travel	出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法：再帰代名詞を正しく使う。
6	Unit 5 Business	ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法：文脈に応じた動詞を選ぶ。
7	Unit 6 Office	オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法：時制について理解を深める。
8	Unit 7 Technology	テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法：類語を整理する。
9	Unit 8 Personnel	雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。
10	Unit 9 Management	経営に関する単語や表現を身につける。文法：接続詞について理解を深める①。
11	Unit 10 Purchasing	商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法：接続詞について理解を深める②。
12	Unit 11 Finances	金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞 (to do) や動名詞 (~ing) について理解を深める。
13	Unit 12 Media	メディアに関する単語や表現を身につける。文法：助動詞について理解を深める。
14	Unit 13 Entertainment	娯楽に関する単語や表現を身につける。文法：前置詞について理解を深める。
15	Review	Review Test

科目名	実用英語Ⅱ	科目ナンバリング	SCOS22004
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、海外旅行、留学など、海外（英語圏）で生活・行動するのに必要な異文化理解及びコミュニケーションの応用力を身につけることを目的とする。原則として、英語のみを使用して授業を展開する。ペア・グループ活動においても、すべて英語で実践することによって、英語で聞き、話すことを「日常化」する。そのため、授業は「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《授業の到達目標》

(1) 英語圏で生活・行動するのに必要な日常的な話題でコミュニケーションができる。(2) 基礎的な文法・語彙(1000語程度)・表現を使って読み書きができる(3) 海外で生活・行動において、文化の違いが理解できる

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：

- 1) 授業参加 30% 2) 課題 20%
 3) 復習テスト 20% 4) 発表 30%
 フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《テキスト》

『English Firsthand1』 Marc Helgesen他著 ロングマン出版
 ISBN: 9789880030598

《参考図書》

なし

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；
 2) 復習：仲間で会話練習をして、その日の内容をマスターする

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	授業方針説明
2	Unit 1: It's nice to meet you	友人関係、興味・関心をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
3	Unit 2: Who are they talking about?	人物描写や家族をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
4	Unit 3: When do you start?	日課や予定をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
5	Unit 4: Where does this go?	場所の描写をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
6	Unit 5: How do I get there?	道案内などをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
7	Unit 6: What happened?	過去の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
8	Review & Presentation	1) Unit 1からUnit 6までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 1からUnit 6で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う
9	Unit 7: I'd love that job	仕事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
10	Unit 8: What's happening?	娯楽をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
11	Unit 9: What are you going to do?	未来の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
12	Unit 10: How much is this?	買い物をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
13	Unit 11: How do you make it?	料理などの作り方をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
14	Unit 12: Listen to music	音楽をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
15	Review & Presentation	1) Unit 7からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 12で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う

科目名	実用英語Ⅱ	科目ナンバリング	SCOS22004
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力		

《授業の概要》

このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《テキスト》

Four Corners Student Book One（後半）。

《参考図書》

各授業、歌を勉強し、歌詞を配る。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

試験をせず、出欠のみで成績を評価。

《備考》

全員活発的に参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Breakfast, lunch & dinner.	食事の好みを説明する。
2	Restaurants	レストランで食事を注文する。
3	Daily diet.	食生活を喋る。
4	Around Town	近所を説明する。
5	"How do I get to...?"	方向を聞くと説明する。
6	Fun in the city.	観光案内所に情報を得る。
7	"I'm looking for you"	自分の行動を説明する。
8	"I can't talk now"	電話の話。
9	These days...	日常の生活を語る。
10	"What's new?"	メールの正しいやり取り。
11	Last weekend.	過去の行動を説明する。
12	"You're kidding!"	びっくりするの表現。
13	Getting Away	過去の行動を説明する-part 2.
14	"That's great!"	ニュースを聞き、反応する。
15	We're Finished!	最後のレッスンー大復習。

科目名	実用英語Ⅱ	科目ナンバリング	SCOS22004
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、TOEICテストの新問題形式に慣れるとともに、必要な情報を的確に捉える力を身につける。リスニングパートではディクテーションや発話活動を取り入れながら応答問題や会話問題の聞き取りを重点的に行う。文法パートでは基本的な文法事項を再確認する。TOEICに必要な語いを強化するため、定期的に単語テストを実施する予定である。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア500点以上の取得を目標にする。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

小テストやレポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

Hiroshi Yoshizuka, Michael Schauerte 『Best Practice for the TOEIC Listening and Reading Test: Revised Edition』(成美堂、2017年)

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、ディクテーションや音読の練習などに活用すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明、TOEIC Pre-Test
2	Unit 1 Restaurant1	リスニング：疑問詞を聞き取る。 文法：代名詞①（人称代名詞）
3	Unit 2 Entertainment1	リスニング：助動詞の時制を聞き取る。 文法：代名詞②（不定代名詞と再帰代名詞）
4	Unit 3 Business	リスニング：前置詞から場所を連想する。 文法：時制①（現在、過去の時制）
5	Unit 4 Office	リスニング：人名、肩書き、部署名を連想する。 文法：時制②（現在完了）
6	Unit 5 Telephone	リスニング：理由を述べている文章を探す。 文法：前置詞①（時、期間を表す前置詞）
7	Unit 6 Letter & E-mail	リスニング：「方法」や「具合」を問う形に慣れる。 文法：前置詞②（位置、場所を表す前置詞）
8	Unit 7 Health	リスニング：分量や頻度、程度を問う形を覚える。 文法：数量形容詞
9	Unit 8 Bank & Post Office	リスニング：所要時間、頻度、距離を尋ねる形を覚える。 文法：動詞（自動詞と他動詞）
10	Unit 9 New Products	リスニング：勧誘の表現を覚える。 文法：接尾辞①（形容詞を作る接尾辞）
11	Unit 10 Travel①	リスニング：話者の意図を考える。 文法：接尾辞②（副詞を作る接尾辞）
12	Unit 11 Travel②	リスニング：否定疑問文の形を覚える。 文法：分詞構文
13	Unit 12 Job Applications	リスニング：話者が期待する具体的な行動を聞き取る。 文法：比較
14	Unit 13 Shopping	リスニング：付加疑問文の形を覚える。 文法：受動態
15	Review	Review Test

科目名	中国語（初級）	科目ナンバリング	SCOS21006
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

※課題にはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳淑梅・劉光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

科目名	中国語（中級）	科目ナンバリング	SCOS21007
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

※課題にはコメントを付して返却する。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	SCOS21008
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようにする。文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
 - 2) 課題等の提出物20%
 - 3) 定期試験60%
- 分らないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	韓国と韓国語について	韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について
2	基本母音・子音・平音	ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。
3	激音と濃音	日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。
4	パッチム	パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。
5	合成母音	合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。
6	挨拶／「私は日本人です。」	「～です」「～ですか?」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。
7	「日本人ではありません。」	「～ではありません」という基本文型について理解する。
8	「それは何ですか。」	日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。
9	「約束があります。」	「あります」「います」の基本文型を話す。
10	「約束がありません。」	「ありません」「いません」の基本文型を話す。
11	「会社はどこにありますか。」	位置、場所の表現について理解する。
12	「週末は何をしますか。」	基本動詞について理解し、話す。
13	「週末は何を作りますか。」	「です・ます型」、「並列」を理解する。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。
15	まとめ	今まで学んだ文法のまとめ。

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	SCOS21008
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようにする。韓国語の文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 期末テスト60%
- 4) 小テストやレポートにコメントを付して返却し、授業の到達目標に対し全体の講評を行い次年度目標に反映させる。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	韓国と韓国語について	韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について
2	基本母音・子音・平音	ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。
3	激音と濃音	日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。
4	パッチム	パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。
5	合成母音	合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。
6	挨拶／「私は日本人です。」	「～です」「～ですか?」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。
7	「日本人ではありません。」	「～ではありません」という基本文型について理解する。
8	「それは何ですか。」	日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。
9	「約束があります。」	「あります」「います」の基本文型を話す。
10	「約束がありません。」	「ありません」「いません」の基本文型を話す。
11	「会社はどこにありますか。」	位置、場所の表現について理解する。
12	「週末は何をしますか。」	基本動詞について理解し、話す。
13	「週末は何を作りますか。」	「です・ます型」、「並列」を理解する。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。
15	まとめ	今まで学んだ文法のまとめ。

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	SCOS21009
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
 - 2) 課題等の提出物20%
 - 3) 定期試験60%
- 分らないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	初級の復習	初級で学んだ内容を復習する。
2	挨拶	韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。
3	「お名前は？」	敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。
4	「そんなに遠くありません。」	形容詞について理解できる。
5	「いつきますか。」	漢数詞について理解できる。
6	「今日は雨が降りますね。」	感嘆・同感の表現できる。
7	「釜山までどうやっていきますか。」	へヨ体が使えらる。
8	「何時からですか。」	固有語数詞が話せる。
9	「私は毎朝、8時に起きます。」	「私の一日」「スケジュール」が作成できる。
10	「いつ日本にきましたか。」	過去形が使えらる。
11	「キムチが美味しかったよ。」	過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。
12	「今、学校の前にいますか。」	位置、場所の表現ができる。
13	韓国語能力試験について	韓国語能力試験の構成について理解できる。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使つての会話ができる。
15	まとめ	今まで学んだ文法をまとめる。

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	SCOS21009
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 期末テスト60%
- 4) 小テストやレポートにコメントを付して返却し、授業の到達目標に対し全体の講評を行い次年度目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	挨拶	韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。
2	初級の復習	初級で学んだ内容を復習する。
3	「お名前は？」	敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。
4	「そんなに遠くありません。」	形容詞について理解できる。
5	「いつきますか。」	漢数詞について理解できる。
6	「今日は雨が降りますね。」	感嘆・同感の表現できる。
7	「釜山までどうやっていきますか。」	へヨ体が使えらる。
8	「何時からですか。」	固有語数詞が話せる。
9	「私は毎朝、8時に起きます。」	「私の一日」「スケジュール」が作成できる。
10	「いつ日本にきましたか。」	過去形が使えらる。
11	「キムチが美味しかったよ。」	過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。
12	「今、学校の前にいますか。」	位置、場所の表現ができる。
13	韓国語能力試験について	韓国語能力試験の構成について理解できる。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使つての会話ができる。
15	まとめ	今まで学んだ文法をまとめる。

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	コンピュータ演習	科目ナンバリング	SCOS11010
担当者氏名	佐竹 邦子		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ◎ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。この授業では、学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。授業は毎回演習形式で行います。

《授業の到達目標》

コンピュータやインターネットが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれらを使いこなしていくための基礎知識を身につけられる。メールやインターネット、各種アプリの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《成績評価の方法》

授業に取り組む姿勢 20%
提出物 80%

フィードバック方法：オフィスアワーに質問を受け付けます。時間が合わない場合はメールで連絡を下さい。

《テキスト》

『学生のためのOffice2016&情報モラル』noa出版、2016

《参考図書》

- ・『ネット社会を賢く生きよう！最新情報モラル』日経BP社
- ・『Microsoft Word 2016 ドリル』FOM出版
- ・『Microsoft Excel 2016 ドリル』FOM出版
- ・『Microsoft PowerPoint 2016 応用』FOM出版

《授業時間外学習》

予習：テキストの該当箇所を読み、示されているYouTube動画を見る。操作のポイントをメモする。
復習：授業内で学んだ内容を繰り返し行い、習熟度を高める。

《備考》

- ・アクティブラーニング形式で行う場合があります。
- ・欠席した場合、次回までに必ず自習して追いついて下さい。
- ・過去プリント要求は、授業直前は控えて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバス内容を確認する。学内情報システムを理解する。実習室サインインアカウントを確認する。
2	Windowsの基礎 メール(1)	Windowsの基本操作を知る。 Webメールで送受信する。
3	メール(2) 情報検索	メールのマナーを知る。 ネット検索を行う。
4	情報モラル	著作権・肖像権を知る。 ネット上のコミュニケーションの特徴を理解する。
5	文書作成(1)	Wordの画面構成を知る。 文書を編集する。
6	文書作成(2)	レポートを編集する。 (ページ設定、表紙の作成、フッター、グラフの挿入)
7	Word課題	Wordを用いた演習課題を行う。
8	表作成(1)	Excelの画面構成を知る。 表を編集する。数式を入力する。
9	表作成(2)	関数(SUM, AVERAGE, ROUNDなど)を使う。
10	グラフ作成	グラフの種類と特徴を知る。 グラフを作成する。
11	Excel課題	Excelを用いた演習課題を行う。
12	スライド資料の作成(1)	PowerPointの画面構成を知る。 スライドを作成する。
13	スライド資料の作成(2)	スライドを効果的に見せる。
14	PowerPoint課題	PowerPointを用いた演習課題を行う。
15	総合課題	これまでのまとめとなる課題を行なう。

科目名	コンピュータグラフィックスの基礎	科目ナンバリング	SCOS21011
担当者氏名	稲富 恭、佐竹 邦子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ◎ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力）		

《授業の概要》

デザインは従来、専門職（デザイナー）が行う分野であったが、近年のデザイン用ソフトウェアの普及に伴い、社会人に求められる能力のひとつになりつつある。本授業では、初心者を対象にグラフィックソフトウェア(Adobe社)の操作について学ぶとともに、それらを用いた作品制作を行い、デザイン基礎力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。適宜、プリントを配布する。

《参考図書》

宮川修, 鈴木貴子: 「実践力を身につける Photoshop+Illustrator 集中講座」, マイナビ

《授業の到達目標》

- ・ Adobe Photoshop、Illustrator、InDesign 等の基礎的操作を習得する
- ・ 案内チラシ、プレゼンテーションパネル等のデザインに必要な基礎的能力を身につける

《授業時間外学習》

予習: シラバスを参考に課題制作に必要な資料を収集する。
 復習: 未完了課題の制作を行う。授業内容を元に操作の習熟につとめ、自主的に作品制作を行う。

《成績評価の方法》

- ・ 提出されたデザイン課題によって成績を評価する。
- ・ 課題は提出後、講評を行う。
- ・ 評価の内訳は、操作の習熟度に関する評価(50%)、デザインに関する評価(50%)とする。

《備考》

・ 教室設備の都合により、受講者の定員は20名である。希望者が定員を超える場合、1回目の授業で抽選を行う。またその場合、2回目の授業からの受講はできない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	ビジネススキルとして求められるデザインスキルについて理解する。※受講者が定員を超える場合は抽選を行う。
2	Illustratorの基本的操作(1)	Illustratorの基本操作、文字、オブジェクトの作成、レイヤーの操作について理解する。〈課題〉案内地図を作成する。
3	Illustratorの基本的操作(2)	オフセット印刷、特色印刷について理解する。名刺をデザインする。
4	Illustratorの基本的操作(3)	ベジェ曲線等の操作について理解する。ロゴの制作を行う。
5	Photoshopの基本的操作(1)	画像データの形式、Photoshopの基本操作、写真の補正、加工について理解する。持参した写真の加工を行う。
6	Photoshopの基本的操作(2)	プレゼンテーション・スライドの作成を前提とした画像データの作成を行う。パワーポイントのスライドを作成する。
7	ポストカードの制作	Illustrator、Photoshop、InDesignの連携について理解する。季節のポストカードをデザインする。
8	二つ折りパンフレットの作成(1)	パンフレットのデザインを行う。デザインバリエーションを検索し、手書きスケッチによるエスキスを行う。
9	二つ折りパンフレットの作成(2)	Illustrator、Photoshop、InDesignの連携について理解する。エスキスをもとに、パンフレットのデザインを行う。
10	プレゼンテーションパネルの作成(1)	Excel等の数的データの変換、加工について理解する。ポスターセッション等の発表を前提としたプレゼンテーションパネルのデザインを行う。
11	プレゼンテーションパネルの作成(2)	レイアウトのバリエーションについて理解する。ポスターセッション等の発表を前提としたプレゼンテーションパネルのデザインを行う。
12	イベント告知チラシの作成(1)	実施予定の報告会、講演会、イベント等に使用する告知チラシのデザインを行う。
13	イベント告知チラシの作成(2)	実施予定の報告会、講演会、イベント等に使用する告知チラシのデザインを行う。
14	イベント告知チラシの作成(3)	イベント告知チラシのプレゼンテーション、講評を行う。
15	習熟度確認のための作品制作	授業時間内に与えられた課題の制作を行う。

《共通教育科目 国際理解》

科目名	国際理解と宗教 I (キリスト教)		科目ナンバリング	SINL21001
担当者氏名	野世 英水			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

キリスト教は世界宗教として国際社会のさまざまな問題と深くかかわっている。この講義ではキリスト教の基礎を学ぶとともに、現代の国際社会におけるいくつかの問題を取り上げ、それら問題とキリスト教とのかかわりについて考えていくこととしたい。そこでは国際社会の諸問題をキリスト教という宗教より見ていくとき、また新たな視野がひろがっていくことに気づかされるであろう。

《授業の到達目標》

- ・キリスト教の教えや歴史の基礎を理解できるようになる。
- ・国際社会の諸問題についての認識を深め、それら諸問題とキリスト教とのかかわりについて理解できるようになる。

《成績評価の方法》

授業参加態度20%、ビデオ鑑賞後のレポート10%、期末試験70%

※質問、意見等を書いてもらい次回授業時に答える。

《テキスト》

講義時に必要なプリント等を配布する。

《参考図書》

『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編（岩波書店）2002。
その他講義時に随時紹介する。

《授業時間外学習》

- ・授業終了後、毎回ノートや配布資料をを整理し、内容を理解する。
- ・キリスト教の聖書を手にし読んでみる。

《備考》

シラバスにそって授業をすすめますが、受講生の理解度によって変更することもあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	キリスト教と世界の諸宗教(1)	キリスト教の世界の諸宗教のなかでの位置づけ。キリスト教の国際的な分布。
2	キリスト教と世界の諸宗教(2)	カトリック、プロテスタント、東方正教会などのキリスト教教会の展開。キリスト教の宗教上の分類。
3	キリスト教との出会い(1)	キリスト教とは。イエス・キリストとは。旧約聖書と新約聖書。聖書のなかの神。
4	キリスト教との出会い(2)	イエス・キリストの生涯。
5	キリスト教と国際平和(1)	国際社会と平和。平和と暴力。キリスト教の平和思想。
6	キリスト教と国際平和(2)	キリスト教の正戦論。戦争とドイツキリスト教会、日本キリスト教会。
7	キリスト教と国際平和(3)	イスラームの平和思想、仏教の平和思想との比較。
8	キリスト教とホスピスケア(1)	キリスト教とターミナルケア、ホスピスムーブメント。
9	キリスト教とホスピスケア(2)	キリスト教における生と死。イスラーム、仏教の生死観との比較。
10	キリスト教の愛の実践—マザー・テレサ	キリスト教の国際支援。マザー・テレサの愛の実践活動。ビデオ鑑賞。
11	キリスト教とジェンダー(1)	ジェンダーとフェミニズム。キリスト教のジェンダー問題。
12	キリスト教とジェンダー(2)	キリスト教と世界の宗教対立。北アイルランド紛争。
13	キリスト教と民族紛争・地域紛争(1)	キリスト教と世界の宗教対立。北アイルランド紛争。
14	キリスト教と民族紛争・地域紛争(2)	国際社会と原理主義。キリスト教原理主義とイスラーム原理主義。
15	15 学習のまとめ	国際社会の諸問題とキリスト教。キリスト教を通じた国際理解のありかた。

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）		科目ナンバリング	SINL21002
担当者氏名	重親 知左子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラーム教徒)の数は約16億人、総人口の約1/4を占める。ムスリムの訪日人数や国内のモスク(イスラームの礼拝所)も増加し、今後内外でムスリムと出会う機会は多くなる。この授業を通して、イスラームに関する基本的な内容を把握し、この宗教をめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。ドキュメンタリーを中心に、VTRも毎回視聴する。

《授業の到達目標》

- ・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラームをめぐる歴史と現状を把握できる。
- ・イスラームに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・全授業終了後に課すレポート(70%)と、VTR視聴後に課すレポート(30%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。
- ・レポートに書かれた質問への回答や講評は、可能な限り授業時間内に行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、ハラール(イスラーム的に合法)をめぐる内外の状況について考察する。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	結婚、葬礼におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	イスラームをめぐる昨今の問題を取り上げ、その原因を検証すると同時に今後の課題について総括する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の関係を、歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

- 小川忠『インドネシア イスラーム大国の変貌 躍進がもたらす新たな危機』新潮社、2016
 後藤絵美『神のためにまとうヴェール 現代エジプトの女性とイスラーム』中央公論新社、2014
 内藤正典『となりのイスラーム 世界の3人に1人がイスラーム教徒になる時代』ミシマ社、2016

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラームと接点を持つ(例：モスクやハラールショップ見学など)。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・出席登録直後の退出は、原則的に認めない。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

《共通教育科目 国際理解》

科目名	国際関係論	科目ナンバリング	SINL21003
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》

- 自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。
- 20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本 [帝国主義～現代] 篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史Ⅲ－世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（1）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（2）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（3）	アジアの近代
5	第1次世界大戦（1）	列強の対立・再編
6	第1次世界大戦（2）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（1）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（2）	ワシントン体制
9	第2次世界大戦（1）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第2次世界大戦（2）	極東の危機、日中戦争
11	第2次世界大戦（3）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（1）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（2）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第3世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化

科目名	比較文化論	科目ナンバリング	SINL21004
担当者氏名	本多 彩		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この社会に生きている私たちは、様々な背景を持った人や多様な文化や社会とつながっています。本講義では自文化を知るとともに文化の多様性を学び他者理解を深めます。アジア・ヨーロッパ・南北アメリカの文化・社会について、海外経験豊富な教員がオムニバスで講義を行います。いろいろな文化や社会があることを知り進むグローバル化の中で他者、他文化への理解を促進しましょう。

《授業の到達目標》

- ・自文化についての理論を学び海外の多様な文化や社会について理解を深め、説明することができる。
- ・兵庫大学が行っている海外研修や提携大学学生との交流の際に、相手を理解するための知識を身につける。

《成績評価の方法》

レポート・テスト50%
 受講態度（授業への積極的な参加）50%
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特に指定しません。

《参考図書》

特に指定しません。適宜授業内で紹介します。

《授業時間外学習》

メディア等に登場する国内外の動向に注目しておきましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	比較文化論概説（1）	「文化」とは何かを理解し、身近な文化について考え説明することができる。
2	比較文化論概説（2）	文化を比較するとはどういうことかを考え、自文化に関するいくつかの理論を学び比較文化の視点から説明することができる。
3	アジアの文化（1）	本学が交流しているタイの文化や社会について学び説明することができる。
4	アジアの文化（2）	本学が交流している韓国の社会について学び説明することができる。
5	アジアの文化（3）	本学が交流している韓国の文化について学び説明することができる。
6	ヨーロッパの文化（1）	本学が交流しているドイツの文化や社会について学び説明することができる。
7	ヨーロッパの文化（2）	本学が交流しているフィンランドの文化や社会について学び説明することができる。
8	北アメリカの文化（1）	アメリカの大学システムや学生の学びについて理解し説明することができる。
9	北アメリカの文化（2）	本学が交流しているアメリカの文化について学び説明することができる。
10	北アメリカの文化（3）	本学が交流しているアメリカの社会について学びを深め説明することができる。
11	北アメリカの文化（4）	アメリカの民族的マイノリティについて学び説明することができる。
12	南アメリカの文化	本学や加古川市が交流している南アメリカの国の文化や社会について学び説明することができる。
13	兵庫大学の国際交流	本学の国際交流プログラムに参加した学生や国際交流にかかわる人との交流を通して、国際交流とは何かについて考え意見をまとめる。
14	学習のまとめ（1）	各地域の文化や社会について学んだことをふりかえり、学んだことを整理してまとめる。
15	学習のまとめ（2）	授業全体をふりかえり多様な文化や考え方について関心を持ったテーマに沿って発表する。

科目名	歴史学	科目ナンバリング	SHIL21001
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input type="radio"/> 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 <input checked="" type="radio"/> 基教-E 社会・文化について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

主として日本の前近代を扱います。歴史事実の学習ではなく、「歴史の見方」「歴史的思考方法」の獲得を目指します。アナール歴史学—社会史、等身大の視点からの歴史学—の方法論を主に用います。前近代の市井の人々の感覚世界を探求します。「前近代の自由」が通底するテーマとなります。時代によって変わることのない普遍的人間の感覚、および、時代・地域により変化する感覚・諸価値を考察します。

《授業の到達目標》

1. 各自の感覚・価値観は「時代」「地域」「社会」に規定されている事に気付く。
2. 既に構築されている各自の感覚・価値観を相対化し、疑問を懐き、クラック（ひび割れ）を入れ、将来に脱皮しうるシード（種子）を獲得する。
3. 他時代・異文化のもつ、異なる感覚・価値観の存在を認め、共存しうる感性・理性を涵養する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、等を行います）を40パーセントとします。学期末のペーパーテストを60パーセントとします。講義中に随時「発想力と理解度」をチェックするアンケートを行い、コメントを付けていきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義全体のガイダンス。全体計画説明。注意事項の説明。
2	創られた伝統1	夫婦同姓問題。三行半って本当？ 近代の常識を疑え！
3	創られた伝統2	「大和撫子」「日本男児」幻想。「盆」と「正月」って何？
4	創られた伝統3	母系社会と父系社会。相続原理と社会倫理規範。
5	自由への賛歌1	近代的「唯一絶対的自我」への疑問。多様な自我。「排他的近代」の限界。
6	自由への賛歌2	市と自由1。環太平洋的「マナ」世界と交換の原理。
7	自由への賛歌3	市と自由2。縁切りと変身の原理。
8	自由への賛歌4	変容と変身の原理。俗世界と聖なる世界。
9	自由への賛歌5	スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理1。
10	自由への賛歌6	スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理2。
11	小さな神仏の世界1	来世利益と現世利益。本堂・本殿と末社・摂社の世界。
12	小さな神仏の世界2	背面信仰と第三項排除理論（差別問題を含む）。
13	小さな神仏の世界3	暗黒世界の神仏と王権。王権と第三項排除理論（差別問題を含む）。
14	総括1	各項目間の関連の確認。
15	総括2	全体のまとめ。

《テキスト》

なし。
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

1. 網野善彦『増補 無縁・公界・楽』、平凡社ライブラリー（大学図書館にあり）
2. 『週刊朝日百科日本の歴史』、朝日新聞社（大学図書館にあり）
3. 福岡大学人文学部歴史学科『歴史はおもしろい』、西日本新聞社

《授業時間外学習》

異なる時代、異なる文化が発している情報に敏感になってください。テレビ、新聞、雑誌、映画、DVD、ゲーム、そして、ネットの板情報、などが発信している、「自分とは異なる感覚・論理」を拒絶するのではなく、受け止める気持を持って情報に接してください。

《備考》

オモチャ箱をひっくり返したような講義に出来たらな、と思っています。重い病苦にあえぐ人、不条理な差別を受ける人なども多数扱います。ご理解の上で御受講くださいませ。

科目名	文学	科目ナンバリング	SHIL21002
担当者氏名	野田 直恵		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

文学作品は書き手がことばによって構築する芸術だが、ことば自体が流動的なものであることから、その作品は必然的にさまざまな読み手の目に映じるものとなる。また、読み手が置かれた状況によっても作品は姿を変える。その変容ゆえに作品が読み手にもたらすものを見だし、文学と人との関係を考察する。

《テキスト》

プリントを適宜配付する。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

作品に用いられたことばの意味やそれを書き手が選んだ理由・背景を探ることを通じ、作品やそのことばを生み出した文化についての知見を広める。作品について自分なりの見解を持つようにする。文学全般についての知識を深める。

《授業時間外学習》

プリントの内容に即した小テストなどを、実施日・範囲を予告のうえ実施するので、復習は必須である。また、授業時の発問に対応できるよう、指定範囲の予習をしておくこと。予習の成果が認められる場合には、平常点を加点する可能性がある。

《成績評価の方法》

授業時に複数回実施する小テストなどの課題（50%）と定期試験（50%）によって評価する。授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

中学・高校で使った文学史の教科書や参考書、国語便覧などがあれば、そのうちの1～2種類を初回の授業時に持参してください（どんなものでも可）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業全般についての説明	授業のすすめ方や小テストなどの課題について説明する。
2	「国語」と文学の違い 文学とは何か	高等学校までの「国語」という教科における文学作品の読み方が私たちにもたらしているものについて説明し、文学のあり方を考察する。
3	日本文学の概観 日本語の起源	日本文学の流れと、その表記に用いられる日本語の起源とについて概説する。
4	神話と歴史	『古事記』や『日本書紀』といった奈良時代の文学作品に見られる特質や、それらが後世に及ぼした影響について概説し、実際に作品の一部にふれてみる。
5	詩歌の変遷（歌について）	『万葉集』から『新古今集』までの歌の変遷についておもに概説し、実際にいくつかの作品にふれてみる。
6	物語と日記	平安時代の物語文学の発展について概説し、実際に作品の一部にふれることを通じて物語と日記との差異について考察する。
7	女性文学1	女性による文学作品が生まれた文化的背景について概説する。また、女性による古典作品にふれてみる。
8	女性文学2	女性による近代文学作品の一部にふれ、女性にとっての創作の意義を考察する。
9	文学と宗教	日本文学における仏教の影響について概説し、鎌倉時代の文学に見られる特質について、実際に作品の一部にふれながら考察する。
10	娯楽としての文学	庶民たちのあいだで広まり、受け継がれていった文学について概説し、作品の一部にふれてみる。
11	教育と出版	明治時代になって一般の人々が読み書きの能力を身につけるようになったことと、社会の流れとの関係について概説し、教育が文学にもたらした影響について考察する。
12	文明開化の光と影	日本文化が西洋文化との接触によってどのような影響を受け、それが明治～大正時代の文学にどのように反映したのかを概説する。また、実際に作品の一部にふれてみる。
13	作家と留学	日本の近代という時代に夏目漱石や森鷗外らが与えた影響について、彼らの作品の一部にふれながら概説する。
14	文学史的区切り	昭和時代における文学の変遷について概説し、近代文学と現代文学との境界をどのようにとらえるべきかを考察する。
15	作品と出会う	限られた時間の中で限られた作品しか読めない私たちが、作品とどのように出会い、どのように向き合えばよいのかということについて考察する。

《共通教育科目 歴史と文化》

科目名	芸術	科目ナンバリング	SHIL21003
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート (100%)

※各作家の芸術作品について感想・意見を述べさせ、それに対して講評を行う。

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期バリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	色彩とデザイン	科目ナンバリング	SHIL21004
担当者氏名	稲富 恭		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産活動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを“色”、“かたち”、“素材”の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《テキスト》

「新配色カード129a」日本色研事業(株) (<参考>¥500程度、3回目以降の授業以降使用する。)

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野における一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。提出されたレポートは返却後、授業中に解説を行う。

《備考》

・出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。座席の指定を行う場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デザインの基礎(1):かたち	デザインの要素である“色”、“かたち”、“素材”について理解する。“かたち”について、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。
2	デザインの基礎(2):素材	デザインの素材について、椅子のデザインを例に材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。
3	デザインの基礎(3):色彩の基礎	光と色の関係、色の三属性について理解する。配色カードを利用し、色相環を作成する。
4	デザインの基礎(4):色彩の表現	色の分類、表色系、PCCSについて理解する。配色カードを利用し、等色相面を作成する。
5	デザインの基礎(5):色彩と心理	言葉による色表示、色彩と心理の関係について理解する。配色カードを利用しトーン表を作成する。
6	デザインの基礎(6):デザインの歴史	アーツ・アンド・クラフツからモダニズムに至る19世紀以降のデザインの歴史について概観する。
7	デザインの各分野(1):建築	実用的価値、美的価値、社会的価値といった側面から建築のデザインについて理解する。
8	デザインの各分野(2):ファッションの歴史	20世紀以降のファッションの系譜について解説し、社会の変化とデザインの間わりについて理解する。
9	デザインの各分野(3):ファッションと配色	ファッションの色彩調和とその手法について解説する。配色カードを利用し、ファッションの配色パターンを作成する。
10	デザインの各分野(4):映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。
11	デザインの各分野(5):都市	都市のデザインを社会状況・政治体制、産業・エネルギーといった側面から考察する。※学期末レポートの課題を説明する。
12	デザインの各分野(6):和風デザイン	和風のデザインについて真・行・草といった側面から考察する。
13	デザインの各分野(7):デザインと地域性	デザインと地域特性の関係について、アメリカ、南欧、北欧のデザインを例に考察する。
14	デザインと配色	各デザイン分野における配色パターンと効果について考察する。配色カードを利用し、配色パターンの作成を行う。
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。

《共通教育科目 地域に学ぶ》

科目名	地域文化論	科目ナンバリング	SL0L21001
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

播磨地域、特に東播地域の文化特質を考察する。アジア的視座、日本の視座、西国内部の視座、兵庫県内部の視座、からこれを比較検討する。

地理、歴史、文化、民俗、などから問題にアプローチしていきたい。

《授業の到達目標》

自らの属する地域を外部の視点から相対的に考察する能力の第一歩を獲得する事を目標とする。自文化の相対化、とも表現できる。

これは、異文化との共存、多文化共生をなし得る感覚の取得でもある。

《成績評価の方法》

学期末に行う筆記試験を60パーセントとする。毎回の講義への積極的関与度を40パーセントとする。毎回の講義では、様々な質問を提示し、回答してもらい、評価する。講義中に随時「発想力と理解度」をチェックするアンケートを行い、コメントを付けていきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の全体像の提示。考え方の提示。
2	考現学的アプローチ1	現代日本社会を席卷する「マイルドヤンキー文化」に関する考察。
3	考現学的アプローチ2	「マイルドヤンキー文化」の「聖地」は、何故「東加古川」なのか。
4	アジアの中で日本を考えてみよう	日本は大国か？小国か？ 日本は「単一民族国家」なのか？ 日本文化は均質なのか？ などなど、社会常識を再検討する。
5	東は東、西は西	日本の東西文化の極めて大きい差異を、様々な事例から考察する。
6	歴史的アプローチ1	日本文化の中に残る、縄文文化と弥生文化の濃淡を考察する。さらに、日本の「周縁地域」の文化的独自性を考察する。
7	歴史的アプローチ2	播磨、特に東播の古代を再考し、その位相を考察する。日本武尊関連の神話分析も行う。
8	歴史的アプローチ3	播磨、特に東播の中世を再考し、東播の全盛期の位相を考察する。
9	歴史的アプローチ4	播磨、特に東播の文化財を考察する。
10	歴史的アプローチ5	播磨、特に東播の近世・近代を、「産業」に重点をおいて考察する。
11	文化論的アプローチ1	播磨、特に東播の「祭り」「祭祀」を考察する。
12	文化論的アプローチ2	播磨、特に東播の「芸能」を考察する。
13	文化論的アプローチ3	播磨、特に東播の「食」を考察する。第一回。
14	文化論的アプローチ4	播磨、特に東播の「食」を考える。第二回。
15	おわりに	全体の総括。

《テキスト》

なし
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

網野善彦、『東と西の語る日本の歴史』、講談社学術文庫1343。
原田曜平、『ヤンキー経済』、幻冬舎新書335。

《授業時間外学習》

常に地域の文化、自分の文化に関心を払ってください。日常生活の中で、講義内容を時々思い出し、反芻して、納得してください。他地域の文化、異文化への関心を持つように心がけ、情報に接してください。
できれば、参考文献を御一読ください。

《備考》

楽しい講義にしたい、と考えております。

《共通教育科目 地域に学ぶ》

科目名	建築デザインと地域		科目ナンバリング	SL0L21002
担当者氏名	稲富 恭			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-E 社会・文化について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

建築・土木構造物(以下、建築)は気候、歴史、宗教、産業といった多くの要素と密接に関係している。本講義では、兵庫県内の建築を通じて、地域社会、地域文化について学びます。

《テキスト》

テキストは用いない。適宜、資料を配付する。

《参考図書》

「昔も今もこれからも 兵庫を築く」兵庫県建設業協会, 2013

《授業の到達目標》

- ・ 建築のデザインに関する基礎的知識を身につける。
- ・ 建築の理解をを通じて、兵庫県の歴史、文化、産業について理解する。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法: シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・ 復習の方法: 授業ノートを制作する。
- ・ 学期末レポート: 「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。提出されたレポートは返却後、授業中に解説を行う。

《備考》

- ・ 出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。座席の指定を行う場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	兵庫県の建築・土木構造物(以下、建築)について概観する。建築と地域環境の関わりについて理解する。
2	古代の兵庫県と人々のくらし	大中遺跡、五斗長垣内遺跡、五色塚古墳等を取りあげ、縄文時代、弥生時代の建築と生活について理解する。
3	神道の成立と神社建築	長田神社、多田神社等を取りあげ、神道の成立と神社建築の系譜、神社がもつ社会的機能について考察する。
4	仏教の伝来と寺院建築	鶴林寺、浄土寺、朝光寺等を取りあげ、寺院建築の歴史と系譜、木造技術の発展について考察する。
5	幕藩体制と都市・城郭	姫路城等を取りあげ、兵庫県内に存在する江戸時代の城郭建築と都市の形成について理解する。
6	古民家の歴史と技術	箱木家住宅、三木家住宅等を例に、兵庫県の民家建築の歴史と形式について考察する。
7	明治維新と欧米型ライフスタイル	異人館、外国人住宅等を例に欧米型住宅の影響と神戸の景観形成について解説する。
8	西洋古典建築の系譜と神戸の近代建築	ギリシア・ローマ建築の系譜について概観し、旧居留地の近代建築について理解する。
9	阪神間モダニズム	ライト、ヴォーリズ等を例にモダニズム建築の系譜について概観し、阪神間モダニズムについて理解する。
10	戦後の住宅政策と都市開発	ポートアイランド、明舞団地等、戦後の大規模住宅開発を取りあげ、戦後の住宅政策について理解する。
11	地域の産業と土木構造物	加古川橋梁、布引ダム、明石海峡大橋等、兵庫県内の土木構造物を取りあげ、技術発展の歴史と構造手法について理解する。
12	ポストモダニズム社会と建築	F・ゲーリー、安藤忠雄等の建築を例に、ポストモダン建築の思想的背景と表現について考察する。
13	兵庫のまちなみとまちづくり	出石、龍野、篠山等の町並みを例に、兵庫のまちづくりと景観形成について考察する。
14	阪神大震災と今後の防災	阪神大震災とその後の対応、今後起こりうる自然災害を取りあげ、建築、まちづくりの面から考察する。
15	レポート発表	課題レポートの発表と講評を行う。

科目名	地域と文化財	科目ナンバリング	SL0L21003
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

加古川エリアは文化財の宝庫です。その中の石造物を中心に、発見・評価・保存・活用する方法論を学びます。地域の新しい魅力を発見し、地域の未来に向けての「街創り」に関する視座の獲得を目指します。座学で各種石造物の評価方法・保存活用方法を学び、フィールドワークで実際に石造物の「発見」に挑戦します。拓本（石造物の表面を紙に写し取った物）を採る実習も行います。歴史的な石造物の拓本採りにも挑戦します。

《授業の到達目標》

- ・石造物を評価できる基礎的な知識と感覚を獲得する。
- ・石造物を保存活用するための基礎的な知識を獲得する。
- ・石造物を通して、待機の文化や歴史を再発見する視座を獲得する。
- ・拓本を採る初歩の技術を稼得する。
- ・地域の散策が10倍以上楽しくなり、「ここにしかない」地域を愛する感覚を獲得する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、実技・実習等を行います）を60パーセントとします。学期末のペーパーテストを40パーセントとします。演習形式で講義を進め、随時「到達度」をチェックする質問や課題設定を行い、コメントを付けていきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	石造物の面白さ。石造物の価値。石造物をめぐる近年の動向。
2	採拓実習1	拓本（石造物の表面を紙に写し取った物）を採ってみよう。水をシュシュとふりかけ、墨をつけてポンポン叩いてみよう。
3	中世石造物1	五輪塔・層塔・宝塔・多宝塔・宝篋印塔1
4	中世石造物2	五輪塔・層塔・宝塔・多宝塔・宝篋印塔2
5	中世石造物3	板碑等その他石造物。素材石。龍山石
6	近世・近代石造物	近世力士墓。近代戦死将校兵の墓。など。
7	フィールドワーク1	大学の近くを散策して、石造物を「発見」しよう。
8	フィールドワーク2	加古川エリアを散策して、石造物を「発見」しよう。
9	石造物保存	石造物保存の現状と問題点。
10	石造物と街おこし1	石造物の観光資源化。保存と活用への市民の参画。
11	フィールドワーク3	石造物をめぐる観光資源化・街おこしの現状を確認。
12	石造物と街おこし2	石造物をめぐる観光資源化・街おこしの現状の問題点と改善策に関する討議。
13	採拓実習2	拓本採りに再挑戦。
14	採拓実習3（フィールド編）	歴史的な石造物の実物で拓本を採ってみよう。
15	おわりに	全体の総括。

《テキスト》

なし
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

考古学調査ハンドブック5『石造文化財への招待』、坂詰 秀一 監修、石造文化財調査研究所 編集、ニューサイエンス社

《授業時間外学習》

日常的に、地域を散策してみてください。路傍にある身近な文化財（石造物など）を「発見」し、評価してください。次の講義で報告してくれたら嬉しいですよ。
参考として示す「文化財的価値の高い文化財（石造物など）」を現地に足を運んで、積極的に観賞・評価してみてください。

《備考》

体を動かしながら楽しく進めましょう。天候等により、フィールドワーク等の日程は変更となることがあります。

科目名	地域資料を読む	科目ナンバリング	SL0L21004
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

ミミズがのたうったような崩し字の解説、を目指す講義ではありません。絵図・地図を中心に、活字化された地域資料（史料）を読み進め、「昔の地域の姿」を探索する方法論を学びます。地域資料（史料）の現状、消失・流出の危機と、保存方法・保存活動の方法を模索します。現物の古文書にも触れ、感触を確かめ、読める字がないか探してみます。フィールドワークを通して、前近代の古文書の保管状態も見学します。

《授業の到達目標》

- ・ 地域資料（史料）を評価する初歩的能力を獲得する。
- ・ 地域資料（史料）の保存活用に関する基礎知識を獲得する。
- ・ 往年の地域の姿を復元する初歩的方法論を獲得する。
- ・ 地域資料（史料）読解能力の第一歩を獲得する。
- ・ 地域文化活動の中核となる能力感性の第一歩を獲得する。
- ・ 地域の一次資料（史料）を通し、「ここにしかない」地域を愛する感覚を獲得する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、実技・実習等を行います）を60パーセントとします。学期末のペーパーテストを40パーセントとします。演習形式で講義を進め、随時「到達度」をチェックする質問や課題設定を行い、コメントを付けていきます。

《テキスト》

なし
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

『文献史料を読む—古代から近代』、青木 和夫・高木 昭作
 佐藤 進一・坂野 潤治 編、朝日新聞社
 『古地図で見る神戸—昔の風景と地名散歩』、大国 正美、神戸新聞総合出版センター

《授業時間外学習》

地域のどこに資料（史料）が保管・保存されるか、生活の中でそれとなく聞いてみて下さい。情報を得られたら、次の講義の際に発表して下さい。
 時間に余裕があれば、博物館・郷土資料館などを見学してみてください。
 また、復習も大切に。

《備考》

楽しくなるように工夫します。クイズ要素をちりばめ、フィールドワークも行います。頭と体を動かしましょう。天候等でフィールドワークスケジュールの変更があり得ます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	全体のガイダンス。地域資料（史料）研究の楽しみに関して。
2	近世絵図・地図 1	近世加古川宿について1。絵図・地図からの復元1。
3	近世絵図・地図 2	近世加古川宿について2。絵図・地図からの復元2。
4	フィールドワーク 1	加古川宿跡の探索。
5	近世加古川エリアの地図・絵図 1	近世加古川地区の名所・寺社。
6	近世加古川エリアの地図・絵図 2	近世加古川地区の用水路とため池。
7	フィールドワーク 2	博物館・資料館見学。
8	近世文書に触れてみよう 1	現物の近世史料の扱い方と読解の第一歩。ため池絵図を中心に。
9	近世文書にふれてみよう 2	現物の近世文書の保存処理体験。
10	フィールドワーク 3	近世文書群の保存・保管状況の見学。
11	フィールドワーク 4	博物館・資料館の保管庫の見学。撮影資料等の見学。
12	地域資料（史料）保存の諸問題 1	地域資料（史料）の現状に関して。
13	地域資料（史料）保存の諸問題 2	地域資料（史料）の保存・活用方法を模索する。特に、対行政問題を中心に。
14	フィールドワーク 5	中世文書群の保存・保管状況の見学。実際に現物の中世文書に触れてみよう。
15	おわりに	全体の総括。

科目名	哲学	科目ナンバリング	SSOL21001
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

原因・根拠・原理の探求として古代ギリシャに開かれた「哲学」が何をどのように問題にしてきたのか、すなわち哲学とは何かについて、いくつかの哲学思想を繙きながら概説する。この作業は哲学史の理解に寄与するが、哲学思想の歴史的な流れに関する学習というよりは、哲学上のいくつかの根本問題への理解につながるような哲学的探求を試みたいと思う。

《テキスト》

岩崎武雄著『西洋哲学史』（再改定版）有斐閣、1996年

《参考図書》

適時紹介する。

《授業の到達目標》

・哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
 ・人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。
 ・各テーマについて、柔軟に自分なりの考察や感想を持つことができるよう試みる。

《授業時間外学習》

・講義内容に関連するテキストの箇所をよく読むことで、予習や復習を行う。
 ・講義内容に直接関係のないテキストの箇所についても、目を通しておく。
 ・テキストや哲学者の著作、その他の参考文献を読み、レポートにまとめる。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（30%）および学期末に設定するレポート課題（70%）によって評価を行う。

《備考》

・講義中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。
 ・提出レポートは、必ずホッチキス止めをする。
 ・その他受講上必要な注意事項については、最初の講義内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学の創始 ソクラテス以前の哲学1.	哲学とは何かについて ミレトス学派およびエレア学派の哲学思想について
2	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテス以前の哲学2.	ピュタゴラス学派および多元論者の哲学思想について
3	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテスとプラトン1.	アテナイ期の哲学思想—ソクラテスとプラトンの哲学について 問答法と真理の探究について
4	古代ギリシャの哲学思想 プラトンの哲学2.	プラトンのイデア説について
5	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学1.	アリストテレスの哲学思想—存在・実体概念、自然・運動の概念について
6	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学2.	アリストテレスの哲学思想—靈魂論（心理学）・倫理学・論理学に関する学説について
7	中世の哲学思想	アウグスティヌスの教父哲学について
8	中世の哲学思想	トマス・アクィナスのスコラ哲学について
9	近世の哲学思想 デカルトの哲学1.	精神および物体の概念について
10	近世の哲学思想 デカルトの哲学2.	心身二元論について
11	近世の哲学思想 カントの哲学1.	カントの批判哲学—『純粋理性批判』について ア・プリオリな判断およびア・ポステリオリな判断、分析的判断・総合的判断について
12	近世の哲学 カントの哲学2.	カントの批判哲学—『実践理性批判』について（実践理性の根本法則） 『判断力批判』について（自然の合目的性）
13	現代の哲学 生の哲学・実存主義哲学	ベルクソンの哲学思想およびハイデッガーの哲学思想について
14	現代の哲学 プラグマティズムの哲学	ジェームズの哲学思想およびデューイの哲学思想について
15	まとめ	予備およびまとめ

《共通教育科目 現代社会を読み解く》

科目名	法と社会	科目ナンバリング	SSOL21002
担当者氏名	豊福 一		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 		

《授業の概要》

日常生活において問題となりうる典型的事例を法律的側面から解説します。実際の事例に基づいて解説します。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

特に指定しない。

《授業の到達目標》

実際に役立つ法的知識の習得。

《授業時間外学習》

特に指定しない。

《成績評価の方法》

レポート課題

《備考》

※授業到達目標に対し講評を行い、次年度目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法と社会の関わり（導入）	日本の法制度の歴史的沿革とその概要。
2	土地と建物の賃貸借契約	土地や建物（住居）を賃借する場合の法律問題。
3	クレジット・キャッシング	クレジットカードを利用した買い物やキャッシュカードを利用した借金の法律問題。
4	住宅ローン・自動車ローン①	住宅の購入に際しての法律問題。
5	住宅ローン・自動車ローン②	住宅ローンや自動車ローンを組むまでの流れ、その仕組み。
6	債務の整理・清算	多額の負債を背負った場合の清算方法。
7	刑事事件①	犯罪の容疑者が逮捕されるまでの流れ。
8	刑事事件②	逮捕された容疑者が有罪判決を受けるまでの流れ。
9	婚姻・離婚	主に離婚時の法律問題。
10	相続	相続人の範囲や法定相続分、その他相続制度の概要。
11	成年後見制度	主に高齢者で判断能力が低下した者の権利擁護制度の概要。
12	交通事故の法律関係	交通事故に遭遇した場合の法律問題。
13	保険制度	損害保険、生命保険、火災保険の仕組みと注意点。
14	民事訴訟制度	刑事訴訟ではなく、民事訴訟制度の概要。
15	知的財産制度	著作権、特許権等の知的財産制度の概要。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	SSOL21003
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

授業時間外学習の成果として提出を求めるレポート30%、定期試験期間中に実施する筆記試験70%で、成績評価を行う。
 ※分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	①「法の下での平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。

科目名	人権の歴史	科目ナンバリング	SSOL21004
担当者氏名	岩本 智依		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《授業の到達目標》

多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《成績評価の方法》

定期試験80% 課題提出20%（学期末の最終授業を締切に参考図書を課題としたレポート）

なお質問とともに、定期試験やレポート等について事前添削を随時受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	差別とは何か	現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。
2	ライフタイムと人権	自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。
3	人権の歴史とは①	人権の歴史を通して、人権の享有主体としての私たちのあり方を考える。
4	人権の歴史とは②	人権の歴史を通して、現代社会における人権の内容を学ぶ。
5	部落差別と現代社会①	部落差別とは何かをその歴史と部落史の発展の視点から学ぶ。
6	部落差別と現代社会②	「身元調査」を通して部落差別の現状と課題を学ぶ。
7	いのちと人権①	ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。
8	いのちと人権②	障がい者差別の歴史と障害者差別解消法について学び、「差別の禁止」とは何かを考える。
9	いのちと人権③	尊厳死や生命倫理に関わる人権の歴史を通して、人権といのちについて考える。
10	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
11	教育と差別	いじめや体罰など、教育や保育における人権的課題について学ぶ。また反差別の教育である「同和教育」について考える。
12	性差別と現代社会①	性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。
13	性差別と現代社会②	セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。
14	性差別と現代社会③	セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。
15	まとめ	現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。

《テキスト》

レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《参考図書》

毎日新聞「境界を生きる」取材班 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社
 砂川秀樹・RYOJI 『カミングアウト・レターズ』太郎次郎社エディタス
 岩本孝樹 『「いのち」の保育——一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業時間外学習》

レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《備考》

今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

科目名	政治学	科目ナンバリング	SSOL21005
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

- 政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
- 現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
 他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

科目名	社会学	科目ナンバリング	SSOL21006
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろ見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしぐみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（2013，有斐閣アルマ）

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000，日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

○授業内レポート1-2回、ミニ・テストを数回実施する。(配点：文章作成能力および知識の定着度45点) ○定期試験により学習達成度を評価する。(配点：理論の理解度、データを読む力、社会問題についての理解、批判的視点等の獲得度55点) ○試験やレポートにコメントを付して返却し質問を受け付ける。

《備考》

この授業では、講義内容をただ知識として暗記するのではなく、現実社会との関係のなかで理解するため、専門用語の図示・図解を行う演習を適宜取り入れる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会について理解する
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者について理解する
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会について理解する
4	行為の分析 (3) スティグマ	スティグマ、レイバリング、パッシングについて理解する
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテクスト、分類（社会的カテゴリー）について理解する
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界について理解する
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイムについて理解する
8	学習の総まとめ (1)	「行為の分析」についてふりかえる
9	秩序の解読 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブについて理解する
10	秩序の解読 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持について理解する
11	秩序の解読 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織について理解する
12	秩序の解読 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団の平等、格差、格差社会、不平等、階級社会について理解する
13	社会の構想 (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーションについて理解する
14	社会の構想 (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズムについて理解する
15	学習の総まとめ (2)	「秩序の解読」「社会の構想」についてふりかえるについて理解する

科目名	経済学	科目ナンバリング	SSOL21007
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。毎時間提出する授業時の課題については、翌週の授業時に解答例の紹介とともに補足説明を行います。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材（自習用）を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されているビッグデータの活用、高機能ロボットなどについても考察します。
6	企業戦略について考えよう (1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう (2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割 (1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割 (2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう (1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう (2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう (3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

科目名	現代社会の理解	科目ナンバリング	SSOL21008
担当者氏名	沖野 光二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

公職選挙法(第9条)が2015年に改正され、年齢満18歳以上の者が選挙権を有し、政治への直接参加（民主主義的手続き）の権利を得ると同時に政治的帰結の責任を担うこととなった。さらに民法(第4条)を改正し、成年とする年齢を18歳に引き下げ、法律行為の能力を有するべく現在調整されている。社会との政治的・法的・経済的関わりについて、課題とそれを解決すべき行動手順（手続き方法）を学生自らが見いだせる能力を養う。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

テーマ毎に関連する文献資料について、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

(1)新聞やニュース記事の具体的事案・事例から抽象度を上げた教科書レベルの概念・理論へ展開することができ、論理的に政治的側面・法的側面・経済的側面から問題点と解決手順を思考できる能力を養う。(2)法律行為の能力（特に契約行為の責任）を有する意味を理解し、不利益を被る場合に自ら解決に向けた思考・行動を起こせるような能力を養う。(3)政治的帰結の責任を理解し、社会を観察し行動できるような能力を養う。

《授業時間外学習》

学生の日々の何気ない行動が、法律問題に直結する形で社会と関わりを持っている。学生諸君が、法律行為の能力を有する者（＝法的社会的責任を負う者）であると意識しながら、新聞記事などで社会の動きを観察するように心がけること。日常の何気ない行動であっても、その行為に関わる将来への影響の結果（outcome）が予測・想像できるようになってもらいたい。

《成績評価の方法》

1. 講義回数の3分の1以上の欠席の者は不可とする。
2. テーマに関する専門家（本学教授陣および外部講師）を数回交えて講義を展開するため、確認小テストおよび課題レポートの累計により評価する。

《備考》

ルーズリーフ形式ではなく、A4サイズ（B5サイズではない）のいわゆる大学ノートを必ず用意して、授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ライフサイクルにおける資金計画と時間の貨幣的価値（アルバイトの意味と奨学金制度）
2	労働契約の意義	ブラック・バイトやブラック企業などの劣悪な労働環境の事案からの考察、職業的専門家（労働基準監督官・社会保険労務士）の仕事（魅力）
3	契約の意味	契約の意味、労働契約の意義、職業的専門家（法曹（法律家））の仕事（魅力）
4	選挙制度の意義	選挙制度と国民審査制度の現状・裁判員制度の現状の考察
5	投票への準備	選挙制度と国民審査制度の意義・裁判員制度の意義と問題点、職業的専門家（議員・行政職公務員）の仕事（魅力）
6	政治的帰結の責任	（確認小テスト）
7	メディアと法律・人権	ソーシャルメディア（インターネット接続端末の利用）における人権問題・法律問題の考察
8	メディアと法律・人権	ソーシャルメディアと犯罪・人権侵害の事案からの考察、職業的専門家（都道府県警察本部サイバー犯罪対策課）の仕事（魅力）
9	メディアと法律・人権	（確認小テスト）
10	市民活動と住民活動	ボランティア活動・地域活動と行政（その1）
11	市民活動と住民活動	ボランティア活動・地域活動と行政（その2）
12	市民活動と住民活動	（確認小テスト）
13	人生とお金	ライフサイクルにおけるファイナンシャル・プラン、職業的専門家（ファイナンシャルプランナー）の仕事（魅力）
14	人生とお金	社会におけるお金の役割、所得と租税と資産運用、職業的専門家（国税専門官・税理士）の仕事（魅力）
15	まとめ	（確認小テスト）

科目名	生命倫理学	科目ナンバリング	SNAL21001
担当者氏名	本多 真		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

人間の歴史は、新しい自由を持って余さないために、新しいルール／倫理を生み出すことで、社会に混乱が生み出されないよう絶えず工夫してきた。ところが技術が発達し、個々の自由が保証されてくると、「いのち」をめぐる課題についてのルール設定が難しくなってきた。
この講義では、安楽死、脳死、臓器移植、妊娠中絶、遺伝子操作などのテーマを取り上げ、生命倫理学の入り口へ誘いたい。

《授業の到達目標》

技術とルールをめぐる「いのち」の問題について、自分なりに理解し、問題の複雑さを整理できるようになる。

《テキスト》

講義の時、配布する。

《参考図書》

講義時に指示する。

《授業時間外学習》

講義の時、次の講義内容について紹介するので、そのテーマに沿って関連する書籍や映像資料を閲覧する。

《成績評価の方法》

- ① 提出レポートの内容について事前にコメントをする。その上での提出を求める。
- ② 授業の参加態度 10%
小課題 20%
学期末レポート 70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに／倫理の役割	本講義の概要／倫理とは何か？
2	インフォームド・コンセント①	患者の権利／情報を与えられたうえでの合意
3	インフォームド・コンセント②	何をどこまで説明すればよいか／患者と医師の対立
4	安楽死と尊厳死①	安楽死と尊厳死／その違いとは
5	安楽死と尊厳死②	死期を決めるのは誰か？
6	脳死と臓器移植①	医療技術の進歩／脳死と臓器移植の関係
7	脳死と臓器移植②	死の基準について
8	相互インタビュー①	これまでの講義のふりかえり
9	人工妊娠中絶①	国家と命の関係について
10	人工妊娠中絶②	出生前診断は必要か？
11	人工妊娠中絶③	議論の組み立て方
12	遺伝子操作と優生思想①	遺伝子操作の現状
13	遺伝子操作と優生思想②	障害学について
14	遺伝子操作と優生思想③	多様な社会を目指して／レポートのフィードバック
15	まとめ	講義のまとめ

科目名	心理学	科目ナンバリング	SNAL21002
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方に基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト70%，レポート20%，受講態度10%
 *授業終了前、テーマに対するミニレポートを求めることがある。そこには授業についての意見や感想も書けるようにする。次の授業で、レポート内容や意見について回答する。
 *オフィスアワーなどにおいて、質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心の科学的な考え方や心理学の各分野について《序章 § 1~9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ《第1章 § 1~2, § 6~7》
3	覚えているって、どういふこと？(記憶)	記憶過程と記憶の分類 各記憶の特徴《第3章 § 4》
4	どうやって、学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方 条件づけやモデリング《第3章 § 1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方《第2章 § 5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) I	欲求の分類 各欲求の性質《第2章 § 1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) II	欲求の階層 思うようにいかないときの行動《第2章 § 2~4》
8	君って、どんな人？(性格) I	性格の基本的考え方 類型論と特性論
9	君って、どんな人？(性格) II	性格テストの体験 生得説と経験説《第4章 § 1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達 エリクソンの発達段階《第4章 § 2~3》
11	あの人が、きつこうなんだ(社会的認知)	ステレオタイプ 原因帰属 印象形成《第6章 § 1~2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果《第6章 § 4》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識に関するいくつかの理論. 心理療法《第5章 § 4, 第8章》
14	心理学アラカルト	身近にある心理学の様々なテーマ
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解.

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
 (より深く勉強したい人向き)

『イラストレート心理学入門』 齋藤勇/誠信書房
 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

科目名	化学	科目ナンバリング	SNAL21003
担当者氏名	阿部 真幸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。

私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

《授業の到達目標》

- 溶液の濃度の表し方を理解し、これらの濃度を互いに変換できる。
- 代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴（性質）を理解している。
- 有機化学反応の生成物を構造式で示し、反応を説明できる。
- 生体に関わりのある代表的化合物の種類および働きを説明できる。

《成績評価の方法》

- 定期試験（80%）および小テスト（20%）により評価します。授業の出席回数が10回以上に満たない場合には、定期試験の受験資格はありません（遅刻・早退3回は欠席1回とみなします）。
- 小テストは返却し、フィードバックを行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	化学で扱う数値 原子の構造	物理量と単位 原子の構造、原子の電子構造、周期表と元素
2	化学結合と分子	イオン結合、共有結合、結合の極性、水素結合
3	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、パーセント濃度、モル濃度
4	酸・塩基と酸化・還元	酸と塩基の定義、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とpH、酸化と還元、酸化・還元反応
5	有機化合物の構造（1）	有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法
6	有機化合物の構造（2）	置換基の種類、有機化合物の種類と性質、異性体と立体構造
7	有機化学反応（1）	化学反応とエネルギー、反応速度、酸化・還元反応
8	有機化学反応（2）	置換反応、脱離反応と付加反応
9	糖質（1）	糖質の定義と分類、単糖類
10	糖質（2）	二糖類、多糖類、糖質の利用
11	脂質（1）	単純脂質、複合脂質
12	脂質（2）	誘導脂質、生体膜、脂質の利用
13	アミノ酸とタンパク質（1）	アミノ酸の種類と構造、（ポリ）ペプチド
14	アミノ酸とタンパク質（2）	タンパク質の立体構造、タンパク質の種類と機能、タンパク質・アミノ酸の利用
15	核酸（DNAとRNA）	核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能

《テキスト》

『コ・メディカル化学』
齋藤勝裕、荒井貞夫、久保勘二 共著（裳華房）

《参考図書》

『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人）
『あなたと化学』暮らしを支える化学（裳華房）
『環境・暮らし・いのちのための化学のこころ』（裳華房）
『ビギナーズ有機化学』（化学同人）

《授業時間外学習》

- 授業前に、テキストの学習する範囲を読み、専門用語の意味を理解しておくこと。
- 授業内容の要点をまとめる、演習問題を解くなど、授業の復習を行い、理解に努めること。

《備考》

- 質問があれば、授業終了後などに質問してください。
- 他の履修者に迷惑になる行動（特に、私語）はしないこと。
- アクティブラーニングゾーンにて授業を行う場合もある。

《共通教育科目 自然と科学》

科目名	生物学	科目ナンバリング	SNAL21004
担当者氏名	佐藤 隆		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 第2版 (南雲保編、羊土社)

《参考図書》

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第5巻 (デイビッド・サダヴァ 他：著、石崎泰樹 他：監訳)

《授業の到達目標》

生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

教科書をよく読んで、授業内容の予習を行うとともにノートの整理や授業プリントを見直すことで復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験 (100%) により評価する。
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞	細胞の構造と機能について学ぶ。
2	生命体を構成する物質①	アミノ酸、タンパク質、糖質について学ぶ。
3	生命体を構成する物質②	脂質、核酸、ビタミンについて学ぶ。
4	遺伝子の構造と機能	DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳について学ぶ。
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系について学ぶ。
6	光合成	光合成の機構について学ぶ。
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化について学ぶ。
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化について学ぶ。
9	多細胞生物の自己維持機構①	細胞間情報伝達システムについて学ぶ。
10	多細胞生物の自己維持機構②	恒常性 (ホメオスタシス)、生体防衛機構について学ぶ。
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病について学ぶ。
12	生態系①	生物と環境について学ぶ。
13	生態系②	環境問題、動物の行動について学ぶ。
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類について学ぶ。
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療について学ぶ。

科目名	身のまわりの科学		科目ナンバリング	SNAL21005
担当者氏名	湯瀬 晶文、穂積 隆広			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-F 自然・健康について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

近年、非常に幅広い分野において、科学的な考え方は分野理解のために不可欠な要素となっている。この授業では科学的な考え方を学ぶために、身の回りの様々な現象からいくつかの事例を採り上げ、「実験、体験、経験」を基本にして、「科学はどのようにものを見るのか」について説明を試みる。

なお、大学からの割り当（実施教室や予算）、および受講生の状態により内容を大きく変更することがある。

《授業の到達目標》

この授業では、身のまわりに生じている様々な現象を、科学的な観点から見ようとする姿勢を身に付けることを目標とする。またいくつかの具体例において、科学的な観点から理由を挙げて説明できるようになることを目指す。

<実験に際しての注意点>

自分の身は、自分で守る！

《成績評価の方法》

期末試験による評価の予定だが詳細は初回授業で確定する。

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

<出席について>

出席回数が全授業実施回数の3分の2に満たない時は、単位認定できないことがあります。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業時間外学習》

授業の内容を生活の中で再確認すること。

日常生活の中で、「これはどうなっているのだろうか？」という疑問を持つようにすること。

《備考》

人類が持つ「世界観・考え方」は多様ですが、科学的な世界観は最も幅広く強力なものの一つです。専門領域にとらわれることなく、ぜひ挑戦してみてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価等についての説明と意思確認を行う。授業内容に関する説明もあるため、履修希望者は必ず出席のこと。
2	選挙速報のふしぎ	開票率1%でも「当選確実」と表示できる理由を考える。手で触って区別がつかないピンポン玉から一部を抽出して全体との比較を行う。
3	GPSの原理	GPSはどうやって場所を突き止めるのかを考える。平面上でロープなどを用いてGPSの仕組みを体験する。
4	コンプガチャ問題 (コンプリートガチャ)	コンプリートガチャでかかる費用とそうなる理由を考える。手持ち資金を設定して、どの程度の費用でどの程度達成できるか実験する。
5	ものの重さと移動	ものの移動を通して、力学の基本とよく言われる事例を考える。力学台車に乗せる重量を変えて、どれくらいの力や時間を必要とするかを体験する。
6	様々なエネルギー	日常で簡単に使っているエネルギーとその大きさについて考える。断熱容器や手回し発電機などを用いて日常利用するエネルギーの大きさを実感する。
7	クルクル回るものたち	回転するものにみられるいくつかの現象を考える。ジャイロや車輪などを用いて回転する物体の意外な現象を実験する。
8	火のないところに煙？	火を使わずに火が出る理由を考える。断熱容器内で急速に圧縮すると発火する実験を行う。
9	おもしろ焼きそば	途中で焼きそばの色が変わる理由を考える。中華そばを調理する途中で調味料により色が変わることを実験する。
10	風で物を浮かべる	強力な送風機でピンポン玉などが浮き続ける理由を考える。ピンポン玉やカップ麺の容器が送風機により一定範囲内に浮揚することを実験する。
11	バスボム	バスボムのようなものを作り、泡が出てくる理由を考える。試薬を調合してバスボムのような入浴剤を作り、実際に発泡することを実験する。
12	小麦粉でボン！	小麦粉が爆発する理由を反応面積などから考える。粉じん爆発や酸素中でのスチールウール燃焼実験を行う。
13	花火のふしぎ	花火の色や酸化の仕組みを考える。炎色反応や花火の燃焼実験を行う。
14	総合演習	これまでの学修内容を振り返る。
15	まとめ	これまでの学修内容と得られた知見を再確認する。

《共通教育科目 暮らしと健康》

科目名	食と健康	科目ナンバリング	SLIL21001
担当者氏名	嶋津 裕子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

本授業では、食と健康をキーワードに食を中心とした消費生活全般における消費者力の向上を目的とし、消費者問題の歴史とともに消費者教育の最前線で何が行われているか、多角的に提示する。国内外での実践事例や教材を紹介し、特にエシカル消費についての理解を深め、消費者市民社会の担い手としての基礎づくりとなることをめざす。本授業は兵庫県教育委員会の高連携科目でもある。

《授業の到達目標》

- 消費生活、消費文化に関する基礎知識を習得することができる。
- 消費者市民教育の必要性和意義を理解することができる。
- エシカル消費（倫理的消費）について理解し、自らの生活を見つめなおし改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- 成績評価の方法と基準
毎回の講義後に提出を求めるリアクション用紙（20%）、各分野の学習後に課すレポート（30%）、定期試験（50%）
- フィードバックの方法
わからない事はオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

テキストは使用しない。適宜、資料・プリントを配布する。

《参考図書》

「暮らしの豆知識（2017年9月発刊予定）」 国民生活センター
「ハンドブック 消費者 消費者庁

《授業時間外学習》

- ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《備考》

- 授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。定期試験の受験資格は実施回数分の2以上の出席（遅刻・早退3回は欠席1回とみなす）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	高等学校までの学びのふりかえり及び身近な消費生活の課題を整理することができる。
2	消費者教育の必要性	消費者の権利と消費者教育の必要性について学ぶ。
3	消費者市民社会とは	消費者市民社会（コンシューマーシチズンシップ）の定義と概要を説明できる。
4	消費者問題と歴史 1	不良品問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
5	消費者問題と歴史 2	食品偽装問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
6	消費者問題と歴史 3	食の安全・安心問題について過去や近年に発生した事件・事例より具体的に捉えることができる。
7	法から見た消費生活	近年の消費トラブルの特徴から消費者行政法と行政の対応、消費生活センターの業務を理解する。
8	企業から見る消費者教育	A C A Pの活動を中心に、消費者教育とコンプライアンス経営について理解する。
9	海外における消費者教育	ユニセフやA C Eの活動を通して海外における実情を理解することができる。
10	持続可能社会と消費者	持続可能社会の定義と必要性について主体的に考えることができる。
11	エシカル（倫理的）消費 1	エシカル消費の定義（フェアトレード、環境配慮型商品等）について概説できる。
12	エシカル（倫理的）消費 2	消費者教育実践例を学び、エシカル消費について理解を深めることができる。
13	エシカル（倫理的）消費 3	消費者教育教材を使って修得した知識について実感できる。
14	エシカル（倫理的）消費 4	エシカルコンシューマーについて主体的に考えることができる。
15	まとめ	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成し情報発信・情報交換ができる。

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)	科目ナンバリング	SLIL21002
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。
 体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

毎時間プリントを配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。
 健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達の科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《授業時間外学習》

<予習方法>
 下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
 <復習方法>
 学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。レポートに対しコメントを付して返却する。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認すると共に、今後の自己の健康管理に役立ててもらいたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)	科目ナンバリング	SLIL21002
担当者氏名	矢野 琢也		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-F 自然・健康について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、1.運動(トレーニング)、2.栄養、3.休養の3つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、1.運動(トレーニング)、2.栄養、3.休養の3つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出80%、期末の課題レポート20%で評価します。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。
2	健康科学の現状について	健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。
3	健康づくりと運動について1	健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
4	健康づくりと運動について2	高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
5	健康づくりと運動について3	中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
6	健康づくりと運動について4	若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する(減量など)。
7	健康づくりと運動について5	年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
8	健康づくりと運動について6	有酸素系運動の効果と重要性について理解する。
9	健康づくりと栄養について1	栄養素の働きと重要性について理解する。
10	健康づくりと栄養について2	栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。
11	健康づくりと栄養について3	運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。
12	休養について1	コンディショニングとしての積極的休養について理解する。
13	休養について2	休養における睡眠の意義と重要性について理解する。
14	休養について3	スポーツにおける休養(リカバリー)の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。
15	まとめ	まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	科目ナンバリング	SLIS21003
担当者氏名	徳田 泰伸、西尾 和典		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館)
『からだロジー入門』宮下充正(大修館)

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法>実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)		科目ナンバリング	SLIS21004
担当者氏名	樽本 つぐみ、徳田 泰伸、矢野 琢也、西尾 和典			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 			

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法>
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
毎時間の受講成果をノートにまとめる(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめるレポート提出(30%)レポートはコメントを付して返却する

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《共通教育科目 キャリアデザイン》

科目名	私のためのキャリア設計	科目ナンバリング	SCAL21001
担当者氏名	三上 嘉代子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-A コミュニケーション力 <input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力		

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら、体験的に社会が求める力について学ぶ。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《授業の到達目標》

キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房2012年

《授業時間外学習》

シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《成績評価の方法》

1. 平常点(授業への取組姿勢) 50%、
2. レポート 50% (提出遅れは減点) レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える
2	マナー①	基本編：挨拶の重要性・言葉づかい
3	マナー②	実践編：面接時のマナー
4	コミュニケーションについて①	聴く力、傾聴について考える
5	コミュニケーションについて②	伝える力、アサーショントレーニングについて考える
6	自分自身を理解する①	自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める
7	自分自身を理解する②	自他評価を分析する
8	自分自身を理解する③	相互理解を深める
9	人を選ぶ・選ばれる	学生時代に力をいれたこと
10	自分の将来設計	これから就きたい仕事
11	社会が求める力を考える①	採用会議～自律性・自立性を高める
12	社会が求める力を考える②	考える力を身につける～適正を知る～
13	社会が求める力を考える③	総合力を身につける
14	行動計画：プレゼンテーション	準備（自分を語るシート記入）、発表
15	行動計画：プレゼンテーション	発表

平成29（2017）年度入学者

専門教育科目

科目名	生物基礎	科目ナンバリング	SBAL21004
担当者氏名	立谷 正樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）		

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の免疫系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深める基礎基本となる講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び平常点を加味して評価します。※三度実施する小テストをコメントして返却し定期試験にフィードバックさせる。定期試験の得点率を考察し次年度の到達目標に反映させる。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物とは 細胞の構造と機能	生物体の特徴（生物と無生物） 生体内への物質の出入り
2	生命体を構成する物質	主役はタンパク質 生体元素と生体を構成する化合物
3	酵素と化学反応	酵素は生体内のさまざまな化学反応を促進する触媒 いろいろな酵素（消化とは）
4	代謝と呼吸 小テスト	生体内での物質交代とエネルギー交代 呼吸とは生きるためのエネルギーを獲得すること
5	生殖とは	配偶子の形成とヒトの性決定 親から子へ形質は伝わる（メンデル性遺伝）
6	ヒトの遺伝	血液型・赤緑色覚異常・染色体異常・遺伝子変異 など
7	遺伝子の本体と タンパク質合成	DNAの構造と複製 遺伝子からタンパク質へ 転写と翻訳
8	体液とその働き 小テスト	体液の種類と循環のしくみ 酸素の運搬・血液凝固
9	肝臓・腎臓の働き	ものを作り、蓄え、分解する化学工場の肝臓 体液を浄化し尿を生成する腎臓
10	神経系の構造と働き	刺激から反応まで 神経伝達物質による刺激の伝達
11	自律神経系と内分泌系	自律神経はアクセルとブレーキ（拮抗的作用） 内分泌系（ホルモン）による持続的な調節
12	体温・血糖量等の調節 小テスト	自律神経とホルモンの連携による体内環境の調節（フィードバック調節）
13	生体防御免疫	免疫・体を外敵から守るしくみ。 体液性免疫と細胞性免疫
14	免疫と疾患	疾患と医療（予防接種・自己と非自己・エイズ など） 抗原抗体反応と血液型
15	まとめ アチーブメントテスト	学習の総括と評価

《テキスト》

「新課程版 フォトサイエンス生物図録」
数研出版編集部編（数研出版）

《参考図書》

「タンパク質の一生——生命活動の舞台裏」
永田和宏（岩波新書）
「細胞のはたらきがわかる本」伊藤明夫（岩波ジュニア新書）
「DNAがわかる本」中内光昭（岩波ジュニア新書）
「カラー図説アメリカ版大学生物の教科書」全5巻
グレイグ・H・ヘラー他著（ブルーバックス）

《授業時間外学習》

授業で使用する図解はかなり高度な内容であり、ヒトの生命について判りやすく解説してあります。授業中に指摘したポイントを図解を利用してしっかり復習し、3回行う小テストで満点を目指してください。分からないについては授業終了後に質問を受け付けます。

《備考》

ヒトの生活に必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、人体の構造・機能を中心に基礎的な知識を習得します。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	人体の構造と機能及び疾病	科目ナンバリング	SSPA11001
担当者氏名	長尾 光城		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

医学とりわけ臨床医学の近年の進歩はめざましく、疾病構造やそれに伴う医療も変化している。そこで、社会福祉関係者にも人体の構造と機能及び疾病への幅広い専門的理解と必要な知識を学べるよう指導する。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病』（中央法規）

《参考図書》

①『新版 病気の地図帳』講談社（最新版）

《授業の到達目標》

授業終了時には、クライアントを支援する際に、疾病の特徴を理解し、疾病と生活との関連を考慮した支援を展開できるようになることを到達目標とする。

《授業時間外学習》

テキストの予習を心がけること。興味を持った医学関連の記事について自ら調べる習慣を持つこと。

《成績評価の方法》

授業態度（20%）
レポート課題（30%）
定期試験（50%）
提出物にはコメントを付して返却する。

《備考》

医学の入り口に立って、人体の構造、機能、疾病についての理解を深めてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	身体構造と心身の機能 1	部位名称について理解する。
2	身体構造と心身の機能 2	循環器・消化器系について学習する。
3	身体構造と心身の機能 3	神経内分泌・感覚器系について学習する
4	メタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームの診断基準および生活習慣について学習する。
5	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームの診断基準及び予防について考える。
6	疾病の概要 1	生活習慣病－悪性腫瘍・脳血管疾患について学習する。
7	疾病の概要 2	生活習慣病－循環器・代謝疾患について学習する
8	疾病の概要 3	生活習慣病－呼吸・消化器・免疫・腎疾患について学習する。
9	疾病の概要 4	生活習慣病－泌尿器・整形外科・感覚器等疾患について学習
10	障がいの概要 1	感覚器・肢体・内部障がいについて学習する。
11	障がいの概要 2	知的・認知・精神等障がいについて学習する。
12	ドックと職場健診	職業と健康、健康診断について学習する。
13	感染症	感染症の治療と生活習慣について考える。
14	健康とはなにか	障がいを持っていても、持っていないでも健康に生活することの意義を考える。
15	生涯現役のすすめ	老いと健康について考え、生涯現役を過ごせるのか考える。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	心理学理論と心理的支援		科目ナンバリング	SSPA11002	
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） 			

《授業の概要》

社会福祉領域で実践を行うためには、人間理解が欠かせません。本講義では共通教育科目「心理学」の基礎部分を確認しつつ、社会環境の中で生じる心の変化を学びます。特に、「対人交流」、「発達」、「ストレス」、「心理療法と見立て」に関する内容について中心的に解説します。

《テキスト》

「心理学理論と心理的支援—心理学」 [編集] 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規

《参考図書》

「図説心理学入門第2版」 齊藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《授業の到達目標》

- ・ 共通教育科目「心理学」の基本テーマについて論じることができる。
- ・ 対人交流、発達、ストレス、心理療法と見立てといった主要テーマについて、理解し説明できる。
- ・ 社会福祉と心理学の関わりを説明できる。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法 下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。こういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。
- ・ 復習の方法 授業中に整理するプリントを中心に復習してください。その際、用語の意味を理解し覚えてください。

《成績評価の方法》

- 筆記テスト60%
- 確認テスト等20%
- 受講態度 20%
- * 確認テストについては、その場で答え合わせをし、全体に対して解説を行う。

《備考》

本科目は、共通教育科目「心理学」を修得後に受講することを奨めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	心理学の歴史と分野
2	心理学の基礎1	性格、感情
3	心理学の基礎2	欲求と動機づけ、感覚・知覚・認知
4	心理学の基礎3	学習・記憶、知能・創造性・思考
5	心理学の基礎4	知能・創造性・思考
6	人間環境と集団	社会的認知、集団、福祉現場とのかかわり
7	対人交流とコミュニケーション	コミュニケーションの特徴、自己表現の方法(アサーション)
8	発達の概念①	子どもの発達心理学とこころの発達心理学
9	発達の概念②	生涯発達心理学をめぐって
10	適応とストレス①	ストレスと身体、ストレスに関する心理学的理論
11	適応とストレス②	ストレスと性格、ストレスと心理的反応、ストレスからの回復
12	面接・見立て	ソーシャルワーカーの見立ての面接と様々な心理テストに関する知識
13	心理療法	ソーシャルワーカーの面接と様々な心理療法
14	脳と心	脳の働きと高次脳機能障害
15	まとめ	全体のふりかえり

科目名	社会理論と社会システム		科目ナンバリング	SSPA11003
担当者氏名	吉原 恵子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）			

《授業の概要》

本講義は、ソーシャルワークの基本となる「人・社会・生活と福祉の理解」のうち社会理論と社会システムについて学習する。現代社会における個人と社会の関係について、社会理論に関する専門用語によって、体系的に理解するとともに、社会的現実や実態について科学的手続きによってアプローチができるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会理論と社会システム』社会福祉士養成講座編集委員会〔新・社会福祉士養成講座3〕（2014, 中央法規出版）

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000, 日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学の理論における専門用語を習得して、現代社会の特徴を説明できる。
- (2) 人々の「生活」を構成する要素について体系的に学び、説明できる。
- (3) 社会問題について批判的に捉えるだけでなく、自分なりの考えをまとめて発表できる。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りのためファイリングして活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

○ミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）○学習のまとめにより学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組みようとする。（意欲、批判的視点等の獲得度：55%）○試験やレポートにコメントを付して返却し質問を受け付ける。

《備考》

この授業では、講義内容をただ知識として暗記するのではなく、現実社会との関係のなかで理解するため、専門用語の図示・図解を行う演習を適宜取り入れる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学的ものの見方	社会学の成立、社会学とは何か、個人と社会、社会学と社会福祉について理解する
2	現代社会の理解 (1) 社会システム	社会システム、社会指標、国民生活指標、新国民生活指標と行政評価、社会階層と社会移動について理解する
3	現代社会の理解 (2) 法とシステム	法の疎遠性、法の普遍性、法の不変性、開かれた法について理解する
4	現代社会の理解 (3) 経済と社会システム	交換と市場、市場における力の不均衡、市場の社会性と外部、労働市場と格差、経済の社会的制御について理解する
5	現代社会の理解 (4) 社会変動	社会変動、近代化、産業社会の発展、グローバル化について理解する
6	現代社会の理解 (5) 人口からみた社会変動	人口、人口転換、少子高齢化、人口の地理的分布について理解する
7	生活の理解 (1) 生活のとらえ方	生活構造の概念、ライフステージ、生活時間、生活様式、消費、生活の質について理解する
8	生活の理解 (2) 家族	家族の概念、家族の変容、家族の構造と形態、家族の機能、ジェンダーの視点、福祉国家と家族について理解する
9	生活の理解 (3) 地域	地域の概念、地域社会の集団・組織、都市化と過疎化、地域のグローバル化とエスニシティについて理解する
10	人と社会の関係 (1) 社会的行為と社会的役割	マイクロ・マクロリンク、社会的行為、秩序問題、自己と他者、役割と地位について理解する
11	人と社会の関係 (2) 社会集団と組織	社会集団の概念、集団の諸類型、集団のメカニズム、組織の概念、官僚制的組織について理解する
12	人と社会の関係 (3) 社会的ジレンマ	囚人のジレンマ、共有地の悲劇、社会的ジレンマについて理解する
13	人と社会の関係 (4) 社会関係資本・連帯	近代化と社会的連帯、社会関係資本の理論、社会的排除について理解する
14	社会問題の理解 (1) 日本社会と社会問題	社会問題の構築、新しい社会問題、転換期の社会問題、共生社会と権利、人権・生存権・社会権、社会運動、ネットワーキングについて理解する
15	学習のまとめ	学習内容をふりかえり、専門用語や理論の体系と関連性を確認する

科目名	相談援助の基盤と専門職 I		科目ナンバリング	SSPA12001
担当者氏名	竹内 一夫			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）			

《授業の概要》

社会福祉の実践方法であるソーシャルワーク実践に不可欠な価値、態度、基本理念を理解することが本講義の目的である。Ⅰ期では、ソーシャルワーク援助の原点、現在までの発展過程を学び、そこから相談援助に不可欠な専門職としての価値、実践原理、利用者の人権擁護について、教科書に基づき学びを進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 第3版 新社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版、2015

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7「相談援助の理論と方法Ⅰ」 新社会福祉士養成講座8「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版、2009

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できるようになる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論が理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。授業中の携帯操作は禁止する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉に関わる専門職	社会福祉士、精神保健福祉士の法律における位置づけと専門性を検討するが、同時に現代社会における期待と養成における問題点について検討する。
2	現代社会で生きるということ	現代社会での生活にみられる問題点と病理を検討する。また、地域社会の教育力、介護力、保育力の現状を検討し、福祉社会への移行のための課題について検討を加える。
3	ソーシャルワークとはなに？	現代社会におけるソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの諸定義について検討する。
4	ソーシャルワークを構成する要素とは	ソーシャルワーク援助を構成する、クライアント、ワーカー、ターゲット、アクションの各システムと、援助者の価値、態度について検討する。
5	ソーシャルワークの歴史 ① 前史	社会福祉確立までの歴史、特に相互扶助から慈善・博愛事業を中心に検討を加える。
6	ソーシャルワークの歴史 ② 基礎の確立	専門的援助技術の確立への取り組みの中で、特にCOS運動が、近代ソーシャルワーク援助に貢献した個別記録と教育について検討する。
7	ソーシャルワークの歴史 ③ 援助技術の確立	診断主義モデル、機能主義モデル、問題解決モデル、心理社会モデル、生態学モデル、生活モデルなど、現在に至るまでの各モデルの特徴を検討する。
8	ソーシャルワークの歴史 ④ 統合モデルの検討	利用者援助における複数の援助技術の必要性を検討するとともに、サービスを統合するケアマネジメントにも言及する。
9	ソーシャルワークの歴史 ⑤ グループの援助	グループを対象とし、グループメンバーの相互作用を活用した援助の歴史とグループワークの援助モデルについて言及する。
10	ソーシャルワークの援助 ⑥ 地域援助	コミュニティデベロップメントから、コミュニティーオーガニゼーション、そしてコミュニティワークへの変遷について検討する。
11	ソーシャルワーク実践と価値	ウェルフェアから、ウェルビーイングへと社会福祉の援助目標が変化したなかで、社会福祉に携わるソーシャルワーカーの価値はどのような変化したのかを検討する。
12	ソーシャルワーク実践と権利擁護	権利擁護とは、なぜ今権利擁護が必要とされるのか、我々専門職の目指す方向はどこかを検討する。エンパワメントの必要性についても検討する
13	ノーマライゼーションとは①ミクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションとは、その目的と、その援助方法とはについて検討する。まず個人のレベルを扱う。
14	ノーマライゼーションとは②メゾレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションであるが、ここでは地域社会でのノーマライゼーションの展開を扱う
15	ノーマライゼーションとは③マクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つは、ノーマライゼーションであるが、ここでは法律、社会制度でのノーマライゼーションの展開を扱う。

科目名	法学	科目ナンバリング	SFFA21004
担当者氏名	塩見 佳也		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この授業では刑法・民法を中心に法的責任の全体像を学ぶ。社会福祉試験『権利擁護と成年後見』の基本となる民法の知識を具体的イメージを深めかみ砕き具体例と法律の専門用語を関連づけ、ことばを理解しながら問題を解き、権利擁護や自分の身を守る為必要な法知識・法的責任の基本を理解する。法律は自分や他人の生命・財産に直結する技術であるため容易なものではないが図や具体例を徹底すれば深い理解が可能である。

《授業の到達目標》

- ・社会福祉士試験に出題される法律問題を解くことができる
- ・契約に関する仕組み・法的責任について理解することができる
- ・成年後見制度の法的考え方を理解することができる
- ・損害賠償に関する法的考え方を理解することができる
- ・親子や夫婦関係、相続に関する基本的な法的考え方を理解することができる

《成績評価の方法》

・授業中の課題（20%）＋試験（70%）＋受講態度（10%）
 激しい私語は他者の受講及び授業進行を妨げる迷惑行為である。特に他者の受講利益の侵害となる場合、事態に応じた必要な措置を執る。自由は他者の自由を侵害するとき限界に直面する（危害原理）という理論は文明社会構成員の定番である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とはどのようなものか？（ガイダンス）	①さまざまな「規範」、法と道徳の相違と関連 ②法のことばと解釈 ③法的責任の全体像 ④三権分立（法律はどこで作られ、どう実行されるか）
2	犯罪の捜査から刑（刑罰）の執行までの間	①捜査→逮捕→起訴→裁判・判決→刑罰 ②刑罰の種類 ③執行猶予とは？
3	罪と罰（刑法入門）	①犯罪とは ②なぜ児童や重度精神障害者の犯罪行為は処罰されないのか？ ③医療と犯罪 ④妊娠中絶や脳死 ⑤とっさの反撃は罪か？（正当防衛・緊急避難）
4	民事トラブルと刑事事件の違い	①裁判によらない解決（示談、ADR） ②民事裁判と裁判上の和解 ③契約による権利義務の発生とその強制的実現方法 ④自力救済禁止の原則
5	民法の全体像	①民事上の権利と義務の発生 ②法における「人」（法人、代理） ③権利能力と行為能力（未成年・成年後見制度）
6	共同する営みと法	①会社 ②学校・病院・社会福祉法人 ③NPO ④サークルや町内会 ⑤組合 ⑥物の共有
7	契約（1）全体像	①売買 ②賃貸借 ③消費貸借 ④雇用・請負・委任 ⑤贈与 ⑥契約の様々な性質 ⑦一般法と特別法（特別法は一般法を修正する）
8	契約（2）買うこと・買うのをやめることと法	①売買契約の権利義務 ②キャンセルとは ③クーリングオフとは
9	契約（3）借りることと法	①賃貸借契約と借地借家法 ②借金（金銭消費貸借契約）と「過払い金」
10	契約（4）仕事をする事と法	①雇用 ②労働基準法・労働契約法 ③請負 ④委任 ⑤準委任と医療
11	本人が望んでも契約を成立させない仕組み	①成年後見制度の種類と保護者の権限 ②無効の後の後始末（不当利得返還請求権）
12	不動産と法	①物権とは？ ②動産の売買との相違 ③おそるべき登記 ④担保物権とは？ ⑤財産権に対する法令上の規制と公用収用（個人の土地を国家が取り上げる権限）
13	さまざまな損害賠償（1）契約関係	①全体像 ②瑕疵担保責任 ③危険負担 ④債務不履行 ⑤医療事故・労働災害
14	さまざまな損害賠償（2）事故や名誉毀損	①交通事故の治療費休業中の給料の行方 ②慰謝料とは？ ③ツイッターの気軽な発言が損害賠償沙汰に ④公害
15	家族と法	①法的に親族とはどの範囲か？ ②親子関係 ③結婚と離婚 ④相続

《テキスト》

伊藤真『ファーストトラック 民法』

《参考図書》

- ・川井健『はじめての民法』
- ・新社会福祉士養成講座『11 社会福祉サービスの組織と運営』
- ・新社会福祉士養成講座『19 権利擁護と成年後見』
- ・伊藤真『民法入門』
- ・各種行政書士国家試験テキスト

《授業時間外学習》

- ・指示された予習・復習課題を実施すること
- ・イラストや図、表を言葉にして書いてみる。そして友達にそれをもとに説明し、自分も友達の説明を聞いてみる。
- ・法律用語以外の難しいことばについて訓練し基礎学力を鍛え、文章読解力・論理思考力を訓練すること
- ・新聞を読むこと

《備考》

毎回ミニツッペーパーを提出し、授業のポイントの要約・質問・感想を記入すること。ミニツッペーパーに毎回5段階の授業および自己の学習態度への評価項目を記入すること。

科目名	行政法	科目ナンバリング	SFFA21005
担当者氏名	塩見 佳也		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
			開講年次・開講期
			1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 基教-G 論理的思考力 		

《授業の概要》

この授業では社会福祉行政に共通する法的知識を学ぶ。社会福祉試験『権利擁護と成年後見』の行政法科目をカバーする。法学の知識が前提となるため法学を受講すること。社会福祉は行政を手段として実施される場合が多く、2年次以降で学習する内容の共通する基本的な考え方・行政権の活動をめぐる全体的な知識をこの授業にて習得することを目指す。福祉活動以外にも警察や公共施設など身近な例を題材に法的な枠組を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・社会福祉士試験に出題される法律問題を解くことができる
- ・行政組織について理解することができる
- ・地方自治の法的考え方を理解することができる
- ・行政活動に関する法的考え方を理解することができる
- ・行政活動に対する権利救済手続に関する基本的な法的考え方を理解することができる
- ・生活保護や社会保障給付の法的仕組みを理解できる

《成績評価の方法》

・授業中の課題（20%）＋試験（70%）＋受講態度（10%）
 激しい私語は他者の受講及び授業進行を妨げる迷惑行為である。特に他者の受講利益の侵害となる場合、事態に応じた必要な措置を執る。自由は他者の自由を侵害するとき限界に直面する（危害原理）という理論は文明社会構成員の定番である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	行政法はどのようなものか？（ガイダンス）	①法律と行政の関係 ②司法と行政の関係 ③社会福祉と行政（憲法25条との関係）
2	ゴミ屋敷を行政は強制的に撤去できるか？	①行政刑罰と刑事罰の関係 ②強制撤去（行政代執行） ③警察活動・消防・精神病院
3	国の行政組織の全体像	①行政権と内閣 ②国家行政組織法 ③厚生労働省と医療薬品食品福祉二関する行政活動と実施組織と手段
4	国の行政の「立法」活動（行政立法とは？）	①法令とは？ ②法規命令 ③行政規則 ④法律との関係（法律による行政の原理）
5	地方の行政組織の全体像	①伝統的な国と地方の関係 ②地方分権 ③地方公共団体の組織 ④地方議会と条例 ⑤首長の権限
6	公共施設を民間で管理すること	①指定管理者制度 ②PFIによる刑務所の運営 ③「公私協働」の拡大と社会福祉
7	行政手続と行政が守らなければならないルール	①申請と処分 ②届出 ③行政指導 ④行政手続法制定の意義 ⑤不利益処分と行政の事前手続
8	営業許可・営業停止命令・運転免許などの仕組み	①行政行為とは（行政処分を中心に） ②行政行為の効果と「公定力」（間違った決定にも効果が生じてしまう） ③行政行為の内容に問題がある場合（取消と無効）
9	行政の判断ミスはどうコントロールするか？	①行政裁量（行政が自由に判断できることと法律に縛られること） ②行政行為の無効と取消 ③行政処分の撤回（いわゆる免停とは） ④裁判例の紹介
10	行政に対するチェック体制の全体像	①行政不服審査法と行政事件訴訟法の概要 ②国家賠償法の概要 ③損失補償と土地収用
11	社会福祉活動と行政不服審査法	①様々な不服申立制度 ②国民年金法・健康保険法・介護保険法と社会保険審査会
12	社会福祉の申請が拒否されたとき	①行政事件訴訟法の取消訴訟 ②裁判をするうえでの資格
13	行政にやるべき仕事をさせる仕組み	①義務付け訴訟 ②不作為の違法確認訴訟
14	行政の活動による被害への救済	①国家賠償法1条（パトカーのひき逃げや薬害など） ②民法の使用者責任（民715条）との関係 ③国家賠償法2条の対象（道路や堤防の破損による被害）
15	情報と行政	①個人情報とは？ ②医療・社会福祉における情報管理 ③情報公開と市民の自治・自律 ④プライバシー権

《テキスト》

伊藤真『ファーストトラック 行政法』

《参考図書》

- ・曾和俊文・山田洋・亘理格『現代行政法入門』
- ・新社会福祉士養成講座『11 社会福祉サービスの組織と運営』
- ・新社会福祉士養成講座『19 権利擁護と成年後見』
- ・伊藤真『民法入門』
- ・各種行政書士国家試験テキスト

《授業時間外学習》

- ・指示された予習・復習課題を実施すること
- ・イラストや図、表を言葉にして書いてみる。そして友達にそれをもとに説明し、自分も友達の説明を聞いてみる。
- ・法律用語以外の難しいことばについて訓練し基礎学力を鍛え、文章読解力・論理思考力を訓練すること
- ・新聞を読むこと

《備考》

毎回ミニッツペーパーを提出し、授業のポイントの要約・質問・感想を記入すること。ミニッツペーパーに毎回5段階の授業および自己の学習態度への評価項目を記入すること。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	生涯発達心理学		科目ナンバリング	SFFA21006
担当者氏名	原 志津			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） <input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） <input type="radio"/> 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） <input checked="" type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）			

《授業の概要》

従来の「発達心理学」は、乳幼児期から青年期までをその領域としていたが、近年の人の長寿化傾向と高齢化社会を背景に、成人期から高齢期までを含む「生涯発達心理学」として考えられるようになってきた。この授業では、人間の誕生前後から死に至るまでの一生涯を対象とし、人は一生発達し・成熟していくという存在であるということを様々な教材を用いて考えていきたい。

《授業の到達目標》

発達心理学や生涯発達心理学で用いられる基礎的な用語について説明できる。
 発達段階ごとの発達課題や発達段階の問題について説明できる。
 自分自身を生涯発達する者として認識し、向上しようとする意欲が持てる。また出会う人に対しても、そのような意識をもって尊重し、その方の可能性を見いだせるような視点を持てる。

《成績評価の方法》

受講態度 30%
 日常のレポート 20%
 授業最終日のまとめ 50%
 提出物については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

「感じることば」黒川伊保子 河出文庫（本体630円）

《参考図書》

授業中に随時紹介する

《授業時間外学習》

人生に関する新聞記事などの印刷物を目にしたらメモしておく。終末期を考える講演会などに積極的に参加し最新の生涯福祉の情報を得て今後活かせるように学ぶ。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	生涯発達心理学の考え方を知る
2	胎児期・新生児期	ヒトとしての発達は、胎内にいる時から始まっているのか、ということを考える
3	乳児期	乳児が「泣く」ことと母親との相互関係について学ぶ
4	幼児期	幼児期に獲得する力・社会性の発達について知る
5	児童期	児童期に獲得する力を知る
6	青年期①	思春期について知る
7	青年期②	アイデンティティーの統合について考える
8	成人期①	他者と社会との関わりについて知る
9	成人期②	一人前になること（パートナーとの関係・仕事・子育て）について考える
10	中年期①	中年期の危機について知る
11	中年期②	『人生の後半からの心理学』ユングの心理学について知る
12	高齢期①	時計の時間とこころの時間について考える
13	高齢期②	高齢者の知恵をどのように発揮するか考える
14	生涯発達心理学	死に至るまでの限りある生をいかに生きるか・自己実現について考える
15	生涯発達心理学のまとめ	全体のふり返しを行う

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	基礎ゼミナール I	科目ナンバリング	SFFA11007
担当者氏名	吉原 恵子、竹内 一夫、小倉 毅		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解) ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる (論理的思考力、情報リテラシー) ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる (分析力、プレゼンテーション力) ◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる (地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ) ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感力、観察力、問題発見力) 		

《授業の概要》

本演習は、(1)学ぶ空間であるキャンパスにできるだけ早く慣れ、(2)大学の授業を受けるための基礎的学習スキルを身につけ、(3)4年間の見通しをもって専門教育への準備ができるようになること、また、学生生活を自分自身で設計し管理できるようになることを目的としている。この演習は少人数で構成され、相互に交流をはかりながら、個々人の能力を開発し発揮することをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 大学環境を知り、活用できるようになる
- (2) 大学での学び方を身につける
- (3) 大学生に必要な学習スキルを習得する
- (4) 4年間の学習方針を明確にする
- (5) 生活や問題、社会についての基礎知識を身につける
- (6) 社会福祉の基礎用語を理解し、説明できる
- (7) 社会福祉の各分野の内容をまとめることができる

《成績評価の方法》

- ・ 授業への参加態度およびグループ活動等における協力等 (意欲・関心、協力性20%)
- ・ 報告や発表における成果 (表現力・発信力20%)
- ・ 提出物と確認テストの結果 (文章力、知識とスキルの獲得度60%) ※課題提出が遅れた場合は減点する。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

- ・ 『ステディスキルズ・トレーニング』(2011, 実教出版)
- ・ 『プラクティカル・プレゼンテーション』(2005, くろしお出版)
- ・ 『大学生の学び・入門』(2006, 有斐閣アルマ)
- ・ 『躍進するソーシャルワーク活動』(2013, 中央法規出版)
- ・ 『社会福祉用語辞典』(2012, 中央法規出版)

《授業時間外学習》

- ・ 「生活を知る、問題を知る、社会を知る」ために、日頃よりニュースや新聞等を読み、時事問題に関心をもつこと。

・ 学んだことや気づきなどをまとめ、学修成果をふりかえるため、配布された資料、作成した課題等を整理し保存すること。

《備考》

- ・ 課題は、提出要領にしたがい、期日や提出場所等を厳守し提出すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション(1)	1. 社会福祉を学ぶとは 2. 基礎ゼミナール内容・流れについて 3. シラバスとキャンパスガイドの内容について 4. 社会福祉の基礎用語学習について 5. 履修登録について
2	オリエンテーション(2)	1. ライブラリーツアー 2. 学習支援センター・ラーニングコモンズツアー 3. 学習時間、生活時間の管理と大学での学び 4. 対人援助専門職を目指す私の人間作り
3	スタディ・スキルズ(1)	1. 講義の受け方、ノートテイキング 2. 四年間の学びの流れについて 3. 大学生活におけるマナー、モラル、リスク管理等
4	スタディ・スキルズ(2)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 基礎用語確認テスト(1)
5	スタディ・スキルズ(3)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート)
6	スタディ・スキルズ(4)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 基礎用語確認テスト(2)
7	スタディ・スキルズ(5)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート)
8	スタディ・スキルズ(6)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 基礎用語確認テスト(3)
9	スタディ・スキルズ(7)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート)
10	社会福祉の各分野の理解 (1) 低所得者	1. 調べる、考える、報告する、2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 基礎用語確認テスト(4) 4. 夏季ボランティアの準備
11	社会福祉の各分野の理解 (2) 高齢者	1. 調べる、考える、報告する、2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 夏季ボランティアの準備
12	社会福祉の各分野の理解 (3) 母子及び父子	1. 調べる、考える、報告する、2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 基礎用語確認テスト(5) 4. 夏季ボランティアの準備
13	社会福祉の各分野の理解 (4) 障害者	1. 調べる、考える、報告する、2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 夏季ボランティアの準備
14	社会福祉の各分野の理解 (5) 児童	1. 調べる、考える、報告する、2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 基礎用語確認テスト(6)
15	I期のふり返り	1. 期の履修状況のふり返り 2. その他 (II期に向けて、夏休み課題等)

科目名	基礎ゼミナールⅡ		科目ナンバリング	SFFA11008
担当者氏名	吉原 恵子、竹内 一夫、小倉 毅			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） 			

《授業の概要》

I期の「生活を知る、問題を知る、社会を知る」を土台として、「支援を知る、資源を知る、人を知る」ことを目的として、引き続き、「調べる・考える・報告する」スキルを身につける。また、知識を整理しまとめる力を養うとともに、福祉課題とそれへの対応をまとめ報告する。夏休みには、ボランティアに参加し、地域の具体的な福祉課題について関心を高め、より実践的な能力を身につける。

《授業の到達目標》

- (1) 大学生に必要な学習スキルを習得する
- (2) 学びをふりかえり、気づきをまとめることができる
- (3) 支援・資源・人についての基礎知識を身につける
- (4) 知識を整理しまとめる力を身につける
- (5) 社会福祉の基礎用語を理解し、説明できる
- (6) 福祉課題とそれへの対応をまとめて報告できる

《成績評価の方法》

- ・ 授業への参加態度およびグループ活動等における協力等（意欲・関心、協力性20%）
- ・ 報告や発表における成果（表現力・発信力20%）
- ・ 提出物と確認テストの結果（文章力、知識とスキルの獲得度60%） ※課題提出が遅れた場合は減点する。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

- ・ 『ステディスキルズ・トレーニング』（2011, 実教出版）
- ・ 『大学生の学び・入門』（2006, 有斐閣アルマ）
- ・ 『福祉キーワードシリーズ ボランティア・NPO(第2版)』（2004, 中央法規出版）
- ・ 『社会福祉用語辞典』（2012, 中央法規出版）

《授業時間外学習》

・ 「支援を知る、資源を知る、人を知る」ために、日頃よりニュースや新聞等を読み、福祉の課題や問題に関心をもつこと。

・ 学んだことや気づきなどをまとめ、学修成果をふりかえるため、配布された資料、作成した課題等を整理し保存すること。

《備考》

・ 課題は、提出要領にしたがい、期日や提出場所等を厳守し提出すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション(2)	1. 夏季ボランティア経験の共有とまとめ 2. Ⅱ期履修についての指導
2	スタディ・スキルズ(8)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録(レポート) 3. I期で取り扱った社会福祉の諸問題への支援や、そのために使える社会資源について探究する。
3	スタディ・スキルズ(9)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録(レポート)
4	スタディ・スキルズ(10)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録(レポート) 3. 基礎用語確認テスト(1)
5	スタディ・スキルズ(11)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録(レポート)
6	スタディ・スキルズ(12)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録(レポート) 3. 基礎用語確認テスト(2)
7	スタディ・スキルズ(13)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録(レポート) 3. 二年次に向けての学びの姿勢、問題意識、学習の進め方について
8	スタディ・スキルズ(14)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録(レポート)
9	スタディ・スキルズ(15)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録(レポート) 3. 基礎用語確認テスト(3)
10	スタディ・スキルズ(16)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録(レポート)
11	福祉課題とそれへの対応をまとめ報告する(1)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録(レポート) 3. 基礎用語確認テスト(4)
12	福祉課題とそれへの対応をまとめ報告する(2)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録(レポート)
13	福祉課題とそれへの対応をまとめ報告する(3)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録(レポート)
14	福祉課題とそれへの対応をまとめ報告する(4)	1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録(レポート) 3. 基礎用語確認テスト(5)
15	Ⅱ期のふり返り	1. Ⅱ期の学修状況と生活のふり返り 2. 二年次の学修の目標と計画

科目名	現代社会と福祉 I	科目ナンバリング	SSPB11009
担当者氏名	村田 陽子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

本講義では、社会福祉の理念、理論と実践事例を中心に、私たちの地域社会の中のさまざまな問題を考察していく。参考資料や視聴覚教材を用い、受講生が身近な問題として理解し、社会福祉の視点をもって問題そのものだけでなく一人ひとりが抱えている思いを理解し、問題解決にむけての支援にむけての力を身につける。

《テキスト》

『現代社会と福祉』新・社会福祉士養成講座（4）、中央法規出版

《参考図書》

適宜提示する。

《授業の到達目標》

(1) 社会福祉の理念、理論を理解し説明できる。(2) 福祉制度、社会資源を理解し説明できる。(3) 社会福祉の生活問題を一人の人間としての思いと生活の理解を深め、考察することができる。

《授業時間外学習》

(1) 予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。(2) 復習：授業内容の再確認と学びを深める努力をすること。理解が十分でない事項は、積極的に担当者に質問したり、関連文献を利用し大学生として学びを深める努力が必要である。

《成績評価の方法》

(1) 授業内討論等への参加とその成果 (20%) 課題等の提出物 (80%)。提出物は期限厳守のこと。

《備考》

社会福祉に限らず、広く社会事象に関心をもつこと。新聞、ニュース等報道を理解すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	1年の講義の概要説明、講義計画、受講方法について
2	社会福祉の概念	社会福祉とは何か
3	社会福祉の構造	社会福祉の構成要素
4	社会福祉の視点（1）	社会福祉は何を問題とするのか
5	社会福祉の視点（2）	社会福祉の対象とは
6	社会福祉の理念（1）	社会福祉の歴史と理念
7	社会福祉の理念（2）	機会平等（1）
8	社会福祉の理念（3）	機会平等（2）
9	社会福祉の理念（4）	ノーマライゼーション
10	社会福祉の理念（5）	ノーマライゼーションと実践
11	社会福祉の理念（6）	実践における課題
12	社会福祉と法制度	社会福祉における法律
13	地域社会と生活問題（1）	地域社会における生活問題とは
14	地域社会と生活問題（2）	人間理解と生活問題の理解
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	現代社会と福祉Ⅱ	科目ナンバリング	SSPB11010
担当者氏名	村田 陽子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

本講義では、社会福祉の理念、理論と実践事例を中心に、私たちの地域社会の中のさまざまな問題を考察していく。参考資料や視聴覚教材を用い、受講生が身近な問題として理解し、社会福祉の視点をもって問題そのものだけでなく一人ひとりが抱えている思いを理解し、問題解決にむけての支援にむけての力を身につける。

《テキスト》

『現代社会と福祉』新・社会福祉士養成講座（4）、中央法規出版

《参考図書》

適宜提示する

《授業の到達目標》

(1) 社会福祉の理念、理論を理解し説明できる。(2) 福祉制度、社会資源を理解し説明できる。(3) 社会福祉の生活問題を一人の人間としての思いと生活の理解を深め、考察することができる。

《授業時間外学習》

(1) 予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。(2) 復習：授業内容の再確認と学びを深める努力をすること。理解が十分でない事項は、積極的に担当者に質問したり、関連文献を利用し大学生として学びを深める努力が必要である。

《成績評価の方法》

(1) 授業内討論等への参加とその成果（20%）(2) 課題等の提出物（80%）。提出物は期限厳守のこと。

《備考》

社会福祉に限らず、広く社会事象に関心をもつこと。新聞、ニュース等報道を理解すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉の支援	社会福祉の支援とは
2	自立（1）	自立とは
3	自立（2）	自立支援の実際
4	自立支援の課題	自立支援の実際と課題、展望
5	人間の尊厳（1）	人間の尊厳、かけがえのなさとは
6	人間の尊厳（2）	人間の尊厳、かけがえのなさとは
7	人間の尊厳（3）	人間の尊厳をまもる支援 権利擁護
8	地域での生活問題（1）	地域社会における生活問題と支援、生活問題を抱える人の思いの理解
9	地域での生活問題（2）	地域社会における生活問題と支援、生活問題を抱える人の生活理解
10	地域での生活問題（3）	地域社会における生活問題と支援、生活問題を抱える人を支えるということ
11	地域での生活問題（4）	地域社会における生活問題と支援、生活問題を抱える人を支えるということ、制度利用
12	地域での生活問題（5）	地域社会における生活問題と支援、権利擁護
13	社会福祉の課題	現代社会における社会福祉の課題
14	社会福祉の展望	社会福祉の展望、私たちは何ができるのか
15	まとめ	まとめ

科目名	社会調査の基礎		科目ナンバリング	SSWB21011	
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）				

《授業の概要》

社会福祉に必要な社会調査の意義と歴史を学びます。量的な調査方法ではアンケート調査の一連の手続き、そしてデータを整理しそこから社会的事象を見出すための統計的な知識を身につけます。質的な調査方法では、観察、インタビューの方法、その分析の方法を学びます。個人情報保護など、社会調査を行う上での注意事項についても理解します。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規

《参考図書》

授業内で指示します。また関連する部分については、プリントを用意します。

《授業の到達目標》

アンケート、取材、観察などソーシャルワークに必要な社会調査の手法を身に付けることができます。公表された統計表、アンケート調査の結果、また集めたデータを整理して示し、社会事象を読み取るために統計に関する基礎的な知識を身につけます。これらを通し、地域社会での社会的弱者のおかれた総合的な状況を理解することができます。

《授業時間外学習》

事前にテキストの指示する部分を読んでおいてください。宿題を課すことがありますので、それを行ってください。授業の実施に必要です。

《成績評価の方法》

定期試験により評価を行います（80%）。このほか授業態度も評価に含めます（20%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス／社会科学と社会調査	社会福祉分野で社会調査が必要な背景や社会科学と社会調査、社会福祉の関係を学びます。
2	社会調査の歴史①	イギリスのブースの貧困調査など社会調査の歴史とその役割を振り返り社会福祉での位置づけを理解します。
3	社会調査の歴史②	シカゴ学派による社会調査やフィッシャーによる推計学の導入、優生学につながる悲劇など、社会調査を取り巻く近代の歴史を理解します。
4	統計法と統計制度	国家と統計の関係から、民主的な公的統計のあり方を学びます。日本の統計制度を統計法をもとに解説をし、社会福祉に必要な統計について学びます。
5	量的調査と質的調査	公的統計調査やアンケート調査など量的調査と観察など質的調査の違い、また横断的調査、縦断的調査など調査の考え方の基本を学びます。
6	母集団と標本集団	アンケート調査に必要な集団の考え方を理解し、母集団から標本集団を抽出する方法を学びます。
7	アンケート調査の方法①	調査の設計と調査目的の明確化、正確な調査を行うためのワーディングなどを学び、アンケート調査を作成するための基礎的な内容を理解します。
8	アンケート調査の方法②	調査票の配布回収方法など、実際にアンケート調査を行う場合に注意すべき点などについて把握します。
9	量的調査のデータ解析①	尺度水準などデータ分析の基本と1変量、2変量、多変量での分析方法の違いを踏まえ、1変量の場合の記述統計、単純集計などの分析手法を学びます。
10	量的調査のデータ解析②	引き続き、1変量での分析方法を学ぶとともに、2変量での分析方法である、回帰分析、相関分析について学びます。
11	量的調査のデータ解析③	重回帰分析など、多変量解析の解説を行うほか、仮説検定の基本を学び、その概念を理解します。
12	インタビューの手法	構造化インタビュー、非構造化インタビューについて学びます。インタビューの記述方法について学びます。
13	観察の方法／質的調査のデータ解析①	参与観察、非参与観察の特徴の違いを理解します。質的データ調査の分析方法として、グランデットセオリーの考え方を学びます。
14	質的調査のデータ解析②	引き続き、グランデットセオリーの考え方を学び、またKJ法などについても学びます。
15	個人情報保護と社会調査の結果の利用	個人情報保護の重要性を理解します。調査の実施や公表に関する倫理について学びます。

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度		科目ナンバリング	SSWB22016	
担当者氏名	小倉 毅				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

少子・高齢化が進むなか、子どもや子育て家庭がおかれている状況も複雑化しており、さまざまな視点から支援していかなければならない。そこで、児童福祉を实践するために必要な児童福祉理念や意義、法体系を理解するとともに、母子保健、障がい、子育て支援、ひとり親家庭、社会的養護、非行、情緒障がい、児童虐待、家庭内暴力などの分野別の現状と施策を把握し、それぞれの課題を考察していく。

《テキスト》

- ①社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 中央法規
- ②福祉小六法 みらい

《参考図書》

第3版 児童家庭福祉 小倉毅・松井圭三 編 大学教育出版

《授業の到達目標》

- ・児童・家庭福祉の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際を理解する。
- ・児童の定義と権利、児童福祉法など各法制度を理解する。
- ・現代の児童・家庭福祉について論じることができる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法
下記の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにして下さい。
- (2) 復習の方法
授業中に整理するプリントを中心に復習して下さい。また、理解が十分でない場合には、積極的に質問して下さい。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への参加とその成果 (20%)
授業への参加態度・成果については随時説明します。
- (2) レポート・小テスト (20%)
分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。
- (3) 定期試験 (60%)

《備考》

- ①私語をはじめ、他の受講者の迷惑なる行為は慎むこと。
- ②特別な事情がないかぎり、遅刻は一切認めません。
- ③質問は、授業中もしくはオフィスアワーで受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会と児童・家庭の問題	現代社会が生み出す子育て・子育ての実情と近年の子育て・子育て支援の仕組みを理解する。
2	児童・家庭福祉の理念	児童・家庭福祉は、保護者による私的責任（自助）を核にして、社会的責任（共助）、公的責任（公助）が関与することによって成立していることを理解する。
3	児童の権利保障、児童・家庭福祉の歩み	児童を権利主体として認め、その福祉を実現するようになった経過を、日本および英米の制度の展開及び具体的な活動の歩みを通して理解する。
4	児童・家庭福祉の法制度	児童福祉法をはじめとして、児童福祉六法及び児童虐待の防止等に関する法律など、児童・家庭福祉に関係する法律を理解し、児童福祉制度の概要を把握する。
5	児童・家庭福祉の行政機関と施設	児童・家庭福祉サービスの体系、行政機関・児童福祉施設等の実施体制、サービスの利用方式を理解するとともに、サービスが計画的に推進されていることを理解する。
6	児童・家庭福祉の専門職	児童と家庭福祉に関係する行政機関と施設の専門職について理解する。
7	分野別課題と施策 ①母子保健	母子保健の歩みと現状を踏まえながら、母子保健の制度・施策を理解し、その課題を考える。
8	②障がい・難病のある児童と家族	障がいや難病のある児童と家族の実情を踏まえながら、児童や家族のライフコースの視点に立ち支援の制度・施策を理解し、その課題を考える。
9	③保育・子育て支援	少子化の進行、家庭や地域の養育機能の変化を踏まえながら、保育・子育て支援の取り組みを理解し、その課題を考える。
10	④ひとり親家庭	ひとり親家庭の現状を踏まえながら、ひとり親家庭の福祉施策の概要を理解し、その課題を考える。
11	⑤児童の社会的養護	児童の社会的養護への取り組み方の変遷を踏まえながら、家庭支援型・家庭補完型・家庭代替型社会的養護の仕組みを理解し、その課題を考える。
12	⑥非行児童・情緒障がい児	非行児童と情緒障がい児の動向を踏まえながら、非行児童と情緒障がい児とその家族への支援に関する施策を理解し、その課題を考える。
13	⑦児童虐待	児童虐待の実態を踏まえながら、児童を虐待から保護する仕組みを理解し、その課題を考える。
14	⑧ドメスティック・バイオレンス	婦人保護から女性福祉への変遷を踏まえながら、家庭内暴力における児童・家庭に関する女性を支援するための制度・施策を理解し、その課題を考える。
15	児童・家庭への相談援助活動	児童・家庭福祉の理念および制度を踏まえながら、児童・家庭福祉分野における相談援助活動の留意点を理解する。

科目名	相談援助実習指導 I		科目ナンバリング	SSWB21012	
担当者氏名	田端 和彦、竹内 一夫、稲富 恭				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 				

《授業の概要》

実習先となる、高齢者施設、障害者施設、児童施設等での福祉の仕事を利用者理解や人権、福祉の専門職としての倫理などの観点を踏まえ学習します。後半、そうした施設でのボランティアを10日間行い、利用者へ接し支援者とともに過ごし、福祉の仕事の一端に触れます。授業ではボランティアを通して何を身に付けるのかを考えるために、ボランティア計画を作成します。

《授業の到達目標》

実習を行う分野に関わる施設について、体制やサービス内容だけでなく、福祉の仕事に携わるものに必要な、倫理や人権への理解を深めます。さらに利用者の理解が、実習先施設の理解に不可欠であることを鑑み、それを施設でのボランティアを通して体得します。

《成績評価の方法》

授業を受ける態度、グループワークでの発言等の状況、ボランティア計画、レポート、授業内で課す理解度テスト、そしてボランティアに臨む態度の総合点で判断をします。提出物についてはコメントを付記して返却する。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会（監修）、長谷川匡俊、上野谷加代子、白澤 政和他編「社会福祉士相談援助実習（第2版）」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業時間外学習》

事前課題として用語等について調べることを課します。授業中に作成したワークシート等に基づいてボランティア計画の作成も授業時間外での課題とします（後半）。なお10日間のボランティアは夏季休暇期間等の授業時間外に行います。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス／相談援助実習 I の位置づけ	相談援助実習全体における相談援助実習指導 I の位置づけと目的を理解します。
2	福祉の仕事①（高齢者）	福祉の仕事に必要となる、人権や倫理、さらに利用者理解について高齢者施設等での高齢者への支援の事例を通して学びます。
3	福祉の仕事②（児童施設）	児童が生活や支援の拠り所とする児童施設の事例によって、一層の人権への配慮が必要とされる児童の理解を深め、福祉の仕事について学びます。
4	福祉の仕事③（障害）	障害者を支援する施設で働く社会福祉士の姿を通し、地域での生活を可能にするため必要な利用者の理解や人権への配慮などを含め福祉の仕事を学びます。
5	福祉の仕事④（児童家庭）	家庭で生じる児童の問題について、親を共に支えながら問題解決を図っていきます。そうした姿を通し、児童家庭を支援する福祉の仕事を学びます。
6	福祉の仕事⑤（更生保護・低所得者）	地域において困難な課題を抱える人々、例えば低所得による貧困からの立ち直りや非行からの更生など、人々の自立に向けて支援を行う福祉の仕事について学びます。
7	ボランティアについて①	主に夏休み期間中、ボランティアを行います。福祉の仕事に欠くことのできない、自律の精神、奉仕の心を理解するために必要になるからです。概要を説明します。
8	ボランティアについて②	具体的には、6月～9月の間、10日間について、1つの施設でのボランティアを行います。ボランティアでは何を学ぶべきなのかを説明します。
9	接遇①基本的なマナー	ボランティアとして施設に「入る」ことになる場合、利用者やその家族と接するにあたり、社会人としての行動が求められます。そうしたマナーの基本を学びます。
10	接遇②基本的なマナー	引き続き、マナーを学びます。これらを通し社会人としての行動ができるようになります。
11	ボランティアについて③	ボランティアの定義やその考え方、ボランティアでの課題、現状などを説明します。
12	ボランティアについて④	これまでの学びを踏まえ、自分のボランティアの内容（施設の種類や業務）をワークシートを使って考えてみましょう。これがボランティア計画に繋がります。
13	接遇③ロールプレイ・グループワーク	ロールプレイ、グループワークを通し、利用者との関わりについて学びます。
14	ボランティア現場のマナーについて	ボランティアの現場で困らないように、手続きなどの説明があります。
15	ボランティア計画の報告・共有	作成したボランティア計画を報告し、現場でどのような学びができるのか、学生相互に共有します。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助実習指導 I		科目ナンバリング	SSWB21012
担当者氏名	田端 和彦、竹内 一夫、稲富 恭			
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				1年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度 (知的好奇心) ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解) ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる (論理的思考力、情報リテラシー) ◎ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる (自己管理能力) 			

《授業の概要》

多職種での利用者支援では職員間の専門的なディスカッションを把握し方向づける役割が社会福祉士にはあります。ボランティアでの観察で見出すディスカッション力を考察し学びます。また利用者の生活の質 (QOL) の向上や残存能力の維持に関連するレクリエーションについて、Ⅰ期におけるボランティアの経験などを踏まえ、企画を行います。実習に必要な現場での実践に関する知識の獲得と演習を通して、実習に備えます。

《授業の到達目標》

職員らと接してコミュニケーションを取り、それらの議論を通して利用者の支援を方向付けるための基礎的な技術や知識を身につけます。またグループワークなどを通して、今後の実習の際に必要な企画力や報告書の作成に必要な基礎的な知識や技術を身につけることができます。

《成績評価の方法》

授業を受ける態度、グループワークでの発言等の状況、課題やレポート、及び授業内での理解度テスト結果の総合点で判断をします。提出物についてはコメントを付記して返却する。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会 (監修)、長谷川匡俊、上野谷加代子、白澤 政和他編「社会福祉士相談援助実習 (第2版)」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業時間外学習》

相談援助基礎実習やレクリエーションの企画を行うにあたっての調査など授業を進める上で必要な課題を提示します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス/ボランティアのレポート課題の提出	Ⅱ期に行う相談援助実習指導Ⅰの位置づけ、目的、課題を説明します。主として夏季休暇期間中に行ったボランティアについての課題を提出してください。
2	ボランティアの振り返り	グループワークを行いボランティアで学んだことを共有したり、直面した課題について考察したりするとともに、人権や倫理、利用者理解が進んだかを評価します。
3	レクリエーション①	福祉の現場のレクリエーションは、利用者の「生活の質 (QOL)」向上だけでなく、機能回復や残存能力の維持にも関係します。グループワークで企画を考えてみます。
4	レクリエーション②	引き続き、グループワークでレクリエーションを考えます。実際、どのようなレクリエーションが行われているのか、など調べることも必要になります。
5	レクリエーション③	レクリエーション計画を作成します。必要な人数や道具を揃えるなど、実際の場面を想像しながら作成をします。作成後は報告し、互いに評価をしましょう。
6	現場におけるディスカッション力①	支援に際し、異なる専門の職員同士のディスカッションが行われます。ボランティアでのそうした場面の観察を基に多職種連携について学びます。
7	現場におけるディスカッション力②	多職種連携のディスカッションにおける社会福祉士での役割を学ぶとともに、ディスカッション力を福祉の現場との関係の中で理解します。
8	現場におけるディスカッション力③	現場におけるディスカッション力を身につけるための方法を学び、実践します。
9	現場におけるディスカッション力④	引き続き、現場におけるディスカッション力を身につけるための方法を学び、実践します。
10	相談援助基礎実習とは	2年次に開講される相談援助基礎実習について、その概要を説明します。どのような基礎実習の学びを希望するか、考えてください。
11	相談援助基礎実習に備える①	基礎実習先となる福祉施設の法的な位置付けや体制やサービス内容などを調べておきましょう。自らが学ぶという姿勢が必要になります。
12	相談援助基礎実習に備える②	施設の利用者を支える社会資源について調べておきましょう。ボランティアは社会資源の一つ。資源を活用して利用者のQOLを高め、また自立に向けて支援をしています。
13	相談援助基礎実習に備える③	相談援助基礎実習先について教員と相談をします。学びたい事柄を踏まえ、それらを学ぶことのできる実習先を共に選びます。
14	相談援助基礎実習に備える④	ハウ・レン・ソウは社会人の常識。実習時、毎日のように報告書 (日報) を作成しますが、意義や書き方を学びます。
15	全体総括	相談援助基礎実習について理解ができてきているかを確認します。

科目名	福祉住環境論	科目ナンバリング	SFFC21001
担当者氏名	稲富 恭		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 		

《授業の概要》

高齢者、障害者が地域社会の中で生活を送るためには、福祉の視点にたった住環境整備を欠かすことが出来ない。本講義では、(1)住環境整備の背景となる社会福祉の現状について概観するとともに、(2)住宅改修、バリアフリー、ユニバーサルデザインを中心に福祉住環境整備手法について学ぶ。

《テキスト》

「福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 改訂4版」東京商工会議所, 2016

《参考図書》

「福祉住環境コーディネーター検定試験 3級過去問題集 2017年版」HIPS合格対策プロジェクト, 2017

《授業の到達目標》

- 福祉住環境コーディネーター3級に相当する能力を身につける。
- 生活環境の不適合に対して、物理的な問題解決手段を提案できる能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
シラバスを参考に、テキストの該当箇所に目を通し、疑問点を明確にしておく。
- ・復習の方法
テキストの必要箇所を暗記する。配布プリントの問題を復習し、次回の小テストの準備を行う。

《成績評価の方法》

- ・授業中に毎回実施する小テスト(100%)によって評価する。
- ・小テストは採点后返却し、解説を行う。

《備考》

原則として「福祉住環境コーディネーター検定試験3級」の受験を目指す学生を対象とする。
試験日程に合わせて、開講日を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	少子高齢社会と福祉住環境整備	少子高齢社会の現状と今後のあり方について理解する
2	日本の住環境と福祉住環境整備	日本の住空間の特性と福祉住環境整備の必要性について理解する
3	福祉住環境と在宅ケア	介護保険制度と障害者総合支援法を中心に在宅生活の支援について理解する
4	高齢者の健康と生活	老化の特性とヘルスプロモーションについて理解する
5	障害者の自立と生活	障害の種類と障害者の社会参加状況について理解する
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアフリー、ユニバーサルデザインの歴史、概念について理解し、具体的なデザイン手法について理解する
7	福祉用具の分類と活用	共用品、福祉用具の概念、分類、役割について理解する
8	居住環境整備の技術(1)	居住環境整備に必要な空間設計について理解する
9	居住環境整備の技術(2)	居住環境整備に必要なデザイン、設備計画、避難防災計画について理解する
10	生活行為と空間整備	移動、入浴、排泄等の生活行為に必要な空間整備方法について理解する
11	ライフスタイルの多様化と住まい	戦後の家族形態の変化とそれに伴う生活形態について理解する
12	安心できる住生活	高齢者居住法、住宅セーフティネット法等の居住安定政策について理解する
13	安心して暮らせるまちづくり	福祉のまちづくり条例等、地域における福祉住環境整備について理解する
14	授業の補足と重要箇所の復習	授業内容の重要ポイントについて補足し、「福祉住環境コーディネーター検定試験」の準備を行う。
15	授業のまとめ	授業のまとめと小テストの解説

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	レクリエーションワーク	科目ナンバリング	SFFD22028
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心もち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 		

《授業の概要》

子どもから高齢者までの各世代にわたる心身の健康、及びレクリエーション活動の普及・推進を目指した「レクリエーション・インストラクター」資格の学習内容に基づき、レクリエーションの基礎理論を展開する。

《テキスト》

「レクリエーション支援の基礎－楽しさ・心地よさを活かす理論と技術－」（日本レクリエーション協会・2013）本体2000円

《参考図書》

「リハビリテーションとレクリエーション援助」（嵯峨野書院・1998）
 「楽しいアイスブレイキングゲーム集」（日本レクリエーション協会・2002）

《授業の到達目標》

1. 余暇とレクリエーションの社会的意義が理解できる。
2. レクリエーション支援の体系及び支援者の役割が理解できる。
3. 楽しさを基本としたレクリエーション事業計画の流れが理解でき、立案できる。

《授業時間外学習》

子ども時代に体験したレクリエーションの体験や、地域の行事に参加した経験などを思い出し、自分が暮らしている地域の行事やイベントには積極的に参加してください。

《成績評価の方法》

授業参加点（出席状況・受講態度30）＋リアクションペーパー提出点20＋実技指導評価点20（企画書と指導）＋最終レポート提出点30
 提出物等にはコメントを付記して返却する。

《備考》

実技指導者にふさわしい服装・靴で参加すること。遅刻・見学は3回で欠席1回に該当します。授業中に配布した資料はなくさないように必ずファイルすること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	レクリエーション基礎理論①	レクリエーションの意義1
2	レクリエーション基礎理論②	レクリエーションの意義2
3	レクリエーション基礎理論③	レクリエーション運動を支える制度
4	レクリエーション基礎理論④	レクリエーション・インストラクターの役割
5	レクリエーション基礎理論⑤	まとめ
6	レクリエーション支援論①	ライフスタイルとレクリエーション
7	レクリエーション支援論②	少子高齢社会の課題とレクリエーション
8	レクリエーション支援論③	地域とレクリエーション
9	レクリエーション支援論④	まとめ
10	レクリエーション事業論①	レクリエーション事業とは
11	レクリエーション事業論②	事業計画Ⅰ
12	レクリエーション事業論③	事業計画Ⅱ
13	レクリエーション事業論④	安全管理
14	レクリエーション事業論⑤	まとめ
15	福祉レクリエーション支援専門職の確立に向けて	福祉レクリエーション支援専門職の確立に向けて

科目名	児童・高齢者・障害者の心理	科目ナンバリング	SFFD21013
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 		

《授業の概要》

この授業では「生涯発達心理学」で学んだ知識を基盤にして将来社会福祉の現場で、関わっていく人たち（児童・高齢者・障害者）の「こころ」を理解するために知っておくべき心理学の知識のエッセンスを学ぶ。

《テキスト》

必要な資料は毎回配布する。

《参考図書》

授業時間内に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

支援に必要な児童・高齢者・障害者を理解するために、必要な知識を学び、関心をもち、当事者の話し・その家族の話しに耳を傾けること。共感しながら理解し、支援のためのスキルを自分なりに洗練していけるよう学んでいく。

《授業時間外学習》

普段から様々な人と出会って、積極的に関わっていく姿勢を持つておくこと。

《成績評価の方法》

授業態度 30%
 ミニレポート 20%
 授業最後のまとめ 50%
 レポート等提出物にはコメントを付記して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	この授業の進め方について紹介する
2	支援に必要な高齢者との関わり	高齢者に関して、知っている事と知らないことを知る・知らないことを理解していくために必要な知識とは何か。
3	高齢者の健康度と要介護度について	高齢化の社会の実態と高齢者の支援
4	高齢者の健康度	これまでの高齢者と、これからの高齢者の違い
5	高齢者支援のポイント	高齢者の「学習性無力感」とやる気を引き出す関わりについて
6	障害とその心理的影響①	障害者に関する法律の変遷・障害の及ぼす影響と適応・不適応
7	障害とその心理的影響②	目にみえる障害と見えない障害を知る。障害受容について理解する。
8	精神障害者の理解①	精神科病院での支援者の働きかけ
9	精神障害者の理解②	精神障害者の生活を地域で支援するという事について
10	知的障害者の理解①	8歳以降の知的能力の違いで、周りの世界がどのように見えてくるか
11	知的障害者の理解②	知的障害者にとっての社会性について
12	支援に必要な児童への対応	児童の事例について考える
13	支援に必要な高齢者の対応	高齢者の事例について考える
14	支援に必要な障害者の対応	障害者の事例について考える
15	児童・高齢者・障害者の心理	様々な障害をもつ方たちと共に生きていくための視点を考える・全体のまとめを行う

《教職に関する科目》

科目名	教職概論	科目ナンバリング	STAL41001
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の「教師の仕事」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉えるとともに、法的な位置づけや立場を理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《授業の到達目標》

- 教員の社会的役割とその歴史の変遷を理解している。
- 教員養成と教員免許制度について理解している。
- 教員の任免と服務について理解している。
- 教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
- 教員に求められる資質能力と研修について理解している。
- 自分なりの教職観を持ち、自身の課題を省察することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
 - ②提出物（提出の回数と完成度等） 30%
 - ③定期試験 50%（持ち込み不可）
- *提出物はコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教職とは何か、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。
2	さまざまな教職観とその歴史の変遷	・教職観の歴史の変遷をたどりながら、自分自身の教職観、教員像を獲得する。
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。 ・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。
5	教員の職務①：教員の種類と職務、校務分掌	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力について理解する。
6	教員の職務②：学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。
7	教員の職務③：保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいか考察する。
8	教員の職務④：アカウントビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。 ・学校の果たすべきアカウントビリティとは何かを理解する。
9	教員の人事管理①：服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。
10	教員の人事管理②：任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。
11	教員の人事管理③：教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取組みを行う必要があるかを考察する。
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。
14	教師という仕事—やりがいと悩み—	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。
15	学習のまとめと振り返り	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

- ・東京都教職員研修センター（監修）『教職員ハンドブック 第3次改訂版』 都政新報社、2012
- ・石村卓也『教職論 これから求められる教員の資質能力』 昭和堂、2008年。
- ・『新任教師のしごと 中学校・高校版』 小学館、2007年。

《授業時間外学習》

毎回、授業の内容に関連したミニレポートを作成し提出する。配布された資料をあらかじめ読んでおく。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	STAL41002
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育をさまざまな視点から検討し、教育と社会との関連や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《テキスト》

プリント（資料）を適宜配布

《参考図書》

中村弘行『人物で学ぶ教育原理』三恵社、2010年。
 広岡義之（編著）『新しい教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。

《授業の到達目標》

- 教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
- 主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のありかたと関連づけることができる。
- 児童の権利と福祉について理解している。
- 生涯学習の理念について理解している。

《授業時間外学習》

参考図書・資料の関連する部分を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）30%
 - ②課題の提出と完成度 30%
 - ③授業中のミニテスト 40%
- *提出物はコメントを付して返却する。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育とは何か、人間の特性と教育
2	教育の概念と本質	・教育の概念と本質 ・教育の必要性と可能性・限界
3	子どもの発達と教育	・発達とは何か ・発達における教育の役割
4	教育の目的、形態と機能	・教育の目的、形態と機能 ・教育における教師の役割
5	主な西洋教育思想とその系譜①	・子ども観の変遷 ・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容
6	主な西洋教育思想とその系譜②	・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容 ・教育思想、教育哲学が現代の教育に与えている影響
7	公教育制度の成立と発展①	・学校の起源と歴史 ・近代公教育の誕生
8	公教育制度の成立と発展②	・日本における明治期以前の教育 ・日本における近代学校制度の成立と発展
9	教育の内容と方法	・教授と学習の理論 ・さまざまな教育方法
10	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦前まで）
11	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦後）
12	教育における「ケア」	・「ケア」の定義、「ケア」の要素 ・教育における「ケア」、教育における公正と「ケア」
13	児童の福祉と保護	・児童の権利と福祉 ・児童虐待の防止と早期発見、早期対応
14	生涯学習	・生涯学習社会の成立とその背景 ・生涯学習の重要性、自分のライフコースのデザイン
15	まとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による、学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	STAL42003
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、キーワードについての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目的とする。教育制度の意義や概要を学習するとともに、最近の教育問題や教育改革の動向を、学校制度・学校経営の視点から考察する。

《授業の到達目標》

○教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。○教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。○教育行政の仕組みや学校制度について理解している。○学校運営について理解している。○今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）20%
 ②課題の提出と完成度 20%
 ③定期試験 60%（持ち込み不可）
 ※提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

授業中に指示する。

《参考図書》

- 『解説教育六法 2017年度版』三省堂。
- 坂田 仰、黒川 雅子、河内 祥子、山田 知代『図解・表解教育法規-“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所、2014年。
- 高見茂・宮村裕子・開沼太郎（編）『教育法規スタートアップ 教育行政・政策入門 ver.3』昭和堂、2015年。

《授業時間外学習》

授業で配布したプリントに基づいてまとめノートを作り復習すること。授業でわからなかった点について調べたり、質問を用意したりすること。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育行政と教育制度	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育行政の基本原理
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系 ・教育制度の中心的な法規とその内容
3	憲法教育基本法制：憲法、教育基本法①	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤 ・教育基本法の性質
4	憲法教育基本法制：教育基本法②	・教育基本法改正のポイント ・教育基本法の意義と内容
5	学校制度①：学校に関する法規	・法規上の学校の定義 ・日本と諸外国の学校体系の特徴
6	学校制度②：学校の設置と管理	・学校とその公共性 ・学校の設置と管理に関する原則
7	教育行政の仕組み①：文部科学省	・文部科学省と地方の教育委員会の関係と役割分担 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響
8	教育行政の仕組み②：教育委員会制度	・教育委員会制度の歴史 ・教育委員会制度の概要
9	教育を受ける権利の保障①：義務教育1	・教育を受ける権利、教育を受けさせる義務と義務教育制度 ・義務教育の意義と義務の内容
10	教育を受ける権利の保障②：義務教育2	・教育を受ける権利を保障するための制度 ・就学援助、教育扶助の概要
11	教育を受ける権利の保障③：特別支援教育1	・特別支援教育の理念および特殊教育との違い ・特殊教育から特別支援教育に移行した背景
12	教育を受ける権利の保障④：特別支援教育2	・特別支援教育に関する諸制度
13	学校運営①：開かれた学校	・開かれた学校の意義 ・地域との連携とコミュニティ・スクール制度
14	学校運営②：アカウンタビリティと学校評価	・学校アカウンタビリティとマネジメント・サイクル ・学校評価の意義と評価の形態
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（含カウンセリング）	科目ナンバリング	STAL41008
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐめる問題があげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろう。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%
授業内容の理解 50%

- ・レポートはコメントを付けて返却する
- ・最終回の「まとめ」は、全体的な講評を伝える

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	15回の授業のオリエンテーション	「人の話をきく」ということについて考える
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について知る
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）を行う
4	カウンセリングのプロセスについて	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む
6	自分自身のテーマを知る	心理テストを体験し、自分自身のテーマを知る
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる症状について学ぶ
8	いじめの被害者・加害者への理解と対応	いじめは、学校で学ぶ権利を奪うだけでなく命を奪うことさえある。学校と教育の場でのいじめによって辛い思いをする子どもたちを減らすための取り組みについて考える
9	特別支援教育を必要とする子どもたち	本人が努力しているにも関わらず、発達に凸凹があり、できることとできないことの差が大きく日常生活に困難を抱えている子どもたちを理解し、支援する方法を学ぶ
10	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ
11	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ
12	こころの治癒過程を知る	箱庭療法のDVDから、こころの治癒過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える
15	まとめ	授業での学びをふり返り、今後活かすべきことは何かを考える

《テキスト》

教育相談ワークブック 子どもを育む人になるために 桜井・斎藤・森平 北樹出版

《参考図書》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとって読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日までに提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

平成28（2016）年度入学者

専門教育科目

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ		科目ナンバリング	SSPA12002	
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 				

《授業の概要》

ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱでは、相談援助の具体的な方法、それに当たる専門職の力量、相談援助を有効化していくために解決していかなければならない問題点について、講義をベースに学びを進めていく。各自が問題意識を持てるように、課題を与え、研究を進めていくことも、プログラムの中に入れていき、実践現場で生きる学びになるように学びを進めていく。

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助に必要な倫理と、現場に生じる倫理的ジレンマへの対応が理解できるようになる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる総合相談機能の実態が理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助求められ総合的包括的な援助について説明できるようになる。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。提出物については、コメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	専門職の倫理	専門職はその技術、知識、そしてそれらの人々の福利のためだけに使うことが求められるが、それを維持、向上させるための仕組みが倫理であることを学ぶ。
2	専門職の倫理と倫理的ジレンマ	我々は、複数の役割を持って社会生活を送っていくが、時に目指すところが矛盾し倫理的な葛藤を専門職の内部に生み出す。これへの対応を検討する。
3	専門職の社会的責任と倫理綱領	社会的責任として、専門職の倫理を遵守するために、専門職団体などがどのように対応するかを社会に向けて公表したものが、倫理綱領であることを学ぶ。
4	総合的、包括的な相談援助	福祉は今、重複し、重層した問題を抱える利用者への支援で、ニーズを総合的、包括的にとらえることが求められる。そこでの留意点について検討する。
5	地域を基盤としたソーシャルワーク	施設から在宅へと福祉は大きくシフトした。地域を基盤にノーマライゼーションの実践がどのように進められるべきか検討する。
6	地域を基盤としたソーシャルワークの機能	地域を基盤としたソーシャルワーカーが求められる役割とその機能について、特に地域と個の一体的な支援について検討する。
7	総合的な相談援助を支える理論	従来の援助技術では、重複し重層した利用者のニーズに対応できない。ここではシステム理論を用いた生活モデルを基盤にした、支援の在り方を検討する。
8	相談援助に関わる専門職とは	総合相談を担当できる専門職は、どのような専門基盤を必要とするのであろうか。ここでは求められる専門性とその資格について検討する。
9	相談援助職の働く場	相談援助専門職がその専門性を持って働ける場所は、時代とともに増加し、変化してきている。行政から公的施設、民間にわたる領域を概観する。
10	専門職の職域：諸外国の例	アメリカ、イギリス、スウェーデンを例に、我が国との例について検討する。
11	総合相談援助における専門的機能	現在の相談援助専門職は、多くの求められるスキルを身に付け、多専門職との連携で仕事ができることを求められる。ここでのスキルとは、技術とはを検討する。
12	総合相談援助における専門的機能：予防的機能	相談援助の重要な視点は、起こってきた問題への対処とともに、いかにその発生を予防するのかにある。ここではその予防的機能について考える。
13	総合支援機能	総合的、かつ包括的な支援が求められる現代社会で、総合的な支援機能を発揮できる要件は何であろうか。事例から検討を加える
14	社会の変化とニーズの変化	複雑化とともに、少子超高齢化に歯止めがかからない社会。このような状況の中で利用者のニーズも大きく変化してきている。その変化ととられる問題点について学習する。
15	他職種との連携	今地域で他職種と連携をし、支援をしていくためには、どのような知識、技術、技能が求められるのか、またその留意点についても検討する。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座6 「相談援助の基盤と専門職」第3版 中央法規出版、2015

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7 「相談援助の理論と方法Ⅰ」第3版 新社会福祉士養成講座8 「相談援助の理論と方法Ⅱ」第3版 中央法規出版、2015

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。授業中の私語、携帯の操作は禁止する。

科目名	介護概論	科目ナンバリング	STTA22003
担当者氏名	小倉 毅		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 		

《授業の概要》

介護の理念や対象およびその理念、基本施設について学ぶ。さらに障がい等の状況等に応じた介護過程における生活支援技法や介護予防の基本的な考え方を学ぶ。

対象者が自己決定や自己選択し、主体的に暮らすこと、生活の質を高めるための介護の本質を理解し、よりよい支援につなげる知識と生活支援技術の習得に向け段階的に学習する。

《テキスト》

社会福祉学双書 15 介護概論
社会福祉学習双書編集委員会編 全国社会福祉協議会

《参考図書》

①ケアの本質-生きることの意味- ミルトン・メイワ ゆみる出版
②人間科学的生活支援論 黒澤貞夫 ミネルヴァ書房

《授業の到達目標》

社会福祉専門職として必要な介護の歴史、機能、原則、援助の方法などについて理解する。また、介護の理念および介護福祉実践のあり方を理解するとともに、ソーシャルワーク実践に必要な専門知識と支援の方法を習得する。

《授業時間外学習》

家族や近隣者の高齢者とかかわり、ボランティアに積極的に参加し、対象者への理解を深めていきましょう。
またレポートでは、近年の介護における社会的問題や事件等から介護に求められる政策・社会的課題などについても考える機会にしてほしい。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への参加とその成果（20%）
授業への参加態度・成果については随時説明します。
- (2) 課題レポート・小テスト（20%）
分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。
- (3) 定期試験（60%）

《備考》

- ①私語をはじめ、他の受講者の迷惑なる行為は慎むこと。
- ②質問は、授業中もしくはオフィスアワーで受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 人間と生活	人々の生活とは何かを理解し、家庭機能変化、高齢者や障がい者の実態と権利、ライフサイクルにおける人間関係の変化や自律・自立について考える。
2	法律の変遷から介護を考える	社会福祉士及び介護福祉士法、専門職による介護の展開及び介護職に求められる医療行為について理解する。
3	介護の目的	介護の原則と介護職員の倫理、自立に向けた介護、尊厳を支える介護、介護提供の場、介護の対象について理解する。
4	援助関係	介護における援助関係の基本①援助関係の理解②利用者の理解について学ぶ。
5	介護関係維持のための技法	①観察②コミュニケーション③記録と情報の共有④他職種との連携について理解する。
6	介護過程（1）	介護過程の意義①在宅生活を支援する方法②家族への援助について理解する。
7	介護過程（2）	介護過程の実際①介護過程とチームアプローチについて理解する。
8	生活支援技術の基本（1）	①利用者の自立支援と介護、②住生活環境の整備と介護、③食事の介護、④排泄の介護、⑤入浴の介護について理解する。
9	生活支援技術の基本（2）	①衣服の着脱の介護、②清潔の介護、③体位変換・移動の介護、④社会生活を維持するための支援、⑤健康な生活習慣づくりへの支援について理解する。
10	生活支援技術の基本（3）	①緊急・事故時の対応、②介護家族への支援、③福祉用具の活用、④終末期の支援について理解する。
11	障害別生活支援（1）	視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害（盲ろう）の理解と生活支援について理解する。
12	障害別生活支援（2）	運動機能障害、重症心身障害の理解と生活支援について理解する。
13	障害別生活支援（3）	内部障害の理解と生活支援について理解する。
14	障害別生活支援（4）	知的障害、高次機能障害、精神障害の理解と生活支援について理解する。
15	障害別生活支援（5） まとめ	認知症（若年性認知症を含む）の理解と生活支援について理解する。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	こころの基盤の理解	科目ナンバリング	SFFA22005
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） 		

《授業の概要》

こころは脳などの神経系と無関係であるはずはありません。また、こころは決してつかみどころがない曖昧なものでもありません。本講義では、知覚心理学、認知心理学、神経心理学の内容を中心に、こころがどのような基盤から成り立っているのかを学びます。

《授業の到達目標》

- ・知覚、認知、神経に関する心理学の基本事項について説明できる。
- ・簡単な実験や質問紙調査を行うことができる。
- ・心理的または社会的事象のいくつかについて、心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト70%
 レポート・小テストなど20%
 受講態度10%
 *レポートにはコメントを付して返却する。

《テキスト》

プリントを配布

《参考図書》

「視覚心理学への招待 見えの世界へのアプローチ」 大山正著 サイエンス社
 「グラフィック 認知心理学」 森敏昭・井上毅・松井孝雄サイエンス社
 「朝倉心理学講座4 脳神経心理学」 利島保[編] 朝倉書店

《授業時間外学習》

復習には力を入れてください。授業中に整理するプリントの内容を中心に復習してください。まず、各用語の意味を理解し覚えてください。次に、図や表、様々なデータを参照しつつ、実験やモデルが示すことを理解するように努めてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	こころの基盤とは？	ガイダンス
2	眼からの情報は脳へどう伝わるか(視覚の基礎)	網膜の役割、光信号から電気信号への変換など、視覚の生理的特徴を理解する。
3	眼からの情報は脳へどう伝わるか(脳への伝達)	網膜から大脳への情報の伝達において、視覚印象がどのように成立するか理解する。
4	感覚の黄金法則(感覚についての3つの法則)	ウェーバーの法則、フェヒナーの法則、スティーブンスのべき法則といった感覚に関する代表的な法則を理解し、簡単な計算ができるようにする。
5	実験	触二点閾についての実験を行い、触覚の特徴を体験的に理解する。
6	おかしいのは世界か？自分か？(体制化と錯視)	錯視のデモやその見えの仕組み、いくつかの対象がまとまって見える性質を理解する。
7	実験	ミュラーリヤー錯視について実験を行い、視知覚の特徴を体験的に理解する。
8	わたしたちの世界(三次元知覚)	三次元に世界を知覚するために必要な手がかりと大きさの恒常性について理解する。
9	見えていても見えていない(注意)	注意の空間的および時間的性質について理解する。
10	自分が自分であるために(記憶)	脳機能障害の事例を参照しながら、記憶の分類、短期記憶と長期記憶の関係について理解する。
11	自分が自分であるために(記憶)	ワーキングメモリの役割について理解し、ワーキングメモリの容量の計測を体験する。
12	いつも言葉で考える(言語)	言葉と脳の関係を中心に脳の各部位の機能的な役割を理解する。また、文の理解にかかわる段階的な処理について説明できるようになる。
13	人に会うとはじめに見るところ(顔の認知)	認知における顔の特異性を理解する。人種と顔、感情と顔、顔の認識におけるメカニズムなど、顔に関するいくつかの事象を扱う。
14	一難去ってまた一難(問題解決)	問題解決における洞察と情報処理の役割について、いくつかの例を体験しながら理解する。
15	これまで何を学んだか(まとめ)	こころの基盤としての知覚、認知、およびそれらを支える脳の役割について、説明ができるようになる。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	コミュニケーション論	科目ナンバリング	SFFA22006
担当者氏名	柏木 登起		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）		

《授業の概要》

これからの社会で生きていく上で、他者との円滑なコミュニケーションスキルは不可欠です。前半はコミュニケーションについて理論を学ぶと同時に、実践を通じて、具体的なコミュニケーションスキルを高めます。この授業は福祉レクリエーションワーカーの資格取得の科目にもなっていますので、後半は、福祉レクリエーション支援を行うための介入技術を、グループ演習やロールプレイといった実践を通じて、習得します。

《テキスト》

指定しません。適時資料を配布します。

《参考図書》

『楽しさの追求を支えるための介入技術』公益財団法人日本レクリエーション協会、2013他。

《授業の到達目標》

1. コミュニケーションの基本的な心構えを理解する。
2. コミュニケーションに関する様々な理論を学ぶ。
3. 円滑なコミュニケーション行うスキルを身につける。
4. 福祉分野における集団行動やチームワークについて理解する。
5. 福祉分野におけるレクリエーションスキルを身につける。

《授業時間外学習》

必要の際、適時説明します。

《成績評価の方法》

定期試験（50%）
 授業時の提出物・実践による評価（50%）
 提出物にはコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義内容と授業の運営方法について知る
2	コミュニケーションとは何か①	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション①について学ぶ キーワード：情報伝達／意思表示
3	コミュニケーションとは何か②	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション②について学ぶ キーワード：受容／共感／協調／対人援助／相談援助
4	コミュニケーションスキルを高める①	信頼関係構築のためのコミュニケーションスキルを高める キーワード：自己開示／ラポール
5	コミュニケーションスキルを高める②	「傾聴」「承認」「質問」スキルを高める キーワード：傾聴／同調／復唱／オープンクエスチョン／クローズドクエスチョン
6	福祉分野におけるコミュニケーションの特徴	福祉分野におけるコミュニケーションとは何かを考える キーワード：子ども／高齢者／視覚障害／聴覚障害者
7	福祉レクリエーションとは何か	福祉分野におけるレクリエーションの重要性について考える キーワード：アイスブレイク／アクティビティ／グループワーク
8	福祉レクリエーションの計画	福祉レクリエーションのプログラムの立て方を学ぶ キーワード：プログラムデザイン
9	福祉レクリエーション計画策定の実践	福祉レクリエーションのプログラムを立てる
10	福祉レクリエーションの実践①	福祉レクリエーションを実践する①
11	福祉レクリエーションの実践②	福祉レクリエーションを実践する②
12	福祉レクリエーションの実践③	福祉レクリエーションを実践する③
13	福祉レクリエーションの応用	対象者と現場に合わせたレクリエーションのアレンジについて学ぶ
14	福祉分野におけるチームワークとは	福祉分野におけるチームワークを考える キーワード：チームビルディング／情報共有
15	まとめ	コミュニケーション論のまとめ（これまで学んできたことを振り返る）

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	社会心理学	科目ナンバリング	SFFA22007
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つようとする態度（社会的責任） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）		

《授業の概要》

社会心理学は、家族などとの身近な社会、学校などの日常的活動の舞台となる社会、国際舞台のような規模が大きな社会について、それらをどのように心に映し出し、それらにどのように働きかけるかを解き明かそうとしています。本講義では、社会心理学の知見を体系的に学習し、人と人が出会うところに生まれるいろいろな問題に対し深く洞察できる力を養います。

《テキスト》

「いちばんはじめに読む心理学の本2 社会心理学 社会で生きる人のいとなみを探る」 遠藤由美編著 ミネルヴァ書房

《参考図書》

「図説心理学入門第2版」 齊藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《授業の到達目標》

- 「社会心理学」の心理学における位置づけを説明できる。
- 自己、他者とのつながり、自他間の影響過程といった主要内容について、理解し説明できる。
- 心理的または社会的事象のいくつかについて、社会心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。どういったテーマを学ぶか、意識することが大切です。
- ・復習の方法 授業中に整理するプリントを中心に復習してください。また、テーマの目的に関連した課題を出しますのでレポートを作成してください。レポートは添削後、返却します。

《成績評価の方法》

- ペーパーテスト 60%
- レポート・小テストなど 20%
- 受講態度 20%
- *レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

○本科目は、教養科目「心理学」を修得後に受講することを奨めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	社会心理学で扱うテーマの概略と、授業の流れについて説明を受ける。
2	社会的動物としての人間 1	他者の心の理解にかかせない「心の理論」について理解する。
3	社会的動物としての人間 2	集団で協力関係が成立するための鍵となる「互恵性」について理解する。
4	感情 1	ラザルスの感情生起の理論と、感情の進化的な役割について理解する。
5	感情 2	基本的感情と社会的感情の区別、幸福という感情、感情の身体的記憶について理解する。
6	人を傷つける心	他者への攻撃、攻撃行動の合理化、攻撃行動の生起を説明する理論について理解する。
7	人を助ける心	他者への援助、援助における思考、援助を妨げる原因、援助行動の生起を説明する理論について理解する。
8	集団 1	集団において生じるひいきや差別について、実在集団の葛藤理論を中心に理解する。
9	集団 2	内集団ひいきの生じる過程について、社会的アイデンティティ理論や集団協力ヒューリスティックから理解する。
10	関係性 1	関係性の重要性や、関係のはじまり、親しい関係の維持・終焉について理解する。
11	関係性 2	恋愛観・結婚観について、公表されているデータや、自分たちが質問紙に回答した結果をもとに考える。
12	社会的自己 1	自己とは何かについて、個人的自己概念と公的自己概念、作動的自己概念といった事柄から理解する。
13	社会的自己 2	社会の中の自己について、社会的比較、自己評価維持モデル、自己評価に関する動機といった事柄から理解する。
14	パーソナルスペース	パーソナルスペースに関する実験を通し、人と人との間の空間をどのようにとらえているか理解する。
15	これまで何を学んだか	まとめ

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	態度の心理学		科目ナンバリング	SFFA22008
担当者氏名	北島 律之			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

社会心理学で学んだ自己と他者の関係についての基礎的な内容をもとに、「態度」を軸としながら発展的に学びを深める。社会の中で影響がどのように伝わるか、どのようなときに自分の態度が変化するか、社会的な判断はいかに形成されるかなど、心理学の実践的な役割について考えていく。

《テキスト》

「いちばんはじめに読む心理学の本2 社会心理学 社会で生きる人のいとなみを探る」 遠藤由美編著 ミネルヴァ書房
 ＊社会心理学で使用するテキストと同一

《参考図書》

「図説心理学入門第2版」 斎藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《授業の到達目標》

- 社会的影響や態度といった内容を心理学的な点から説明することができる。
- 心理的または社会的事象のいくつかについて、社会心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。どういったテーマを学ぶか、意識することが大切です。
- ・復習の方法 授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《成績評価の方法》

- ペーパーテスト60%
- レポート30%
- 受講態度10%
- *レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

本科目は、「社会心理学」を修得後に受講するようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の全体的流れと、社会心理学の中で態度に関するテーマについての概要の説明を受ける。
2	社会的影響 1	他者が及ぼす影響について、多数派による影響と少数派による影響の観点から理解する。
3	社会的影響 2	他者が及ぼす影響について、権威への服従、権威への抵抗、さまざまな影響についての技法の観点から理解する。
4	態度・説得 1	態度に含まれる3つの成分、態度をもつことの機能について理解する。
5	態度・説得 2	態度の変化について、認知的斉合性に関する理論、説得に関する理論、マス・メディアの影響過程に関する理論を理解する。
6	文化と心 1	文化により人の心はどのように影響を受けるかについて理解する。
7	文化と心 2	文化と心の関係を表す実証研究を概観し、人の心と文化の関係について理解を深める。
8	原因帰属と社会的推論・判断 1	原因帰属の理論と、原因帰属に伴うエラーやバイアスについて理解する。
9	原因帰属と社会的推論・判断 2	判断のための簡便方略であるヒューリスティックについて理解する。
10	ステレオタイプ・差別 1	ステレオタイプ、偏見、差別について理解する。
11	ステレオタイプ・差別 2	ステレオタイプが生起し、それが影響を及ぼす過程について理解を深める。
12	実験	IATによる潜在的なステレオタイプについての実験を行い、潜在的なレベルで自動的な価値基準が存在することを体験的に理解する。
13	公正・公平 1	分配的公正と手続き的公正を理解し、分配的公正における3つの基準を説明できるようになる。
14	公正・公平 2	人の不公正に対する反応と、公正にこだわる理由について理解する。
15	これまで何を学んだか	まとめと展望

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	社会保障論 I		科目ナンバリング	SSPB12011	
担当者氏名	伊藤 博康				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力） 			

《授業の概要》

社会保障の概念、理念、歴史、構造について学び、各論として年金保険制度と医療保険制度を教授する。

《テキスト》

『社会保障』（新・社会福祉士養成講座12）
社会福祉士養成講座編集委員会（編）、2016
中央法規出版、2016

《参考図書》

『国民衛生の動向』
『国民の福祉と介護の動向』
『保険と年金の動向』
『厚生労働白書』
上記4冊 厚生労働統計協会、2016

《授業の到達目標》

社会保障の概念、理念、歴史を理解し、構造を把握して年金保険制度と医療保険制度を説明できる。

《授業時間外学習》

保健、医療、福祉に関する新聞記事をチェックし、特に大切と思うものはスクラップしておくこと。

《成績評価の方法》

定期試験 70%
出席 20%
授業態度 10%
提出物等については、コメントを付記して返却する。

《備考》

本教科は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に対する科目である。
国家試験合格を目標に学習すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会と社会保障(1)	私たちの生活と社会保障
2	現代社会と社会保障(2)	社会保障の理念と機能
3	社会保障の歴史(1)	欧米における社会保障の歴史的展開
4	社会保障の歴史(2)	日本における社会保障の歴史的展開
5	社会保障の構造(1)	社会保障制度の体系
6	社会保障の構造(2)	社会保険の構造、社会扶助の構造
7	社会保障の財源と費用(1)	社会保障の費用
8	社会保障の財源と費用(2)	社会保障の財源、社会保障と経済
9	年金保険制度(1)	年金保険制度の沿革と概要
10	年金保険制度(2)	国民年金
11	年金保険制度(3)	厚生年金保険、共済年金
12	年金保険制度(4)	年金保険制度をめぐる最近の動向
13	医療保険制度(1)	医療保険制度の沿革と概要
14	医療保険制度(2)	健康保険と共済制度、国民健康保険制度、後期高齢者医療制度
15	医療保険制度(3)	国民医療費と医療をめぐる最近の動向

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	社会保障論Ⅱ		科目ナンバリング	SSPB12012	
担当者氏名	伊藤 博康				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力） 			

《授業の概要》

社会保障論Ⅰに続いて、超高齢社会の日本の介護保険制度、労働保険制度、社会福祉制度を教授し、諸外国の社会保障制度を日本と比較しながら学ぶ。

《テキスト》

『社会保障』（新・社会福祉士養成講座12）
社会福祉士養成講座編集委員会（編）、2016
中央法規出版、2016

《参考図書》

『国民衛生の動向』
『国民の福祉と介護の動向』
『保険と年金の動向』
『厚生労働白書』
上記4冊 厚生労働統計協会、2016

《授業の到達目標》

介護保険制度、労働保険制度、社会福祉制度を説明できる。
諸外国の社会保障制度を整理し日本の制度と比較して、良い所、悪い所を論じることができる。

《授業時間外学習》

保健、医療、福祉に関する新聞記事をチェックし、特に大切と思うものはスクラップしておくこと。

《成績評価の方法》

定期試験 70%
出席 20%
授業態度 10%
提出物等についてはコメントを付記して返却する。

《備考》

本教科は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に対する科目である。
国家試験合格を目標に学習すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	介護保険制度(1)	介護保険制度の経緯
2	介護保険制度(2)	介護保険制度の概要
3	介護保険制度(3)	介護保険制度をめぐる最近の動向
4	労働保険制度(1)	労働保険制度の沿革と概要、労働者災害補償保険
5	労働保険制度(2)	雇用保険、労働保険制度をめぐる最近の動向
6	社会福祉制度(1)	社会福祉制度の沿革と概要
7	社会福祉制度(2)	生活保護制度（公的扶助）、児童福祉
8	社会福祉制度(3)	障害者福祉、ひとり親家庭の支援
9	社会福祉制度(4)	高齢者福祉、社会手当制度
10	社会保障と民間保険(1)	民間保険に期待される役割、古典的社会保障と民間保険の比較
11	社会保障と民間保険(2)	民間保険の概要、企業年金と個人年金
12	社会保障が当面する課題(1)	少子高齢化の動向
13	社会保障が当面する課題(2)	労働市場の変化と社会保障、少子化への取り組み
14	諸外国に見る社会保障制度(1)	社会保障の類型、社会保障の国際化
15	諸外国に見る社会保障制度(2)	諸外国の社会保障

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 I		科目ナンバリング	SSWB22013
担当者氏名	小倉 毅			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） 			

《授業の概要》

本講義では、高齢者を取り巻く社会情勢、福祉、介護需要について理解することを目的とする。また、高齢者福祉制度の発展過程について理解していく。特に、介護保険制度の基本的枠組みや、サービス体系を理解する。さらに高齢者を支援する組織の役割、高齢者虐待や地域移行、就労の実態なども段階的に理解を深めていく。

《テキスト》

『高齢者に対する支援と介護保険制度（新・社会福祉養成講座13）』社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版2015

《参考図書》

『2017年版 福祉小六法』福祉小六法編集委員会 みらい
『厚生労働白書』平成28年度版
『国民福祉の動向』2016/2017 厚生労働統計協会

《授業の到達目標》

- (1) 高齢者の現状を理解し、今後の高齢者政策の目指すべき方向性を正しい把握する。
- (2) 高齢者に係る法律・制度を理解し、その運用について正しく理解する。
- (3) 介護保険制度の概要とさまざまな福祉サービスを理解する。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法
下記の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにして下さい。
- (2) 復習の方法
授業中に整理するプリントを中心に復習して下さい。また、理解が十分でない場合には、積極的に質問して下さい。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への参加とその成果（20%）
授業への参加態度・成果については随時説明します。
- (2) レポート・小テスト（20%）
分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。
- (3) 定期試験（60%）

《備考》

本科目は、社会福祉士国家試験科目であるので、国家試験受験予定者は必修である。また、その他の国家試験科目の内容とあわせて横断的に捉え学習してほしい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	高齢者を取り巻く社会情勢①	高齢者を取り巻く生活実態を理解する。また、高齢者の身体的・精神的理解を通じて、高齢者に係る問題を総合的に理解する。
2	高齢者を取り巻く社会情勢②	高齢者を取り巻く社会情勢から、家族問題や介護問題、さらに経済問題を通じて、高齢者や家族のニーズを理解する。
3	高齢者福祉の発展過程①	高齢者保健福祉の起源と生成（古代から近代）までを理解する。
4	高齢者福祉の発展過程②	社会福祉3法から介護保険制度までの高齢者保健福祉制度の発展について理解する。
5	高齢者を取り巻く関連施策①	老人福祉法及高齢者の医療の確保に関する法律について理解する。
6	高齢者を取り巻く関連施策②	高齢者虐待防止法について理解する。
7	高齢者を取り巻く関連施策③	バリアフリー新法及び高齢者の居住に関する法律について理解する。
8	介護保険制度①	介護保険制度の目的や理念と全体像を理解する。
9	介護保険制度②	介護保険制度の法改正に至る経緯や保険財政の概要、さらに介護人材の確保に関連した法制度の動向（2025年の高齢者介護問題を含む）について理解する。
10	介護保険制度③	介護保険制度の要介護認定の仕組みと介護報酬について理解する。
11	介護保険制度④	介護保険制度と地域支援事業（2015年の高齢者介護を含む）及びサービスをの質を確保するための仕組みについて理解する。
12	介護保険制度⑤	介護保険制度における専門職の役割と実際と介護保険サービス体系（居宅・住宅・施設・介護予防・地域密着サービス）について理解する。
13	介護保険制度⑥	介護保険制度における組織および団体（行政機関の役割、指定サービス事業者・国民健康保険団体連合会）の役割と実際について理解する。
14	介護保険制度⑦	介護保険制度における組織および団体（地域包括支援施設インター）の役割と実際について理解する。
15	介護保険制度⑧	介護保険制度における組織および団体（社会福祉協議会、ボランティア団体・非営利民間活動）の役割と実際について理解する。

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ		科目ナンバリング	SSWB22014	
担当者氏名	小倉 毅				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） 				

《授業の概要》

高齢者保健福祉の発展的過程や、介護保険制度を学びながら、高齢者の生活実態とそれを取り巻く社会情勢、福祉及び介護支援についての現状を理解する。その上で、高齢者支援の方法、専門職の役割・介護概念・介護過程を理解し、高齢者へのケア（介護技法や介護予防）、認知症ケア、終末期ケア（グリーフケアを含む）などの具体的な支援を行うための知識、技法等を習得することを目的とする。

《テキスト》

『高齢者に対する支援と介護保険制度（新・社会福祉養成講座13）』社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版2015

《参考図書》

『2017年版 福祉小六法』福祉小六法編集委員会 みらい
『厚生労働白書』平成28年度版
『国民福祉の動向』2016/2017 厚生労働統計協会

《授業の到達目標》

- (1) 高齢者福祉制度及び高齢者支援と方法を理解ができる。
- (2) 高齢者を支援する専門職の役割（チームアプローチや倫理）を理解することができる。
- (3) 介護の概念と理念、対象理解を深めることができる。
- (4) 介護過程と社会福祉士の関係を理解することができる。
- (5) 日常生活支援、終末期支援など、エビデンスに基づいた支援方法を身につける。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法
下記の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにして下さい。
- (2) 復習の方法
授業中に整理するプリントを中心に復習して下さい。また、理解が十分でない場合には、積極的に質問して下さい。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への参加とその成果（20%）
授業への参加態度・成果については随時説明します。
- (2) レポート・小テスト（20%）
分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。
- (3) 定期試験（60%）

《備考》

本科目は、社会福祉士国家試験科目であるので、国家試験受験予定者は必修である。また、その他の国家試験科目の内容とあわせて横断的に捉え学習してほしい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	介護保険制度①	高齢者支援方法（アセスメントと相談援助）について、介護保険制度における連携と、介護保険制度外サービスの連携方法について理解する。
2	介護保険制度②	高齢者支援方法（アセスメントと相談援助）について、施設退所し居宅生活へ移行後の連携方法と、高齢者虐待対応における連携方法について理解する。
3	介護保険制度③	介護保険制度における専門職の役割と専門職倫理、チームアプローチ（他職種連携）の実際について理解する。
4	介護の概念と範囲	介護の定義や対象に理解を深め、自立した日常生活を営むことが難しい障害を抱えた利用者に対する生活支援や家族との関係、社会関係の調整について理解する。
5	介護の理念と介護の対象	在宅生活は、個人の生活場面など、状況によっては利用者の人権を侵すこともなりかねない。その意味において介護職（ケアワーカー）の倫理について理解する。
6	高齢者の介護予防	介護予防事業は、2006年に施行された介護保険法によって、介護保険の一端を担う事業として開始された。ここでは概要と、これからの介護予防を理解する。
7	介護過程の概要について①	介護行為は、利用者による主訴から始まり、利用者の介護状態により日々変化する。そこで、一連の問題解決型アプローチである介護過程について概要を理解する。
8	介護過程の概要について②	介護保険制度におけるケアマネジメントにおける長期目標、短期目標を前提とする介護サービス計画と介護過程における展開技法について理解する。（事例検討）
9	介護過程の概要について③	介護過程を使った生活支援の事例検討を行い、介護過程と社会福祉士の関係を理解する。
10	介護の技法について	介護は、生活支援技術であるため、実際の介護技術は生活の隅々にまで配慮を必要とする。そこで、基本的な介護の考え方、根拠となる理論や援助の基準などを理解する。
11	認知症ケアについて①	高齢者介護特有の事情には、脳卒中やパーキンソンや行動障害、認知症がある。ここでは、認知症について理解する。
12	認知症ケアについて②	認知症高齢者とその家族を支えるための支援方法を学び、オレンジプラン策定と地域連携体制について理解する。
13	終末期ケアについて	高齢者の終末期における特徴を理解し、基本的な考え方や具体的な展開方法を理解する。（終末期ケアの実際例を参考にする）
14	住環境について	家族や近隣との関係を考慮しながら、日常生活を心地よいものにするために必要な住環境を理解する。
15	近未来の高齢者福祉課題	近未来の高齢者が当面する課題や、高齢者に求められる社会活動システムなどについて理解する。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度		科目ナンバリング	SSPB22015	
担当者氏名	小出 享一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解) ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感性、観察力、問題発見力) ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる (倫理性) ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる (創造的思考力) ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる (アドボカシー) 				

《授業の概要》

障害者が「社会にあってはならない存在」と言われた時代から障害者権利条約及び障害者差別解消法に至るまでの道程を取り上げたい。障害者を取り巻く現状を踏まえ、障害者自立支援に関する法律・制度を理解し、事例を通してその実際を学ぶ。授業ではテキストのほか、新聞記事、DVDなども活用する。また障害者の支援にかかわっているゲストスピーカーで来てもらい、話しをしてもらう予定である。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座14『障害者の支援と障害者自立支援制度』（中央法規出版）

《参考図書》

参考図書は授業時にその都度、紹介したい。

《授業の到達目標》

①障害者総合支援法を中心に障害者支援にかかわる法律・制度を学ぶ。②制度の担い手となる組織・団体・専門職の役割について学ぶ。③多職種連携や障害児の支援などについても学ぶ。

《授業時間外学習》

社会福祉は、その時々の政治、社会、経済のあり方や状況によって、変化し、動く。法律・制度や福祉サービスはその影響を受けることが多い。特に障害者福祉関係は、現在、動きが活発である。新聞や雑誌、テレビ、インターネットなどの情報を活用して、社会の動向などに注目してほしい。

《成績評価の方法》

筆記試験、授業態度、授業への参加度等によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	障がいを持って生きるということ。(自己紹介に代えて)
2	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態①	①障害者を取り巻く社会情勢と歴史
3	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態②	②障害者の生活実態、③障害とは、ICF 医学モデルと生活モデル
4	障害者にかかわる法体系①	障害者権利条約、障害者差別解消法、障害者基本法など
5	障害者にかかわる法体系②	身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法など
6	障害者にかかわる法体系③	障害者にかかわるその他の法体系(年金・雇用・教育)など
7	障害者にかかわる法体系④	交通アクセスと障害者運動(バリアフリー法)
8	障害者自立支援制度①	障害者総合支援法の理念・考え方
9	障害者自立支援制度②	①自立支援給付、②支給決定、③自立支援医療費、④補装具費など
10	障害者自立支援制度③	①地域生活支援事業、②障害福祉計画、③苦情解決、④障害児に対する支援など
11	障害者自立支援制度④	ゲストスピーカーの講義(自立生活支援センター)
12	行政・組織・団体の役割	①行政機関の役割、②障害者障害者支援施設の役割、③労働機関・教育機関の役割
13	専門職の役割	①専門職の価値・倫理、②主な専門職、③相談支援専門員、④サービス管理責任者など
14	多職種連携・ネットワーキング	①医療・教育・労働関係機関との連携、②社会福祉士国家試験対策1
15	まとめ	①社会福祉士国家試験対策2

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度		科目ナンバリング	SSWB22016	
担当者氏名	小倉 毅				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

少子・高齢化が進むなか、子どもや子育て家庭がおかれている状況も複雑化しており、さまざまな視点から支援していかなければならない。そこで、児童福祉を实践するために必要な児童福祉理念や意義、法体系を理解するとともに、母子保健、障がい、子育て支援、ひとり親家庭、社会的養護、非行、情緒障がい、児童虐待、家庭内暴力などの分野別の現状と施策を把握し、それぞれの課題を考察していく。

《テキスト》

- ①社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 中央法規2015
- ②福祉小六法 みらい

《参考図書》

第3版 児童家庭福祉 小倉毅・松井圭三 編 大学教育出版

《授業の到達目標》

- ・児童・家庭福祉の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際を理解する。
- ・児童の定義と権利、児童福祉法など各法制度を理解する。
- ・現代の児童・家庭福祉について論じることができる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法
下記の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにして下さい。
- (2) 復習の方法
授業中に整理するプリントを中心に復習して下さい。また、理解が十分でない場合には、積極的に質問して下さい。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への参加とその成果 (20%)
授業への参加態度・成果については随時説明します。
- (2) レポート・小テスト (20%)
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。
- (3) 定期試験 (60%)

《備考》

- ①私語をはじめ、他の受講者の迷惑なる行為は慎むこと。
- ②特別な事情がないかぎり、遅刻は一切認めません。
- ③質問は、授業中もしくはオフィスアワーで受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会と児童・家庭の問題	現代社会が生み出す子育て・子育ての実情と近年の子育て・子育て支援の仕組みを理解する。
2	児童・家庭福祉の理念	児童・家庭福祉は、保護者による私的責任（自助）を核にして、社会的責任（共助）、公的責任（公助）が関与することによって成立していることを理解する。
3	児童の権利保障、児童・家庭福祉の歩み	児童を権利主体として認め、その福祉を実現するようになった経過を、日本および英米の制度の展開及び具体的な活動の歩みを通して理解する。
4	児童・家庭福祉の法制度	児童福祉法をはじめとして、児童福祉六法及び児童虐待の防止等に関する法律など、児童・家庭福祉に関係する法律を理解し、児童福祉制度の概要を考える。
5	児童・家庭福祉の行政機関と施設	児童・家庭福祉サービスの体系、行政機関・児童福祉施設等の実施体制、サービスの利用方式を理解するとともに、サービスが計画的に推進されていることを理解する。
6	児童・家庭福祉の専門職	児童と家庭福祉に関係する行政機関と施設の専門職について理解する。
7	分野別課題と施策 ①母子保健	母子保健の歩みと現状を踏まえながら、母子保健の制度・施策を理解し、その課題を理解する。
8	②障がい・難病のある児童と家族	障がいや難病のある児童と家族の実情を踏まえながら、児童や家族のライフコースの視点に立ち支援の制度・施策を理解し、その課題を考える。
9	③保育・子育て支援	少子化の進行、家庭や地域の養育機能の変化を踏まえながら、保育・子育て支援の取り組みを理解し、その課題を考える。
10	④ひとり親家庭	ひとり親家庭の現状を踏まえながら、ひとり親家庭の福祉施策の概要を理解し、その課題を考える。
11	⑤児童の社会的養護	児童の社会的養護への取り組み方の変遷を踏まえながら、家庭支援型・家庭補完型・家庭代替型社会的養護の仕組みを理解し、その課題を考える。
12	⑥非行児童・情緒障がい児	非行児童と情緒障がい児の動向を踏まえながら、非行児童と情緒障がい児とその家族への支援に関する施策を理解し、その課題を考える。
13	⑦児童虐待	児童虐待の実態を踏まえながら、児童を虐待から保護する仕組みを理解し、その課題を考える。
14	⑧ドメスティック・バイオレンス	婦人保護から女性福祉への変遷を踏まえながら、家庭内暴力における児童・家庭に関する女性を支援するための制度・施策を理解し、その課題を考える。
15	児童・家庭への相談援助活動	児童・家庭福祉の理念および制度を踏まえながら、児童・家庭福祉分野における相談援助活動の留意点を理解する。

科目名	地域福祉の理論と方法 I		科目ナンバリング	SSPB12017	
担当者氏名	小林 茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

今日、高齢、障がい、児童、低所得という様々な分野の福祉政策・制度及び実践は、地域での展開を志向している。地域福祉は分野別の福祉政策・制度を当事者・住民の暮らしの場である地域において横断的に統合し、また、福祉政策・制度とまちづくりをつなぐものである。本講義では分野別の狭い福祉にとらわれず、住民の暮らしからの視点、生活の全体性からの視点から地域福祉を学んでいきます。

《授業の到達目標》

1. 地域福祉の基本的考え方について理解する。
2. 地域福祉の主体と対象について理解する。
3. 地域福祉にかかわる組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内藤討論等への参加とその成果 10%
- (2) 課題レポート 25% (提出遅れは減点)
- (3) 定期試験 65% ※レポートにはコメントを付記し採点后返却する

《テキスト》

- ・「新・社会福祉養成講座9 地域福祉の理論と方法(第3版)」社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版
- ・適時、補助教材を配布する

《参考図書》

- ・「地域福祉論」岡村 重夫 光生館 (2009)
- ・「新・社会福祉養成講座3 社会理論と社会システム(第3版)」社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版
- ・「新・社会福祉養成講座4 現代社会と福祉(第4版)」社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版
- ・「福祉小六法」

《授業時間外学習》

1. 予習方法：事前にテキスト該当する章を読んでおくこと
2. 復習方法：授業配布プリントなどを再整理し、不明な点を整理し、次回授業で質問する事。
3. その他： 学生自身の暮らしの場である地域にはどんな人々が暮らしているか、どのような地域社会であれば暮らしやすいかを日頃から考え、問題意識を養うこと。

《備考》

授業の進行の妨げになる携帯電話の使用、私語等は厳禁。授業配布のプリントおよびノートは整理し、いつでも振り替えられるようにしましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス/地域の暮らしと福祉	地域福祉を理解するにあたって、私たちの暮らしが地域社会の中で成り立っていることを改めて確認します。そして地域の中で暮らしづらいとはどのような事かを考察する。
2	地域福祉の意義と構成要素	今日の社会福祉における基本理念の1つに地域福祉が掲げられている。今日の社会福祉制度における地域福祉が果たすべき役割について理解する。
3	地域福祉の歴史と鍵概念	地域福祉は、常に実践と相まって理論的発展をしている。地域福祉理論の発展過程を概観するとともに、地域福祉を支える基本的な理念について理解する。
4	地域社会を理解する①	「地域」の捉え方と重層的な生活圏域の設定の意義を学び、それぞれの地域での地域福祉実践について理解する。
5	地域社会を理解する②	各生活圏域での住民相互の働きかけ、活動のしやすさなど小地域福祉活動の実践例を踏まえながら、地域社会での福祉活動について理解する。
6	地域福祉の主体と対象	地域福祉推進の観点からその主体と対象である住民について学び、地域福祉推進における住民の役割、地域福祉の参加形態について理解する。
7	地域福祉の推進主体① (当事者組織)	当事者の主体性向上の支援及び地域福祉の推進主体である当事者組織について学び、理解する
8	地域福祉の推進主体② (ボランティア)	地域福祉の推進主体であるボランティア、市民活動についてその意義と役割について学び、理解する
9	地域福祉の推進主体③ (民生委員、保護司)	歴史的な背景を持つ、地域福祉の担い手である民生委員、保護司について、その役割と意義について理解する。
10	地域福祉の推進主体④ (社会福祉法人など)	今日地域福祉の担い手として期待されているNPO、社会的企業、社会福祉法人の意義と役割を学びます。
11	社会福祉協議会の役割	社会福祉協議会について、歴史的経緯を踏まえ、組織特性、地域福祉における役割と機能について理解する。
12	基礎自治体と地域福祉計画	地域福祉推進における基礎自治体の役割と意義について学びます。特に地域福祉計画における住民参加の環境づくり、公私協働の仕組みづくり等について理解する
13	地域福祉の専門職とその役割	地域福祉に携わる主な専門職について学ぶとともに、それぞれの専門職の役割について理解する
14	地域福祉における住民参加の意義	地域福祉における住民参加の意義を確認するとともに、専門職、専門機関との連携のあり方について理解する。
15	地域福祉の理論の整理	これまで学んできた地域福祉の理論を整理し説明することができる。

科目名	保健医療サービス		科目ナンバリング	SSPB23003	
担当者氏名	和田 光徳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 				

《授業の概要》

現在の保健医療サービスは、医療機関を役割分担しつないでいく「地域医療連携体制」と介護保険法など介護システムと連動・協働する地域包括ケアシステムの構築が求められている。本講義では、社会福祉専門職の基礎知識として、保健医療サービスの構造、制度概要を学び、多機関・多職種協働といわれる支援体制に、ソーシャルワーカーが関わる意義を概説する。

《授業の到達目標》

保健医療サービスの利用者である患者および家族の生活問題を学ぶ。そのための基本的枠組みである

1. 保健医療サービスの提供体制
2. 医療保険制度
3. 医療ソーシャルワークの機能、について答えることができる。

《成績評価の方法》

- (1) 定期試験（持ち込み不可） 60%
 - (2) 授業内小テスト 40%
- 提出物等についてはコメントを付記し返却する。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座『保健医療サービス』 中央法規出版

《参考図書》

新・医療福祉学概論 佐藤俊一・竹内一夫・村上須賀子編著
川島書店 2010
医療福祉総合ガイドブック 2015年度版 NPO法人日本医療
ソーシャルワーク研究会編集 2015

《授業時間外学習》

テキストを中心に授業を進めます。予習復習をしっかりと行うことが必要です。

《備考》

講義内容を深める質問、意見を歓迎します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保健医療サービスの構成要素	保健医療サービスとは：ヘルスケアを理解する、また保健医療サービスのひと・もの・かね・情報という構成要素を理解する（第1章 第1節）
2	戦後の保健医療サービスの整備・拡充の推移	戦後日本における保健医療サービスの体制づくりの変遷を理解する（第1章 第2節・第3節・第4節）
3	保健医療サービスを提供する施設とシステム①	第2章 第1節 第2節 医療法に規定される理念や施設の種類と概要を理解する
4	保健医療サービスを提供する施設とシステム②	診療報酬上における医療施設の機能・類型、介護保険法における施設等の機能・類型を理解する（第2章 第3節・第4節）
5	地域包括ケアシステムについて	地域包括ケアシステムとは何か、その構成要素と体制づくり、課題について学習する（第2章 第5節）
6	医療ソーシャルワーカーの役割	医療ソーシャルワーカーの歴史的展開と業務の枠組みを理解する（第3章 第1節）
7	医療ソーシャルワーカーの実践業務①	医療ソーシャルワーカーの実践業務の内容（ミクロのソーシャルワーク）を理解する（第3章 第2節）
8	医療ソーシャルワーカーの実践業務②	医療ソーシャルワーカーのミクロからメゾへのソーシャルワーク実践を理解する（第3章 第3節）
9	保健医療サービス専門職の役割（病院内チーム）	保健医療サービス専門職の概観・チームの形態等チームアプローチについて学ぶ（第4章 第1節、第6章 第1節）
10	保健医療サービス専門職の役割（地域のチーム）	保健医療サービス専門職の概観・多機関・多職種協働のチーム、クリティカルパスなどチームの運営方式について学ぶ（第6章 第3節）
11	患者の権利と専門職の倫理	保健医療サービス専門職の基本姿勢・患者の権利と専門職の倫理、インフォームド・コンセントについて理解する（第4章 第2節）
12	専門職の視点と共有	保健医療サービス専門職の視点と役割、ソーシャルワーカーの視点とそれらが協働する「カンファレンス」の機能について理解する（第4章 第3節）
13	保健医療サービスと給付の仕組み①	医療保険制度および公費負担医療制度における診療報酬制度の概要を知る（第5章 第1節・第3節）
14	保健医療サービスと給付の仕組み②	介護保険制度における介護報酬の概要を知る（第5章 第2節）
15	地域の社会資源との連携づくり	地域の保健医療ネットワーク構築のためのソーシャルワーク実践と連携方法、地域の連携団体を知る（第3章 第4節、第6章 第2節、第7章 第1節・第2節）

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度		科目ナンバリング	SSPB22018	
担当者氏名	未定				
授業方法	講義	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） <input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

本講義では、貧困に関する先行研究、および英国、日本の公的扶助の歴史的形成過程と発展を概観し、わが国における低所得者の生活実態を理解する。また、わが国の生活保護制度制度の実施体制などの理解を通して、ソーシャルワーカー（SW）の役割、関係諸機関とのネットワークの構築等を学ぶ。これと並行して、被保護者への具体的な援助計画を立て、自立支援や住宅政策などの取り組みについて理解を深める。

《授業の到達目標》

- 本講義では以下の達成目標を設定する。
1. 社会福祉政策における公的扶助の役割を理解する。
 2. 貧困をめぐる課題とその背景を考え、適切な支援計画を思考する。
 3. 生活保護に関する事例をもとに、生活保護の制度を利用した援助方法を立てる。
 4. 低所得者の就労支援の援助計画を立て課題点を分析する。

《成績評価の方法》

1. 授業内討論等への参加とその成果（20%）
2. レポート課題等の提出物（30%）
3. 定期試験（50%）

《テキスト》

「低所得者に対する支援と生活保護制度」新・社会福祉士養成講座16/ 中央法規出版

《参考図書》

《授業時間外学習》

毎日、その日の新聞に目を通し、問題意識を持って授業に臨んでほしい。

《備考》

演習・ロールプレイを多用するので出席は必須

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講義を学ぶに際しての受講上の留意点、成績評価、出欠について周知する。また、基本的な出発点としての憲法第25条の理解を深める。
2	公的扶助制度の歴史	近代以降の日本の貧困政策、選別的救済の歴史を概観し、戦後の生活保護制度の制定から今日までの社会福祉政策を跡付ける。
3	英国の貧困政策の歴史	エリザベス救済法を起点に、被救済者に対する差別的な扱いからナショナルミニマムへと展開する英国の社会福祉政策理念を概観する。
4	貧困と相対的はく奪	ティトマスの相対的はく奪の理論を学び、絶対的貧困と相対的貧困の概念について理解を深める。参考として開発途上国のVTRを用いる。
5	低所得者層の生活実態と貧困	事例問題を議論し、時系列に沿って検討していきながら、低所得者問題の理解を深める。
6	生活保護の実施体制	生活保護の実施体制について理解する。
7	生活保護の原理・原則	生活保護の原理・原則について理解する。
8	生活保護基準と要否判定	生活保護基準と要否判定について理解する。現場のソーシャルワーカーによる講義を予定している。
9	生活保護の動向と財源	生活保護の動向と財源について理解する。現場のソーシャルワーカーによる講義を予定している。
10	自立支援プログラムによる相談援助	自立支援プログラムの実施におけるソーシャルワーカーの相談援助の方法を学ぶ。ロールプレイによって理解を深める。
11	ホームレスの生活と相談援助	ホームレスの人々の生活支援の方法を学ぶ。住宅政策についても理解を深める。
12	低所得者への社会福祉サービス	低所得者への福祉サービスの種類、およびその支援の方法を学ぶ。事例をもとに検討を重ね理解を深める。
13	低所得者への就労支援サービス	低所得者への就労支援サービス、およびその支援の方法を学ぶ。事例をもとに検討を重ね理解を深める。
14	ソーシャルワークの視点から貧困を考える	生活困窮者支援におけるソーシャルワーカーの相談援助の方法を学ぶ。ロールプレイによって理解を深める。
15	まとめ	講義での重要項目について再度復習し、目標達成ができた事を確認する。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	権利擁護と成年後見制度		科目ナンバリング	SSPB22019	
担当者氏名	関川 雅世				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） 				

《授業の概要》

「権利擁護と成年後見制度」では日本国憲法、行政法、民法等の理解は必須であるが、対象者は認知症など社会福祉の対象者であることから、授業では法学の未履修者も受け入れ、基礎的な法学の授業から始める。法や社会福祉の専門職が、判断能力の衰えた対象者の方々の日常生活や人権をどのように護ればよいのかを、さまざまな社会資源の連携と権利擁護の観点から考察し、その運用について理解を深める。

《授業の到達目標》

- (1) 日本国憲法・行政法・民法を理解し、その運用について正しく把握する。
- (2) 権利擁護・成年後見制度のしくみと関係諸機関について理解する。
- (3) 権利擁護・成年後見制度を必要とする人々の現状を理解し、専門職連携についてその実際を学ぶ。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果 (20%)
- (2) レポート課題等の提出物 (30%)
- (3) 定期試験 (50%)

《テキスト》

『新・社会福祉士養成講座 19 権利擁護と成年後見制度』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社

《参考図書》

授業中、適宜指示する。

《授業時間外学習》

- (1) 予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。
- (2) 復習：自ら授業内容の再確認を行うこと。理解が十分でない項目などに関しては、積極的に担当者に質問し、毎回の授業を確実なものにしていく努力が望まれる。授業では適宜、関連図書などの紹介も行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の方法、および授業の概略をつかむ。
2	日本国憲法・行政法の理解	日本国憲法の理念、および人権思想について学ぶ。また憲法の具体的な方法としての行政法を理解する。
3	民法（親族・相続/物件）の理解	権利擁護・成年後見制度は財産問題と切り離せない。このことを踏まえて、民法の基礎的な理解を深める。親族・相続・契約・物件についての知識を確実なものとする。
4	成年後見制度の概要（後見/保佐/補助人）	任意後見・法廷後見の相違、および後见人・保佐人・補助人の役割と権利・義務を理解する。
5	成年後見制度と関係機関の理解	家庭裁判所、法務局（後見登録）の活動内容を把握する。弁護士・司法書士の役割、権限等を理解する。
6	任意後見制度に係る諸問題：不法行為/民事訴訟等	任意後見の実際についてさまざまな事例をもとに理解を深める。
7	日常生活自立支援事業の概要(1)	日常生活自立支援事業の概要、および社会福祉協議会の役割について学ぶ。
8	日常生活自立支援事業の概要(2)	認知症高齢者の日常生活の支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
9	知的・身体障害者の権利擁護問題	知的障害者・身体障害者の日常生活、および職場での支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
10	精神障害者の権利擁護問題	精神障害者の日常生活の支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
11	児童分野における権利擁護問題	児童虐待の支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
12	専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）連携	各専門職による連携の実際をビデオにより学び、より良い支援についてグループ討論により理解を深める。
13	権利擁護と医師の役割	鑑定・診断に係る医師の役割と専門職連携の今後の課題を理解する。
14	成年後見制度利用支援事業	成年後見制度利用支援事業として、アルコール依存者、消費者被害者、多重債務者の問題を考える。
15	I期まとめ	補充説明とI期の総まとめ。

科目名	相談援助の理論と方法 I		科目ナンバリング	SSPB12020	
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）				

《授業の概要》

対人援助の在り方について、面接の進め方、専門職としての価値、態度の再確認と、それを実践に移していける援助技術の展開の仕方について、講義と事例から学びを進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編「相談援助の理論と方法 I 第3版」 中央法規 2015

《参考図書》

- ・H.M. バートレット著 小松源助訳「社会福祉実践の共通基盤」ミネルヴァ書房 2009
- ・Germain, C著 小島蓉子訳「エコロジカル・ソーシャルワーク」学苑社 1992年
- ・社会福祉小6法 中央法規 2016

《授業の到達目標》

実習に赴いたときに、利用者の問題や、課題を利用者や家族との話しの中から、また記録の中からまとめだすことができ、具体的な支援計画の作成の手順とが理解できる。また、利用者との話をどのように展開していくかの流れを形成していくことができるようになる。

《授業時間外学習》

新聞をはじめとするメディアの報道に目を通すことと、人についての発達段階と、その各段階で遭遇する解決課題について、各自の知識として整理しておくこと。授業はシラバスに添って進められます。教科書の該当箇所を、各自でしっかりと事前学習をしてください。

《成績評価の方法》

評価は、授業態度30% 課題達成20% 終了時テスト50%として行う。この基準で出した評価点（100点満点）を、各自の評価とする。提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

遅刻は一切認めない。定時に始まり、定時に終わる。授業中の私語、携帯の操作は禁止する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助とは	相談援助とは、その援助技術であるソーシャルワークとは、どのように考えるべきものであるのか、また相談援助にあたる専門職の役割とはについて検討する。
2	ソーシャルワークの構成要素とその機能を考える	人と環境との関連性を検討するとともに、個人、家族、小集団、地域等がそれぞれに、総合的な観点から、評価し、優れたところも保持した存在であることを、検討する。
3	人と環境との相互作用とは	システム理論をもとに、人と環境の関わり、人と人の関わりを検討するとともに、システム理論をソーシャルワークが取り入れる意味について検討する。
4	援助関係の形成と援助関係のもたらすもの	援助関係とはどのような状況をいうのか、また、援助関係を形成していくにはどのような事柄に留意していくべきなのかを検討する。
5	援助者の機能と役割、また援助者に求められるもの	援助関係で援助者が果たすべき役割はどのようなものであり、援助関係の質を高めるためには、援助者としてどのような取り組みが求められるのかを検討する。
6	対象による援助関係の特徴	援助の対象、利用者の状態、おかれている環境によって、形成されるべき援助関係についての配慮が求められるが、それぞれでどのような配慮を必要とするのかを検討する。
7	相談援助での一般的な留意点	ソーシャルワーク援助のすべてのプロセスを通して、援助者はどのようなことに留意し、支援を進め、形作っていくのかについて述べる。
8	インテーク面接の役割と留意点	ソーシャルワーク援助でのインテーク面接の位置づけと、インテークワーカーの役割、クライアントのモチベーションと面接の進め方について検討する。
9	問題とは、ニーズとは、事実とは	利用者の抱える困りごとを聴きとるためには、どのような配慮と、援助者の視点が求められるのか、真実に迫る面接を構成する要件とはについて検討する。
10	アセスメントの精度を高める情報収集と分析	アセスメントの精度が支援の効果を左右する。利用者の全方位的なアセスメントが総てを決することを意識したうえで、アセスメントの在り方を検討する。
11	解決課題設定と支援計画の作成	解決課題（ニーズ）の確定と、効率的な解決手順の設定を目指した利用者との共同作業の内容が、支援計画の質の高さに大きく影響することを確認する。
12	支援計画の実施とモニタリング	周到な準備の上で実施される支援計画に基づいたサービス提供が、予定通りの効果を上げているのかの確認と、それによる利用者の変化についての確認の仕方を学ぶ。
13	モニタリングと支援計画の変更	モニタリング結果を参考に、予定通りの効果が発揮できていない原因の把握と、効果的なサービス提供がなされるためのサービスの変更や支援計画の修正について学ぶ。
14	支援の終了とアフターケア	支援の終了は環境の変化を生み出し、利用者の新しいストレスとなりうる。新しい適応課題の出現の有無を確認するとともに、精神面のサポートを行うことの重要性を学ぶ。
15	効果的な面接の進め方	14回の授業を総括し、効果的な面接の進め方を確認し、より学びを実践に近づけるものとする。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助演習 I A		科目ナンバリング	SSPB12021	
担当者氏名	和田 光徳、小林 茂				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）				

《授業の概要》

社会福祉専門職としての価値、倫理を演習を通じて理解を深め、具体的に専門職の「態度」として表現ができるように、基礎的技能を習得する。そのために、自己理解や他者とのかわり、基本的な面接技法を学ぶ。

《テキスト》

「社会福祉士相談援助演習 第2版」日本社会福祉士養成校協会監修 中央法規

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ・ソーシャルワークの価値、倫理を理解する。
- ・自己と他者の「違い」を理解し、「相手を尊重する」態度を身につける。
- ・ラポール形成の基礎となる傾聴のスキルを身につける。

《授業時間外学習》

演習は、並行して学習している科目群の知識を総合的に活用する授業です。関連科目の教科書についても予習・復習することが必要です。

《成績評価の方法》

- (1) 演習への参加態度や課題への取り組み姿勢 40%
 - (2) 授業後の振り返りレポート 40%
 - (3) 課題レポート 20%
- 提出物については、コメントを付記し返却する。

《備考》

演習は自らが体験し、学びを深める授業です。したがって、出席し授業に積極的に参加・協力することが、通常講義より大きな評価基準となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	演習の意義、方法について説明し、授業への参加意思を明確にする。
2	対人援助の基礎	【演習＋講義】自己理解について学ぶ。
3	対人援助の基礎	【演習＋講義】自己理解を深める。
4	対人援助の基礎	【演習＋講義】人間理解（精神分析的理解、交流分析の自我状態、エゴグラム）
5	対人援助の基礎	【演習＋講義】他者理解・自己覚知について学ぶ。
6	ソーシャルワークの価値	【講義＋事例によるグループ討議】ソーシャルワークの普遍的価値、IFSW定義にみるソーシャルワークの使命、倫理綱領について学ぶ。
7	専門職としての価値、倫理と自己覚知	【事例によるグループ討議】個人の価値観と専門職としての価値をビネットを通じて学ぶ。
8	コミュニケーションの基礎	【演習＋講義】言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを理解し、非言語的コミュニケーションの相互影響関係を学ぶ。
9	基礎的な面接技法	【演習】傾聴について（日常会話上の“よく聞く”と傾聴・「関与しながらの観察」の違いを、ロールプレイを通じて学ぶ）
10	基礎的な面接技法	【演習】簡単な自己のライフヒストリーを作成し、自己理解を深めるとともに、それを題材に傾聴（ロールプレイ）の演習を行う。
11	基礎的な面接技法	【演習】効果的な傾聴とは（コミュニケーションラボの使用、ロールプレイにより、自己の傾聴を客観的に評価する）
12	利用者理解の技術	【講義＋演習】自己のエコマップ＆ジェノグラムを作成する
13	グループワークの基礎	【講義＋演習】グループワークの基礎理論と基本的な実践の枠組みを学ぶ
14	ソーシャルワーク固有の視点	【講義＋演習】グループワークの展開過程（グループ全体と個の理解）を演習（ビネットによるグループワーク）を学ぶ
15	専門職に向けての自己評価	コンピテンシー自己評価により、相談援助実習課題レポートによる授業内発表

科目名	相談援助実習指導Ⅱ		科目ナンバリング	SSWB22022
担当者氏名	小林 茂、和田 光徳			
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				2年・通年(Ⅰ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感性、観察力、問題発見力) ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力) ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力) ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー) 			

《授業の概要》

【教育目標】

社会福祉教育は実践的な学問であり、福祉の現場から切り離された福祉の学習・研究は考えられません。福祉のサービスを利用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設・従事者の実際の実践活動を学ぶ実習教育を、理論的な学習と並ぶ車の両輪として位置づけます。

《授業の到達目標》

相談援助実習のための事前～事後学習指導。実習が実りあるものとなるよう、実習先に応じた事前学習、実習中の不安や悩みへの対応、実習後の課題整理・レポート作成、同種の実習先で体験した学生による相互討議など、個別指導とグループ指導によって実習に向け学習を進めます。

《成績評価の方法》

実習計画書づくり、レポート(50%)、授業内藤討論等への参加とその成果(50%)
 *実習計画を期日までに完成しない場合は減点のみならず、実習を中止することがあります。
 提出物については、コメントを付記し返却する。

《テキスト》

〔編集〕白澤正和・米本秀仁〔監修〕社団法人日本社会福祉士養成協会『社会福祉士相談援助実習』中央法規, 2009, ISBN978-4-8058-3125-0c3036

《参考図書》

ソーシャルワークとグローバリゼーション 仲村優一 編集
 日本ソーシャルワーカー協会国際委員会 2003年8月 相川書房
 新・社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の基盤と専門職』2010年1月 中央法規出版

《授業時間外学習》

社会福祉施設・機関で5日間実習します。実際の福祉現場の業務や援助実践を体験し、就労姿勢を学びます。さらに、対象となる問題の捉え方、援助実践の方法・技術、さまざまな制度に関する体系的知識や施設分析を学習します。なお、利用者への理解を深めるとともに、自分の性格やソーシャルワークになるために求められる資質を培うために、自己覚知します。

《備考》

基礎実習に向けた準備でもあります。私語の禁止、携帯電話の操作の禁止はもちろん、授業態度等で社会人としてのモラルがない場合は実習を行わないこともあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	social work ガイダンス 全体オリエンテーション	ソーシャルワーカーの姿勢・専門的責務について学び、さらに実習内容について理解する(事前訪問、実習先見学、事務手続きについて)
2	実習前の事前確認事項を整理しよう①	現在感じている不安や、施設・学校に確認したいことを書きだし、事前に確認すべき事項を整理する。
3	実習前の事前確認事項を整理しよう②	実習機関先の情報や知識を獲得後、どのような課題をもって取り組むのかを明確(課題、学習内容、問題意識を明らかにする)にする。
4	実習施設を取り巻く環境を整理する	実習先の運営主体、設立、運営の理念・方針、事業内容、地域の特性など、実習先を取り巻く環境を整理する。
5	実習施設の特徴を整理する	実習先の種別、法的基盤、沿革と社会的背景を理解し、法律で規定された実習施設の目的や支援内容、職員配置や支援プログラムなどを整理する。
6	実習計画書を作成しよう①	ソーシャルワーカーに関心をもったきっかけ、将来どのような支援を提供したいかを明確にするとともに、実習中に行う具体的な達成課題を設定する。
7	実習計画書を作成しよう②	ソーシャルワーカーに関心をもったきっかけ、実習中に行う具体的な達成課題を設定し、実習テーマを考える。
8	実習計画書を作成しよう③	実習計画書と実習プログラムを照らし合わせ、実習計画書を完成させる。
9	実習日誌を作成しよう①	実習日誌は、実習指導者からフィードバックしてもらえる大切な記録である。ここでは、実習日誌を書く目的や記録上の留意点について理解する。
10	実習日誌を作成しよう②	実習日誌は、実習指導者からフィードバックしてもらえる大切な記録である。ここでは実習場面を想定し、エピソードから実習を振り返り方法を学ぶ。
11	実習日誌を作成しよう③	実習場面を想定し、地域の社会や制度・施策との関係に触れながらマイクロレベル(個別ケース)からメゾレベルやマクロレベルに対する実習記録を作成する。
12	事前訪問方法及び一般的なマナーを理解する。	事前訪問のために事前予約方法、実習生に求められる挨拶、電話のかけ方、服装、身だしなみ等について理解する。
13	直前学習(事務手続き等を理解する)	実習ノートの配布・必要な検査や事務手続き等について確認する。(緊急時の連絡方法、その他連絡事項を確認)
14	直前学習(お礼状の書き方等)	実習後は、実習先に感謝の気持ちを伝えるお礼状の書き方について学ぶ。
15	直前学習(分野別指導)	実習中の留意点の確認・実習出勤簿の取扱い・実習記録の取扱い・健康管理・帰校日について・実習巡回指導について・実習後に行う手続き等について確認する。

科目名	相談援助実習指導Ⅱ		科目ナンバリング	SSWB22022	
担当者氏名	小林 茂、和田 光徳				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力) ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力) ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力) ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー) 				

《授業の概要》

【教育目標】

社会福祉教育は実践的な学問であり、福祉の現場から切り離れた福祉の学習・研究は考えられません。福祉のサービスを利用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設・従事者の実際の実践活動を学ぶ実習教育を、理論的な学習と並ぶ車の両輪として位置づけます。

《テキスト》

〔編集〕白澤正和・米本秀仁〔監修〕社団法人日本社会福祉士養成協会『社会福祉士相談援助実習』中央法規, 2009
ISBN978-4-8058-3125-0c3036

《参考図書》

新・社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の基盤と専門職』中央法規出版

《授業の到達目標》

社会福祉施設・機関で5日間実習します。実際の福祉現場の業務や援助実践を体験し、就労姿勢を学びます。さらに、なお利用者への理解を深めるとともに、自分の性格やソーシャルワーカーになるために求められる資質を培うために、自己覚知します。実習後の課題整理・レポート作成、同種の実習先で体験した学生による相互討議など、個別指導とグループ指導によって「他者からの気づき」から学習を深めます。

《授業時間外学習》

対象となる問題の捉え方・援助実践の方法・技術、さまざまな制度に関する体系的知識や施設分析を教科書等で振り返り、体験をソーシャルワーカーの力量として培っていきましょう。

《成績評価の方法》

①実習報告書づくり、レポート(80%)、②授業内藤討論等への参加とその成果(20%) *ソーシャルワーカーとしての資質も問うので授業態度や意欲も成績評価の対象とします。 *実習報告会での発表内容も上記①の中に含まれます 提出物については、コメントを付記し返却する。

《備考》

基礎実習を振り返るとともに、自身の課題を整理することが本実習につながります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	social work ガイダンス 全体オリエンテーション	基礎実習で学んだ「利用者からの学び」「ソーシャルワーカーの専門性」「実習施設と社会資源の関係」を理解するために、5日間の実習内容と感想をまとめる。
2	実習振り返りにおけるグループ学習①	実習先で体験したことを報告し実習内容の共有する。また施設種別や実習目標の異なる学生の「実習経験」を整理するため、KJ法を用いて学生の現状と課題を明らかにする。
3	実習振り返り(グループ学習②)	実習先で体験したことを報告し実習内容の共有する。また施設種別や実習目標の異なる学生の「実習経験」を整理するため、KJ法を用いて学生の現状と課題を明らかにする。
4	実習の振り返り(グループ学習③)	ソーシャルワークは、日々の実践において価値・倫理的ジレンマを感じることもある。実践におけるジレンマの種類別に整理する。
5	実習振り返り(グループ学習④)	ソーシャルワークは、日々の実践において価値・倫理的ジレンマを感じることもある。実践におけるジレンマの種類別に整理する。
6	実習課題の整理①	実習日誌をもとに、実習先で行われているコミュニケーション等の直接的な援助や利用者理解における課題について整理する。
7	実習課題の整理②	実習日誌をもとに、実習先で行われているコミュニケーション等の直接的な援助や利用者理解における課題について整理する。
8	実習課題の整理③	実習日誌をもとに、実習先で行われているソーシャルワークとその関連業務や場面における課題について整理する。
9	実習課題の整理④	実習日誌をもとに、実習先で行われているソーシャルワークとその関連業務や場面における課題について整理する。
10	実習報告書の作成①	実習の振り返り(グループ学習)と、実習課題の整理したものを用いて、実習報告書を作成する。
11	実習報告書の作成②	実習の振り返り(グループ学習)と、実習課題の整理したものを用いて、実習報告書を作成する。
12	実習報告会資料の作成	実習報告書をもとに、実習報告書を作成する。
13	実習報告会	実習報告会の開催
14	実習報告会の振り返り	実習報告会振り返り
15	総まとめ	基礎実習の総まとめ

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助基礎実習	科目ナンバリング	SFFB22013
担当者氏名	吉原 恵子、竹内 一夫、和田 光徳、小倉 毅、原 志津、小林 茂		
授業方法	実習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

社会福祉教育は、実践的な学問である。福祉のサービスを使用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設において、5日間実習を行うことで、支援者の実践を学び、ソーシャルワーカーとしての自らの力量を培う第一歩としてほしい。

《授業の到達目標》

5日間の基礎実習を通して、現場の施設機能や施設職員・ソーシャルワーカーと利用者への実際の関わりを学び、利用者にとって必要な支援とは何かを学んで欲しい。そのために実習生としての自分ができる支援について考え、工夫して実践できるよう、実習前の学びを深めてほしい。

《成績評価の方法》

実習日誌の記録・実習巡回者の評価（40%）・実習先の評価（60%）により評価する。

《テキスト》

社会福祉相談援助実習 監修 社団法人日本社会福祉士養成校協会 編集 白澤政和ほか ISBN978-4-8058-3125-0C3036

《参考図書》

よくわかる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル1 「楽しさの追求を支える理論と支援の方法」、マニュアル2 「楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施」、マニュアル3 「楽しさの追求を支えるための介入技術」 公益財団法人日本レクリエーション協会

《授業時間外学習》

上記の参考図書をよく読み福祉レクリエーション関連の授業で学んだことを5日間のこの実習に活かせるように、実習先の利用者にあったレクリエーション企画を考えておくこと。

《備考》

実践としての社会福祉を重視し実習を充実させる。本学科の実習ガイドラインを熟読すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
2	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
3	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
4	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
5	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
6	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
7	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
8	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
9	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
10	現場実習・福祉レクリエーションの実践	上記目標に、利用対象者に合わせた福祉レクリエーション・ワークの実践計画の作成・実践企画・調整を加える。
11	現場実習・福祉レクリエーションの実践	上記目標に、利用対象者に合わせた福祉レクリエーション・ワークの実践計画の作成・実践企画・調整を加える。
12	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
13	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
14	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
15	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助基礎実習		科目ナンバリング	SFFB22013	
担当者氏名	吉原 恵子、竹内 一夫、和田 光徳、小倉 毅、原 志津、小林 茂				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感性、観察力、問題発見力) ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性) ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)				

《授業の概要》

社会福祉教育は、実践的な学問である。福祉のサービスを使用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設において、5日間実習を行うことで、支援者の実践を学び、ソーシャルワーカーとしての自らの力量を培う第一歩としてほしい

《授業の到達目標》

5日間の基礎実習を通して、現場の施設機能や施設職員・ソーシャルワーカーと利用者への実際の関わりを学び、利用者にとって必要な支援とは何かを学んで欲しい。そのために実習生としての自分ができる支援について考え、工夫して実践した結果をふり返り、次の実習につなげていってほしい。

《成績評価の方法》

実習日誌の記録・実習巡回教員の評価 40% 実習先の評価 60% により評価する

《テキスト》

社会福祉相談援助実習 監修 社団法人日本社会福祉士養成校協会 編集 白澤政和ほか ISBN978-4-8058-3125-0C3036

《参考図書》

よくわかる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル1 「楽しさの追求を支える理論と支援の方法」、マニュアル2 「楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施」、マニュアル3 「楽しさの追求を支えるための介入技術」 公益財団法人日本レクリエーション協会

《授業時間外学習》

上記の参考図書をよく読み福祉レクリエーション関連の授業で学んだことを5日間のこの実習に活かせるように、実習先の利用者にあったレクリエーション企画を考えておくこと。

《備考》

実践としての社会福祉を重視し実習を充実させる。本学科の実習ガイドラインを熟読すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
2	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
3	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
4	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
5	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
6	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
7	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
8	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
9	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
10	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
11	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
12	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
13	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
14	現場実習・福祉レクリエーションワークの実践	福祉レクリエーション・ワーク実践記録を作成し、評価を受ける。
15	現場実習・福祉レクリエーションワークの実践	福祉レクリエーション・ワーク実践記録を作成し、評価を受ける。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	統計学の基礎		科目ナンバリング	SF22023	
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） <input type="radio"/> 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） <input checked="" type="radio"/> 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）				

《授業の概要》

正確に情報を収集し分析するためには、調査や実験を行い、数値を扱うことが必要となります。また、公表されている種々のデータを活用する上でも、数値の扱いについての知識は大切です。本講義では統計の基礎について、ポイントを絞って理解し、使えるようになることを目指します。社会福祉士の国家試験科目「社会調査の基礎」では、統計に関する出題がなされます。その内容についての確認も講義の中で行います。

《授業の到達目標》

- ・統計についての基本的な考え方を理解し、データに対する適切な処理法を指摘することができる。
- ・ExcelやJavaScript-STARで基本的な統計手法を実際に行うことができる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 60%
 レポート・小テストなど 20%
 受講態度 20%
 ＊レポートや小テストはコメントを付記して返却する。

《テキスト》

プリントを配布

《参考図書》

《授業時間外学習》

- ・日ごろから新聞やネットなどで、データを扱った様々な話題に興味をもって接し、データが何を示しているか理解するように努めてください。
- ・授業の中で出てきた内容やキーワードを確認するとともに、計算やソフトの利用については必ず繰り返して行ってください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	統計の役割
2	尺度	尺度の種類、度数分布とヒストグラム
3	調査と実験	質問紙調査や実験の目的や手法
4	記述統計	代表値、標準偏差、分散
5	正規分布	正規分布の意味、正規分布の形の特徴
6	母集団と標本	母集団の平均値の推測、標本平均、標準誤差
7	推測統計と仮説検定	推測統計と仮説検定の意味、信頼区間
8	t検定(1)	対応のあるt検定
9	t検定(2)	対応のないt検定
10	分散分析(1)	対応のある分散分析
11	分散分析(2)	対応のない分散分析
12	相関	相関の意味
13	相関	相関係数の算出
14	ノンパラメトリック検定	カイ二乗検定 順位相関
15	これまで何を学んだか	まとめ

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービス I		科目ナンバリング	SPSC22024	
担当者氏名	中村 友昭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） 				

《授業の概要》

精神障害者に関連する制度及びサービスは多岐にわたっており、また近年、大きな変化があったものも多い。できるだけ具体的な説明を行い、事例も示しながら、わかりやすい学習の場としたい。また、Ⅱ期の13～14回目には社会調査についての講義を行う。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座 第6巻
「精神保健福祉に関する制度とサービス」第5版
中央法規出版、2017

《参考図書》

精神保健医療福祉白書 2017 ～地域での共生に向けて～
精神保健医療福祉白書編委員会=編集 中央法規出版

《授業の到達目標》

精神障害者の生活の様々な局面で、どのように制度やサービスが活かされているのか、また活かされるべきなのか具体的な説明ができるようになる。

《授業時間外学習》

事前にテキストに目を通しておくこと。まぎわらしい専門用語が多いので、ノートにまとめたり、索引を使って、こまめにチェックし意味を確かめるなどしてほしい。

《成績評価の方法》

授業に対する態度（20%）、レポートの内容（30%）、定期試験（50%）の各項目で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度	精神保健福祉との関連において、社会保障制度のあり方を構造的に理解する。
2	精神保健福祉法の成立までの経緯	精神保健福祉法の成立までの経緯を、明治から精神保健法成立までさかのぼって学習し、精神障害者の人権の観点から、その意義を考察する。
3	精神保健福祉法の成立およびその後の変化	精神保健福祉法の成立とその後の改正について学習し、精神障害者の人権の観点から、その意義を考察する。
4	精神保健福祉法の構成①	精神保健福祉法の目的および対象について、関連する法律も参照しながら学習する。また、精神医療審査会や精神保健指定医等の概要について学習する。
5	精神保健福祉法の構成②	精神保健福祉法に定める「医療及び保護」「保健及び福祉」について、条文等を具体的に確認しながら、精神障害者の人権確保の観点からその意義について考察する。
6	精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割	精神障害者の基本的人権を擁護し、社会的復権を進める立場から、精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割について考える。
7	精神保健福祉の動向	精神保健福祉の動向について、その社会的背景も考察し学習する。
8	障害者基本法と精神障害者施策とのかかわり	障害者基本法と精神障害者施策とのかかわりについて、成立の背景を確認し、障害者基本法が精神障害者施策にもたらした影響について学習する。
9	障害者総合支援法と精神保健福祉①	障害者総合支援法の成立の背景について考察し、成立により精神保健福祉にもたらされた変化について学習する。
10	障害者総合支援法と精神保健福祉②	障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスについて学習する。
11	精神障害者等を対象とした福祉施策・事業①	国、都道府県、市町村における精神障害者福祉施策について学習する。
12	精神障害者等を対象とした福祉施策・事業②	「精神障害者へのアウトリーチ支援」「自殺対策」「認知症高齢者等の支援施策」「ひきこもり支援施策」「発達障害者支援施策」等について学習する。
13	精神障害者等を対象とした福祉施策・事業③	「高次脳機能障害者の支援施策」「障害者虐待防止施策」「障害者差別解消施策」「アルコール依存薬物依存支援施策」等について学習する。
14	精神障害者等の福祉制度の最近の動向	近年成立した社会保障制度に関係する法制度について学習する。
15	I期のまとめ	I期の授業を振り返り、重要項目について確認する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ		科目ナンバリング	SPSC22025	
担当者氏名	中村 友昭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） 			

《授業の概要》

精神障害者に関連する制度及びサービスは多岐にわたっており、また近年、大きな変化があったものも多い。できるだけ具体的な説明を行い、事例も示しながら、わかりやすい学習の場としたい。また、Ⅱ期の13～14回目には社会調査についての講義を行う。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座 第6巻
「精神保健福祉に関する制度とサービス」第5版
中央法規出版、2017

《参考図書》

精神保健医療福祉白書 2017 ～地域での共生に向けて～
精神保健医療福祉白書編委員会=編集 中央法規出版

《授業の到達目標》

精神障害者の生活の様々な局面で、どのように制度やサービスが活かされているのか、また活かされるべきなのか具体的な説明ができるようになる。

《授業時間外学習》

事前にテキストに目を通しておくこと。まぎわらしい専門用語が多いので、ノートにまとめたり、索引を使って、こまめにチェックし意味を確かめるなどしてほしい。

《成績評価の方法》

授業に対する態度（20%）、レポートの内容（30%）、定期試験（50%）の各項目で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神障害者と社会保障医療保険制度①	精神障害者に関連する社会保障制度の特徴について考察し医療保険制度について具体的に学習する。
2	精神障害者と社会保障介護保険制度②	精神障害者に関連する社会保障制度の特徴について考察し介護保険制度について具体的に学習する。
3	精神障害者と経済的支援に関する制度①	精神障害者の経済的支援について、精神障害者との関わりに着目しながら学習する。
4	精神障害者と経済的支援に関する制度②	生活保護制度、公的年金制度等について、精神障害者の生活実態を念頭に置き、具体的に学習する。
5	精神障害者の支援にかかわる行政・民間組織等	精神障害者の支援に関わる行政組織、団体、関係機関について学習する。
6	インフォーマルな社会資源の役割	精神障害者の支援に関わるインフォーマルな社会資源の役割について学習する。
7	専門職や地域住民の役割と実際	専門職や地域住民の役割と実際について、事例を通じて具体的に学習する。
8	更生保護制度と精神保健福祉との関係①	刑事司法と更生保護について学習する。また、精神保健福祉との関係について考察する。
9	更生保護制度と精神保健福祉との関係②	司法・医療・福祉の連携の必要性と実際について学習する。
10	医療観察法①	医療観察法の意義と内容について学習する。また、精神保健参与員の役割について学習する。
11	医療観察法②	医療観察法における入院医療と通院医療について学習する。
12	医療観察法③	社会復帰調整官の役割と実際について学習する。
13	社会調査①	社会調査の意義と目的について学習する。
14	社会調査②	社会調査の実際について学習する。
15	まとめ	I期Ⅱ期を振り返り、重要事項について確認する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神疾患とその治療 I		科目ナンバリング	SPSC22026	
担当者氏名	光田 豊茂 和田 光徳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる (知識・技能の統合)			

《授業の概要》

I 期、II 期を通して精神疾患の病態と治療法、医療機関や地域でどのような支援が行われているのかについて理解を深める。I 期は主に精神疾患の捉え方と病態の基本的な知識、病気が生活に与える影響についての講義を行う。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座 1 『精神疾患とその治療』精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2012

《参考図書》

必要に応じて文献、資料を印刷して配布する。

《授業の到達目標》

主な精神疾患の病態についての基本的な知識が得られる。
精神疾患の症状と生活への影響について理解できる。

《授業時間外学習》

毎回、授業の内容を復習しておくこと。
必要に応じてレポートを課す。

《成績評価の方法》

定期試験 (60%)、レポート等の課題 (30%)、授業への参加態度 (10%)

《備考》

授業には積極的に参加し、発言すること。
課題は指定された期日までに提出すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション、こころを病む人の経験世界	精神疾患の当事者はどのような体験をしているのか？またそれに対してどのような支援が必要なのかを考え、精神疾患とその治療、支援の概要を理解する。
2	精神医療の歴史と現状	精神医療の歴史を通して、当事者がおかれてきた状況と現状、今後の課題について考える。
3	精神疾患の症状	精神疾患に伴う主な症状と生活への影響について理解する。
4	精神現象の生物学的基礎	精神疾患を理解するために必要な脳・神経系の構造と働きについての基本的な知識が得られ、脳と精神現象との関係を理解する。
5	こころの理解	精神分析の立場からこころをどう捉えるのかを知り、それが精神疾患の理解にどのように役立つのかを理解する。
6	統合失調症	統合失調症の病態、患者像について理解する。
7	統合失調症の事例検討	投稿失調症患者の事例を通して、当事者の体験と生活への影響について理解を深める。
8	気分障害	双極性障害、うつ病を中心として気分障害の病態と患者像について理解する。
9	気分障害の事例検討	気分障害の患者の事例を通して、当事者の体験と生活への影響について理解を深める。
10	神経症性障害、ストレス関連障害等	神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害の病態を理解する。パニック障害、適応障害、PTSDなどについても理解を深める。
11	パーソナリティ障害	様々なパーソナリティ障害の症状を知り、当事者の生活への影響について理解する。
12	精神遅滞、心理発達の障害など	発達の障害、小児期および青年期に発症する行動、情緒の障害について理解を深める。
13	アルコール依存、薬物依存	アルコール依存症、薬物依存症を中心とした精神作用物質使用による精神及び行動の障害を理解する。
14	認知症	アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症を中心とした器質性精神障害について理解を深める。
15	精神疾患についてのまとめ	精神疾患の病態についてのまとめを行い、「精神疾患とその治療II」につなげる。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神疾患とその治療Ⅱ		科目ナンバリング	SPSC22027	
担当者氏名	光田 豊茂 和田 光徳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）				

《授業の概要》

I期、Ⅱ期を通して精神疾患の病態と治療法、医療機関や地域でどのような支援が行われているのかについて理解を深める。Ⅱ期は「精神疾患とその治療Ⅰ」の内容を受け、精神疾患の診断と治療法についての基本的な知識を得るとともに、当事者に対する医療機関や地域における支援のあり方について講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座1『精神疾患とその治療』，精神保健福祉士養成校協会編集，中央法規出版，2012

《参考図書》

必要に応じて文献、資料を印刷して配布する。

《授業の到達目標》

精神疾患の診断と治療についての基本的な知識が得られる。当事者が疾患とともに生活して行くための支援のあり方について理解できる。

《授業時間外学習》

毎回、授業の内容を復習しておくこと。必要に応じてレポートを課す。

《成績評価の方法》

定期試験（60%）、レポート等の課題（30%）、授業への参加態度（10%）

《備考》

授業には積極的に参加し、発言すること。課題は指定された期日までに提出すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション、支援と多職種連携	精神疾患の当事者に対して支援が行われ、それにはどのような職種が関わり連携しているのか、その概要を理解する。
2	精神疾患の診断と治療	精神疾患の分類と診断方法、検査等についての基本的な知識を得る。また医療機関等でどのような治療がなされているのか、その概要を理解する。
3	精神科医療機関での入院治療	精神科医療機関での入院治療について、当事者がたどるプロセスを理解する。また精神科病院の機能についても理解を深める。
4	精神科における人権擁護	精神科の入院形態について理解するとともに、行動制限や隔離・拘束等精神科特有の治療と法的根拠、人権擁護との関連性について理解する
5	薬物療法の基本知識	抗精神薬についての基本的知識を得るとともに、当事者にとっての服薬継続の意味について考える。
6	薬物療法の継続	薬物療養中断患者の事例をもとに、治療継続の困難さを当事者の立場から考え、理解を深める。
7	身体療法と精神療法	精神療法と身体療法についての基本的な知識を得る。
8	精神科リハビリテーション	精神科リハビリテーションについての基本知識を得る。またSST、作業療法等、リハビリテーションの実例も紹介する。
9	SST演習	課題を決めてSSTを行い、精神科リハビリテーションについての理解を深める。
10	退院支援	医療機関で行われている退院支援について理解する。また長期入院から地域生活への移行等、現代の精神科医療の傾向とその課題についても理解を深める。
11	地域生活の支援1	デイケア、デイナイトケア、就労支援等、当事者が地域生活を継続できるための社会資源について理解する。
12	地域生活の支援2	外来診療、訪問看護等、地域での生活を継続するための医療的支援について理解する
13	治療導入への支援・再発防止への支援	医療機関や福祉と学校との連携、産業保健など、早期治療に結びつけるための支援や心理教育等、再発防止のための支援について理解する。
14	医療観察法対象者の支援	医療観察法対象者の支援と意義について講義し、理解を深める。
15	精神科の治療と支援のまとめ	Ⅱ期のまとめを行う。また近年の精神科医療の動向と課題についても理解を深める。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）		科目ナンバリング	SPSC22028
担当者氏名	正井 佳純			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要、精神障害者の相談援助に係る専門職（精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲について理解する。また、精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲や、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む）の意義と内容について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ①精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方
 - ②相談援助に係わる専門職の概念と範囲
 - ③精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲
 - ④精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容
- 上記①②③④について説明し自分の意見が言えるようになる。

《成績評価の方法》

授業への参加意欲、態度 20%
 レポート等の提出 20%
 定期試験 60%

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座 3 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門） 第2版』日本精神建研福祉士養成校協会編 中央法規 2015年

《参考図書》

『エコロジカルソーシャルワーク カレル・ジャーメイン名論文集』カレル・ジャーメイン他著、小島蓉子編訳・著 学苑社 2011年
 『ソーシャル・ケース・ワークとは何か』メアリー・E・リッチモンド著、小松源助訳 中央法規 1991年

《授業時間外学習》

各回の講義の前にテキストの該当箇所を目を通し、予習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	この講義のねらい
2	相談援助の対象と相談援助の基本的考え方①	精神保健福祉におけるソーシャルワークの視点
3	相談援助の対象と相談援助の基本的考え方②	保健・医療・福祉の相談援助の対象及び基本的考え方
4	相談援助に係る専門職①	医療機関における専門職
5	相談援助に係る専門職②	福祉行政・関連行政機関等における専門職
6	相談援助に係る専門職③	施設における専門職
7	相談援助に係る専門職④	他機関との連携の実践
8	権利擁護の意義と範囲①	精神障害者の理解
9	権利擁護の意義と範囲②	精神障害者の理解
10	権利擁護の意義と範囲③	相談援助における権利擁護の概念と範囲
11	精神保健福祉活動①	精神障害者の理解／人権擁護と精神保健福祉士の役割
12	精神保健福祉活動②	総合的かつ包括的な援助の意義と内容
13	精神保健福祉活動③	多職種連携（チームアプローチ）の意義と内容
14	精神保健福祉活動④	実際の多職種連携
15	まとめ	本講義で学んだことに関するふりかえり

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	福祉レクリエーションⅠ	科目ナンバリング	SFFD22029
担当者氏名	マーレー 寛子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

レクリエーションが単なる時間つぶしではなく、人間が人間らしく生きるために必要不可欠であり権利である等支店から、「楽しむ」ことの重要性について学ぶ。また、その関連理論について学ぶ。

《テキスト》

「よくわかる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル1」日本レクリエーション協会編、2013

《参考図書》

「フロー・楽しみの現象学」M. チクセントミハイ

《授業の到達目標》

福祉レクリエーション支援の土台となる楽しさの経験について理論的に理解することが出来る。また、実際の福祉レクリエーション支援を理論に基づいて実施するための諸理論を学び具体的な支援と結びつけることが出来る。

《授業時間外学習》

課題レポート：授業ないで示される課題についてリサーチし、レポートをまとめる

《成績評価の方法》

課題レポート(期日厳守) 50% 振り返りテスト(コースの最終日に行う。持ち込み不可) 50%
 提出物についてはコメントを付記し返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	レクリエーションの意義①	レクリエーションの意義その背景を理解する
2	レクリエーションの意義②	楽しさの追求についての理解を深める
3	レクリエーションの意義③	福祉レクリエーション支援と楽しさの経験について理解する
4	レクリエーションの意義④	レジャーとレクリエーションの意味について説明することが出来る
5	レクリエーション支援①	内発的動機付けとレクリエーション支援の関係について理解出来る
6	レクリエーション支援②	レクリエーション支援の中での自己決定の意義と役割を説明することが出来る
7	レクリエーション支援③	レクリエーション支援とフロー理論について理解出来る
8	レクリエーション支援と理論①	楽しさの経験とその諸理論について説明することが出来る
9	レクリエーション支援と理論②	グループワークの諸理論とレクリエーション支援との関係を理解出来る
10	レクリエーション支援と理論③	グループダイナミクスとレクリエーション支援について説明出来る
11	リーダーシップ論	リーダーシップ論について説明出来る
12	セラピューティックレクリエーションとは	セラピューティックレクリエーションについての理解を深める
13	行動変容と自己効力感	行動変容と自己効力感の関係を理解する
14	福祉レクリエーションワーカーの役割と資質	福祉レクリエーションワーカーの役割と資質について説明出来る
15	まとめ	これまでの学習内容を振り返り、学んだ内容を説明することが出来る

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	福祉レクリエーション演習 I A		科目ナンバリング	
担当者氏名	田島 栄文			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

福祉現場におけるレクリエーションの意義や社会福祉支援者に必要なレクリエーション活動支援技術を理解し、レクリエーション活動支援計画の作成能力や実践技術を習得向上する。対人関係の基本から学び、集団型レクリエーション活動支援の体験や演習を展開していく。

《授業の到達目標》

1. 福祉現場におけるレクリエーションの意義を理解する。
2. 支援者に必要なレクリエーション活動支援技術を理解する。
3. レクリエーション活動支援計画の作成ができる。
4. 集団型レクリエーション活動の支援ができる。

《成績評価の方法》

授業終了後の振り返りカード提出30%、実技指導評価30%、最終レポート提出点40%

《テキスト》

よくわかる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル 楽しさの追求を支えるための介入技術 見通しと根拠をもって個人やグループを支える方法 日本レクリエーション協会 2013

《参考図書》

「レクリエーション支援の基礎—楽しさ・心地よさを生かす理論と技術—」日本レクリエーション協会 2007
 「リハビリテーションとレクリエーション援助」嵯峨野書院 1998
 「楽しいアイスブレイキングゲーム集」日本レクリエーション協会 2002

《授業時間外学習》

授業後に配布プリントを確認・整理しながらマイノートをまとめ、振り返りカードを貼り付けるようにしてください。

《備考》

レクリエーション実践がしやすいような服装で授業に臨んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	I. コミュニケーションワーク①	ホスピタリティーとは
2	コミュニケーション・ワーク②	ホスピタリティーの示し方
3	コミュニケーション・ワーク③	アイスブレイキングとは
4	コミュニケーションワーク④	アイスブレイキングの方法
5	II. 目的に合わせたレクリエーションワーク①	目的に沿ったアクティビティーの選択
6	II. 目的に合わせたレクリエーションワーク②	アクティビティーの選択方法
7	II. 目的に合わせたレクリエーションワーク③	相互作用の活用方法 1
8	II. 目的に合わせたレクリエーションワーク④	相互作用の活用方法 2
9	II. 目的に合わせたレクリエーションワーク⑤	支援実習 1
10	II. 目的に合わせたレクリエーションワーク⑥	支援実習 2
11	III対象にあわせたレクリエーション・ワーク①	対象にあわせたレクリエーション・ワークの実践演習①
12	III対象にあわせたレクリエーション・ワーク②	対象にあわせたレクリエーション・ワークの実践演習②
13	III対象にあわせたレクリエーション・ワーク③	対象にあわせたレクリエーション・ワークの実践演習③
14	III対象にあわせたレクリエーション・ワーク④	対象にあわせたレクリエーション・ワークの実践演習④
15	III対象にあわせたレクリエーション・ワーク⑤	対象にあわせたレクリエーション・ワークの実践演習⑤

科目名	福祉レクリエーション演習 I B		科目ナンバリング	
担当者氏名	田島 栄文			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

福祉レクリエーション演習 I Aに引き続き、I Bとして、様々なレクリエーション活動の素材に内在する楽しさや喜びを体験・理解し、その展開法（アレンジ法）を習得する。集団型レクリエーション支援に続けて、個別のレクリエーション支援の方法も学ぶ。またグループワークによる行事の企画運営の演習を通じて福祉現場に活かすことのできるレクリエーション支援能力を養う。

《授業の到達目標》

1. 音楽活動・クラフト活動・生涯スポーツ活動等を通じ、福祉サービス利用者の個性に応じた集団型レクリエーションの支援、及び個別レクリエーション支援の計画を考え、実践できる。

《成績評価の方法》

授業終了後の振り返りカード提出30%、実技指導評価30%、最終レポート提出点40%
 提出物については、コメントを付記して返却する。

《テキスト》

よくわかる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル 楽しさの追求を支えるための介入技術 見通しと根拠をもって個人やグループを支える方法 日本レクリエーション協会 2013

《参考図書》

「レクリエーション支援の基礎—楽しさ・心地よさを生かす理論と技術—」日本レクリエーション協会 2007
 「リハビリテーションとレクリエーション援助」嵯峨野書院 1998
 「楽しいアイスブレイキングゲーム集」日本レクリエーション協会 2002

《授業時間外学習》

授業後に配布プリントを確認・整理しながらマイノートをまとめ、振り返りカードを貼り付けるようにしてください。

《備考》

レクリエーション実践がしやすいような服装で授業に臨んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	IV演習 集団型レクリエーション演習 1-1	集団レクリエーション支援 1（音楽活動）
2	集団型レクリエーション演習 1-2	集団レクリエーション支援 2（音楽活動）
3	集団型レクリエーション演習 1-3	集団レクリエーション支援 3（クラフト活動）
4	集団型レクリエーション演習 1-4	集団レクリエーション支援 4（クラフト活動）
5	集団型レクリエーション演習 1-5	集団レクリエーション支援 5（生涯スポーツ活動）
6	V対象にあわせたレクリエーション・ワーク	指導実習 2-1（生涯スポーツ活動）
7	対象にあわせたレクリエーション・ワーク	指導実習 2-2（生涯スポーツ活動）
8	VI演習 個別レクリエーション支援 2-1	個別レクリエーション支援 演習 1（音楽活動）
9	個別レクリエーション支援 2-2	個別レクリエーション支援 演習 2（音楽活動）
10	個別レクリエーション支援 2-3	個別レクリエーション支援 演習 3（クラフト活動）
11	個別レクリエーション支援 2-4	個別レクリエーション支援 演習 4（クラフト活動）
12	個別レクリエーション支援 2-5	個別レクリエーション支援 演習 5（生涯スポーツ活動）
13	個別レクリエーション支援 2-6	個別レクリエーション支援 演習 6（総合的活動）
14	個別レクリエーション支援 2-7	個別レクリエーション支援 演習 7（総合的活動）
15	個別レクリエーション支援 2-8	個別レクリエーション支援 演習 8（総合的活動）

科目名	生活支援技術	科目ナンバリング	SFFD22031
担当者氏名	小倉 毅		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

生活支援技術は、介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていくことを実感でき、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることが重要である。そこで利用者個人の尊厳を保持しながら、日常生活を営む上で無意識に行う「移動すること、食事をする、身支度をする」といった一連の活動について理解するとともに、その人にあった生活支援方法について理解する。

《授業の到達目標》

- ① 個別性に応じたベッドメイキングができる。
- ② 身支度についての意義と目的を理解し、利用者に応じた着脱支援ができる。
- ③ 移動、食事の介護の意義と目的を理解し、利用者の状況に応じた支援ができる。
- ④ 入浴や排せつの意義と目的を理解し、利用者に応じた支援ができる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への参加とその成果（20%）
実技実習が殆どです。実習態度については随時説明します。
- (2) 課題レポート・小テスト（20%）
分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。
- (3) 定期試験（50%）

《テキスト》

生活支援技術Ⅱ
介護福祉士養成テキスト 中央法規出版

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- 1) 予習：予習課題については授業時に指示します。
- 2) 復習：授業内容を再度確認すること。理解が十分でない場合は、積極的に質問して下さい。

《備考》

- ① 私語をはじめ、他の受講者の迷惑なる行為は慎むこと。
- ② 生活支援技術実習を行うため、遅刻は一切認めません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	環境を整える生活支援技術	個別に応じたベッドメイキングを理解する。
2	身じたくの生活支援技術①	整容の生活支援技術におけるアセスメントを理解し、洗面支援、爪の手入れ、皮膚の清潔などを理解する。
3	身じたくの生活支援技術②	口腔ケアの目的と効果を理解し、口腔ケアの方法について理解する。
4	身じたくの生活支援技術③	衣服の種類と選択に必要な視点を理解し、衣服の着脱方法を理解する。
5	移動の生活支援技術①	自立生活を支える移動・移乗の生活支援技術と、アセスメントに必要な状態像を理解する。
6	移動の生活支援技術②	移動・移乗の基本的理解を行う。①ボディメカニクス、②体位交換を理解する。
7	移動の生活支援技術③	移動・移乗の基本的理解を行う。①ベッド上の移動介助を理解する。
8	移動の生活支援技術④	移動・移乗の基本的理解を行う。①ベッドから車いすへの移乗介助を理解する。
9	移動の生活支援技術⑤	移動・移乗の基本的理解を行う。①車いす介助について（室内移動・屋外移動）を理解する。
10	移動の生活支援技術⑥	移動・移乗の基本的理解を行う。①歩行介助 ②杖歩行と道具・用具の種類について理解する。
11	食事の生活支援技術①	食事介助におけるアセスメントを理解し、生活支援技術の実際を理解する。
12	入浴・清潔保持の生活支援技術①	入浴・清潔保持の生活支援技術におけるアセスメントを理解し、事故予防について理解する。
13	入浴・清潔保持の生活支援技術②	個別性（自立・一部介助・全介助）に応じた入浴支援技術と部分浴について理解する。
14	排せつの生活支援技術①	排せつの生活支援技術におけるアセスメントを理解し、支援方法を学ぶ。①車いす生活者の生活支援技術を学ぶ。②ポータブルトイレ介助を理解する。
15	排せつの生活支援技術② まとめ	排せつの生活支援技術を学ぶ。①ベッド上における排せつ介助 これまで学んだ生活支援技術を用いて、総合的に生活支援技術を活用する。

科目名	病気の理解	科目ナンバリング	SFFD23029
担当者氏名	和田 光徳		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

ソーシャルワークは「全人的理解：Bio・psycho・social・cultural」としながら、「Bio」については、理解が置き去りにされてきたという指摘がある。人間である以上生物学的理解は不可欠であり、現在の多職種協働の支援システムとしても必須の共通知識といえる。本講義は単に医学的知識の習得だけを目的とするのではなく、ソーシャルワークの視点から「病気」を全人的に理解するところに立つことを目的とする。

《授業の到達目標》

1. 全人的理解の視点を習得する。
2. 健康・不健康と社会的要因の関連を理解する。
3. 人体の構造・機能の変調を症状として説明できる。
4. 症状をソーシャルワーク・アセスメントとして活用できる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への参加（演習、意見表明や質問等） 態度 30%
 - (2) 授業内発表とレポート提出 10%
 - (3) 定期試験 60%
- 提出物については、コメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	疾患理解とソーシャルワーク（疾患と病気）	疾患と病気の概念の違いから、疾患から派生する個人及び社会での意味、さらに実存的課題にまで影響が及ぶ「病気」を、ソーシャルワークの視点から理解する。
2	関連領域の理論（社会的要因と健康）	応用医学のひとつである社会医学や、疾病予防・健康の維持増進に関わる公衆衛生の概要から、社会的要因と健康との関係について理解を深める。
3	介護・福祉領域における身体アセスメントの意義	高い死因順位である循環器疾患の代表的なものについて、学生自らが学習・発表する。疾患と症状、障害の状態から、治療過程に応じた生活課題、生態学的理解につなげる。
4	循環器の機能と疾患	リハビリテーションには語源的に「復権」という意味もある。ソーシャルワーカーにとって有用な概念であるリハビリテーションと障害の概念について理解する。
5	呼吸器の機能と疾患	現代の医学的治療は最新の検査機器とその検査内容の結果によって、診断・治療が進められる。全人的理解のためにソーシャルワーカーにとって不可欠な知識を習得する。
6	各種検査と理解	身体アセスメントに最低限必要な解剖・生理を理解し、その結果としての数値の意味を知る。
7	身体アセスメント①	メディカル・シミュレーションセンターを活用した身体アセスメントの実際
8	身体アセスメント②	メディカル・シミュレーションセンターを活用した身体アセスメントの実際
9	こころの健康に関係する生理・解剖学的要素	脳-中枢神経から末梢神経にいたる神経回路について学ぶ
10	こころの健康に関係する生理・解剖学的要素	こころは見えないものではなく、存在が確認される神経伝達物質やホルモンのバランスによって、心理社会的に強く影響を受けることを理解する
11	リハビリテーション医学とソーシャルワーク	リハビリテーションの歴史と障害福祉との関係、リハビリテーション概念の整理について学ぶ。
12	検査、判定基準の用語について調べる	クリティカルパスやリハビリテーション関連で多用される検査、判定基準の内容について学生自身が調べ、授業内発表する（レポートとして提出する）。
13	リハビリテーション医学とソーシャルワーク	ICFの考え方と法的、サービスとしての適用について学ぶ
14	高齢者疑似体験	廃用症候群、生活機能低下と言われる状態を疑似体験パーツを使用して体感する。
15	病気と社会	移植医療、脳死、延命治療など、地域包括ケアで問われる「本人・家族の選択と心構え」について考察を深める。

《テキスト》

授業内容に即したプリントを配布します。

《参考図書》

新・社会福祉士養成講座「人体の構造と機能及び疾病」 中央法規 2015

《授業時間外学習》

臓器の構造と働きを理解し、その変調である「症状」がなぜ表れるのかの生理学的理解を求めます。さらにその症状や障害が、その人の生活にどのように影響を及ぼすのかといった生態学的理解に広げます。したがって、解剖学・生理学など自己学習に努めるとともに、ソーシャルワーク理論についても並行して学習を深めてください。

《備考》

看護学科の公開講義である「臨床病理病態学」の履修を勧めます。

科目名	ケアマネジメント論 I		科目ナンバリング	
担当者氏名	竹内 一夫			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 			

《授業の概要》

ケアマネジメントは高齢者支援だけでなく、障害者支援についても有効な支援技術である。この講義ではケアマネジメントについての基礎理論と、支援計画作成に至るまでの各プロセスと、支援者の持つべき基礎知識と専門職としての視点について検討を加える。

《テキスト》

ケアマネジメントの進め方 渡部律子編著 兵庫県介護支援専門員協会編 2015

《参考図書》

5訂介護支援専門員実務研修テキスト 介護支援専門員実務研修テキスト作成委員会編 長寿社会開発センター 2012

《授業の到達目標》

ケアマネジメントの支援プロセスがわかり、インテーク、アセスメントに基づく、解決課題の抽出と、支援方法の組み立てについて理解できるようになる。

《授業時間外学習》

高齢者サービス、障害者サービス、また、難病患者等への支援などについて、常に敏感に情報を集め、それについての検討を行う姿勢を持ち続けてほしい。専門雑誌等にも目を注ぐこと。

《成績評価の方法》

この授業の評価は、以下に示す評価項目と、比率により、評価がなされる。その項目と比率は次の通り。授業への参加度30% 課題評価20%、課題ケアプランの作成と提出50%
*提出物についてはコメントをつけて返却する。

《備考》

高齢者、障害者の生活ニーズについて、常に新聞等の記事に注意を払ってしておくこと。授業は時間厳守で出席すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ケアマネジメントの目指すところを理解する	ケアマネジメント開発に至る経緯と、これまでの支援技術との差異について学ぶ。
2	介護保険制度とケアマネジメント	我が国で介護保険制度にケアマネジメントの手法が組み入れられた目的、また実施上で生じた問題点について検討する
3	ケアマネジャーの機能と役割	対人援助専門職としての支援技術に加え、ケアマネジャーは利用者との間で、どのような機能を求められ、どのような立ち位置が必要とされるのかを検討する
4	ケアマネジメントの過程 インテーク	第一段階の契約に至るインテークでの留意点、また、利用者理解のための情報収集の視点について、事例を活用しながら検討する
5	ケアマネジメントの過程 アセスメント	利用者のおかれた環境、利用者自身についてのポジティブアセスメントとネガティブアセスメントの重要性について検討する
6	ケアマネジメントの過程 追加情報の収集と分析	アセスメントの深化のためにどのような追加情報を求めるのか、情報と情報の関連性を見出すためにはどのように対話を展開するべきかなど、情報収集のスキルを検討する
7	ケアマネジメントの過程 解決課題の抽出	最も効果的で、最も効率的な支援のためには、解決課題が適切に抽出されることが不可避の要件である。アセスメントの結果を生かす課題抽出を検討する。
8	ケアマネジメントの過程 支援計画の検討	支援方法は何通りもあることを事例を使って追体験してもらい、何を要因に支援計画を決定すべきかを検討する
9	ケアマネジメントの過程 支援方法の決定	支援計画を基にして、いかに効率的・効果的な支援方法（具体的なサービスの導入）を組み立てつかについて検討する
10	ケアマネジメントの過程 支援の実施	対人援助の支援の実施での、支援者の留意点。特に利用者の心理的、身体的負担に関する、留意の必要性について検討する
11	ケアマネジメントの過程 効果のモニタリング	支援はいかなるものでも、必ず効果と、介入による反作用とを生じる。モニタリングでは、どのような変化も的確にとらえる視点を検討する
12	ケアマネジメントの過程 支援方法の修正	より効果的な変化を生み出すための修正が常に求められている。モニタリングの結果を参考に何を残し何を加えるべきかの視点を持つことの重要性について検討する
13	事例検討による支援過程の確認 介護予防	介護予防の事例ではどのような視点で、自立支援に向けてのプログラムを組むべきか、どのように利用者を動機付けるかを検討する
14	事例検討による支援過程の確認 要介護	過不足のない支援の在り方とはどのようなものか、事例を使いながら、サービスの量による利用者の生活状況をシミュレートし、適切な支援とはを考える
15	ケアマネジメントでの留意点のまとめ	ケアマネジメントは単にサービスと利用者をつなげる道具ではなく、自立支援に向けての働きかけであることを確認し、ケアマネジャーの姿勢を考える

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	ケアマネジメント論Ⅱ		科目ナンバリング	
担当者氏名	竹内 一夫			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）			

《授業の概要》

この講義では、これまでの学習を基に、具体的なケアプランの作成について、事例を使い、ケアマネジメントのプロセスをトレースしながら、効率的効果的な、また過不足のないケアプランが作成できるように、学習を進めていく。

《テキスト》

ケアマネジメントの進め方 渡部律子編著 兵庫県介護支援専門員協会編 中央法規 2015

《参考図書》

5訂介護支援専門員実務研修テキスト 介護支援専門員実務研修テキスト編集委員会編 長寿社会開発センター 2013

《授業の到達目標》

受講生各自が、与えられた事例を基に、解決課題を抽出し、支援計画（ケアプラン）が組めるようになる。授業は講義と事例を使つての演習、ロールプレイで構成される。

《授業時間外学習》

支援に有効な社会資源の発見は、ケアマネジャーに常に求められる課題である。メディアの情報、地域社会の観察等常に自身の周りに目を注ぎ、支援に有効なものを見つけ出す努力をしてほしい。

《成績評価の方法》

授業態度、課題の成果、試験レポートの各項目で評価する。各評価項目の成績への関与率は、授業参加度30%、課題20%、試験レポート50%

*提出物に関しては、コメントを付記して返却する。

《備考》

授業には時間厳守で出席のこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ケアプラン作成の心得	全人格的な視点での、またBIO-PSYCHO-SOCIALな視点からのニーズ把握が必須であり、利用者の立場に立つてのケアプランがすべてを決めることを確認する。
2	面接技術：留意すべき態度	バイステティックの7原則を中心に、コミュニケーションでの留意点について確認し、時間を有効に使う面接技術として、予備的共感についても検討する
3	面接技術：聞いてまとめる	ロールプレイを活用しながら、どのように利用者の話を聞き、深め、どのように聞いたことをまとめて伝えると、利用者に伝わるのかを検討する
4	受理面接：相談、サービスの説明、契約	ケアマネジャーの仕事をどのように説明し、また利用するであろうサービスをどのように説明するのか、ロールプレイを使って学びを深めていく
5	アセスメントとニーズ把握	利用者の困りごとからニーズを把握し、それを返していくプロセスをいかに有効に進めるか、体験を通してまとめていく
6	解決課題の抽出	解決課題の抽出には、利用者にとって最も負担が少なく、有効性が高く、汎用性が高いものを抽出するというルールがある。これをどう実現するか、模擬面接の中で確かめる
7	ケアプランの作成：考える最良のプラン 1	出来上がったプランが、利用者にとってどのようなプランであるかを検討する。出てくる反省事項まとめる
8	ケアプランの作成：考える最良のプラン 2	プラン1での反省事項を基に、より良いプランを考える。利用者にとってどのような意味を持つものであるか、意向を汲んでいるかを検討する
9	ケアプランの作成：考える最良のプラン 3	プランの中で、不要なものを省き、かけていたものを補充し、意向を汲んで組み上げたプランは？
10	要介護利用者のケアプラン	要介護利用の事例を用い、グループで、これまでの学習から、最適なケアプランの作成を行い、相互評価を行う（ピアレビューに変えて）
11	要支援利用者のケアプラン	要支援利用の事例を用い、グループで、これまでの学習から、最適なケアプランの作成を行い、相互評価を行う（ピアレビューに変えて）
12	介護予防ケアプラン	介護予防利用の事例を用い、グループで、これまでの学習から、最適なケアプランの作成を行い、相互評価を行う（ピアレビューに変えて）
13	ケア会議でのケースプレゼンテーション	事例の概要を他者にわかりやすく、5分間で適切に説明する（ケアマネジャーとして不可欠なスキル）ことにグループで取り組み、相互評価を行う
14	サービス担当者会議の在り方を学ぶ	チームアプローチ、地域包括ケアが求められる現場の中で、どのようにサービス担当者会議が運営されるべきか検討する
15	チームアプローチとケアマネジャー	ケアマネジャーはケアチームのチームリーダーである。リーダーの役割、リーダーの責任について検討する

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	SFFD22032
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）		

《授業の概要》

教育科学の一分野であり、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、教育における心理学的領域の理解をめざすとともに人間科学的な視点を養う。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などについて学び、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得とそれぞれの専門領域の教育に応用する方法を学習する。

《授業の到達目標》

○教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。○自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめることができる。○教育効果の検証（評価）ができる。○教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。○障害をもつ子どもの学習や発達を理解し、「学び」について考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30%）、定期試験（70%）
 課題の提出については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

テキストは使用しない。
 必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房
 その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。
 授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通し、期限内に作成して提出する。

《備考》

目的意識を持ち主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、参加状況を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達
5	発達の基礎理論（3）	発達課題
6	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
7	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
8	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
9	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
10	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
11	教育評価（2）	測定と評価の実際
12	教授過程	学習指導法、授業の最適化
13	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
14	不適応行動 「障害」の理解	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害 障害をもつ子どもの教育、学習（学び）の課程
15	教育における心理学の働き、まとめ	教育相談、集団の機能と構造、人間関係 これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

科目名	国際福祉論	科目ナンバリング	SFFD24033
担当者氏名	齋藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）		

《授業の概要》

福祉国家政策は国民生活の安定と向上を目指し、新たな社会問題の出現とともに守備範囲を拡大させてきた。本講義では、社会福祉や社会保障制度の仕組みや政策を比較することの意義やその手法について学ぶ。その上で福祉国家の類型を代表する諸外国と日本の制度や社会状況を比較し、共通点や相違点、制度発展の社会・経済・歴史的背景について学ぶ。

《テキスト》

市販の教科書は使用しない。プリントを配布する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

福祉国家政策を比較する視点、分類基準について理解する。福祉国家類型を代表する諸外国や急速に福祉国家化が進む東アジアの精度の特質や発展過程を理解する。諸外国との比較を通じて、日本の福祉国家制度の水準や特質、制度形成の背景についてより深く理解することができるようになる。

《授業時間外学習》

授業で使用するプリントに事前に目を通しておくこと。授業で扱うトピックスの基礎的な情報や動向については、新聞や書籍、ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し、疑問や関心を持った上で受講することが望ましい。

《成績評価の方法》

定期試験70%、授業への参加とその成果30%

《備考》

今日日本では経済的繁栄を優先する政策運営には見直しが迫られており、福祉国家のあり方にも大きな変化が進行しつつある。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	福祉国家の国際比較 (1)	福祉国家・社会政策・社会保障の定義、福祉国家政策の動向
2	福祉国家の国際比較 (2)	福祉国家が直面する現代的課題 (1) 少子高齢化問題 1
3	福祉国家の国際比較 (3)	福祉国家が直面する現代的課題 (2) 少子高齢化問題 2
4	福祉国家の国際比較 (4)	福祉国家が直面する現代的課題 (3) 格差問題
5	福祉国家の国際比較 (5)	生活満足度・社会に対する評価（国際比較）
6	世界の福祉国家と分類基準 (1)	福祉レジーム論
7	世界の福祉国家と分類基準 (2)	日本の福祉レジームの位置づけ
8	世界の福祉国家と分類基準 (3)	Better Life Indexを用いた比較
9	イギリスの福祉国家政策 (1)	古い伝統を有するイギリス福祉国家政策の源流をたどる（歴史的経緯）
10	イギリスの福祉国家政策 (2)	イギリス福祉国家政策の現在を学ぶ
11	スウェーデンの福祉国家政策	高福祉高負担の北欧型福祉国家のあり方をスウェーデンを通じて学ぶ
12	アメリカの福祉国家政策	市場重視型の新自由主義的福祉国家を代表するアメリカの制度について学ぶ
13	ドイツの福祉国家政策	社会保険方式の福祉国家を代表するドイツの制度について学ぶ
14	韓国や台湾の福祉国家政策	近年急速に福祉国家が進む韓国と台湾の制度について学ぶ
15	東アジア諸国の福祉国家政策	韓国や台湾を除く東アジア諸国の状況について学ぶ

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論	科目ナンバリング	STAL42004
担当者氏名	古田 薫、廣岡 義之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育課程の編成と実施にあたっては、教育課程の構造と基礎的な編成原理、および基準となる学習指導要領の内容と法的性格について理解しておく必要がある。本授業は、これらの理解を深め、教育課程編成における教師の役割の重要性について考察することを目的とする。教育課程の理論的な枠組や主要論点を整理し、教育課程の実際と、新学習指導要領の要点、現代的課題についての理解を深める。

《授業の到達目標》

- 教育課程の構造と基礎的な編成原理について理解している。
- 学習指導要領の内容と法的性格について理解している。
- 学習指導要領の変遷とその背景について理解している。
- 児童生徒の個人差のとらえ方と教育課程編成における個人差の取り扱いについて理解している。
- 学習指導案の書き方を理解し、目的に応じた指導案を作成することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
 - ②課題の提出と完成度 30%
 - ③定期試験 50%（持ち込み不可）
- ※提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

広岡義之（編著）『はじめて学ぶ教育課程論（仮題）』ミネルヴァ書房、2016年
『中学校学習指導要領』文部科学省、2008年

《参考図書》

『高等学校学習指導要領』文部科学省、2008年
田中耕治（編）『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年

《授業時間外学習》

参考資料を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育課程とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育課程とは何か、教育課程の意義と必要性について理解を深める。
2	学校教育の目的・目標と 教育課程	・教育行政における教育課程の位置づけ ・教育課程の法的性格
3	学力観と学習指導要領の 変遷①	・学習指導要領の変遷とその背景（戦後～1970年代）
4	学力観と学習指導要領の 変遷②	・学習指導要領の変遷とその背景（1980年代～現在）
5	教育課程の管理と運営	・学校における教育課程の管理・運営の実際
6	カリキュラムの構造と類 型	・カリキュラムの歴史、さまざまなカリキュラムの類型とその特徴
7	教育課程における個人差 の取り扱い	・個人差とは、個に応じた指導とは ・個人差と教育課程
8	教育課程編成の基礎原理	・教育課程編成の基礎原理について理解する。 ・教育内容をいかにしてデザインするかを理解する。
9	学習指導案の書き方	・指導案の構成と作成手順 ・作成上の留意点
10	小学校教育課程の構成	・小学校教育課程における教授内容や課題を具体的に探究する。 ・総合的な学習の時間について教育内容の構成と実施について考察する。
11	中学校教育課程の編成	・中学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
12	高等学校教育課程の編成	・高等学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
13	教科書制度	・教育課程における教科書の位置づけ ・教科書の無償措置および検定制度
14	諸外国の教育課程	・各国の教育課程に関する制度と実情
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論	科目ナンバリング	STAL42005
担当者氏名	砂子 滋美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

学習指導要領の中で特別活動の枠組みと内容を十分に理解する。また実践力を養成するために、基礎的・基本的な知識とそれを活用できる力の習得を目的とする。①わが国の特別活動の歴史と変遷について ②特別活動の意義と目的について ③学習指導要領における特別活動の位置づけについて ④他の教育領域との関わりについて等を中心に授業展開をする。

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、我が国の特別活動の変遷を歴史的に考慮して特別活動が小学校・中学校・高等学校においてどのように営まれているか、などを基本的に理解する。

《成績評価の方法》

到達目標に関わる定期試験(60%)、授業態度(20%)、ミニレポート(20%)により評価する。

小テストやレポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい特別活動-理論と実践』 (ISBN978-4-623-07258-3) ミネルヴァ書房 2015年

《参考図書》

文部科学省 『学習指導要領 小学校 中学校 高等学校』 2012年、『教育人間学的視座から見た「特別活動と人間形成」の研究』大学教育出版 2009年、広岡義之編著 『新しい特別活動論』創言社 2009年

《授業時間外学習》

受講前に、教材の指定された部分をよく読んでおくこと。講義後のノートの整理に十分に時間をかけること。理解が十分でなかった部分は、自分で学習する、それでも理解が十分でないところは、次回の授業にて講師に質問する準備をする。

《備考》

積極的な授業参加に加えて、講義内容に関心を寄せ、十分に理解することができる状況をつくる努力を怠らないようにすることが必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	学習指導要領、テキスト、副教材などの紹介と受講姿勢のあり方の指導と特別活動全体について概略的な説明をする。この授業で到達すべき目標について考える。
2	特別活動と学習指導要領の変遷。特活への期待	戦後特別活動の実施の経緯と発展を学習指導要領の変遷の中で確かめ、特別活動の本質を探る。特別活動の充実は学校生活の満足度に関係することを理解する。
3	特別活動の目標	学習指導要領の特別活動の目標を紹介し、解説・分析し理解する。
4	特別活動と学習指導要領	特別活動の「意義」を学習指導要領の内容と関わって明確にする。
5	特別活動の内容(学級活動・ホームルーム)Ⅰ	特別活動における学級活動・ホームルームの位置づけ、内容を説明し、その特徴を明確にする。
6	特別活動の内容(学級活動・ホームルーム)Ⅱ	学級活動・ホームルームの学級内の組織づくりや仕事の分担処理の方法を理解する。
7	児童会・生徒会活動と学習指導要領	児童会・生徒会活動の内容を解明し、その特徴を特別活動の目標達成に生かすことを理解する。
8	学校行事(儀式的行事)について	儀式的行事の内容と意義を理解し、これらの行事の課題について考える。
9	文化的行事について	文化的行事の内容と特徴を理解し、教科指導と特別活動との関連を明確にする。
10	健康安全・体育的行事について	健康安全・体育的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
11	旅行・集団宿泊的行事について	旅行・集団宿泊的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
12	勤労生産・奉仕的行事について	勤労生産・奉仕的行事の内容と特徴を理解し、これらの行事の課題について考える。
13	特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い	指導計画作成や内容の取り扱いについて理解し、入学式や卒業式などにおける国旗および国歌の取り扱いを明確にする。
14	特別活動学習指導案作成	学級の児童・生徒の様子から、題材を設定し学習指導案を作成し、本時のねらいを達成する授業展開を考える。
15	講義全体のまとめをする	特別活動はいつの時代にも、常に学校生活の基礎として重要な役割を果たしていることや特別活動の充実が学校生活の満足度に深く関わっている等を振り返る。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論	科目ナンバリング	STAL42006
担当者氏名	吉永 潤		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本講義では、学習者が能動的に参加するような授業を展開するための基本的な方法・技術を学ぶ。特に、学習者の思考を触発し、教科内容の本質に迫らせる問いや課題を設定する方法と、その問い・課題をめぐる学習者の考え・意見の交流を支援する方法、および、そのような学習を評価する方法が軸となる。

《テキスト》

特に指定しない。必要に応じてワークシートを配布する。

《参考図書》

吉永潤『社会科は「不確実性」で活性化する』東信書房、2015年。

《授業の到達目標》

①授業が、教科内容伝達の場合だけでなく、学習者の思考と試行錯誤の場合であることが理解できる。②そのような授業の展開のためには的確な方法・技術が必要であることが理解できる。③ペーパーテストのみに依存しない多様な観点での学習者評価の意義と方法が理解できる。④以上を踏まえた学習指導案を作成できる。⑤開発した学習指導案につき、相互に適切に評価・批評し合うことができる。

《授業時間外学習》

集中講義は4日を予定しているが、2日目の最後に4～5名のグループを編成し、各グループで一つの学習指導案を開発することを課題とする。このため、授業時間外に各グループで、またはグループ内個人で分担して教材研究、授業の流れの設計、評価方法の考察などを行う。授業4日目には、開発した授業案につき各グループのプレゼンテーションを行う。

《成績評価の方法》

評価方法は、①各授業最後に実施する小レポート、②グループ作成の学習指導案、③最終レポートによって行う。評価割合は①20%、②30%、③50%。小レポートには、質問を記載することもでき、次時に回答を行う。また、各グループの学習指導案プレゼンテーションの後に講評を行う。

《備考》

講義3、4日目は特に、学習指導案作成のグループワークを中心としたアクティブ・ラーニング形式となるため、受講生各自の積極的な参加を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	受講者各自の小中高段階での授業体験を交流し、各自の現在の授業観・学習観を確認する。
2	授業づくりの基本的な考え方	授業＝話を聞く場との基本的授業観の問題性を確認し、授業を学習者の思考と試行錯誤の場として再認識する。
3	授業目標の定立	授業目標の定立のためには、①教科内容に関する知識と理解形成の観点と、②それをめぐる学習者の思考の技能や知識活用の技能の形成、の2観点が必要である。
4	学習を触発する問い・課題の構成	授業づくりの核となるのは、教科内容の本質に迫るとともに、学習者の解明意欲をかきたて、結果として学習者各自の意見を持たせる問いや課題の構成である。
5	学習を多面的に見取る評価	ペーパーテストは知識、理解の修得を事後的に評価するのに適するが、授業内における学習者の思考の展開や課題解決行動の評価を行うには、別の評価観点と方法を要する。
6	授業事例の視聴1	「授業の中で学習者がめざましく成長する」ことを実感するため、優れた授業の事例を視聴する。
7	授業事例の視聴2	上記視聴を継続する。
8	視聴した授業の考察とその交流	視聴した授業に関して、小グループごとに、教師の方法・技術の観点から分析を行い、その考察結果を発表・交流する。
9	学習指導案の開発1	本講義これまでの内容を踏まえ、小グループごとに学習指導案の作成に着手する。本時は、開発する授業について学校種、教科、単元を相談の上定める。
10	学習指導案の開発2	本時は、グループごとに、開発する授業の目標、核となる教材の構成、それをめぐる問い・課題の開発、および、学習者の思考内容を交流させる方法の定立を行う。
11	学習指導案の開発3	本時は、グループごとに、開発した授業における学習者の評価基準と評価方法を定立する。
12	学習指導案プレゼンテーション1	開発した学習指導案の発表を行う。授業目標、核となる教材の教科学習上の意義、学習者の予想される思考内容、それを交流させる方法、および学習評価の方法を発表する。
13	学習指導案プレゼンテーション2	上記発表活動を継続する。
14	学習指導案プレゼンテーション3	各グループの発表後、それぞれの指導案につき、評価点と批評点を出し合い、相互評価を行う。
15	総合考察・まとめ	参加者は、受講開始時の授業観を振り返り、本講義によって得た学習内容を整理、報告し、それをめぐる交流を行う。その後、授業を総合的に振り返り、まとめを行う。

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論	科目ナンバリング	STAL42007
担当者氏名	新井野 久男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関係する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論や考え方、実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%)、レポート(40%)、その他(提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等)(20%)を基本に総合的に評価する。

授業の最後に提出する小レポートにコメントを記して、次の授業時に返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するのではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒に応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題(1)	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題(2)	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題(3)	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題(4)	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究(1)	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究(2)	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。

《参考図書》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。

平成27（2015）年度入学者

専門教育科目

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ		科目ナンバリング	SSPB13002	
担当者氏名	小林 茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

地域の福祉問題解決へのアプローチおよび地域福祉の推進方法について学ぶ。併せて当事者、住民の主体形成を支援しながら問題解決を図るため、専門職が果たすべき役割について考察していく。

《テキスト》

「新・社会福祉養成講座9 地域福祉の理論と方法(第3版)」
 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版
 適時、補助教材を配布する

《参考図書》

- ・「地域福祉論」岡村 重夫 光生館（2009）
- ・「地域福祉推進の理論と方法」平野 隆之 有斐閣（2008）
- ・「社会福祉士 相談援助演習(第2版)」長谷川 匡俊、上野 谷佳代子等編 中央法規出版

《授業の到達目標》

1. 地域福祉におけるネットワーク(多職種連携を含む)の意義と方法及びその実際について理解する
- 2 地域福祉の推進方法（ネットワーク、ニーズの把握方法、社会資源の活用・調整・開発、地域トータルケアシステムの構築方法など）について理解する

《授業時間外学習》

1. 予習方法：事前にテキスト該当する章を読んでおくこと
2. 復習方法：授業配布プリントなどを再整理し、不明な点を整理し、次回授業で質問する事。
3. その他： 学生自身の暮らしの場である地域にはどんな人々が暮らしているか、どのような地域社会であれば暮らしやすいかを日頃から考え、問題意識を養うこと。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内藤討論等への参加とその成果 10%
 - (2) 課題レポート 25%(提出遅れは減点)
 - (3) 定期試験 65%
- ※レポートは採点后コメントを付して返却する

《備考》

授業の進行の妨げになる携帯電話の使用、私語は厳禁。
 授業配布のプリントおよびノートは整理し、いつでも振り替えられるようにすること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域福祉の方法について	コミュニティワークとコミュニティソーシャルワークの概念を理解し、それぞれの特徴と実践方法について整理して説明できるようにする。
2	地域福祉の推進と住民参加	住民参加の意義と役割/住民参加の形態/専門職・機関と住民との協働について理解する。
3	ソーシャルサポートネットワーク①	「たすけあい」の歴史とソーシャルサポートネットワークの考え方を学び、フォーマルサポートとインフォーマルサポートの特性、ネットワークづくりの方法を理解する
4	ソーシャルサポートネットワーク②	エコロジカルアプローチの意味を学び、ライフモデルにおけるソーシャルネットワーク実践の考え方、エコロジカルアプローチの方法を理解する
5	地域における社会資源の活用・調整・開発①	様々な地域にある社会資源の内容と特徴を学び、社会資源の開発と活用の意義、コーディネートの方法について理解する
6	地域における社会資源の活用・調整・開発②	ニーズ対応型福祉サービスの開発および税制優遇と助成金の活用について理解する
7	地域における社会資源の活用・調整・開発③	市民活動、まちづくりとソーシャルアクションについて理解する
8	地域における福祉ニーズの把握方法と実際①	地域福祉におけるアウトリーチの意義および質的な福祉ニーズの把握方法と実際について理解する。
9	地域における福祉ニーズの把握方法と実際②	量的な福祉ニーズの把握方法と実際について理解する
10	地域トータルケアシステムの構築と実際①	地域トータルケアシステムの必要性と考え方、ジェネラルショーカーのワークの展開過程を理解する
11	地域トータルケアシステムの構築と実際②	地域トータルケアシステムの展開方法について理解する
12	地域における福祉サービスの評価方法と実際①	福祉サービスの評価を必要とする背景、評価の考え方、評価を行う場面等について理解する
13	地域における福祉サービスの評価方法と実際②	福祉サービスの評価の方法(プログラム評価、プロセス評価、アウトカム評価等)について理解する
14	災害と地域福祉	災害時における地域福祉実践の視点と方法について理解する
15	日本の地域福祉に影響を与えた理論	日本の地域福祉の理論形成に影響を与えたイギリス、アメリカの理論等を理解し、日本の地域福祉との関連性を理解する

科目名	医療ソーシャルワーク論		科目ナンバリング	SFFB23011
担当者氏名	和田 光徳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

ソーシャルワークの二次専門分野のひとつとされる「医療ソーシャルワーク」の理論と実践の概要を学ぶ。事例の検討を通じて、ソーシャルワーカーの視点を考察し、ソーシャルワークの価値と倫理の理解を深める。

《授業の到達目標》

保健医療サービスの利用者である患者および家族の生活問題を学ぶ。また、サービス提供制度及び担い手たちの特性を理解し、利用者（患者・家族）を中心とした連携のあり方、医療ソーシャルワーカーの具体的実践についてイメージができ、支援の基本的枠組みを考えることができるようになる。

《成績評価の方法》

(1) 授業内小テスト（採点後返却します） 60%
 (2) 期末課題レポート（患者と、その家族など当事者の闘病記や体験記を読み込みレポートにまとめる（A4・2枚・2400字以上） 40%
 提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

授業内で資料を配布します。

《参考図書》

- ①「新・医療福祉学概論」 佐藤俊一・竹内一夫・村上須賀子 編著 誠信書房 2010
- ②「医療ソーシャルワーカーの力」 村上須賀子・竹内一夫 編著 医学書院出版サービス 2012
- ③新・はじめて学ぶ社会福祉「保健医療サービス」 杉本敏夫 監修 ミネルヴァ書房 2017

《授業時間外学習》

患者とその家族など、当事者の闘病記や体験記を幅広く読み、「病」をかかえながら生きるということの生活体験について、共感的に理解を深めてほしい。

《備考》

授業内テーマに対する考えや意見を求めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事例からみる医療ソーシャルワーク	授業のオリエンテーション 事例による「医療ソーシャルワーク実践」から、必要な知識・スキルを概観する
2	医療ソーシャルワークの歴史的概観	日本、イギリス、アメリカにおける医療ソーシャルワークの歴史を概観する
3	医療ソーシャルワークの構造モデル	「医療と福祉」から「医療福祉」の統合的視点の意義について学ぶ
4	患者の心理	病と疾患の違い、役割理論から学ぶ「患者」の世界観を概観する
5	医療の生態系の理解	医療法、療養担当規則の理解、医療機関の組織上の特徴と、医療ソーシャルワーカーの組織内外の「連携」について、
6	医療ソーシャルワークを支える価値	医療ソーシャルワーク実践における、一般的ソーシャルワークと共通する実践的価値と特徴的な価値を学ぶ
7	高齢者福祉と医療ソーシャルワーク	高齢者に関わる医療問題、延命や医療的処置、孤立化による家族不在の問題など、高齢者福祉における医療ソーシャルワーク実践を学ぶ
8	がん患者と医療ソーシャルワーク	現在のがん対策基本法下にあるがん医療状況と、医療ソーシャルワーカーの役割を考える
9	児童福祉と医療ソーシャルワーク	要保護児童対策、児童虐待対応、小児医療と医療ソーシャルワーク実践について学ぶ
10	貧困問題と医療ソーシャルワーク	ホームレスやネットカフェ難民、ひきこもりと老親同居、相対的貧困率の増加など、新たな貧困問題と医療ソーシャルワークの関わりを考察する
11	障害者福祉、難病施策と医療ソーシャルワーク	障害者虐待、障害者に対する医療、二次性障害の存在や難病患者の生活支援、遺伝と生殖医療にまつわる問題と医療ソーシャルワークについて考察する
12	退院支援と医療ソーシャルワーク	現代の医療ソーシャルワークの中心的課題となっている「退院支援」について、医療ソーシャルワークの視点と実践について考察する
13	地域包括ケアと医療ソーシャルワーク	地域包括ケアシステムの理解と医療ソーシャルワークが関わることの意義について考察する
14	労働災害等と医療ソーシャルワーク	労働災害や公害、薬害、肝炎問題など、社会的要因の関連の深い疾患と、医療ソーシャルワークの働きについて考察する
15	課題レポート発表、まとめ	医療福祉に関連する著作、患者・家族の闘病記、体験記を読み、そこに読み取れる「社会的問題」を考察し、レポートにまとめたものを発表し意見交換を行う

科目名	医療ソーシャルワーク演習		科目ナンバリング	SFFB23012
担当者氏名	和田 光徳			
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）			

《授業の概要》

履修要件として、医療ソーシャルワーク論を単位修得し、相談援助実習において「医療機関」に配属され、実習評価を終えている学生を対象とする科目です。将来的に医療ソーシャルワーカーとして、キャリア形成を図ることを目的としています。実地演習として医療機関で一部行います。実際の事例を自ら素材として、現役の医療ソーシャルワーカーのサポートにより、授業内で活用し、技能の習得を図ります。

《テキスト》

授業内において提示します。

《参考図書》

《授業の到達目標》

医療機関実習においては、社会福祉施設と異なり、ケアプランを通じて、利用者を直接担当することが困難です。したがって本科目では、実際のケースの支援プロセスを、面接の同席等シャドーイングさせていただき、それらから得た臨床の「素材」を元に、学内において学習、追体験し、医療ソーシャルワークに必要な視点、知識、技能について説明することができるようになることです。

《授業時間外学習》

事前学習（30時間）、事後学修（30時間）も含め、実践的思考の習熟を図るため、地域医療機関に出向き、実地での演習を行います。基本的には、相談援助実習に行った医療機関を実地演習機関とします。

《成績評価の方法》

- ・ 授業及び実地演習への参加状況や態度（40%）
（実地演習先より演習停止通告の場合、不可となります）
- ・ ポートフォリオの内容（40%）
- ・ 課題レポート（20%）

提出物についてはコメントをつけ返却する

《備考》

集中講義10日間（内、実地演習5日間）（3月）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	演習の目的と実地演習の進め方について理解する（ポートフォリオ）
2	実地演習のための基本的知識	医療ソーシャルワーカー業務指針、地域医療連携及び地域包括ケアシステム、基本的な社会資源について要点をおさえる
3	実地演習	医療機関におけるソーシャルワークの実際（ケースの展開に応じた面談等支援プロセスの演習）について学ぶ（実地演習医療機関の機能と医療ソーシャルワーカーの役割）
4	実地演習	医療機関におけるソーシャルワークの実際（ケースの展開に応じた面談等支援プロセスの演習）について学ぶ（対象ケースについての「準備」段階）
5	実地演習	医療機関におけるソーシャルワークの実際（ケースの展開に応じた面談等支援プロセスの演習）について学ぶ（対象ケースの面接場面の同席とシャドーイング）
6	実地演習	医療機関におけるソーシャルワークの実際（ケースの展開に応じた面談等支援プロセスの演習）について学ぶ（対象ケースの面接場面の同席とシャドーイング）
7	実地演習	医療機関におけるソーシャルワークの実際（ケースの展開に応じた面談等支援プロセスの演習）について学ぶ（医療ソーシャルワーカーの具体的業務について）
8	実地演習の振り返りと整理	演習の素材となったケースについて、ケース概要、病態、社会資源、面接逐語記録等を授業教材としてまとめる。また、不明な点について調べる。
9	実地演習の振り返りと素材の活用	演習の素材となったケースについて、ケース概要、病態、社会資源、面接逐語記録等を授業教材としてまとめる。（ポートフォリオ作成による整理）
10	ケース検討による医療ソーシャルワークの視点	素材となったケース資料を元に、事例検討を行い、医療ソーシャルワーク支援の視点、介入の接点についてグループワークを行う（実地演習担当ワーカーの参加・指導）
11	ケース検討による医療ソーシャルワークの視点	素材となったケース資料を元に、事例検討を行い、医療ソーシャルワーク支援の視点、介入の接点についてグループワークを行う（実地演習担当ワーカーの参加・指導）
12	医療ソーシャルワーク面接の実際	作成した逐語録を元に、面接の展開について、ロールプレイを行う。コミュニケーションラボを用いて、面接技能を学ぶ
13	医療ソーシャルワーク面接の実際	作成した逐語録を元に、面接の展開について、ロールプレイを行う。コミュニケーションラボを用いて、面接技能を学ぶ
14	医療ソーシャルワークとコーディネート機能	チームアプローチとコーディネートについて、現役の医療ソーシャルワーカーによる事例を題材にディスカッションを行う
15	全体の振り返りとまとめ	振り返りと課題の抽出、次期にむけての目標の設定

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	福祉行財政と福祉計画		科目ナンバリング	SSPB23004	
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

受講者には、現実の社会において運用されている社会福祉のシステムの枠組みを、福祉を志す者の素養の一つとして身につけて欲しい。このため、社会福祉基礎構造の変遷の経過をたどりながら、社会福祉法と関係法の位置付けを中心に、我が国の福祉行財政や福祉計画について学習する。授業では、福祉行政に携わった経験からのエピソード等、内なる視点も交えていく。

《授業の到達目標》

- 1 自らが、社会福祉を考える際の基準の一つとして、現実福祉を動かしている福祉行財政や福祉計画の存在を正しく理解する。
- 2 自らが、社会福祉を考える際の基準の一つとして、現行の福祉行財政や福祉計画を批評できる目を養う。
- 3 自らが、社会福祉を実践するにあたって、福祉行財政や福祉計画に関与・参画していく方策を探る。

《成績評価の方法》

到達目標の1については試験を行い、2及び3についてはレポート提出とする。なお、評価の割合は、試験（60%）、レポート（40%）とする。また、授業への出席状況についても総合評価に反映させる。提出物については、コメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス（授業の目的等について）	当科目についての全体的な学習内容や、学習目的等について共通認識を持つ。
2	福祉行政と福祉計画 1	福祉の概念について整理したうえで、戦後70年間における社会福祉の法制度の展開について説明できる。
3	福祉行政と福祉計画 2	社会福祉における計画とは何かについて、福祉行政の実施体制と関連づけながら説明できる。
4	福祉行政の骨格と社会福祉の法制度	国と地方との関係を中心に、福祉行政の位置付けの変化や財政の仕組みとの関連について及び社会福祉における法や政省令等の関係について説明できる。
5	福祉行政の組織と社会福祉基礎構造	国や地方行政の組織を俯瞰したうえで、社会福祉法と社会福祉関係法によって成り立つ社会福祉基礎構造について説明できる。
6	福祉財政	福祉サービス供給のための財源を調達し、必要な支出をする福祉財政の基本や、地方財政主権への転換をめざす状況、民間社会福祉事業の財源等について説明できる。
7	福祉行政の組織・団体と専門職の役割	社会福祉基礎構造改革を踏まえ、社会福祉法や社会福祉関係法に規定されている国や地方公共団体、専門機関、地域に設置される相談システムの役割等について説明できる。
8	福祉計画の目的と意義	福祉制度の運用を円滑に行うための各種事業の実施手段としての計画の目的や意義を説明できる。
9	福祉計画の基本的視点と計画過程における留意点	計画策定における政策決定過程を担う者と計画実施過程を担う者の二類型の存在や、社会体制と社会計画の関係を踏まえ、計画の概念、プロセス等について説明できる。
10	福祉計画におけるニーズ把握と評価	福祉計画策定の原点というべきニーズ把握の技法、ニーズの概念、類型について説明でき、事後評価の技法や視点等についても説明できる。
11	福祉計画における住民参加	計画の実効性を高めるための、行為主体による関与、即ち、福祉関係者の合意形成の視点から、住民参加の意義について説明できる。
12	老人福祉計画・介護保険事業計画	福祉計画の実践編として、老人福祉計画、介護保険事業計画を取り上げ、その歴史的経緯や概要を説明することができる。
13	障害者計画・障害福祉計画	福祉計画の実践編として、障害者計画・障害福祉計画を取り上げ、その歴史的経緯や概要について説明できる。
14	次世代育成支援行動計画・地域福祉計画	福祉計画の実践編として、次世代育成支援行動計画・地域福祉計画を取り上げ、その歴史的経緯や概要について説明できる。
15	総括	全授業を通して学んだ事について振り返りを行い、福祉行財政や福祉計画に関与・参画していくことの意義について考える。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座 10 福祉行財政と福祉計画 第4版

《参考図書》

《授業時間外学習》

テキストの記載内容は豊富であるので、授業前に関係部分を通読する等の準備を願いたい。

《備考》

テキストに加えて必要に応じプリントを配布する場合がある。また、各週の授業内容は講義の進捗状況により変更する場合がある。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ		科目ナンバリング	SSPB13005	
担当者氏名	和田 光徳				
授業方法	講義	単位・必修	4・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 				

《授業の概要》

相談援助の過程とそれに係る知識や技術について理解し、事例分析の意義や方法、相談援助の実際について学ぶ。特にソーシャルワーク理論の統合化と生活問題の多様性への対応から、求められる支援技術も。多様なアプローチ群として「支援レパートリー」と言われるようになった。ソーシャルワーク固有の価値と視点を多様なアプローチに適用していくことを理解する。

《授業の到達目標》

①相談援助の主要な理論、対象者、実践モデル、アプローチについて学ぶ。②相談援助の過程とそれに係る知識、技術、相談援助の実際について学ぶ。

《成績評価の方法》

- ①定期試験 60%
- ②授業内小テスト（採点后返却します） 40%

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座8『相談援助の理論と方法Ⅱ』（中央法規出版）

《参考図書》

参考図書は授業時にその都度、紹介する。

《授業時間外学習》

社会福祉は、その時々々の政治、社会、経済のあり方や状況によって、変化し、動く。法律・制度や福祉サービスはその影響を受けることが多い。新聞や雑誌、テレビ、インターネットなどの情報を活用して、社会の動向などに注目しておいてほしい。

《備考》

教科書だけではなく、「専門書」を読むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	①対象の理解、 ②グループワークの意義	①の定義と対象（個人・家族・集団・地域）のとらえ方について学ぶ、 ②グループワークの意義と、グループを活用した相談援助について学ぶ
2	①の技術、 ②事例研究・事例分析	①ケーススタディの意義と目的、運営と展開過程、評価について学ぶ、 ②事例研究・事例分析の意義と目的、方法と留意点について学ぶ
3	主要な実践モデル	①実践モデルとその意味、②治療モデル、生活モデル、社会モデルについて概要を学ぶ（特に生活モデル）
4	主要な実践モデルとアプローチ	ストレングスモデルとエンパワーメント・アプローチについて、それぞれの歴史的経過と概要について学ぶ
5	主要な実践アプローチⅠ	ソーシャルワーク実践におけるジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と理論の概要、展開について学ぶ
6	①問題解決アプローチ ②ハイサイコソーシャルモデル	ヤカからのジェネラリスト・アプローチの基礎援助理論である問題解決アプローチ、サビのストレングス・モデル、発展的にサビのハイサイコソーシャルモデルの概要と視点を学ぶ
7	主要アプローチの基礎理論	主要アプローチの基礎理論である精神分析、自我心理学、行動理論、家族システム論の概要について学ぶ
8	主要な実践アプローチⅡ	①心理社会アプローチ、ISTT（統合的短期型ソーシャルワーク）、②機能的アプローチ、③課題中心アプローチ、④危機介入アプローチの概要について学ぶ
9	主要な実践アプローチⅢ	行動変容アプローチ、家族療法、ナラティブアプローチ、その他のアプローチの理論と概要について学ぶ
10	ケースマネジメント	①ケースマネジメントの基本、②過程、③アセスメント、④ケアプランの作成・実施、⑤特徴、⑥ケースマネジメントとソーシャルワークの関係について学ぶ
11	個人情報保護と情報通信技術の活用	①相談援助における個人情報保護、相談援助における情報通信技術の活用について理解を深める
12	コーディネーションとネットワーク	①コーディネーションの目的と意義、②ネットワークの目的と意義を学ぶ
13	相談援助における社会資源の活用・調整・開発	①社会資源の活用・調整・開発の意義と目的、②社会資源の活用・調整・開発の方法と留意点、③ソーシャルアクションによるシステムづくりについて理解を深める
14	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義と目的、方法と留意点、コンサルテーションとの関係について学ぶ
15	「支援レパートリー」の整理	相談援助の理論と方法Ⅱのまとめ（ソーシャルワーク統合化理論と、支援技術として求められる「支援レパートリー」概念の関係について理解する）

科目名	相談援助演習 I B		科目ナンバリング	SSPB23006	
担当者氏名	和田 光徳、小林 茂				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 				

《授業の概要》

2年II期に行った相談援助演習IAを基礎に、ソーシャルワーク理論に基づいた展開過程を演習します。そのため、IAの単位修得が履修にあたっての先行条件となります。授業は事例やビネットを使用したグループ討議が中心になります。また、面接技術の基本技能について、授業内で反復練習（ロールプレイ等）します。

《テキスト》

- ・新・社会福祉士養成講座「社会福祉士相談援助演習 第2版」中央法規
- ・配布プリント

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ・ソーシャルワークの代表的なモデル（問題をどのようにとらえるかの範型）の概要を理解する。
- ・代表的なアプローチ（課題解決に向けての接近法）について基本を理解する。

《授業時間外学習》

新・社会福祉士養成講座「相談援助の理論と方法 I・II」（中央法規）を基本知識としています。理解しているものとして、学習を深めますので、テキストと合わせて再度講読し、予習・復習してください。

《成績評価の方法》

- ①グループワーク等授業への参加態度、意見の表明 40%
 - ②授業内小テスト（採点后返却します） 40%
 - ③中間課題レポート（採点后返却します） 20%
- 提出物等にはコメントを付し返却する。

《備考》

演習は自らが体験し、学びを深める授業です。したがって、出席し授業に積極的に参加・協力することが、通常講義より大きな評価基準となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助における面接の目的と特性	ソーシャルワークにおけるすべての支援技術の基本となる「面接」の目的と意義について学ぶ。（以後の授業内で適宜ロールプレー等を行います）
2	面接の基盤と基本的応答技法	ソーシャルワークにおけるすべての支援技術の基本となる「面接」技術の基礎と基本的応答技能について学ぶ。（以後の授業内で適宜ロールプレー等を行います）
3	ケースカンファレンスの方法	利用者の生活課題を実際的な解決に向けて、協働しながらアセスメント、プランニングを含む支援技術（グループワーク）を学ぶ。
4	ソーシャルワークの主要なモデル①	ライフモデル（エコロジカルアプローチ）による支援プロセスを学び、ビネットによる演習とグループワークにより支援の範型を理解する。
5	ソーシャルワークの主要なモデル②	ストレングスマodel、エンパワメント・アプローチの概略を学び、ビネットによる演習とグループワークにより、支援の範型を理解する。
6	ソーシャルワークの主要なアプローチ	ジェネラリスト・アプローチ（Johnson & Yancaのものを中心に）の理論の枠組みを学び、支援プロセスの要点を、ビネット、事例を通じて学ぶ。
7	中間の振り返り、主要なアプローチ	コンピテンシー評価を行う。ジェネラリスト・アプローチの基本的枠組みとなっている「問題解決アプローチ」について、その源流であるパルマンについて学ぶ。
8	アプローチの基礎理論	精神分析と自我心理学、行動理論、家族システム理論の概要を学び、支援プロセスの一端を演習する。
9	心理社会アプローチについて	講義と、ビネット・事例を使用した演習（グループワーク）を通じて、面接場面での具体的応答を学ぶ。
10	行動変容、家族システムとナラティブ	講義と、ビネット・事例を使用した演習（グループワーク）を通じて、面接場面での具体的応答を学ぶ。
11	ケアマネジメント（要支援、要介護者）	事例を通じ、ケアマネジメント手法によるアセスメントから支援計画（ケアプラン）の作成を試みる。グループ討議と発表を行う。
12	ケアマネジメント（障害者）	事例を通じ、ケアマネジメント手法によるアセスメントから支援計画（ケアプラン）の作成を試みる。グループ討議と発表を行う。
13	地域を基盤とした実践展開	マイクロ・メゾ・マクロをつらぬく支援の視点をおさえながら、地域におけるサービス提供やネットワークキングの支援活動を事例による演習（グループワーク）で学ぶ。
14	地域を基盤とした実践展開	マイクロ・メゾ・マクロをつらぬく支援の視点をおさえながら、地域におけるサービス提供やネットワークキングの支援活動を事例による演習（グループワーク）で学ぶ。
15	振り返り・本実習に向けて	コンピテンシー評価を行う。対人支援技能として共通する「傾聴技能」を再確認するとともに、観察、アセスメント、計画の支援過程を確認する。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助演習Ⅱ	科目ナンバリング	SSPB23007
担当者氏名	小倉 毅、小林 茂		
授業方法	演習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）		

《授業の概要》

本科目はこれまで学んできた社会サービスと相談援助技術の演習、相談援助実習を通じて具体的な支援に結び付けられるよう講義、事例研究、グループ討議、ロールプレイ、ディベートを使って体得することを目的としている。

《テキスト》

[編集]白澤正和・福山和女・石川久展[監修]社団法人日本社会福祉士養成協会『社会福祉士相談援助演習』中央法規出版 ISBN-978-4-8058-3124-3

《参考図書》

授業内で指示をします。

《授業の到達目標》

将来の社会福祉専門職としての必要な実践力を基礎を習得する
 ・ケアマネジメントを用いた支援を組み立てることができる。
 ・メゾ領域における支援計画を立てることができる。
 ・マクロ領域における支援計画を立てることができる。
 ・実習終了後の学びを深めるため、理論と実践の関係を理解する。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法
 新聞やニュース等で取り上げられた社会問題に関心をもって下さい。
 (2) 復習の方法
 授業中に整理するプリントを中心に復習して下さい。また、理解が十分でない場合には、積極的に質問して下さい。

《成績評価の方法》

演習は、毎回出席が原則である。課題・レポート（20%）演習態度（30%）、学期末に事例に基づいてニーズの把握、アセスメント、支援計画を作成し評価する（50%）
 なお、毎回振り返りシートを提出してもらいます。
 提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

演習は、事例を活用したグループ討議、ロールプレイ、プレゼンテーション、ディベートです。ソーシャルワーカーの力量を培うために参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション、演習に参加する意義と目的を理解し、授業の進め方について説明する。
2	社会問題を基盤とした相談援助演習①	社会的排除に関するソーシャルワークを学ぶ。
3	社会問題を基盤とした相談援助演習②	ミクロからマクロ・レベル実践に焦点を当てたソーシャルワークを学ぶ。
4	社会問題を基盤とした相談援助演習③	就労支援（障害者・母子）に関するソーシャルワークを学ぶ。
5	社会問題を基盤とした相談援助演習④	病院からの退院に関するソーシャルワークを学ぶ。
6	社会問題を基盤とした相談援助演習⑤	家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス：DV）に関するソーシャルワークを学ぶ。
7	社会問題を基盤とした相談援助演習⑥	虐待（高齢者）へのソーシャルワークを学ぶ。
8	社会問題を基盤とした相談援助演習⑦	虐待（児童）へのソーシャルワークを学ぶ。
9	対象別にみた相談援助演習①	低所得者へのソーシャルワークを学ぶ。
10	対象別にみた相談援助演習②	高齢者（認知症・要介護）とその家族へのソーシャルワークを学ぶ。
11	対象別にみた相談援助演習③	障害者（身体障害・知的障害・発達障害）とその家族へのソーシャルワークを学ぶ。
12	対象別にみた相談援助演習④	児童（児童養護施設入所）とその家族へのソーシャルワークを学ぶ。
13	地域福祉活動について	地域福祉計画・地域福祉活動計画を行政と社会福祉協議会とで協同して策定する方法を学ぶ。
14	利用者との関わりからの学びを活かす①	実習中に利用者や職員と関わった場面（プロセスレコード）を再現し、よりよい関わりや支援について考察する。
15	利用者との関わりからの学びを活かす②	利用者を理解するために、ニーズの把握、アセスメント（ケアプラン）について、実習での学びを共有し理解を深める。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助実習指導Ⅲ		科目ナンバリング	SSWB23008	
担当者氏名	小倉 毅、和田 光徳、小林 茂				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） 				

《授業の概要》

相談援助実習指導Ⅲの前半部分では、相談援助実習の実習計画書の作成と実習先での学習のため、これまで学んだ知識を実践の現場で生かすことができるよう準備を行います。準備としては、実習先について調べることで、実習先での相談援助で用いられるツールを確認することなど、相談援助に携わる者として必要な知識、技術を学ぶことなどが含まれます。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会（監修）、長谷川匠俊、上野谷加代子、白澤 政和他編「社会福祉士相談援助実習（第2版）」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業の到達目標》

相談援助実習における到達目標（実習目標）と4～5週間に及ぶ実習における、各週での実習の目標、それを達するために実習で行う内容などの詳細な実習計画書を作成することが到達目標です。また相談援助実習において支援を行うためのアセスメントシートや支援計画書などの実習支援に係るツールについても理解をすることができるようになります。

《授業時間外学習》

実習計画書の作成のためには、実習先の周辺地域に関する踏査や相談援助に関する技術について調べるなどが必要になります。これらはいずれも時間外での学習になります。詳細については授業時間中に指示をします。

《成績評価の方法》

①授業を受ける態度 グループワークでの発言等の状況（20%） ②小テスト 実習先で必要な専門用語、法律等に関する内容（40%） ③実習計画書の内容（40%） 提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

支援者としての自覚とその基盤となる知識、福祉の理解が十分ではないと教員が判断した場合、相談援助実習に赴くことはできません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助実習に向けて	相談援助基礎実習の振り返りと、相談援助実習指導Ⅲの位置づけ、実習前教育に必要な内容の概略を理解する。実習計画書の構成、目的を学びます。
2	実習先の理解①	配属先での相談業務（相談面接・援助計画）と実際に行われる支援方法について、法制度などを含めて理解する。
3	実習先の理解②	配属先での相談業務（苦情解決・権利擁護）と立地状況（現地調査に必要な項目）について理解します。
4	実習先の理解③	配属先の相談業務（ネットワーク・地域援助）と、周辺環境について理解します。
5	実習計画の作成①	実習先の状況、及び実習先で学ぶことを踏まえ、巡回担当者との相談を行いながら、各週、日々の目標を作成、それを実現するための実習内容の構成を考える。
6	実習計画書の作成②	引き続き、巡回担当者とも相談をしながら、各週、日々の目標と実習内容の構成を考え、実現可能な計画を組立てます。実習目標についても考える。
7	実習計画書の作成③	引き続き、巡回担当者とも相談をしながら、詳細な実習計画書を作成します。実習の成果としての実習目標、目標を達成するための課題を立案する。
8	実習先の事前訪問について①	事前訪問の重要性について「アクセスノート」を活用して理解する。また、訪問にあたっての一般的マナーについて理解する。（実習先への通勤時の学生割引など）
9	実習先の事前訪問について②	事前訪問の内容確認と実習計画の調整（目標・計画等の修正・事前課題・健康診断等の提出物確認など）について理解をします。
10	実習記録ノートの書き方の理解①	実習日誌の書き方の理解と、取扱い等に関する説明を行う。
11	実習記録ノートの書き方の理解①	実習日誌の書き方（日誌での表現の方法を含む）について学び、実習巡回や帰校日指導の意味について理解する。
12	巡回指導の理解	事前訪問の結果を踏まえ、実習計画書を見直す。また、巡回担当者とも相談をしながら実習計画書を確定し、実習巡回日などの調整を行う。
13	倫理・守秘義務の理解	個人のプライバシー保護について学びます。また実習先での個人情報の取り扱いや注意すべき内容について理解する。
14	相談援助実習に向けて	実習期間中の緊急時対応（保険、注意事項、評価方法、契約構造等）、心身の健康等を守るために必要なことを理解する。
15	実習知識・能力評価学習について	相談援助実習を通しての支援の成果を表現するアセスメントシートや支援計画書作成の確認、さらに専門知識の再確認を行う。

科目名	相談援助実習指導Ⅲ		科目ナンバリング	SSWB23008	
担当者氏名	小倉 毅、和田 光徳、小林 茂				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解) ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力) ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力) ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性) ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)				

《授業の概要》

相談援助実習指導Ⅲ(Ⅱ期)は相談援助実習の振り返りを行います。実習先の概要、制度的背景、利用者や家族、職員との関わりから、ソーシャルワーカーの役割を振り返り整理をします。またグループワークの場で他者と実践内容の討議を行う中で、様々なアプローチの方法や利用者理解の視点などを理解します。これらを踏まえ実習報告書を作成、途中で行う実習報告会での指摘などを踏まえ、報告書を完成させます。

《授業の到達目標》

相談援助実習を振り返る中で、利用者支援やソーシャルワーカーの役割・業務、専門職連携の重要性を認識し身につけます。これらの振り返りの中でソーシャルワーカーとしての自覚を養い、ケアマネジメント力を理解します。さらに、客観的に実習を見直すことで、今後の学習の課題や進路を考えるとともに、求められる社会福祉士像を明確にします。

《成績評価の方法》

実習の記録の整理状況、実習報告会の準備、グループワークでの役割、授業内で課すレポート、実習報告会での報告内容、実習報告書による分析を含めた総合点で評価をします(100点) 提出物についてはコメントを付して返却する。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会(監修)、長谷川匠俊、上野谷加代子、白澤 政和他編「社会福祉士相談援助実習(第2版)」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業時間外学習》

実習報告書の作成、実習報告会の準備等は授業時間内だけでは終わることが難しく、時間外を大いに活用することになるでしょう。実習先への確認のための問い合わせや再度の訪問も必要になるかもしれません。

《備考》

- ①実習報告会の日程、実習報告書の作成の期限等については、平成29年度中に提示します。
- ②グループワークを行いますので、原則遅刻は認めません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助実習を終えて	実習先に提出する書類等(日数・時間数・欠席等の確認)、お礼状の確認を行います。
2	実習振り返りにおけるグループ学習①	実習日誌やアセスメントシート等の記録を点検・整理(訂正と追記)し、必要な追学習を行い、また実習計画を踏まえて学びの確認を行う。
3	実習振り返りにおけるグループ学習②	グループワークにより、実習先での体験を共有し、実習目標の達成度・充実度を確認する。施設先や実習目標の違う学生の実習経験をもとに課題の確認を行う。
4	実習振り返りにおけるグループ学習③	グループワークにより、実習先での体験を共有し、学びの価値や揺らぎ、自己覚知などの再確認を行う。
5	実習振り返りにおけるグループ学習④	専門職として求められる価値や倫理を挙げ、共有、種類別に整理し、実習でのジレンマなどを越えるための解決法をグループワークで見出す。
6	実習振り返りにおけるグループ学習⑤	専門職として求められる価値や倫理を挙げ、共有、種類別に整理し、実習でのジレンマなどを越えるための解決法をグループワークで見出す。
7	実習振り返りにおけるグループ学習⑥	実習の成果を制度的背景や学んだスキル、価値から評価、分析します。その際には、グループワークで明らかにした各分野での課題などを踏まえて行う。
8	実習振り返りにおけるグループ学習⑦	実習の成果を制度的背景や学んだスキル、価値から評価、分析します。その際には、グループワークで明らかにした各分野での課題などを踏まえて行う。
9	実習振り返りにおけるグループ学習⑧	自己評価と指導者評価を見比べ、今後の学習課題の確認と実習報告書のテーマを決める。
10	実習報告書の作成①	実習の成果、分析、評価及び、グループワークによるジレンマの克服などを通しソーシャルワーカーとしての自覚に至る過程などを踏まえ実習報告書を作成します。
11	実習報告書の作成②	実習の成果、分析、評価及び、グループワークによるジレンマの克服などを通しソーシャルワーカーとしての自覚に至る過程などを踏まえ実習報告書を作成します。
12	実習報告書の作成③	実習先に対する評価や実習プログラムに対する評価など、客観的な視点から実習を振り返り、提言などを行う。
13	実習報告書の作成④	実習先に対する評価や実習プログラムに対する評価など、客観的な視点から実習を振り返り、提言などを行う。
14	実習報告会の準備①	実習報告会の準備を行う。実習成果とその分析や評価の内容について報告できるよう資料の作成を行う。
15	実習報告会の準備②	実習報告会に向けて実習成果と評価等の再確認を行い、実習指導者や教員からの質問、指摘に応えることのできるよう準備を行う。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助実習	科目ナンバリング	SSWB23009
担当者氏名	田端 和彦、吉原 恵子、竹内 一夫、和田 光徳、小倉 毅、小林 茂		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 		

《授業の概要》

180時間の社会福祉現場での実習を行います。その中で、施設の機能、利用者とその家族を理解し、職員やソーシャルワーカーとの関係や実践を通して支援の必要性を実感し、アプローチの方法等を学びます。色々な支援の場面で気づいたことを記録し、分析し、スーパーバイザーの指示や意見を受け止め、実践の場面での支援のあり方を修正しながら実習を進めます。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会（監修）、長谷川匡俊、上野谷加代子、白澤政和他編「社会福祉士相談援助実習（第2版）」中央法規出版

《参考図書》

授業の中で指示をします。

《授業の到達目標》

実践を通して、習得してきた知識や技術とを統合し、現場のソーシャルワーカーとしての姿勢・価値・理論を培い、必要に応じて活用する力を身につけることができます。同時に、利用者の姿や福祉を担う施設や従事者の実践活動、その運営や経営実態を知ることで、社会福祉施設における専門職の要としての役割を理解し得する第一歩を踏み出すことができます。

《授業時間外学習》

実習は主に長期休暇期間（授業時間外）中に行います。また実習先の特性や周辺にある社会資源の分布状況などを事前踏査で把握します。関係する法規を読んでおき、授業で学習し必要と思われる事項は繰り返しの復習が必要です。社会福祉士の倫理綱領や実習先施設の概要なども事前に読んで理解しなければなりません。

《成績評価の方法》

学科が定める「相談援助実習」取り扱い事項に従い、実習施設、巡回指導教員、単位認定者による評価に基づき総合的にを行います。

《備考》

相談援助実習指導Ⅲでの事前、事後指導と連動します。実習の実施にあたっては、学科の定める「相談援助実習」取り扱い事項に従います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習先の概要についての理解	実習先の業務内容と施設の方針、職員の役割や配置、建物の概要、関連施設などについて、説明を受け、理解をします。
2	実習先の組織についての理解	施設に係る法的根拠や支出・収入を含む経営状況、運営や意思決定、業務日誌等の日常用いられる文書様式について説明を受ける等で学びます。
3	基本的なコミュニケーションの理解	職員や利用者、家族、住民と接する中で挨拶、自己紹介を行うなど基本的なコミュニケーションを取り、関わり方を学びます。
4	言語的・非言語的コミュニケーションの理解	対応が難しい利用者等へ関わる中で、言語的、非言語的コミュニケーションの取り方を理解し、利用者個々に合致する円滑な関係形成の方法を学びます。
5	支援等を通しての利用者の理解	日常的な利用者の行動や施設職員と利用者との関わりを観察したり、カルテや支援計画等を閲覧することにより心身的特徴について分析し、利用者理解を深めます。
6	社会福祉士の職種・倫理の理解	実習指導者など社会福祉士の業務に同行することから、社会福祉士の職種を学び、倫理に基づく判断を理解し、実習中に感じたディレンマを分析します。
7	職員の業務を踏まえての施設運営の理解	施設職員の役割と業務を踏まえてのチームアプローチの意義やケースカンファレンスなどの会議の運営や社会福祉士の役割などを参加や観察を通して学びます。
8	利用者との援助関係の形成についての理解	援助関係形成を意識して利用者に関わるとともに、社会福祉士による面接を観察するなどにより面接技法について学びます。個人情報保護についても学びましょう。
9	施設のある地域の理解	地域にある施設や住民組織が参加する会議や行事に参加することなどを通して地域に存する社会資源について学びましょう。
10	地域への働きかけについての理解	地域の方や学校、家族によるボランティア活動への関与を通し、地域の組織化、当事者グループの形成などについて理解をしましょう。
11	アセスメントシートについての理解	利用者や家族へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解するために、アセスメント・シートの構造や使用方法を学びましょう。
12	利用者や家族のエンパワメント実践の理解	利用者や家族との関係性を明らかにするエコマップやジェノグラムを学び、権利擁護を踏まえて、利用者のエンパワメントの方法を理解しましょう。
13	アセスメントの実践	担当する利用者へのアセスメントを行い、利用者や家族が抱える課題を把握し、ニーズを確定しましょう。
14	個別支援計画の策定①	利用者のアセスメントやニーズに基づき、支援目標、支援計画を作成しましょう。
15	個別支援計画の策定②	個別支援計画について、カンファレンスでの検討を行うとともに、計画に従っての実践とモニタリングを行いましょう。

科目名	相談援助実習	科目ナンバリング	SSWB23009
担当者氏名	田端 和彦、吉原 恵子、竹内 一夫、和田 光徳、小倉 毅、小林 茂		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる (自己管理能力) ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度 (社会的責任) ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる (地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ) ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感性、観察力、問題発見力) ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる (知識・技能の統合) 		

《授業の概要》

(通年授業のためⅠ期と同じことが記されています)。180時間の社会福祉現場での実習を行います。その中で、施設の機能、利用者とその家族を理解し、職員やソーシャルワーカーとの関係や実践を通して支援の必要性を実感し、アプローチの方法等を学びます。色々な支援の場面で気づいたことを記録し、分析し、スーパーバイザーの指示や意見を受け止め、実践の場面での支援のあり方を修正しながら実習を進めます。

《授業の到達目標》

実践を通して、習得してきた知識や技術とを統合し、現場のソーシャルワーカーとしての姿勢・価値・理論を培い、必要に応じて活用する力を身につけることができます。同時に、利用者の姿や福祉を担う施設や従事者の実践活動、その運営や経営実態を知ることで、社会福祉施設における専門職の要としての役割を理解し体得する第一歩を踏み出すことができます。

《成績評価の方法》

学科が定める「相談援助実習」取り扱い事項に従い、実習施設、巡回指導教員、単位認定者による評価に基づき総合的にを行います。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会 (監修)、長谷川匡俊、上野谷加代子、白澤政和他編「社会福祉士相談援助実習 (第2版)」中央法規出版

《参考図書》

授業の中で指示をします。

《授業時間外学習》

実習は主に長期休暇期間 (授業時間外) 中に行います。また実習先の特性や周辺にある社会資源の分布状況などを事前踏査で把握します。関係する法規を読んでおき、授業で学習し必要と思われる事項は繰り返しの復習が必要です。社会福祉士の倫理綱領や実習先施設の概要なども事前に読んで理解しなければなりません。

《備考》

相談援助実習指導Ⅲでの事前、事後指導と連動します。実習の実施にあたっては、学科の定める「相談援助実習」取り扱い事項に従います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習先の概要についての理解	実習先の業務内容と施設の方針、職員の役割や配置、建物の概要、関連施設などについて、説明を受け、理解をします。
2	実習先の組織についての理解	施設に係る法的根拠や支出・収入を含む経営状況、運営や意思決定、業務日誌等の日常用いられる文書様式について説明を受ける等で学びます。
3	基本的なコミュニケーションの理解	職員や利用者、家族、住民と接する中で挨拶、自己紹介を行うなど基本的なコミュニケーションを取り、関わり方を学びます。
4	言語的・非言語的コミュニケーションの理解	対応が難しい利用者等へ関わる中で、言語的、非言語的コミュニケーションの取り方を理解し、利用者個々に合致する円滑な関係形成の方法を学びます。
5	支援等を通しての利用者の理解	日常的な利用者の行動や施設職員と利用者との関わりを観察したり、カルテや支援計画等を閲覧することにより心身的特徴について分析し、利用者理解を深めます。
6	社会福祉士の職種・倫理の理解	実習指導者など社会福祉士の業務に同行することから、社会福祉士の職種を学び、倫理に基づく判断を理解し、実習中に感じたディレンマを分析します。
7	職員の業務を踏まえての施設運営の理解	施設職員の役割と業務を踏まえてのチームアプローチの意義やケースカンファレンスなどの会議の運営や社会福祉士の役割などを参加や観察を通して学びます。
8	利用者との援助関係の形成についての理解	援助関係形成を意識して利用者に関わるとともに、社会福祉士による面接を観察するなどにより面接技法について学びます。個人情報保護についても学びましょう。
9	施設のある地域の理解	地域にある施設や住民組織が参加する会議や行事に参加することなどを通して地域に存する社会資源について学びましょう。
10	地域への働きかけについての理解	地域の方や学校、家族によるボランティア活動への関与を通し、地域の組織化、当事者グループの形成などについて理解をしましょう。
11	アセスメントシートについての理解	利用者や家族へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解するために、アセスメント・シートの構造や使用方法を学びましょう。
12	利用者や家族のエンパワメント実践の理解	利用者や家族との関係性を明らかにするエコマップやジェノグラムを学び、権利擁護を踏まえて、利用者のエンパワメントの方法を理解しましょう。
13	アセスメントの実践	担当する利用者へのアセスメントを行い、利用者や家族が抱える課題を把握し、ニーズを確定しましょう。
14	個別支援計画の策定①	利用者のアセスメントやニーズに基づき、支援目標、支援計画を作成しましょう。
15	個別支援計画の策定②	個別支援計画について、カンファレンスでの検討を行うとともに、計画に従っての実践とモニタリングを行いましょう。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	専門ゼミナール I	科目ナンバリング	SFFB13010
担当者氏名	田端 和彦、原 志津、光田 豊茂		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解) ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる (論理的思考力、情報リテラシー) ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる (統計分析力) ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感力、観察力、問題発見力) ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる (人に働きかける力) 		

《授業の概要》

4年生での卒業論文を執筆を目指して、2年間の卒業研究に取り組みます。教員の指導に従い、基本的な文献の読解や研究手法の学習などに取り組みます。これらを用いて、研究課題の設定、課題に即しての仮説の作成のための文献の読解、調査の方法を考えることができるようにする基礎的な学びになります。なお授業の進め方、専門ゼミへの配属等については、別途指示をします。

《授業の到達目標》

授業の進め方や指導にあたる教員により違いもありますが、専門ゼミナール I と II を通し、ソーシャルワークの専門職として学問に臨み、実践と理論とを結ぶために必要な態度を身に付けることが到達目標となります。具体的には、基本となる文献等の読解を通し、課題を見出すことや、現状を分析するための調査や分析方法を理解し、直面する問題に対して応用することが可能になります。

《成績評価の方法》

指導にあたる教員により違いもありますが、原則としては日常的な学習態度、課される課題への対応状況などが評価の対象となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	専門ゼミに関するガイダンス	専門ゼミで学ぶ意義、ソーシャルワークの国際定義に示される学問としてのソーシャルワークの意味について学びます。そして専門ゼミへの配属について説明をします。
2	授業概要と授業計画	授業の概要の説明を受けるとともに、今後の計画や日程、今後の学習の方針などについて教員やゼミ生とともに検討をします。
3	専門に関わる基礎学習について	学習方針、計画に基づき学習を進めます。第4週目以降に記載された学習内容は一般に専門ゼミで学ぶ手法を示しています。実際の学習の進みと異なる場合があります。
4	基本文献の輪読①	社会福祉、現代社会等に関する基本的な文献を購入、ゼミ生が担当する範囲について読み込み、関連する内容などを調べてレジュメ (要約) を作成します。(続く)
5	基本文献の輪読②	基本文献を一度を読んだだけでその内容を把握することはできないでしょう。担当者は自分が説明できるよう繰り返し読み込み、判らない箇所は調べます。(続く)
6	基本文献の輪読③	レジュメを基に他のゼミ生の前で報告をします。基本文献について他のゼミ生も事前にその週で進む範囲を読んでおくこと (事前学習) が必要になります。(続く)
7	基本文献の輪読④	担当者がレジュメを基に報告したことに対し、教員や他のゼミ生が質問や意見を述べ、担当者が応えます。欠席は他のゼミ生にも迷惑を掛けることとなります。(続く)
8	基本文献の輪読⑤	基本文献の輪読はゼミ生で共通の基盤を作ること、及び学問についての基礎固めのために行います。
9	調査・分析の基礎①	調査・分析の方法を学びます。アンケート調査、聞き取り調査、観察調査、公的統計分析、文献の読み込み、歴史の検証、実験等が学問を進める上で必要です。(続く)
10	調査・分析の基礎②	アンケート調査では、テーマに基づく対象者の選定と母集団からの抽出、調査票の作成、抽出・回収を含む調査の実施、データ入力、統計分析の手法を学びます。(続く)
11	調査・分析の基礎③	聞き取り調査、観察調査では、テーマに基づく対象 (者、場所等) の選定、調査依頼、調査項目の決定、調査の実施、質的データの整理と分析の手法を学びます。(続く)
12	調査・分析の基礎④	公的統計分析は、政府・地方公共団体等の行った統計調査の結果をテーマに合わせて分析することで、統計種類、製表、多変量解析等の統計分析の手法を学びます。(続く)
13	調査・分析の基礎⑤	文献の読み込みとは、テーマに関連する文献 (論文) を広く収集し読み込み、相互の関連を調べ、一定の方向を見出します。文献の収集方法などを学びます。(続く)
14	調査・分析の基礎⑥	歴史の検証は、文献に表れる特定の人物・組織・事実が歴史での役割を明らかにすることで、文献の読み込み、聞き取り調査などの手法を歴史文書にも応用します。(続く)
15	調査・分析の基礎⑦	実験は心理実験と社会実験です。心理実験は人を対象に、社会実験は社会を対象に条件を変更して、入力に対する出力を測定することです。

《テキスト》

指導にあたる教員の指示に従ってください。

《参考図書》

指導にあたる教員の指示に従ってください。

《授業時間外学習》

文献の講読や調査、発表等の準備は、時間外に行います。指導に従ってください。また実際の調査なども授業時間外に行うこととなります。

《備考》

専門ゼミナール (ゼミ) は6~10人での少人数での指導が中心です。教員やゼミ仲間 (ゼミ生) とともに学び合うこととなります。共同ゼミの場合もあります。

科目名	専門ゼミナールⅡ	科目ナンバリング	SFFB13011
担当者氏名	田端 和彦、原 志津、光田 豊茂		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） 		

《授業の概要》

専門ゼミナールⅠに引き続き、4年生での卒業論文を執筆を目指して、2年間の卒業研究に取り組みます。後半では主に、基本的な文献の読解や研究手法の学習を踏まえて、研究課題を設定し、その課題に即しての仮説の作成のための文献の読解、調査法の選定と予備調査などを行います。

《テキスト》

指導にあたる教員の指示に従ってください。

《参考図書》

指導にあたる教員の指示に従ってください。

《授業の到達目標》

授業の進め方や指導にあたる教員により違いもありますが、専門ゼミナールⅠとⅡを通し、ソーシャルワークの専門職として学問に臨み、実践と理論とを結ぶために必要な態度を身に付けることが到達目標となります。具体的には、基本となる文献等の読解を通し、課題を見出すことや、現状を分析するための調査や分析方法を理解し、直面する問題に対して応用することが可能になります。

《授業時間外学習》

文献の講読や調査、発表等の準備は、時間外に行います。指導に従ってください。また実際の調査なども授業時間外に行うこととなります。

《成績評価の方法》

指導にあたる教員により違いもありますが、原則としては日常的な学習態度、課される課題への対応状況などが評価の対象となります。

《備考》

専門ゼミナール（ゼミ）は6～10人での少人数での指導が中心です。教員やゼミ仲間（ゼミ生）とともに学び合うこととなります。共同ゼミの場合もあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	専門ゼミに関するガイダンス	配属されたゼミで研究課題について説明します。課題はゼミ生個人で取り組む場合とゼミ内でグループ取り組む場合があります。指導教員の指示に従ってください。
2	授業概要と授業計画	今後の計画や日程、今後の学習の方針などについて教員やゼミ生とともに検討をします。
3	取り組む研究課題について	取り組む研究課題を指導教員から与えられる場合とゼミ生が提示する場合があります。第4週～第8週まで、ゼミ生が研究課題を提示したり見出すための方法を記載します。
4	研究課題の提示①	関心ある大きな課題（例：貧困）から絞る方法です。その課題に関連する課題・キーワード（子どもの貧困、相対的貧困率等）を周囲に展開させ鳥瞰図を描きます。（続
5	研究課題の提示②	鳥瞰図を見て相互の関連を踏まえながら研究課題を抽出します。課題を絞り込むとともに、思い付きではなくなぜその課題を選ぶかが明確になる方法です。（続く）
6	研究課題の提示③	逆に、実習など自分の小さな経験を発展させる方法もあります。経験の中で一般化できる研究課題であるかを指導教員など第三者と協議をする中で見出します。（続く）
7	研究課題の提示④	関心ある課題で過去の研究を集めます。指導教員の研究やこれまでの卒業研究もその対象となります。その研究を異なる分野や異なる対象に応用します。（続く）
8	研究課題の提示⑤	以上のように、（1）大きな課題から絞り込む方法、（2）小さな気付きから発展させる方法、（3）過去の研究を応用する方法、はグループワークでも可能です。
9	関連文献の検索と読み込み①	研究課題が決まれば、関連文献を検索し読み込みます。読んだ文献の内容をカード（電子的なものでもよい）にまとめます。そのまま卒論に使うことができます。（続く）
10	関連文献の検索と読み込み②	関連文献には日本語文献だけではなく、他言語の文献も忘れずに検索しましょう。作成したカードは、関連させながら仮説を作成する際に使用します。（続く）
11	関連文献の検索と読み込み③	読みこんだ文献の内容をゼミで報告します。指導教員やゼミ生の意見を聞きながら、仮説の作成を考えましょう。
12	仮説の作成と卒業研究の準備①	読み込んだ文献を踏まえ、研究課題を検証するための仮説を作成します。しっかりした仮説を立てることが研究を成功に導きます。（続く）
13	仮説の作成と卒業研究の準備②	仮説は独自性、新規性があるものが望まれます。読み込んだ文献には無かった内容が仮説に繋がります。文献を読むほどしっかりした仮説を立てられます。（続く）
14	仮説の作成と卒業研究の準備③	ソーシャルワークが実践的な学問であるため、仮説は具体的な行動に結び付くものがよいでしょう。仮説を立てるには経験が重要です。指導教員とよく話し合いましょう。
15	卒業研究の準備	卒業研究への準備は大丈夫でしょうか。全員で互いに確かめます。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	就労支援サービス	科目ナンバリング	SSWC23012
担当者氏名	小出 享一		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 		

《授業の概要》

労働を取り巻く現状を踏まえたうえで、障害者および低所得者への就労支援に関する法律・制度を理解し、事例を通してその実際を学ぶ。授業ではテキストのほか、新聞記事、DVDなども活用する。また障害者の就労支援に実際に関わっているソーシャルワーカーにゲストスピーカーで来てもらい、話しをしてもらう予定である。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座18『就労支援サービス』（中央法規出版）

《参考図書》

参考図書は授業時にその都度、紹介したい。

《授業の到達目標》

①障害者および低所得者への就労支援に関する法律・制度を理解する。②就労支援に関わる組織・団体・専門職について理解する。

《授業時間外学習》

社会福祉は、その時々々の政治、社会、経済のあり方や状況によって、変化し、動く。法律・制度や福祉サービスはその影響を受けることが多い。新聞や雑誌、テレビ、インターネットなどの情報を活用して、社会の動向などに注目しておいてほしい。

《成績評価の方法》

筆記試験、出席によって評価する。（出席重視）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	障がいを持って生きるということ（自己紹介と授業の進めたかたについて）
2	労働の意味と社会福祉士	①労働の意味、②日本の労働問題、③社会福祉士と就労支援
3	現代の労働を取り巻く状況	①労働市場の変化、②労働に関する法律と制度
4	障害者と就労支援①	①障害者就労の現状、②障害者福祉施策における就労支援、障害者雇用施策における就労支援
5	障害者と就労支援②	④専門職の役割、⑤民間の取り組み、③諸外国の取り組み
6	障害者と就労支援③	障害者の就労支援に携わるゲストスピーカーの話し
7	低所得者と就労支援①	①支援の対象像、②低所得者の就労の現状、③就労支援制度、
8	低所得者と就労支援②	④組織・団体の役割、⑤専門職の役割、⑥今後の展望
9	連携・ネットワーキング①	①就労支援とケアマネジメント、②就労支援とネットワーク
10	連携・ネットワーキング②	③連携・ネットワーキングの実際
11	さまざまな働き方の支援	ワーキングプアなどの対応
12	社会起業	障害者と社会起業
13	事例①	障害者の就労支援事例
14	事例②	低所得者の就労支援事例
15	まとめ	就労支援サービスのまとめと社会福祉士国家試験の対策について

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	更生保護制度	科目ナンバリング	SSWC24005
担当者氏名	光田 豊茂		
授業方法	講義	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

更生保護制度は「犯罪をした者及び非行のある少年に対し、社会内において適切な処遇を行うことにより、再び犯罪をすることを防ぎ、又はその非行をなくし、これらの者が社会の一員として自立し、改善更生することを助けること」が、その目的である。その具体的な制度の内容や、それに携わる人達の働きについて講義する。（より実際的な業務を理解するために、その業務に携わる職員をゲスト講師として招く予定です。）

《授業の到達目標》

更生保護制度の概要を把握し、この制度の目的を果たすために働いている保護観察官や保護司等の業務やその役割が理解できる。それと共に、これに関係する諸機関、更生保護施設等の役割についても理解できる。

《成績評価の方法》

授業への取り組み・コメント内容（60%）
 レポート課題に対する取り組み（40%）
 ※レポートにはコメントを付して返却する。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座20『更生保護制度』第4版（社会福祉士養成講座編集委員会）、中央法規出版、2017

《参考図書》

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしており、疑問点等があれば次回授業に質問すること。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。
 8週の授業計画です。必要授業時間数＝(90分×7週)＋45分

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	更生保護制度の概要	刑事司法の中の更生保護の果たす役割やこれまでの歴史、位置づけについて理解する。
2	仮釈放等の制度	仮釈放等の制度の流れと更生保護委員会・保護観察所の業務とその役割について理解する。
3	保護観察	保護観察の目的、方法とその担い手である保護観察官・保護司の業務とその役割について理解する。
4	保護観察の実際	更生保護制度の担い手である保護観察官の仕事の実際を理解する。（ゲスト講師予定）
5	更生保護制度の担い手	更生保護制度の担い手として、保護司、更生保護施設、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主等の多くの民間ボランティアが活動やその役割について理解する。
6	地域生活定着支援センターの役割	高齢者や障害を抱える自立困難な刑務所出所者等に対する社会復帰の支援内容や、それに携わる支援者のかかわりについて理解する。（ゲスト講師予定）
7	医療観察制度	医療観察制度における処遇の流れと、その中で果たす社会復帰調整官の業務とその役割について理解する。（ゲスト講師予定）
8	まとめ	更生保護制度の全体の流れをもう一度確認して、本制度の役割について理解する。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

科目名	福祉サービスの組織と経営		科目ナンバリング	SSWC24006
担当者氏名	小林 茂			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

社会福祉サービスを提供する組織とはどのようなものか。また、それを経営するために何が必要で、どのような方法で展開されているのかを理解し、その知識を学ぶ。加えて社会福祉士としてその知識を活用で切る実力を養う。

《テキスト》

「新・社会福祉士養成講座11 福祉サービスの組織と経営（第4版）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
 適時、補助教材を配布する

《参考図書》

福祉小六法
 「非営利組織の経営—原理と実践—」 P. F. ドラッカー著 ダイヤモンド社 1991年

《授業の到達目標》

1. 福祉サービスにかかる組織や団体について理解する。
2. 福祉サービスの組織と経営にかかわる基礎理論について理解する。
3. 福祉サービスの経理と管理運営について理解する。

《授業時間外学習》

1. 予習方法：事前にテキスト該当する章を読んでおくこと
2. 復習方法：授業配布プリントなどを再整理し、不明な点を整理し、次回授業で質問する事。
3. その他：各分野の社会福祉制度および事業については事前に復習しておくこと

《成績評価の方法》

- (1) 授業内藤討論等への参加とその成果 10%
- (2) 課題レポート 25% (提出遅れは減点)
- (3) 定期試験 65%
 ※レポートには採点后コメントを付して返却する

《備考》

授業の進行の妨げになる携帯電話の使用、私語は厳禁。
 社会福祉士国家試験科目であるため、授業で試験問題を取り上げることがある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	福祉サービスにおける組織と経営	福祉サービスの特性を学ぶとともに福祉サービス提供組織の特性を学ぶ。また、組織経営とはどのような事かを理解する。
2	福祉サービスに係る組織や団体（1）	法人とは何かを学ぶとともに、福祉サービス提供組織の一つである社会福祉法人の特性と経営原則を理解する
3	福祉サービスに係る組織や団体（2）	特定非営利活動法人の組織特性と経営原則を理解する
4	福祉サービスに係る組織や団体（3）	その他、福祉サービス提供組織の種類とそれぞれの特性を理解する
5	福祉サービスの組織kと経営の基礎理論（1）	福祉サービスの提供組織の「経営戦略」と「事業計画」に関する基本的考え方を理解する
6	福祉サービスの組織kと経営の基礎理論（2）	「組織」および「管理運営」の基礎理論を学び理解する
7	福祉サービスの組織kと経営の基礎理論（3）	組織経営をするための基礎理論である「集団力学」「リーダーシップ」を学び、理解する。
8	福祉サービスの管理運営方法Ⅰ サービス管理①	「サービスマネジメント」について学び、理解する
9	福祉サービスの管理運営方法Ⅰ サービス管理②	サービスの質の向上を図るための評価システム、改善方策について学び、理解する。
10	福祉サービスの管理運営方法Ⅰ サービス管理③	「苦情対応とリスクマネジメント」及び「サービス提供のあり方の方向性」について学び、理解する。
11	福祉サービスの管理運営方法Ⅱ 人事労務管理①	「人事・労務管理」の仕組みおよび管理方法について学び、理解する。
12	福祉サービスの管理運営方法Ⅱ 人事労務管理②	「人材育成」の意義と人材育成の方法について学び、理解する。
13	福祉サービスの管理運営方法Ⅲ 会計・財務管理	社会福祉法人を中心にした「会計管理」と「財務管理」について学び、理解する。
14	福祉サービスの管理運営方法Ⅳ 情報管理	「情報管理」および「戦略的広報」について学び、理解する
15	福祉サービス提供組織の経営の実際	これまでの学んできた経営理論が実際の現場ではどのように行われているかを、事例などを通して学び、福祉サービス提供組織経営の概要について説明できる。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	心理検査法	科目ナンバリング	SFFC23013
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

福祉の現場に出て行った時利用者さんに関する心理検査のデータや情報等をケースワークに活かすため知っておくと役に立つ「心理検査」について学ぶ。体験・実習した心理検査については自己理解を深めるためにも有効である。

《テキスト》

必要な資料は適宜配布する。

《参考図書》

心理検査の理論と実際 第IV版 花沢・佐藤・大村著
 駿河台出版社 2800円

《授業の到達目標》

知能・発達テスト、人格検査・性格検査・パーソナリティテストを体験・理解し、自己理解・他者理解を深める。

《授業時間外学習》

配布された資料は、きちんとファイルに閉じて自宅をよく読みこんでくること。

《成績評価の方法》

受講態度30% 数回のレポート30% まとめのレポート40%
 提出物にはコメントを付して返却する。

《備考》

同日に連続で開講する「臨床心理学」とあわせて履修が望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	福祉の現場や医療の現場で使用される心理検査をソーシャルワーカーがいかに関活用するかを知る
2	パーソナリティテスト	自己理解を深めるためのパーソナリティテストの体験を行う
3	子どもの現場で使用される心理検査①	児童相談所で使用される発達検査について知る
4	子どもの現場で使用される心理検査②	児童相談所で使用される心理検査と社会生活能力検査について知る
5	子どもの現場で使用される心理検査③	描画テストについて・・・バウムテストを学ぶ
6	子どもの現場で使用される心理検査④	描画テストについて・・・風景構成法を学ぶ
7	病院で使用される心理テスト①	インテークに必要な心理テストについて知る
8	病院で使用される心理テスト②	インテークに必要な心理テストについて知る
9	病院で使用される心理テスト③	投影法①を体験する
10	病院で使用される心理テスト④	投影法②を体験する
11	病院で使用される心理テスト⑤	投影法③を体験する
12	病院で使用される心理テスト⑥	投影法④を体験する
13	親子関係を知るテスト	親子関係テスト実習を行う
14	高齢者のための心理テスト	高齢者のための心理テストを知る
15	まとめ	この授業をふりかえりレポートにまとめて自己理解を深める

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	臨床心理学	科目ナンバリング	SFFC23014
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

臨床心理学とは人のこころを理解しようとし人にとっての意味を理解しようとする心理学である。こころの世界の開拓者フロイトは大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の重要性を発見した。この授業の中で「こころ」の研究の歴史を辿り人と人との関わることで育まれる「関係性」について知り、自分自身と他者のこころを理解できるよう学んでほしい。

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る
- ・対人関係上の問題を呈する人々を理解する上で、乳幼児と母親との関係性と関連させて、より適切な関わりが実践できるよう学ぶ。

《成績評価の方法》

受講態度30%
レポート20%
筆記テスト50%
提出物には、コメントを付して返却する。

《テキスト》

こころの処方箋 （新潮文庫）河合隼雄

《参考図書》

授業内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

テキストを読んで、最終授業日までにレポートを提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床心理学の基本的な考え方を知る
2	フロイトの発見	無意識をめぐって、フロイトの発見から考える
3	フロイトの精神分析①	自由連想法について知る
4	フロイトの精神分析②	フロイトの理論を用いて学ぶ
5	ユングの分析心理学①	ユング自身の人生と分析心理学について知る
6	ユングの分析心理学①	ユングのタイプ論を知る
7	乳幼児期のこころの発達①	赤ちゃんの不安の源泉 メラニー・クラインの精神分析理論を知る
8	乳幼児期のこころの発達②	マーガレット・マラーの分離・個体化過程とウィニコットのホールディングについて学ぶ
9	遊戯療法	子どもの心理療法としての遊戯療法を知る
10	箱庭療法①	ユング心理学と箱庭療法の関連について知る
11	箱庭療法②	箱庭療法の実際を学ぶ
12	行動療法	行動療法の理論を学ぶ
13	認知行動療法	考え方や思考のくせに気づき改善していくための認知行動療法を知る
14	フォーカシング	セルフ・カウンセリングとしてのフォーカシングを知る
15	臨床心理学の理解について	全体のふりかえりと確認を行う

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	加齢及び障害に関する理解		科目ナンバリング	STTC23015
担当者氏名	奥 典之			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

高齢者・障がい者の心理についての基本書を用いて、基本的・理論的な枠組みを事例等も活用し、理論と実践の両面からの学習を行っていく。本講は免許・資格取得科目のため、それらのエッセンスを適宜加えていくことにより、それらの専攻者としてのアイデンティティをもてるような内容とする。

《テキスト》

中野善達・守屋國光 編著「老人・障害者の心理」（改訂版）
福村出版

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

社会福祉の専門職をめざす学生に対して、高齢者や障がい者に適切に接し、あるいは支援したり介護し、地域社会で共に生活していく基盤づくりができるようになるために、高齢者や障がい者をよりよく理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

自分自身の生活から切り離れた特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめる訓練を続けて欲しい。

《成績評価の方法》

平常点と筆記試験、及び課題レポートによる。
全評価に対する割合（％）については、最初の授業で説明する。
提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老人の心理	老年期と老化について
2	老人の心理	老人意識の問題について
3	障害とその心理的影響	障害と障害者について
4	障害とその心理的影響	障害の受容について
5	老人の心理的特性	老年期の精神機能について
6	老人の心理的特性	老年期の知能、記憶機能について
7	老人の心理的特性	老年期の人格と適応について
8	障害の原因・程度・種類別心理的特性	先天性・中途、中・軽度障害、視覚障害について
9	障害の原因・程度・種類別心理的特性	聴覚、言語、内部障害、肢体不自由について
10	障害の原因・程度・種類別心理的特性	知的、精神障害、軽度発達障害について
11	老年期の精神障害・機能障害とその心理	老年期の精神障害とその心理について
12	老年期の精神障害・機能障害とその心理	老年期の機能障害とその心理について
13	高齢者・障害者への対応	高齢者事例研究について
14	高齢者・障害者への対応	障害者事例研究について
15	老人・障害者の心理	総括として

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	人体の構造及び日常生活行動に関する理解		科目ナンバリング	STTC23016
担当者氏名	長尾 光城			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） 			

《授業の概要》

日本の社会保障制度には保健・医療・福祉のセーフティネットがあり、各分野が単独で対象者を支えることはできない。この社会保障が円滑に機能するには、社会福祉士が各関係機関との連携及び調整を図る必要がある。そこで、普段行っている生活行動を理論的に学び、かつ人体の構造と機能に対する理解及び疾病に対する対処方法等の基礎を理解し、連携に必要な基礎知識を身につける。

《授業の到達目標》

- (1) 心身機能と身体構造及び様々な疾病や人の成長・発達や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活行動との関係を踏まえて理解する。
- (2) 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。
- (3) リハビリテーションの概要について理解する。

《成績評価の方法》

授業態度（20%）
レポート課題（30%）
定期試験（50%）
提出物については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座〈1〉人体の構造と機能及び疾病—医学一般 社会福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版

《参考図書》

ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版 障害者福祉研究会編 中央法規出版 2002年

《授業時間外学習》

授業のなかで、3回レポート課題を出します。しっかり取り組んでください。

《備考》

医学一般の項目に興味を持てるように勉学に励んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人の成長と発達	身体の成長と発達について理解する。
2	人の成長と発達	身体及び精神の加齢と老化について理解する。
3	人体の構造と機能の概要	人体の運動神経器官の構造と機能について理解する
4	人体の構造と機能の概要	人体の内臓器官等の構造と機能について理解する
5	国際生活機能分類の基本的な考え方と概要①	国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）への変遷を学ぶ。
6	国際生活機能分類の基本的な考え方と概要②	心身機能と身体構造、活動、参加の概念を理解する。
7	国際生活機能分類の基本的な考え方と概要③	環境因子と個人因子の概念、健康状態と生活機能低下の概念を理解する。
8	健康の捉え方	健康と概念と公衆衛生、保健の概要について理解する。
9	疾病の概要①	悪性腫瘍、生活習慣病、感染症について理解する。
10	疾病の概要②	神経・精神疾患、精神疾患、難病について理解する。
11	障害の概要①	視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害について理解する。
12	障害の概要②	知的障害、精神障害、発達障害、認知症、高次機能障害について理解する。
13	リハビリテーションの概要①	リハビリテーションの定義、目的、対象方法について学ぶ。
14	日常生活上の工夫について①	日常生活様式と生活行動について短文事例を用いて理解する。
15	日常生活上の工夫について②	日常生活様式と生活上の工夫や生活リハビリについて短文事例を用いて理解する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神障害者の生活支援システム		科目ナンバリング	SPSC23017	
担当者氏名	中村 友昭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） 			

《授業の概要》

精神障害者の生活支援について考えるにあたっては、まずは障害の構造的理解が必要である。本講義ではICFによる障害の構造的理解を通じて、障害者の概念を学習し、地域生活での支援について具体的に考察する。また、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、エンパワメントなどの概念を精神障害者の生活支援との関連において考察する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座 第7巻
「精神障害者の生活支援システム」第2版
中央法規出版、2014

《参考図書》

精神保健医療福祉白書 2017 ～地域での共生に向けて～
精神保健医療福祉白書編委員会=編集 中央法規出版

《授業の到達目標》

ICFについて理解し、その理念にもとづいて、「生活機能と障害」「活動と参加」などの概念を説明できる。また精神障害者にとって「人として当たり前の暮らし」とは何か、様々な場面で生活支援との関連において説明できる。

《授業時間外学習》

事前にテキストに目を通しておくこと。まぎわらしい専門用語が多いので、ノートにまとめたり、索引を使って、こまめにチェックし意味を確かめるなどしてほしい。

《成績評価の方法》

授業に対する態度（20%）、レポート（30%）、定期試験（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神障害者の概念と特性	ICFの概要を学習し、障害の構造的理解を深める。
2	精神障害者の定義と精神保健福祉法	法律で定義されている精神保健福祉法と他の法律で定義されている概念の比較を通じてその特性を確認し、「精神障害者」のとらえ方について考察する。
3	精神障害者の生活の実際	様々な調査結果を参照しながら、精神障害者、その家族そして地域社会の実際について学習する。
4	精神障害者の生活と人権	生活支援の理念と概念について考察し、近年の地域生活支援論の動向に関して学習する。また、精神障害者の人権について精神保健福祉士の役割と機能の観点から考察する。
5	精神障害者の地域生活支援システム①	相談援助・雇用・余暇活動等における地域生活支援について学習する。
6	精神障害者の地域生活支援システム②	ソーシャルサポートネットワーク、クライシスケアについて学習する。また、地域生活支援システムの実際について実例を通して学ぶ。
7	精神障害者の居宅支援①	居宅支援制度の歴史的展開について学習する。
8	精神障害者の居宅支援②	居宅支援と精神保健福祉士の役割について学習する。
9	精神障害者の居宅支援③	居宅支援に関わるその他の専門職と役割について学習する。
10	精神障害者の雇用・就業支援①	雇用・就業支援制度の概要と歴史的発展について学習する。
11	精神障害者の雇用・就業支援②	雇用・就業にかかわる専門職とその支援の実際について学習する。
12	精神障害者の雇用・就業支援③	福祉的就労における支援の実際について学習する。また、雇用・就労支援における近年の動向について学習する。
13	行政における相談援助	市町村及び都道府県における相談援助システムについて学習する。
14	行政における精神保健福祉士の役割と機能	行政機関における精神保健福祉士の業務について学習し、事例を通してその特徴と課題について考察する。
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健の課題と支援 I		科目ナンバリング	SPSC23018	
担当者氏名	瀬尾 学				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 			

《授業の概要》

私たちにとって非常に身近であり、かつ、とても重要な課題である「こころの健康（メンタルヘルス）」についての理解を深めていくことを目標とし、こころの健康を保持・増進させるために必要な基礎知識を学ぶ。

《テキスト》

中央法規出版 新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援 日本精神保健福祉士養成校協会 編集

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①精神の健康についての基本的な考え方と、精神保健学が関係する科目・学問との間で果たす役割について理解する。
- ②精神保健を維持、増進するための機能の理解と、精神の健康に関わる専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。

《授業時間外学習》

日ごろから、新聞、テレビ、書物などによりこころの問題・精神保健福祉分野の最近の動向を把握しておくこと。
講義後、学習をした内容について、理解を深める意識を持つこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・授業態度 50%
レポート課題 50%
提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

授業内容に関することについて、積極的に質問をし、議論しながら学んでもらうことを望む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	こころの問題（メンタルヘルス）について理解を深める。
2	精神保健についての基礎知識	精神保健についての基本的な考え方を学ぶ。
3	精神保健の概要	精神保健の重要性と精神保健の・定義についての基本的な考え方を学ぶ。 日本・アメリカ等の精神保健の歴史を学習する。
4	精神の健康に関連する要因 (1)	精神保健にとって重要な概念 健康についての現在の考え方を学ぶ。
5	精神の健康に関連する要因 (2)	精神保健にとって重要な概念 疾患の定義、障害についての考え方を学ぶ。
6	ライフサイクルと精神の健康 (1)	胎児期・妊産婦の精神保健：生命の誕生から出産まで 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。夫婦・出産
7	ライフサイクルと精神の健康 (2)	乳幼児期の精神保健：乳児～幼児まで 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。発達障害・養育
8	ライフサイクルと精神の健康 (3)	学童期における精神保健：7歳から12歳まで ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。いじめ・不登校
9	ライフサイクルと精神の健康 (4)	思春期・青年期における精神保健：12歳頃から25歳頃まで 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。ひきこもり・非行
10	ライフサイクルと精神の健康 (5)	成人期における精神保健：25歳頃から60歳頃まで 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。家族・うつ病・勤労
11	ライフサイクルと精神の健康 (6)	初老期・老年期における精神保健 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。認知高齢者・超高齢化社会
12	精神の健康とその要因	ストレス・生活習慣・身体、精神疾患に由来する障害を学習する。
13	精神の健康への関与と支援 (1)	精神の健康に関する心的態度について理解する。
14	精神の健康への関与と支援 (2)	精神保健に関する予防の概念を理解する。
15	精神の健康への関与と支援 (3)	精神保健福祉制度、地域保健制度 精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体等の役割、および専門職種を理解する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健の課題と支援Ⅱ		科目ナンバリング	SPSC23019	
担当者氏名	瀬尾 学				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 			

《授業の概要》

現代社会における、家庭、学校、職場、地域等のそれぞれにおいて、精神の健康に関わる課題と、その解決のためのアプローチを学習し、精神保健福祉士の役割について理解する。

《テキスト》

中央法規出版 新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援 第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 編集

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。
- ②日本をはじめとして、世界における精神保健福祉活動の現状と課題について理解を深める。

《授業時間外学習》

テキストを読んで授業にのぞむこと。
こころの問題に関する課題について意識し、気が付くことができるように、新聞、雑誌、報道等に注意しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・授業態度50% レポート課題・試験50%
提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

授業内容等に関する疑問や意見は積極的に述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健の視点からみた家族の課題1	現代日本の家族の特徴 現代日本の家族の形態と機能を理解する。 【家族】
2	精神保健の視点からみた家族の課題2	結婚生活・育児をめぐる家族に関する精神保健を理解する。 【夫婦・育児・発達障害・虐待】
3	精神保健の視点からみた家族の課題3	病気療養や介護をめぐる精神保健を理解する。 【病気療養・介護、認知高齢者、ターミナル】
4	精神保健の視点から見た学校教育の課題1	現代日本の学校教育と生徒児童の特徴について理解する。 【不登校・いじめ・自殺・非行暴力】
5	精神保健の視点から見た学校教育の課題2	教員の精神保健、関与する専門職と関係法規・学校保健法について理解する。 【教員のメンタルヘルス・スクールソーシャルワーカー】
6	精神保健の視点からみた勤労者の課題1	現代日本の労働環境について理解する。 【職場内でのメンタルヘルス・関連法規】
7	精神保健に関する対策 うつ病・自殺対策	うつ病と自殺防止対策について理解する。
8	精神保健の視点からみた勤労者の課題2	飲酒問題、薬物依存、ギャンブル依存に関する問題・対策について理解する。 【アルコール依存症・薬物依存等 アディクション（嗜癖）】
9	精神保健に関する対策 アディクション対策	アルコール飲酒に対する対策、薬物依存対策等について理解する。
10	精神保健に関する対策と課題	性同一性障害・多文化と精神保健について学習する。
11	精神保健に関する対策と課題 災害	災害、災害被災者の精神保健 犯罪被害者の精神保健について理解する。
12	精神保健に関する対策と課題 現代社会	ニート・若年無業者と精神保健 ホームレス・貧困問題 ほかに現代社会の課題等について理解する。
13	地域精神保健に関する諸活動1	精神保健に関係する法規などについて理解する。
14	地域精神保健に関する諸活動2	精神保健に関する調査、資源開発、ネットワークづくりなどについて理解する。
15	諸外国の精神保健活動の現状及び対策	世界の精神保健の実情について理解する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I A		科目ナンバリング	SPSC23020	
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）			

《授業の概要》

精神科リハビリテーションは精神疾患を抱えた人達に対して、その人達が生きて行く上での生活の質（QOL）を少しでも良くするための援助の方法です。この援助の基本的知識として、精神科リハビリテーションの概念や歴史、その構成、及びプロセスについて講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座4『精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2014

《参考図書》

【図説リカバリー】野中猛、中央法規出版、2011

《授業の到達目標》

精神科リハビリテーションの目的、意義を理解し、精神科病院や社会復帰施設、地域の様々な施設、機関での精神科リハビリテーションの取り組みについて説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）
 レポート課題に対する取り組み（50%）
 ※レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向	わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向を概観し、その制度の背景についても理解する。
2	諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷	諸外国（アメリカ、カナダイギリス、イタリア等）の精神保健医療福祉制度の変遷について理解する。
3	精神保健福祉士における活動の歴史	精神保健福祉士のこれまでの活動の歴史を振り返り、精神障害者に対する支援の基本的な考え方を理解する。
4	精神障害者支援の理念	精神障害者支援の基盤となる考え方とその原理について理解する。
5	精神保健医療福祉領域における支援対象	精神障害者の定義とその特性について理解する。
6	精神障害者の人権	精神障害者の権利擁護システムについて理解する。
7	精神科リハビリテーションの概念	精神科リハビリテーションの定義や精神科リハビリテーションの起源やその歴史について理解する。
8	精神科リハビリテーションの理念と意義	WHOのリハビリテーションの理念や精神科リハビリテーションの特徴や意義、基本原則について理解する。
9	精神科リハビリテーションの構成と展開	精神科リハビリテーションの対象と、精神科リハビリテーションにかかわる専門職等との連携について理解する。
10	リハビリテーションのプロセス	リハビリテーションの計画とその評価について理解する。
11	アプローチの方法	病院や地域におけるリハビリテーションの方法について理解する。
12	作業療法	精神科作業療法の今日までの歴史を知り、どのような作業療法の活動があるのか、また回復状態に応じて作業療法の目的や役割が違うということを理解する。
13	精神科作業療法の実際	実際に医療現場で行われている精神科作業療法のプログラムや活動内容について理解する。（ゲスト講師予定：作業療法士）
14	レクリエーション療法	レクリエーション療法の活動内容やその目的、そして、レクリエーション療法を行う時の原則について理解する。
15	集団精神療法	集団精神療法とはどのようなものか、グループワークとどう違うのかを知り、集団精神療法の効果や構造について理解する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I B		科目ナンバリング	SPSC23021
担当者氏名	光田 豊茂			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）			

《授業の概要》

精神科リハビリテーション I を踏まえ、医療機関における様々な精神科リハビリテーションの実際を提示し、それに携わる精神保健福祉士の役割について講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座 4 『精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2014

《参考図書》

【図説リカバリー】野中猛、中央法規出版、2011

《授業の到達目標》

医療機関における様々な精神科リハビリテーションの実際を知り、そこにおける精神保健福祉士の果たす役割を説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）
 レポート課題に対する取り組み（50%）
 ※レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	行動療法	学習理論を基に不適応行動の変容に応用した治療技法である行動療法について理解する。（主に、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論の技法）
2	認知行動療法の概要	認知行動療法の基本的な考え方について理解する。（認知・感情・行動の三要素、自動思考やスキーマについて理解する。）
3	認知行動療法の実際	自動思考記録表（7つのコラム表）を用いて、実際の状況について認知再構成を試してみる。
4	社会生活技能訓練の理論	社会生活技能訓練の基本的考え方やその特色について理解する。
5	社会生活技能訓練の実際	具体的な例を用いて、実際にロールプレイを行いながら社会生活技能訓練の技法を体験してみる。（ゲスト講師予定：精神保健福祉士）
6	家族教育プログラム	精神障害者を抱える家族に対して、家族教育プログラムがどうして必要であるのか、また求められる家族教育プログラムの方法や進め方について理解する。
7	デイケア、ナイトケア	地域精神保健福祉活動のひとつとして、デイケアやナイトケアがどのように行われているかを理解する。
8	精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護指導	なぜ精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導が必要であるかを理解し、実際の訪問看護・指導がどのように行われているかを知る。
9	チーム医療の概要	精神科医療機関におけるチーム医療の必要性について理解する。
10	医療機関における多職種との協働・連携	医療機関における多職種による協働・連携を通じてチームアプローチの必要性を理解する。
11	精神障害者支援の実践モデル	精神障害者支援の実践モデルの意味とその内容について理解する。
12	相談援助の過程および対象との援助関係	地域における相談援助の展開を念頭に、「ケースの発見」「面接・契約」から「支援・計画」「支援と評価」そして「終結・アフターケア」に至る一連の過程を理解する。
13	相談援助活動のための面接技術	面接を効果的に行う方法や面接技法について理解する。
14	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義や機能・形態およびコンサルテーションの意義や方法について理解する。
15	まとめ	これまで講義してきた精神科リハビリテーションの実際について総括し、医療機関における精神保健福祉士の果たす役割の重要性について理解する。

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ A		科目ナンバリング	SPSC23022
担当者氏名	正井 佳純			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 何事にも関心を持ち、探求しようとする態度（知的好奇心） <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） <input checked="" type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）		

《授業の概要》

- ①精神障害者を対象とした相談援助活動の展開
 - ②家族調整・支援
 - ③地域以降
 - ④地域を基盤にした相談援助
- 上記4点について、講義と事例検討を通して学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第2版』日本精神保健福祉士養成校協会編 中央法規 2014年

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①精神障害者を対象とした支援の基本的考え方と相談援助技術の展開について理解する。
- ②精神障害者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実践について理解する。
- ③精神障害者の地域生活の実態と社会情勢および地域相談援助における基本的な考え方について理解する。
- ④上記①②③について説明し自分の意見が言えるようになる。

《授業時間外学習》

各回の講義の前にテキストの該当箇所を目を通し、予習しておくこと。

《成績評価の方法》

授業への参加意欲、態度 20%
 レポート等の提出 20%
 定期試験 60%

《備考》

- ①ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。
- ②講義中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の展開①	個別支援の実際と事例分析
2	相談援助の展開②	集団を活用した支援の実際と事例分析
3	相談援助の展開③	事例による相談援助活動の検討
4	相談援助の展開④	事例による相談援助活動の検討
5	相談援助の展開⑤	事例による相談援助活動の検討
6	家族調整・支援の実際①	精神保健福祉における精神障害者と家族の関係、家族支援の方法
7	家族調整・支援の実際②	事例による家族調整・支援の検討
8	地域移行の対象および支援体制①	地域移行支援の対象と地域移行の体制
9	地域移行の対象および支援体制②	精神保健福祉士の役割と他職種との連携
10	地域移行の対象および支援体制③	地域移行支援・地域定着支援の取組
11	地域移行の対象および支援体制④	地域移行にかかわる組織や機関
12	地域移行の対象および支援体制⑤	事例による地域移行支援の検討
13	地域を基盤にした相談援助の主体と対象①	精神障害者をとりまく社会的状況、地域相談援助の主体・対象・体制
14	地域を基盤にした相談援助の主体と対象②	事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討
15	まとめ	本講義で学んだことに関するふりかえり

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡB		科目ナンバリング	SPSC23023
担当者氏名	正井 佳純			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） <input checked="" type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

- ①地域を基盤にした精神科リハビリテーションの基本的考え方
 - ②精神障害者のケアマネジメント
 - ③地域を基盤にした支援とネットワーク
 - ④地域生活を支援する包括的な支援
- 上記4点について講義と事例検討を通じて学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第2版』日本精神保健福祉士養成校協会編 中央法規 2014年

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①精神障害者を対象とした地域リハビリテーション、ケアマネジメント、コミュニティワークについて理解する。
- ②地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援の意義と展開について理解する。
- ③上記①②について説明し、自分の意見が言えるようになる。

《授業時間外学習》

各回の講義の前にテキストの該当箇所を目を通し、予習しておくこと。

《成績評価の方法》

授業への参加意欲、態度 20%
 レポート等の提出 20%
 定期試験 60%

《備考》

- ①ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。
- ②講義中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方①	地域ネットワーク、アウトリーチ
2	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方②	地域生活支援事業と訪問援助、家族会およびセルフヘルプグループ
3	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方③	精神保健福祉ボランティアの育成と活用
4	精神障害者のケアマネジメント①	ケアマネジメントの原則
5	精神障害者のケアマネジメント②	ケアマネジメントの意義と方法
6	精神障害者のケアマネジメント③	ケアマネジメントの展開過程、チームケアとチームワーク
7	精神障害者のケアマネジメント④	事例による精神障害者ケアマネジメントの検討
8	地域を基盤にした支援とネットワーク①	地域を基盤にした支援の概念と基本的性格
9	地域を基盤にした支援とネットワーク②	地域アセスメントとBSCおよびSWOT分析
10	地域を基盤にした支援とネットワーク③	地域を基盤にした支援の具体的展開
11	地域を基盤にした支援とネットワーク④	事例による地域を基盤にした支援の検討①
12	地域を基盤にした支援とネットワーク⑤	事例による地域を基盤にした支援の検討②
13	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開①	包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開
14	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開②	事例による地域生活を支援する包括的な取組の検討
15	まとめ	本講義で学んだことに関するふりかえり

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習指導	科目ナンバリング	SPSC23026
担当者氏名	光田 豊茂、和田 光徳		
授業方法	実習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） <input type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） <input type="radio"/> 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）		

《授業の概要》

- 1、必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 2、職業倫理を身につける。
- 3、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 4、専門職種との連携のあり方を理解する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2015年

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神障害者の特性や、置かれている状況や生活課題を理解し、精神保健福祉士がどのような制度、サービスを用いてその支援を行っているかを理解する。そして、次年度の実習に備えるようにする。

《授業時間外学習》

機会があれば精神保健福祉現場の見学研修も実施する。

《成績評価の方法》

授業態度及び事前学習の発表内容（60%）
 レポート課題に対する取り組み（40%）
 ※レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	精神保健福祉援助実習の意味および組み立てについて
2	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（統合失調症）
3	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（気分障害）
4	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（依存症）
5	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（不安障害、認知症）
6	当事者理解	精神障害者の抱えている生活課題や困難について理解する（ゲスト講師予定：精神障害者当事者）
7	面接技法	実際に面接をロールプレイで行い、面接技法について深めて行く
8	精神保健福祉士業務の実際を知る	精神科医療機関における精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：医療機関で働く精神保健福祉士）
9	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
10	障がい者支援施設の見学	障がい者支援施設を見学して、利用者の状況や精神保健福祉士の役割について理解する
11	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
12	精神保健福祉士業務の実際を知る	地域で働く精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：地域で働く精神保健福祉士）
13	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
14	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
15	実習先の検討および調整	実習生の住所地、興味、進路に応じ実習先の検討を行う

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	福祉レクリエーションⅡ	科目ナンバリング	SFFD23027
担当者氏名	マーレー 寛子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

福祉レクリエーション論Ⅰを土台に、「楽しむことができるようになる」ための援助に関するシステムの理論的背景を理解する。一人一人のクライアントのニーズを理解し、そのニーズに沿ったレクリエーションの計画を立てるための方法論を学ぶ。

《テキスト》

よくわかる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル2
日本レクリエーション協会編 2013

《参考図書》

《授業の到達目標》

福祉レクリエーション総合計画について理解する。APIEプロセスについて理解する

《授業時間外学習》

課題レポート 授業内でしめされる課題についてリサーチし、レポートをまとめる

《成績評価の方法》

課題レポート（期日厳守）50% 振り返りテスト（コースの最終日に行う。持ち込み不可）50%
提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	福祉レクリエーション総合計画	個人のニーズと共通のニーズの理解を深める
2	福祉レクリエーション総合計画	福祉レクリエーション総合計画：分析1）組織の分析
3	福祉レクリエーション総合計画	福祉レクリエーション総合計画：分析2）資源の分析 3）地域の分析
4	福祉レクリエーション総合計画	福祉レクリエーション総合計画：概念化・検討・決定
5	福祉レクリエーションサービス活用支援プラン	APIEプロセス：アセスメント、ICFを活用したアセスメント
6	福祉レクリエーションサービス活用支援プラン	APIEプロセス：プランニング（福祉レクリエーション活用計画）
7	福祉レクリエーションサービス活用支援プラン	APIEプロセス：プランニング（福祉レクリエーション活用支援プラン）
8	福祉レクリエーションサービス活用支援プラン	APIEプロセス：評価（評価の始点）
9	グループレクリエーション	グループを介したレクリエーションの計画立案
10	グループレクリエーション	グループを介したレクリエーションの計画立案：グループダイナミックス
11	一人一人を支える行事・イベントの計画	福祉レクリエーション総合計画の中での位置づけ・目標設定
12	一人一人を支える行事・イベントの計画	イベント企画：準備・実施のポイント
13	福祉レクリエーション支援の評価	記録と評価の方法
14	レジャー教育	レジャー教育の概要
15	コースのまとめ	学期の振り返り・筆記テスト

科目名	福祉レクリエーション演習Ⅱ		科目ナンバリング	SFFD23028	
担当者氏名	原 志津				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

福祉レクリエーション支援は、①支援者と対象者が1対1で関わる個人への介入 ②小集団のグループダイナミクスを活かした介入 ③レクリエーション活動への参加を促す環境づくりの方法がある。3冊目のテキストを使いながら、これまでの学習の総まとめをし、3年夏のソーシャルワーク実習の現場や将来の仕事先で大いに役立ててほしい。

《授業の到達目標》

- ①福祉レクリエーション支援の3つの方法について理解する。
- ②対象者と現場のニーズにあわせた福祉レクリエーション活動を考え実践できる。

《成績評価の方法》

授業参加点（出席状況・受講態度30）＋振り返り提出点20＋実技指導評価点20（企画書と指導）＋最終レポート提出点30
 提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

必要な資料は適宜配布する。

《参考図書》

「レクリエーション支援の基礎－楽しさ・心地よさを活かす理論と技術3」見通しと根拠をもって個人やグループを支える方法（日本レクリエーション協会・2007）「リハビリテーションとレクリエーション援助」（嵯峨野書院・1998）「楽しいアイスブレイキングゲーム集」（日本レクリエーション協会・2002）

《授業時間外学習》

図書館にあるレクリエーション関連の本にあたってみたい、自分の興味のあるレクリエーションの分野は何か、常に関心のアンテナをはって、実技できる領域を増やしていけるよう行動して欲しい。Ⅱ期の終わりには、筆記試験・実技試験が学内で開催されるので、Ⅱ期には「試験対策講座」実施の予定です。

《備考》

授業には実技指導者にふさわしい服装・靴で参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	福祉レクリエーションの介入技術とは
2	1. 個人への福祉レクリエーション支援①	対象者と支援者の交流を活かしたレクリエーション活動の展開①個人への介入の構造
3	1. 個人への福祉レクリエーション支援②	対象者と支援者の交流を活かしたレクリエーション活動の展開②個人への介入方法を活かしたレクリエーション活動の展開
4	個人で楽しむ福祉レクリエーション	施設の種類の展開事例について
5	個人のモチベーションを高めるには	動機付けに用いやすい1対1の福祉レクリエーション活動例
6	2. 小集団の交流を活かした介入技術①	①対象者同士の相互作用を引き出す介入技術
7	2. 小集団の交流を活かした介入技術②	②みんなの楽しさがひとりの楽しさへ
8	2. 小集団の交流を活かした介入技術③	③小集団の長所を生かす支援者のかかわり方
9	2. 小集団を活かした福祉レク活動の展開①②	小集団を生かしたプログラム作りの方法
10	2. 小集団を活かした福祉レク活動の展開②	小集団の力を引き出し、活かしやすい活動について
11	3. 環境づくり	没頭できる趣味活動の発見と継続を支える環境づくり①自立的な生きがい活動の追及や余暇活動の意義②支援の基本的な考え方と方法③社会資源の実際とつなげ方
12	対象者と現場にあわせたレク活動のアレンジ①	対象者と現場にあわせた福祉レクリエーション活動のアレンジ①
13	対象者と現場にあわせたレク活動のアレンジ②	対象者と現場にあわせた福祉レクリエーション活動のアレンジ②
14	対象者と現場にあわせたレク活動のアレンジ③	対象者と現場にあわせた福祉レクリエーション活動のアレンジ③
15	対象者と現場にあわせたレク活動のアレンジ④	対象者と現場にあわせた福祉レクリエーション活動のアレンジ④

科目名	在宅ケア論	科目ナンバリング	SFFD23032
担当者氏名	小林 茂		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

地域での自立生活を支援するうえで重要な「生活の場におけるケア：在宅ケア」を考察するため、在宅ケアの特徴を知り、在宅ケアに必要な基礎的知識を学ぶ。また、在宅ケアにかかわる社会資源の活用、地域社会との連携、多職種連携におけるソーシャルワーカーの役割と機能を理解し、説明できるようになる。

《授業の到達目標》

1. 在宅ケアに関する動向、社会的ニーズを知り、在宅ケアの目的・理念と特徴について理解する。
2. 在宅ケアの対象者の特徴を知り、要支援者の自立生活を支援するためのソーシャルワーカーの役割と機能を理解する。
3. 在宅ケアに関わる社会資源の活用、地域社会との連携、多職種連携におけるソーシャルワーカーの役割と機能を理解する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内藤討論等への参加とその成果 20%
- (2) 課題レポート 20% (提出遅れは減点)
- (3) 定期試験 60%
※レポートにはコメントを付し採点后返却する

《テキスト》

授業内容に即したプリントを配布

《参考図書》

- 「地域福祉援助をつかむ」 岩間伸之・原田正樹著 有斐閣 (2012)
 「障害を持つ人たちの自立生活とケアマネジメント」 谷口 明広 著 ミネルヴァ書房 (2005)

《授業時間外学習》

改めて自己の日常生活をふりかえり、自分らしく生活するとは何か、そのための条件は何かを考えてみましょう。
 また、これまで学んできた社会福祉の諸制度などを整理しておきましょう。

《備考》

1. 授業の進行の妨げになる携帯電話の使用、私語は厳禁。
2. アクティブラーニングゾーンにて授業を実施する場合もある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	在宅ケアの目的と理念	我が国の在宅ケア、コミュニティケアの変遷を踏まえ、在宅ケアの目的と理念をについて理解する
2	在宅ケアの特徴と機能	「自立」の概念整理をするとともに、地域での自立生活と何か、在宅ケアの特徴は何かを入所施設でのケアと比較しながら考察できる
3	生活支援／自己決定を支える援助	当事者が地域で主体的に生活していくための支援のあり方、とりわけ自己決定を支える援助について考察できる
4	在宅ケアと家族支援	在宅ケアにおいて、家族も含めて支援することの重要性を理解し、家族の特性とともに家族へのアセスメント方法について理解する
5	在宅生活を支える”住まい”	生活の場である住まいは当事者の数だけ違いがある。生活の場である家屋、生活資源を調達する地域を含めた”住まい”について理解する
6	社会参加と地域社会	ケアを受ける当事者が多様な分野の社会参加ができるようにするための条件および地域社会の課題について理解する
7	在宅ケアと権利擁護	地域での自立生活を支える権利擁護の概念整理と実践現場での課題について考察できる
8	在宅ケアに関わる社会資源①	在宅ケアめぐる諸制度(介護保険制度、障害者総合支援法等) およびフォーマル、インフォーマルの社会資源の内容と特性を理解する
9	在宅ケアに関わる社会資源②	在宅ケアめぐる諸制度(介護保険制度、障害者総合支援法等) およびフォーマル、インフォーマルの社会資源のコーディネートの方法について理解する
10	多職種連携とソーシャルワーカーの役割	当事者の地域での自立生活に向け、多様な専門職及びインフォーマルなサポートと連携していくための方法の理解とソーシャルワーカーの役割について考察できる
11	在宅での自立生活支援の展開方法①	多問題家族の事例をとおして、在宅ケアの展開方法について考察できる
12	在宅での自立生活支援の展開方法②	多問題家族の事例をとおして、在宅ケアの展開方法について考察できる
13	在宅での自立生活支援の展開方法③	障害者の事例をとおして、地域移行に向けての支援の展開方法について考察できる
14	当事者の地域生活に即したサービス開発	地域での当事者の暮らしを支えるコミュニティケアの開発、改良を行うための視点と展開方法について理解する
15	コミュニティケアと地域福祉	在宅ケア、コミュニティケアを支える地域社会づくりを住民主体で取り組めるよう支援していく方法及び専門職の役割について考察できる

《教職に関する科目》

科目名	福祉科教育法	科目ナンバリング	STSW43001
担当者氏名	竹内 一夫、吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本科目では、高等学校の教科「福祉」を教える教員に必要な「福祉科教育法」の習得をめざす。高校「福祉」を教えるためには、指定9科目の学習内容を理解するとともに、適切な指導方法を習得し、学習が円滑にできるよう、実践力を身につけることを目標とする。I期では、「福祉」の位置づけ・科目構成等、各科目の内容・指導法について学ぶ。また、授業展開の基本的理解に基づいた学習指導案が作成できるようにする。

《テキスト》

『高等学校学習指導要領 福祉編』文部科学省、海文堂
『新学習指導要領の展開 福祉科編』保住芳美編、明治図書出版

《参考図書》

高校「福祉」教科書（9科目）

《授業の到達目標》

1. 福祉教育の理念と教科「福祉」創設について説明できる。
2. 「福祉」に携わる教員に求められる知識と技術、倫理観や責任感を身につける。
3. 「福祉」の教育内容・指導法について理解し実践できる。
4. 「福祉」の介護関連の知識を統合し実習指導ができる。
5. 年間指導計画および学習指導案を作成し授業を実施できる。

《授業時間外学習》

毎日、新聞を読み、授業時に適宜、高校教育や福祉教育に関係する記事について、3分程度で解説できること。

《成績評価の方法》

1. 授業内討論等への参加および発表とその成果（20%）
 2. レポートおよび授業案等の提出物（40%）
 3. 模擬授業の実施とその成果（40%）
- 提出物についてはコメントを付し、返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講義の講義内容、講義形態、受講のこころ構え等について理解し、年間の学習の見通しを立て、学習計画を立てることができる。
2	教科「福祉」の意義と目的	(1)福祉教育の変遷過程と現代社会における意義、(2)教科「福祉」創設の背景、(3)教科「福祉」の概要等について理解する。
3	高等学校学習指導要領（福祉編）（1）	(1)学習指導要領の性格及び内容、(2)高等学校の教育課程、(3)高等学校の教育課程の編成等について理解する。
4	高等学校学習指導要領（福祉編）（2）	(1)高校福祉科の目的と役割、(2)教科「福祉」の科目構成及び教育課程の編成等について理解する。
5	学習指導計画と学習指導案	(1)学習指導計画の意義、(2)学習指導計画の作成方法、(3)学習指導案の意義、(4)学習指導案の作成方法等について理解する。
6	教材研究	(1)重点指導項目の理解、(2)素材の教材化、(3)他の学習内容との関連性等について理解する。
7	各科目の内容理解「社会福祉基礎」I	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
8	各科目の内容理解「社会福祉基礎」II	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
9	指導案の作成「社会福祉基礎」III	実際に授業案を作成できる。
10	模擬授業「社会福祉基礎」IV	指導案に沿って授業を実施できる。
11	各科目の内容理解「介護福祉基礎」I	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
12	各科目の内容理解「介護福祉基礎」II	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
13	指導案の作成と模擬授業「介護福祉基礎」III	実際に授業案を作成して、授業を実施できる
14	各科目の内容理解「コミュニケーション技術」I	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
15	各科目の内容理解「コミュニケーション技術」	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。

《教職に関する科目》

科目名	福祉科教育法	科目ナンバリング	STSW43001
担当者氏名	竹内 一夫、吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本科目では、高等学校の教科「福祉」を教える教員に必要な「福祉科教育法」の習得をめざす。高校「福祉」を教えるためには、指定9科目の学習内容を理解するとともに、適切な指導方法を習得し、学習が円滑にできるよう、実践力を身につけることを目標とする。I期では、「福祉」の位置づけ・科目構成等、各科目の内容・指導法について学ぶ。また、授業展開の基本的理解に基づいた学習指導案が作成できるようにする。

《テキスト》

『高等学校学習指導要領 福祉編』文部科学省、海文堂
『新学習指導要領の展開 福祉科編』保住芳美編、明治図書出版

《参考図書》

高校「福祉」教科書(9科目)

《授業の到達目標》

1. 福祉教育の理念と教科「福祉」創設について説明できる。
2. 「福祉」に携わる教員に求められる知識と技術、倫理観や責任感を身につける。
3. 「福祉」の教育内容・指導法について理解し実践できる。
4. 「福祉」の介護関連の知識を統合し実習指導ができる。
5. 年間指導計画および学習指導案を作成し授業を実施できる。

《授業時間外学習》

毎日、新聞を読み、授業時に適宜、高校教育や福祉教育に関係する記事について、3分程度で解説できること。

《成績評価の方法》

1. 授業内討論等への参加および発表とその成果(20%)
 2. レポートおよび授業案等の提出物(40%)
 3. 模擬授業の実施とその成果(40%)
- 提出物にはコメントを付し返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	各科目の内容理解 「生活支援技術」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
2	各科目の内容理解 「生活支援技術」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
3	指導案作成と模擬授業 「生活支援技術」Ⅲ	実際に授業案を作成して、授業を実施できる
4	各科目の内容理解 「介護過程」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
5	各科目の内容理解 「介護過程」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
6	各科目の内容理解 「介護総合演習」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
7	各科目の内容理解 「介護総合演習」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
8	各科目の内容理解 「介護実習」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画、(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法等について理解できる。(DVD視聴、ゲストスピーカー)
9	各科目の内容理解 「介護実習」Ⅱ	(6)実習の運営計画、(7)実習実施の留意点等について理解できる。 (学校現場見学と授業参観等)
10	各科目の内容理解「こころとからだの理解」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
11	各科目の内容理解「こころとからだの理解」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
12	各科目の内容理解 「福祉情報活用」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
13	各科目の内容理解 「福祉情報活用」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
14	学習のまとめ(1) 授業案作成	教科「福祉」の総合的理解を土台として、特定の単元を取り上げ、授業展開を組み立て、教材研究ができる。
15	学習のまとめ(2) 模擬授業実施と講評	教科「福祉」の総合的理解を土台として作成した授業案に基づき授業を実施できる。

《教職に関する科目》

科目名	進路指導論	科目ナンバリング	STAL43009
担当者氏名	古川 雅文		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

進路指導は、中学校および高等学校の教員が担任として必ず行わなければならないものである。最近ではキャリア教育として、より広く、系統的な展開が目指されている。

この授業では、進路指導とキャリア教育について、学校教員として備えておくべき基礎的な知識を学習する。また、背景になっている理論と実践例の両方を学ぶことで、進路指導とキャリア教育をより深く理解する。

《授業の到達目標》

- ・進路指導の意義、目的、内容、方法について説明できる。
- ・キャリア教育の意義、目的、内容、方法について説明できる。
- ・進路指導とキャリア教育の関係を説明できる。
- ・学校において、教員としてどのように進路指導及びキャリア教育に取り組むかを構想できる。

《成績評価の方法》

(1)定期試験(60%)、(2)レポート(20%)、(3)その他(提出物、プレゼンなど)(20%)。100点満点で、60点以上を合格とする。
※レポート等にはコメントを付して返却する。

《テキスト》

『キーワード キャリア教育 一生涯にわたる生き方教育の理解と実践-』小泉令三・古川雅文・西山久子(編)、北大路書房、2016

《参考図書》

『中学校 キャリア教育の手引き』文部科学省(編)、教育出版、平成23年

『高等学校 キャリア教育の手引き』文部科学省(編)、教育出版、平成24年

『その幸運は偶然ではないんです!』J.D. クランボルツ他(著)、花田光世他(訳)、ダイヤモンド社、2005年

《授業時間外学習》

1. 予習の方法:教科書の指定箇所、あらかじめ配布する資料などを読んでおくこと。
2. 復習の方法:授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べること。

《備考》

欠席や遅刻・早退が多い場合(5回以上)は不合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	進路指導の意義と内容	進路指導は何のために行うのか、そして、その内容にはどのような領域があるかについて理解する。
2	進路指導・キャリア教育の歴史と社会的背景	進路指導の歴史の変遷、キャリア教育の登場した社会的背景と考え方の変遷について理解する。また、現在の進路指導とキャリア教育の関係について理解する。
3	キャリア教育の意義と内容	キャリア教育の意義と内容について理解し、説明することができる。
4	進路指導・キャリア教育の理論1	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つである特性因子論について理解する。
5	進路指導・キャリア教育の理論2	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つであるキャリア発達理論について理解する。
6	進路指導・キャリア教育の理論3	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つである学習理論等について理解する。
7	教育課程と進路指導・キャリア教育	学校教育の中で、どのようにキャリア教育を行っていくか、教育課程との関係を理解する。
8	進路指導・キャリア教育の方法と技術	特にキャリア教育の方法的特色を理解し、具体的な教育方法について説明できる。
9	小学校におけるキャリア教育実践	小学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
10	中学校におけるキャリア教育実践	中学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
11	高等学校等におけるキャリア教育実践	高等学校および特別支援学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
12	進路相談・キャリアカウンセリングの基礎	学校で行われる進路相談とキャリアカウンセリングについて、その基礎理論と方法的特色を理解する。
13	進路指導・キャリア教育の組織と推進	進路指導とキャリア教育を学校で推進していくための組織と、推進方法について理解する。
14	進路指導・キャリア教育の評価	主にキャリア教育における評価方法について理解する。
15	諸外国におけるキャリア教育	アメリカ、ドイツ、フランスなどのキャリア教育について理解し、わが国のキャリア教育との違いを説明できる。

《教職に関する科目》

科目名	事前・事後指導	科目ナンバリング	STSW43002
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育実習とは、高等学校の実際の教育現場において、観察、参加、実習（研究授業）等を行うことである。本科目は、(1) 自発的な創造性と旺盛な研究意欲をもって現場実習に臨むことができるよう十全な準備を行うことを目的とする事前指導、および(2)実習校での経験をふり返るとともに明確化し、意味づけるために行う事後指導により構成される。授業形態として、討議と発表、ロールプレイや模擬授業などを中心とする。

《授業の到達目標》

(1)教育実習で行うことからの体系についての情報と知識を理解し、説明できる。(2)教育実習を行う上で心がけなければならないマナーや心得等について説明できる。(3)教科指導について、模擬授業を実施し、自己評価できる。(4)実習の経験を踏まえて、研究授業を行い、自己評価できる。(5)実習の経験を踏まえて、学級経営について、問題点を発見し、解決できる。

《成績評価の方法》

事前指導においては、(1)演習への参加意欲10%、(2)知識・技術の習得10%、(3)模擬授業30%の配点により評価する。事後指導においては、(1)演習への参加意欲10%、(2)研究授業20%、(3)問題解決力20%の配点により評価する。提出物については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

本科目では、授業ごとの予習復習というよりは、日頃から教育問題に関心を持ち、「教育とは何か」「子どもを導くとはどのようなことか」などについて自分なりの考えを述べられるようにまとめておくことが大切である。教授・指導上の観点だけでなく、教育法規的な側面、学校の社会的な役割など、多面的・複眼的に捉える力を養う努力が求められる。

《備考》

演習という授業形態のため、全回出席することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習の全体	(1)教師(教員)養成と教育実習 (2)教育実習の目標 (3)教育実習の展開 (4)教育実習の心得について理解する
2	教育実習の内容 (1)	(1)学校経営 (2)学校の組織 (3)生徒の理解事項 (4)教育課程 (5)学習指導について理解する
3	教育実習の内容 (2)	(1)道徳と特別活動 (2)生徒指導と学級経営 (3)学校の施設と環境 (4)教師としての勤務について理解する
4	教育実習の実際	(1)教材研究の実際 (2)学習指導の実際 (3)学習指導案の事例 (4)授業研究の実際 (5)道徳・特別活動・生活指導の実際 (6)教育実習の評価について理解する
5	教育の方法及び技術	(1)授業の仕組みとはたらき (2)授業を創る (3)その他について理解する
6	教材研究と指導案づくり	(1)授業準備としての教材研究と指導案作成の技術を習得する (講義および演習)
7	教材研究と指導案づくり	(2)授業準備としての教材研究と指導案作成の技術を習得する (講義および演習)
8	教材研究と指導案づくり	(3)授業準備としての教材研究と指導案作成の技術を習得する (講義および演習)
9	模擬授業 (および討議)	実際の授業を想定して、教室にて模擬授業を実施し、講評を行う
10	「教育実習」の諸注意と準備	教育実習のマナーと心得、授業記録の書き方、教育実習の評価について理解する
11	「教育実習」全体のふり返り	実習内容の明確化・体系化を目的として、討議および発表 (実習内容の検証・共有化)を行う
12	事後の教材研究と事後の授業研究	教育実習における授業実践上の経験や学習内容を振り返る
13	研究授業 (および討議)	教育実習における授業実践の最終的な総括として研究授業を行う
14	学級経営の問題点と課題 (発表と討議)	教育実習における学級経営の経験や学習内容を振り返る
15	「教育実習」全体の総括	教育実習における事前指導、現場における実習、事後指導の総括を行う

平成26（2014）年度入学者

専門教育科目

科目名	医療ソーシャルワーク		科目ナンバリング	SFFB24001
担当者氏名	和田 光徳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

ソーシャルワークの二次専門分野のひとつとされる「医療ソーシャルワーク」の理論と実践の概要を学ぶ。事例の検討を通じて、ソーシャルワーカーの視点を考察し、ソーシャルワークの価値と倫理の理解を深める。

《授業の到達目標》

保健医療サービスの利用者である患者および家族の生活問題を学ぶ。また、サービス提供制度及び担い手たちの特性を理解し、利用者（患者・家族）を中心とした連携のあり方、医療ソーシャルワーカーの具体的実践についてイメージができ、支援の基本的枠組みを考えることができるようになる。

《成績評価の方法》

(1) 授業内小テスト（採点後返却します） 60%
 (2) 期末課題レポート（患者と、その家族など当事者の闘病記や体験記を読み込みレポートにまとめる（A4・2枚・2400字以上） 40%
 提出物についてはコメントを付し返却する。

《テキスト》

授業内で資料を配布します。

《参考図書》

- ①「新・医療福祉学概論」 佐藤俊一・竹内一夫・村上須賀子 編著 誠信書房 2010
- ②「医療ソーシャルワーカーの力」 村上須賀子・竹内一夫 編著 医学書院出版サービス 2012
- ③新・はじめて学ぶ社会福祉「保健医療サービス」 杉本敏夫 監修 ミネルヴァ書房 2017

《授業時間外学習》

患者とその家族など、当事者の闘病記や体験記を幅広く読み、「病」をかかえながら生きるということの生活体験について、共感的に理解を深めてほしい。

《備考》

授業内テーマに対する考えや意見を求めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事例からみる医療ソーシャルワーク	授業のオリエンテーション 事例による「医療ソーシャルワーク実践」から、必要な知識・スキルを概観する
2	医療ソーシャルワークの歴史的概観	日本、イギリス、アメリカにおける医療ソーシャルワークの歴史を概観する
3	医療ソーシャルワークの構造モデル	「医療と福祉」から「医療福祉」の統合的視点の意義について学ぶ
4	患者の心理	病と疾患の違い、役割理論から学ぶ「患者」の世界観を概観する
5	医療の生態系の理解	医療法、療養担当規則の理解、医療機関の組織上の特徴と、医療ソーシャルワーカーの組織内外の「連携」について、
6	医療ソーシャルワークを支える価値	医療ソーシャルワーク実践における、一般的ソーシャルワークと共通する実践的価値と特徴的な価値を学ぶ
7	高齢者福祉と医療ソーシャルワーク	高齢者に関わる医療問題、延命や医療的処置、孤立化による家族不在の問題など、高齢者福祉における医療ソーシャルワーク実践を学ぶ
8	がん患者と医療ソーシャルワーク	現在のがん対策基本法下にあるがん医療状況と、医療ソーシャルワーカーの役割を考える
9	児童福祉と医療ソーシャルワーク	要保護児童対策、児童虐待対応、小児医療と医療ソーシャルワーク実践について学ぶ
10	貧困問題と医療ソーシャルワーク	ホームレスやネットカフェ難民、ひきこもりと老親同居、相対的貧困率の増加など、新たな貧困問題と医療ソーシャルワークの関わりを考察する
11	障害者福祉、難病施策と医療ソーシャルワーク	障害者虐待、障害者に対する医療、二次性障害の存在や難病患者の生活支援、遺伝と生殖医療にまつわる問題と医療ソーシャルワークについて考察する
12	退院支援と医療ソーシャルワーク	現代の医療ソーシャルワークの中心的課題となっている「退院支援」について、医療ソーシャルワークの視点と実践について考察する
13	地域包括ケアと医療ソーシャルワーク	地域包括ケアシステムの理解と医療ソーシャルワークが関わることの意義について考察する
14	労働災害等と医療ソーシャルワーク	労働災害や公害、薬害、肝炎問題など、社会的要因の関連の深い疾患と、医療ソーシャルワークの働きについて考察する
15	課題レポート発表、まとめ	医療福祉に関連する著作、患者・家族の闘病記、体験記を読み、そこに読み取れる「社会的問題」を考察し、レポートにまとめたものを発表し意見交換を行う

科目名	福祉行財政と福祉計画（応用）		科目ナンバリング	SFFB24002
担当者氏名	中本 淳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） 			

《授業の概要》

少子高齢化と所得格差拡大が進むわが国において、行政・財政における福祉に関する課題は今後ますます重要性を増していく。本講義では、地方財政白書や厚生労働白書をはじめとする政府刊行物等の記述やデータを踏まえつつ、福祉の現状についての基本的知識の定着を図るとともに、その将来について共に考えていく。

《テキスト》

なし（講義資料を配布する）

《参考図書》

『福祉行財政と福祉計画 第4版』中央法規出版，2014年

《授業の到達目標》

- ①国と地方の財政制度について理解し、その中における福祉の位置づけを説明できる。
- ②近年の地方財政をめぐる諸課題とその対応について説明することができる。
- ③高齢化の状況と、それに伴う今後の政策課題について説明することができる。

《授業時間外学習》

配布資料に基づいて、予習・復習を励行すること。

《成績評価の方法》

平常点(20%)＋レポート課題(30%)＋期末試験(50%)

《備考》

*平常点はリアクションペーパーにおける授業理解度を評価する(適宜コメントを付けて返却する)。

*レポート課題は1回を予定。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この講義の狙い・方針について話し、日本の財政が直面している課題を理解する。
2	日本財政の現状①	前年度予算を使用して日本財政の現状と今後の課題について説明することができる。
3	日本財政の現状②	国と地方の役割分担について理解し、地方財政における歳出の動向を説明することができる。
4	日本財政の現状③	地方交付税をはじめとする地方財政の主な歳入項目の動向について説明することができる。
5	日本財政の現状④	国と地方の予算の編成過程を説明することができる。
6	地方財政の動向①	最近の地方財政をめぐる諸課題のうち、地方財政の健全化に資する取組や、まち・ひと・しごと創生の動きについて理解する。
7	地方財政の動向②	最近の地方財政をめぐる諸課題のうち、社会保障・税一体改革や、地方分権改革の推進について理解する。
8	高齢化と福祉①	社会保障制度の意義や財源・給付の現状について説明することができる。
9	高齢化と福祉②	高齢化の状況や高齢者を取り巻く状況について、理解する。
10	高齢化と福祉③	医療保険制度について、目的・給付内容・財源構成について説明することができる。
11	高齢化と福祉④	介護保険制度について、目的・給付内容・財源構成について説明することができる。
12	高齢化と福祉⑤	「平成28年版 厚生労働白書」の記述をもとに、高齢化が進展するわが国において、どのような施策を行っていくべきか、考える。
13	現代社会と福祉①	近年における労働環境の変化について、理解する。
14	現代社会と福祉②	今後の社会保障制度のあり方について考える。
15	まとめ	これまでの学修内容を整理する。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助演習（統合）	科目ナンバリング	SFFB24003
担当者氏名	和田 光徳		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）		

《授業の概要》

相談援助演習 IA・IB・IIを通じて習得した内容を、より理解を深め、実践的に思考し、技能として使うことができるようになることを目指します。

《テキスト》

授業内で資料を提示する

《参考図書》

《授業の到達目標》

ソーシャルワーク・スキルズ・ワークブックを基本に、演習、グループワークや討論を中心に授業を進めます。グループワークや討論にあたっては、予習として課題を出しますので、課題について調べたり資料を精読して、授業に臨んでください。面接の初期過程における具体的な技術を演習を通じて習得します。

《授業時間外学習》

これまで学んだすべての専門科目群の知識が実践技能の統合として基礎的要件となります。さらにアドバンスとして専門書の抄読を事前課題として求めます。

《成績評価の方法》

- ①課題への取り組み等授業準備と授業中の参加態度 50%
- ②演習（ロールプレイ等）で要求される技能の評価 30%
- ③レポート課題 20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方について
2	「プロ」とは何か	ソーシャルワークにおける「プロフェッショナリズム」について考える
3	ソーシャルワークにおける倫理	社会的・経済的正義、差別、偏見、社会的弱者のおかれている状況を考察し、自己の価値観と専門職の倫理を考察する
4	自己理解とセルフコントロール	面接の技能（基本的な人間関係機能について、自己を振り返る）
5	自己理解とセルフコントロール	面接の技能（聴くこと・話すこと、傾聴する）について演習を通じて理解を深める
6	面接の過程（準備期）I	面接の準備：①準備的レビュー、②準備的探索、を理解する
7	面接の過程（準備期）II	面接の準備：③準備的コンサルテーション、④準備的アレンジ、を理解する
8	面接の過程（準備期）III	面接の準備：⑤準備的共感、⑥準備的自己探索、について理解を深める
9	面接の過程（開始期）I	支援過程の開始期における面接：①自己紹介、紹介を求める、について演習を通じて学ぶ
10	面接の過程（開始期）II	支援過程の開始期における面接：②初期目的を描く（陳述する）について演習する
11	面接の過程（開始期）III	支援過程の開始期における面接：③政策的（制度的）、倫理的要素について話し合う。クライアントにフィードバックする。について学ぶ
12	面接の過程（探索）	問題の明確化に向けての探索の技術について理解する
13	アセスメントと契約	仮説をたてること、仮説をクライアントと共有すること、アセスメントの過程とクライアントとの契約について学ぶ
14	クライアントとの契約	クライアントとの契約過程とアクションプラン、アクションステップについて学ぶ
15	クリティカル・シンキングとは	クリティカル・シンキングを理解する

科目名	卒業演習		科目ナンバリング	SFFB14004	
担当者氏名	和田 光徳、小倉 毅、小林 茂				
授業方法	演習	単位・必修	4・必修	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） 				

《授業の概要》

・4年間の学習の集大成として、それぞれの指導教員の指導に従って、卒業論文を執筆、完成させ、発表します。
 ・卒業論文の執筆にあたっては、課題の設定、仮説の作成のための文献の読解、データや資料の収集と分析、考察という過程が必要です。さらに分析、考察、結果を論文として仕上げるために整理し、執筆する能力が求められます。

《授業の到達目標》

・卒業論文を執筆することが目標です。卒業論文を執筆するまでの文献読解、資料収集、分析などの手法を身につけることが一つの作業的目標です。
 ・二つ目の目標は、選定したテーマについて、「人」と「人を取り巻く社会」との関係性を踏まえて、社会の課題を理解し解決に向けて考察する、学際的な視点を身につけることです。

《成績評価の方法》

卒業論文執筆までの過程における研究への取組み、論文の内容及び発表とを総合的に評価します。
 ※卒業論文の締め切り日程は別途指示をします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
2	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
3	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
4	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
5	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
6	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
7	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
8	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
9	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
10	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
11	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
12	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
13	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
14	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
15	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。

《テキスト》

演習担当教員の指示に従ってください。

《参考図書》

演習担当教員の指示に従ってください。現代の社会福祉問題は多様性、複合的ところに特徴があり、ひとつの専門領域だけで、解決することは困難です。卒業論文についても常に学際的な視点を持ち、必要であれば他の専門領域の教員と横断的に作業を進めていくことになります。

《授業時間外学習》

卒業論文執筆における文献の講読、調査、分析、考察の他、発表の準備等は時間外に行います。授業時間は、事前課題の成果を担当教員に報告し、資料収集や執筆に関する助言を得るために用います。

《備考》

卒業論文は人生におけるおそらく最初で最後の論文の執筆となるかもしれません。これまでの学校生活、大学生活で培ったすべての能力を傾けて取り組んでください。

科目名	卒業演習		科目ナンバリング	SFFB14004	
担当者氏名	和田 光徳、小倉 毅、小林 茂				
授業方法	演習	単位・必修	4・必修	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー) <input type="radio"/> 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力) <input type="radio"/> 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力) <input type="radio"/> 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)				

《授業の概要》

・4年間の学習の集大成として、それぞれの指導教員の指導に従って、卒業論文を執筆、完成させ、発表します。
 ・卒業論文の執筆にあたっては、課題の設定、仮説の作成のための文献の読解、データや資料の収集と分析、考察という過程が必要です。さらに分析、考察、結果を論文として仕上げるために整理し、執筆する能力が求められます。

《授業の到達目標》

・卒業論文を執筆することが目標です。卒業論文を執筆するまでの文献読解、資料収集、分析などの手法を身につけることが一つ目の作業的目標です。
 ・二つ目の目標は、選定したテーマについて、「人」と「人を取り巻く社会」との関係の踏まえて、社会の課題を理解し解決に向けて考察する、学際的な視点を身につけることです。

《成績評価の方法》

卒業論文執筆までの過程における研究への取組み、論文の内容及び発表とを総合的に評価します。
 ※卒業論文の締め切り日程は別途指示をします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
2	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
3	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
4	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
5	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
6	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
7	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
8	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
9	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
10	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
11	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
12	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
13	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
14	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
15	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。

《テキスト》

演習担当教員の指示に従ってください。

《参考図書》

演習担当教員の指示に従ってください。現代の社会福祉問題は多様性、複合的ところに特徴があり、ひとつの専門領域だけで、解決することは困難です。卒業論文についても常に学際的な視点を持ち、必要であれば他の専門領域の教員と横断的に作業を進めていくことになります。

《授業時間外学習》

卒業論文執筆における文献の講読、調査、分析、考察の他、発表の準備等は時間外に行います。授業時間は、事前課題の成果を担当教員に報告し、資料収集や執筆に関する助言を得るために用います。

《備考》

卒業論文は人生におけるおそらく最初で最後の論文の執筆となるかもしれません。これまでの学校生活、大学生活で培ったすべての能力を傾けて取り組んでください。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	更生保護制度	科目ナンバリング	SSWC24005
担当者氏名	光田 豊茂		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 		

《授業の概要》

更生保護制度は「犯罪をした者及び非行のある少年に対し、社会内において適切な処遇を行うことにより、再び犯罪をすることを防ぎ、又はその非行をなくし、これらの者が社会の一員として自立し、改善更生することを助けること」が、その目的である。その具体的な制度の内容や、それに携わる人達の働きについて講義する。（より実際的な業務を理解するために、その業務に携わる職員をゲスト講師として招く予定です。）

《授業の到達目標》

更生保護制度の概要を把握し、この制度の目的を果たすために働いている保護観察官や保護司等の業務やその役割が理解できる。それと共に、これに関する諸機関、更生保護施設等の役割についても理解できる。

《成績評価の方法》

授業への取り組み・コメント内容（60%）
 レポート課題に対する取り組み（40%）
 ※レポートにはコメントを付して返却する。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座20『更生保護制度』第4版（社会福祉士養成講座編集委員会）、中央法規出版、2017

《参考図書》

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしており、疑問点等があれば次回授業に質問すること。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。
 8週の授業計画です。必要授業時間数=(90分×7週) + 45分

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	更生保護制度の概要	刑事司法の中の更生保護の果たす役割やこれまでの歴史、位置づけについて理解する。
2	仮釈放等の制度	仮釈放等の制度の流れと更生保護委員会・保護観察所の業務とその役割について理解する。
3	保護観察	保護観察の目的、方法とその担い手である保護観察官・保護司の業務とその役割について理解する。
4	保護観察の実際	更生保護制度の担い手である保護観察官の仕事の実際を理解する。（ゲスト講師予定）
5	更生保護制度の担い手	更生保護制度の担い手として、保護司、更生保護施設、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主等の多くの民間ボランティアが活動やその役割について理解する。
6	地域生活定着支援センターの役割	高齢者や障害を抱える自立困難な刑務所出所者等に対する社会復帰の支援内容や、それに携わる支援者のかかわりについて理解する。（ゲスト講師予定）
7	医療観察制度	医療観察制度における処遇の流れと、その中で果たす社会復帰調整官の業務とその役割について理解する。（ゲスト講師予定）
8	まとめ	更生保護制度の全体の流れをもう一度確認して、本制度の役割について理解する。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

科目名	福祉サービスの組織と経営		科目ナンバリング	SSWC24006	
担当者氏名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

六法を基盤とする社会福祉は、介護保険制度等の導入という大転換が図られたが、既に十年以上が経過し福祉サービス提供組織も多様化するなか、そのあり方が課題となっている。利用者自らがサービスを選択する時代のもと、単なる運営から経営という新たな感覚が問われる時代となっているが、福祉サービスに係わる組織とその経営について、教科書中心でなく福祉実践体験から得た情報提供を通じて学ばせる。

《テキスト》

編集 社会福祉士養成講座編集委員会 書名 社会福祉士養成講座11「福祉サービスの組織と経営」第4版（2013.2刊行）中央法規出版

《参考図書》

書名 「よくわかる社会福祉施設運営管理」ミネルバ書房（2010.3） 編者 小松理佐子

《授業の到達目標》

①福祉サービスに係わる組織の団体について学ぶ ②福祉サービスに係わる組織の経営の実践を学ぶ ③福祉サービス提供組織の経営の実際を学ぶ ④福祉サービスの管理運営の方法と実際を理解する。以上を通して全般的な福祉サービス提供主体を学び、そこにおける経営のあり方を考えることができる。

《授業時間外学習》

授業の中で適時課題を課すので、そのつど指示期日までに提出のこと。また積極的に自己にて課題を見つけ、不明な点は随時確認すること。

《成績評価の方法》

出席状況（20%）＋学期末試験（60%）＋その他、グループ討議での発表や受講態度等を総合的に判断（20%）提出物にはコメントを付して返却する。

《備考》

※授業計画における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後する場合あり。福祉現場での実践事例や報道等を多く活用し、自ら考える授業としたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス(コース概要)	社会福祉専門職としての資格取得や社会福祉事業に就く者として、机上の理論を習得するのみでなく、実践としての経営管理について学ぶ姿勢を説明。
2	福祉サービスにおける組織と経営	福祉サービスの意義だけでなく、福祉サービス提供組織や経営管理について、その時代のニーズや環境によって変化していく現状と経営理論を理解することができる。
3	福祉サービスにかかわる組織 団体①	法人の存在意義と経営形態について学ぶと共に、福祉サービスにかかわる団体や組織についても理解し、それぞれの定義や役割・各機関の現状や課題について学べる。
4	福祉サービスにかかわる組織 団体②	我が国の福祉サービスの提供主体として大きな役割を果たしてきた社会福祉法人や特定非営利活動法人・医療法人等を理解し、それぞれの特徴を確認できる。
5	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	経営を学ぶ上で最低限必要となる基本的概念や理論、また経営戦略の策定プロセス、更には集団力学やリーダーシップ理論について理解できる。
6	福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理	マーケティングの基本的要素である「4つのP」を基軸、にサービス管理に必要な基礎的事項を知ることができる。
7	福祉サービスの管理運営の方法①質の向上と評価	サービス位の質の向上や第三者評価の重要性を理解し、福祉サービス提供にあたってのリスクや今後の課題を理解することができる。
8	福祉サービスの管理運営の方法②人事管理	今日の福祉サービスの多様な提供主体を知り、専門家を中心とした組織での人事管理を学べる。
9	福祉サービスの管理運営の方法②労務管理	福祉サービスにおける人事・労務管理を、関係法令に定められた基準に即して理解し、人材確保の課題と共にその育成について学ぶことができる。
10	福祉サービスの管理運営の方法②職員研修	職場研修のあり方や推進体制、OJT等の職場研修の基本形態を知り、福祉人材のキャリア開発とキャリアパスを理解することができる。
11	福祉サービスの管理運営の方法③法人経営と財務	企業とは異なる、特殊な性格を有する社会福祉法人における財務管理について学び、公益性の追求についても理解できる。
12	福祉サービスの管理運営の方法③福祉事業の財源	福祉サービスの提供事業所における財務諸表の概要を知り、その見方や使い方を習得することができる。
13	福祉サービスの管理運営の方法④情報管理	福祉サービスの利用時における選択権の保証と、情報提供のあり方について学び、その管理を多面的に捉えることができる。
14	福祉サービスの管理運営の方法④戦略的広報	超高齢化と高度情報社会の進展に伴って変革する福祉サービスの考えをふまえ、事業経営での情報と、戦略的広報について学べる。
15	まとめ	学生自らが関心を持った福祉サービス事業について更に理解を深め、自己の今後の役割について考えることができる。

科目名	福祉サービスの組織と経営（応用）		科目ナンバリング	SFFC24007
担当者氏名	竹川 宏子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 			

《授業の概要》

社会福祉法人の経営は利益追求を第一としない非営利組織であり、株式会社などの営利組織とは異なるが、効率的な経営やサービス向上を追求するうえで企業経営の視点は欠かせない。この授業では企業経営の基本的な考え方を学び、それを福祉サービスの組織でどう生かしていくかを学ぶ。

《テキスト》

平林亮子・高橋知寿『やさしくわかる社会福祉法人の経営と運営』税務経理協会、2014年

《参考図書》

周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔『経営学1』実教出版、2009年

《授業の到達目標》

- 組織を経営していくために何が必要であるかを理解できるようになる。
- 企業経営と福祉サービス事業の経営との違いを理解できるようになる。
- 福祉サービス事業の経営に企業経営の視点を加えて考えられるようになる。

《授業時間外学習》

- ①指定したテキストの箇所（自習により学ぶ方が適切と考える部分）を読むこと、②レポート作成を授業時間外学習とする。

《成績評価の方法》

（1）定期試験80%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）、（2）レポート作成20%として評価する。ただし、レポートは必ず提出するものとする。定期試験の解答用紙とは別にコメントを返す。

《備考》

企業の成功例の中には、福祉サービス事業で応用可能なものも存在する。したがって、日ごろから企業経営に関する話題にも関心を持っていただきたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	シラバスを参照しながら授業の概要と学習意義について理解する。
2	株式会社の意思決定機関	株式会社の最高意思決定機関である株主総会と取締役会、監査役について理解する。
3	経営資源	企業活動に必要なとされるヒト、モノ、カネ、情報といった経営資源の種類と特徴について理解する。
4	企業の財務管理	企業の活動資金の調達と運用について理解する。
5	企業の人的資源管理	人的資源管理で行われる採用、配置、退職、人材育成などの主要項目について理解する。
6	マーケティング	マーケティングの概念と企業における必要性について理解する。
7	経営戦略	経営戦略の概念と企業における必要性について理解する。
8	企業の発展とイノベーション	企業活動を発展させるために重要な概念であるイノベーションについて理解する。
9	営利組織と非営利組織	営利組織と非営利組織それぞれの特徴と両者の違いを理解する。
10	社会福祉法人の意思決定機関	採用、配置、異動、評価、能力向上、退職など主要な管理項目について理解する。
11	社会福祉法人の資金的資源の管理①	社会福祉法人の資金繰りについて理解する。
12	社会福祉法人の資金的資源の管理②	社会福祉法人の経理業務について理解する。
13	社会福祉法人の人的資源の管理	社会福祉法人の従業員（職員）管理について理解する。
14	社会福祉法人におけるマーケティングと経営戦略	社会福祉法人の運営において、どのようなときにマーケティングや経営戦略の考え方を活用することができるのかについて意見を出し合い、それをレポートとしてまとめる。
15	まとめ	学習内容の振り返りを行う。

科目名	福祉工学	科目ナンバリング	SFFC24008
担当者氏名	稲富 恭		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 		

《授業の概要》

高齢者、障害者が地域社会の中で生活を送るためには、福祉の視点にたった住環境整備を欠かすことが出来ない。本講義では、(1)住環境整備の背景となる社会福祉の現状について概観するとともに、(2)住宅改修、バリアフリー、ユニバーサルデザインを中心に福祉住環境整備手法について学ぶ。

《テキスト》

「福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 改訂4版」東京商工会議所, 2016

《参考図書》

「福祉住環境コーディネーター検定試験 3級過去問題集 2017年版」HIPS合格対策プロジェクト, 2017

《授業の到達目標》

- 福祉住環境コーディネーター3級に相当する能力を身につける。
- 生活環境の不適合に対して、物理的な問題解決手段を提案できる能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
シラバスを参考に、テキストの該当箇所に目を通し、疑問点を明確にしておく。
- ・復習の方法
テキストの必要箇所を暗記する。配布プリントの問題を復習し、次回の小テストの準備を行う。

《成績評価の方法》

- ・授業中に毎回実施する小テスト(100%)によって評価する。
- ・小テストは採点后返却し、解説を行う。

《備考》

原則として「福祉住環境コーディネーター検定試験3級」の受験を目指す学生を対象とする。
試験日程に合わせて、開講日を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	少子高齢社会と福祉住環境整備	少子高齢社会の現状と今後のあり方について理解する
2	日本の住環境と福祉住環境整備	日本の住空間の特性と福祉住環境整備の必要性について理解する
3	福祉住環境と在宅ケア	介護保険制度と障害者総合支援法を中心に在宅生活の支援について理解する
4	高齢者の健康と生活	老化の特性とヘルスプロモーションについて理解する
5	障害者の自立と生活	障害の種類と障害者の社会参加状況について理解する
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアフリー、ユニバーサルデザインの歴史、概念について理解し、具体的なデザイン手法について理解する
7	福祉用具の分類と活用	共用品、福祉用具の概念、分類、役割について理解する
8	居住環境整備の技術(1)	居住環境整備に必要な空間設計について理解する
9	居住環境整備の技術(2)	居住環境整備に必要なデザイン、設備計画、避難防災計画について理解する
10	生活行為と空間整備	移動、入浴、排泄等の生活行為に必要な空間整備方法について理解する
11	ライフスタイルの多様化と住まい	戦後の家族形態の変化とそれに伴う生活形態について理解する
12	安心できる住生活	高齢者居住法、住宅セーフティネット法等の居住安定政策について理解する
13	安心して暮らせるまちづくり	福祉のまちづくり条例等、地域における福祉住環境整備について理解する
14	授業の補足と重要箇所の復習	授業内容の重要ポイントについて補足し、「福祉住環境コーディネーター検定試験」の準備を行う。
15	授業のまとめ	授業のまとめと小テストの解説

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助演習（専門）A		科目ナンバリング	SPSC23024	
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 				

《授業の概要》

精神障害者に対する援助技術（ケースワーク・グループワーク・コミュニティワーク等）及び地域生活支援の技法について学生が実感し、その技術・技法が身につくよう、精神障害者の社会復帰や地域生活支援に対する援助技術を具体的に検討し、学生自身が積極的に報告し、小グループで議論し合う形で事例検討及びロールプレイを行う。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座8『精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2016

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神障害者の生活支援を目指して、精神保健福祉士としての援助の視点を踏まえて、精神保健福祉士のもつ専門的援助技術及び地域生活支援の技法について理解できる。

《授業時間外学習》

実際現場で実践的に使える技術・技法の習得を目指すので、学生自身も率直な意見・質問を積極的に考えて来て授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）
レポート課題に対する取り組み（50%）
※レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	インテーク面接	インテーク面接での留意事項や面接内容について、ロールプレイを行いながら学習する。
2	事例2/ストレングスモデル①	ストレングスモデルによるアセスメントを理解する。
3	事例2/ストレングスモデル②	ストレングス視点に基づいたアセスメントからケアプランを作成する。
4	事例3/SSTを用いたりハビリテーション①	相談援助の過程でのSSTの活用を理解する。
5	事例3/SSTを用いたりハビリテーション②	SSTとは、何を目的として、どのように実施するのかを理解する。
6	事例5/デイケアでのリハビリテーション①	デイケアにおける精神保健福祉士の役割について理解する。
7	事例5/デイケアでのリハビリテーション②	グループワークの意義や手法について理解する。
8	社会復帰施設見学予定	社会復帰施設を見学学習することによって、地域で生活している精神障害者の生活支援について考える。
9	精神保健福祉士の実際業務	精神保健福祉現場で働いている精神保健福祉士の実際業務について理解する。（ゲスト講師予定）
10	当事者理解	当事者の体験談を聞くことによって、当事者の思いやニーズを知り、支援者の役割を考える。（ゲスト講師予定）
11	事例11/自殺予防①	自殺の危機にある人の、どのような様子や態度に気づくべきかを学ぶ。
12	事例11/自殺予防②	自殺の危機にある人を適切な機関や人へつなげる方法を学ぶ。
13	事例14/地域定着支援①	地域定着支援の目的およびプロセスを知り、そこにかかわる精神保健福祉士の視点、役割について理解する。
14	事例14/地域定着支援②	地域定着支援のための社会資源の活用を通して、関係機関等との連携、協働によるネットワーク形成の意味を理解する。
15	夏季休暇課題説明（社会資源調査）	自分が住んでいる地域の精神保健福祉領域の社会資源調査とマップ作りについて

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助演習（専門）B		科目ナンバリング	SPSC23025
担当者氏名	光田 豊茂			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 			

《授業の概要》

精神障害者に対する援助技術（ケースワーク・グループワーク・コミュニティワーク等）及び地域生活支援の技法について学生が実感し、その技術・技法が身につくよう、精神障害者の社会復帰や地域生活支援に対する援助技術を具体的に検討し、学生自身が積極的に報告し、小グループで議論し合う形で事例検討及びロールプレイを行う。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座8『精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2016

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神障害者の生活支援を目指して、精神保健福祉士としての援助の視点を踏まえて、精神保健福祉士のもつ専門的援助技術及び地域生活支援の技法について理解できる。

《授業時間外学習》

実際現場で実践的に使える技術・技法の習得を目指すので、学生自身も率直な意見・質問を積極的に考えて来て授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）
レポート課題に対する取り組み（50%）
※レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	夏季休暇の課題報告	学生に夏休暇に調べた自分の住んでいる地域の精神保健福祉領域の社会資源調査報告（マップ）を発表する。
2	事例2 1 /障害年金の活用①	精神障害者が障害年金を活用することの意味と意義について理解する。
3	事例2 1 /障害年金の活用②	精神保健福祉士による障害年金受給支援のあり方について学ぶ。
4	事例2 4 /アルコール依存①	アルコール依存の進行により、依存症本人が抱える問題の構造を理解する。
5	事例2 4 /アルコール依存②	アルコール依存への介入における精神保健福祉士の役割・援助方法について学ぶ。
6	自助グループの実際	AAのメンバーを招いて、当事者の体験談を聞き、自助グループの役割を理解する。（ゲスト講師予定）
7	事例2 6 /うつ病(成人)①	気分障害の当事者が地域生活を送るために精神保健福祉士が果たす役割を学び、病院と地域の連携の必要性について理解する。
8	事例2 6 /うつ病(成人)②	職場との関係調整について考える。
9	地域で働く精神保健福祉士の業務について	地域生活を行っている精神障害者に対して、地域で様々な形で支援を行っている精神保健福祉士を招き、その支援内容や役割について学習する。（ゲスト講師予定）
10	事例3 1 /医療観察法の対象者①	医療観察法の概要と社会復帰調整官の業務を理解し、社会復帰調整官である精神保健福祉士の専門性について学ぶ。
11	事例3 1 /医療観察法の対象者②	地域ケアを展開するうえで関連する社会資源とその連携について学ぶ。
12	事例3 3 /低所得者への支援①	低所得の問題に対し手、社会福祉制度を活用しながら支援を組み立てていく過程を実践的に学ぶ。
13	事例3 3 /低所得者への支援②	経済的な支援のみにとらわれず、利用者・家族の思いを受けとめて支援を行うことの重要性を理解する。
14	生活保護制度の実際	事例を通して生活保護制度の実際の活用について考える。
15	学習の振り返り	これまでの事例検討を通して、精神保健福祉士としての援助の視点や援助技術、関係機関との連携の仕方について、考えてきたことについて振り返る。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習指導	科目ナンバリング	SPSC23026
担当者氏名	光田 豊茂		
授業方法	実習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） 		

《授業の概要》

- 1、必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 2、職業倫理を身につける。
- 3、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 4、専門職種との連携のあり方を理解する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2015年

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神保健福祉士のあるべき姿を学び、これまで勉強してきたことを実習をとおして理解する。

《授業時間外学習》

実習計画書作成、実習先の特性調査など授業時間内では出来ない内容については各自その学習をする。
機会があれば、精神保健福祉現場の見学研修も実施する。

《成績評価の方法》

授業態度及び事前学習の発表内容（30%）
実習記録及び実習先の評価（40%）
実習報告会、実習報告書の内容（30%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 実習先の検討および調整	精神保健福祉援助実習の意味および組み立てについて 実習生の住所地、興味、進路に応じ実習先の検討を行う
2	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表する
3	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表する
4	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表する
5	当事者理解	精神障害者の抱えている生活課題や困難について理解する（ゲスト講師予定：精神障害者当事者）
6	実習に向けての事前学習	実習先（医療機関）の概要を調べ発表する
7	精神保健福祉士業務の実際を知る	精神科医療機関における精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：医療機関で働く精神保健福祉士）
8	実習に向けての事前学習	実習先（地域の事業所）の概要を調べ発表する
9	精神保健福祉士業務の実際を知る	地域で働く精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：地域で働く精神保健福祉士）
10	実習計画書作成	各自、実習中のテーマを設定し、それに基づいて実習計画を立てる
11	実習計画書作成	各自、実習中のテーマを設定し、それに基づいて実習計画を立てる
12	実習計画書作成	各自、実習中のテーマを設定し、それに基づいて実習計画を立てる
13	実習先への事前訪問について	実習先に対する事前訪問の方法や留意点などを理解する
14	実習日誌の書き方	実習中の実習記録・実習日誌の意義を理解して、その書き方や留意点を確認する
15	個人指導	実習中の留意すべきことの再確認と同時に、実習関連書類の点検を行う

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習指導		科目ナンバリング	SPSC23026	
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力) ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー) ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力) 			

《授業の概要》

- 1、必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 2、職業倫理を身につける。
- 3、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 4、専門職種との連携のあり方を理解する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2015年

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神保健福祉士のあるべき姿を学び、これまで勉強してきたことを実習をとおして理解する。

《授業時間外学習》

実習報告会のプレゼンテーション内容の準備や実習報告書作成などは授業時間外でも各自その準備を行う。
機会があれば、精神保健福祉現場の見学研修も実施する。

《成績評価の方法》

授業態度及び事前学習の発表内容 (30%)
実習記録及び実習先の評価 (40%)
実習報告会、実習報告書の内容 (30%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習の振り返り・各実習施設の印象・特色・全体的な振り返り
2	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習各自の個別振り返り・スーパーバイザーからの学び・印象的なエピソード・課題など
3	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習各自の個別振り返り・スーパーバイザーからの学び・印象的なエピソード・課題など
4	精神保健福祉現場実習の振り返り	各自の学び、課題の掘り下げ・ディスカッション
5	精神保健福祉現場実習の振り返り	各自の学び、課題の掘り下げ・ディスカッション
6	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習で学んだ内容についての実習報告書作り
7	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習で学んだ内容についての実習報告書作り
8	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習で学んだ内容についての実習報告書作り
9	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告書仕上げと報告書提出
10	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会に向けてのプレゼンテーション内容掘り下げ
11	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会に向けてのプレゼンテーション内容掘り下げ
12	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会に向けてのプレゼンテーション内容掘り下げ
13	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会で発表
14	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習における実習報告書、及び実習報告会の振り返り
15	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習における実習報告書、及び実習報告会の総まとめ

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習		科目ナンバリング	SPSC24009	
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 				

《授業の概要》

厚生労働省指定の精神保健福祉現場（精神科医療機関及び地域の事業所等）においてトータルで210時間以上の実習を行う。実習を通して精神障害者の置かれている状況やその生活課題を理解し、その課題に対して精神保健福祉士がどのように支援を行っているのかを理解する。また、精神保健福祉士が行う支援において、求められる倫理や価値を基にして、必要な知識や技術について実習において会得する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2015年

《参考図書》

浦河べてるの家 『べてるの家の「当事者研究」』 医学書院 2009年

《授業の到達目標》

精神障害者の置かれている状況を理解しながら、その生活課題に対して精神保健福祉士が実際現場でどのような支援を行っているかを自分の頭で理解し、その支援が自分の実践に近づけるように体得する。

《授業時間外学習》

精神保健福祉法、障害者総合支援法、及び精神保健福祉士法を理解して実習に臨むこと。

《成績評価の方法》

実習に対する事前学習、参加意欲（30%）
 実習記録、及び実習先の評価（40%）
 実習報告会、及び実習報告書の内容（30%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
2	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
3	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
4	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
5	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
6	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
7	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
8	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
9	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
10	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
11	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
12	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
13	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
14	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
15	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習		科目ナンバリング	SPSC24009	
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力) ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度(社会的責任) ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ) ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力) ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) 				

《授業の概要》

厚生労働省指定の精神保健福祉現場(精神科医療機関及び地域の事業所等)においてトータルで210時間以上の実習を行う。実習を通して精神障害者の置かれている状況やその生活課題を理解し、その課題に対して精神保健福祉士がどのように支援を行っているのかを理解する。また、精神保健福祉士が行う支援において、求められる倫理や価値を基にして、必要な知識や技術について実習において会得する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2015年

《参考図書》

浦河べてるの家 『べてるの家の「当事者研究」』 医学書院 2009年

《授業の到達目標》

精神障害者の置かれている状況を理解しながら、その生活課題に対して精神保健福祉士が実際現場でどのような支援を行っているかを自分の頭で理解し、その支援が自分の実践に近づくように体得する。

《授業時間外学習》

精神保健福祉法、障害者総合支援法、及び精神保健福祉士法を理解して実習に臨むこと。

《成績評価の方法》

実習に対する事前学習、参加意欲(30%)
 実習記録、及び実習先の評価(40%)
 実習報告会、及び実習報告書の内容(30%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
2	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
3	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
4	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
5	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
6	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
7	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
8	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
9	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
10	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
11	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
12	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
13	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
14	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
15	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。

科目名	インターンシップ		科目ナンバリング	SFFD24010	
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

インターンシップは、企業やNPOなどの団体で実際に勤務をし、社会の仕組みや団体でのコミュニケーションの方法などの体験を通して学ぶことを目的としています。また企業などの組織について知ることも重要な目的となっています。

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考図書》

授業時間中に指示します。

《授業の到達目標》

- ・インターンシップを通し、企業や労働の実態の理解を深めるとともに職種ごとの働き方について理解することが出来ます。
- ・インターンシップを通し、社会との関わり方や多様な世代とのコミュニケーションの取り方を身につけることが出来ます。
- ・インターンシップを通し、企業研究を進め、将来の進路を見定めることが出来るようになります。

《授業時間外学習》

インターンシップ先の検討、企業研究においては、インターネットでの情報収集、有価証券報告書や新聞記事、雑誌記事などの読解を通し自主的な取り組みで実施するため、その準備はすべて授業時間外で実施することになります。インターンシップ中は業務日報の作成が必要になります。

《成績評価の方法》

授業中の課題達成度(30%)、インターンシップ先での評価(30%)、事後の振り返りにおけるレポート等(40%)
 提出物については、コメントを付し返却する。

《備考》

この授業は、ソーシャルワーク実習を履修しない学生のみ履修することが出来ます。ソーシャルワーク実習と両方の履修はできません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	インターンシップの目的とスケジュールについて
2	キャリア教育とインターンシップ	雇用の現状と大学設置基準等によるキャリア教育の位置づけについて 社会人基礎力
3	社会人基礎力の形成	一般教養とSPI試験 ビジネスマナー・書類の書き方等、ビジネス等の活動に必要なスキル
4	企業研究	法人組織の仕組み 会社概要、事業内容、企業業績等の理解
5	インターンシップ先の検討	インターンシップ先の希望調査と調整
6	インターンシップ計画の作成	インターンシップ計画について検討し、計画書を作成する
7	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
8	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
9	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
10	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
11	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
12	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
13	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
14	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
15	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))

科目名	インターンシップ		科目ナンバリング	SFFD24010	
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度(社会的責任) ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)				

《授業の概要》

インターンシップは、企業やNPOなどの団体に実際に勤務をし、社会の仕組みや団体でのコミュニケーションの方法などの体験を通して学ぶことを目的としています。また企業などの組織について知ること重要な目的となっています。

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考図書》

授業時間中に指示します。

《授業の到達目標》

- ・インターンシップを通し、企業や労働の実態の理解を深めるとともに職種ごとの働き方について理解することが出来ます。
- ・インターンシップを通し、社会との関わり方や多様な世代とのコミュニケーションの取り方を身につけることが出来ます。
- ・インターンシップを通し、企業研究を進め、将来の進路を見定めることが出来るようになります。

《授業時間外学習》

インターンシップ先の検討、企業研究においては、インターネットでの情報収集、有価証券報告書や新聞記事、雑誌記事などの読解を通し自主的な取り組みで実施するため、その準備はすべて授業時間外で実施することになります。インターンシップ中は業務日報の作成が必要になります。

《成績評価の方法》

授業中の課題達成度(30%)、インターンシップ先での評価(30%)、事後の振り返りにおけるレポート等(40%)
 提出物については、コメントを付し返却する。

《備考》

この授業は、ソーシャルワーク実習を履修しない学生のみ履修することが出来ます。ソーシャルワーク実習と両方の履修はできません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	インターンシップ帰校日	進行中のインターンシップにおける現状について評価・検討し、改善方法について検討する。
2	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
3	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
4	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
5	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
6	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
7	(実習)	インターンシップ(3週間(予定)) 実習巡回指導
8	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
9	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
10	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
11	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
12	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
13	インターンシップ報告書の作成	インターンシップ報告会のための資料を整備する
14	インターンシップ報告会	インターンシップの報告会を実施する
15	授業のまとめ	インターンシップの振り返りと反省を行う

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	社会福祉特別講義 I		科目ナンバリング	SFFD20001
担当者氏名	小林 茂			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） <input type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input checked="" type="radio"/> 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）			

《授業の概要》

4年間の学びの集大成として社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の合格をめざし、各受験科目の学習の振り返りと到達点の確認を行います。受験準備に向けて自主学習を進めつつ、不明な点を各教員に質問できるようにします。また、適時、受験科目の特別講座を開いていきます

《テキスト》

社会福祉国家試験ワークブック（適時指定する）
精神保健福祉士ワークブック（適時指定する）

《参考図書》

各学生の到達段階に合わせて、個別に提示します

《授業の到達目標》

- ①社会福祉士国家試験、精神保健福祉士の各試験の出題基準と傾向を理解する
- ②各試験科目の要点やキーワードを整理し理解する
- ③模擬試験などを通じて、自己の学習到達点を積み上げ、合格を目指す

《成績評価の方法》

- (1) 授業内での取り組む問題の成果 50%
- (2) 模擬試験の結果 50%

※授業内で取り組む問題については採点コメントを付して返却する

《授業時間外学習》

1. 本授業時間だけではなく、学生による学習グループをつくり毎日受験勉強をする習慣を身につけること。
2. 誤った箇所、不明な点は放置せず、分かるまで調べる習慣を身に付けること。
3. 学習してきたノートを整理する習慣を身につけること。
4. 本試験時間は合計4時間。模擬試験も同様の時間をかけます

《備考》

国家試験受験が履修条件となります。国家試験を受験するか否か、履修登録前によく考えて登録してください。受験しない学生は履修する必要はありません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の出題範囲と試験傾向について解説および各学生の学習計画を作成する
2	学内模擬試験①	社会福祉士、精神保健福祉士の国試共通科目11科目の模擬試験を行い、各自の理解していないところを確認する。
3	学内模擬試験②	社会福祉士の専門科目8科目の模擬試験を行い、各自の理解していないところを確認する。
4	(共通科目) 要点整理①	「人体の構造と機能及び疾病」「心理学理論と心理的支援」の要点整理
5	(共通科目) 要点整理②	「社会理論と社会システム」「現代社会と福祉」「地域福祉の理論と方法」の要点整理
6	(共通科目) 要点整理③	「福祉行財政と福祉計画」「社会保障」の要点整理
7	(共通科目) 要点整理④	「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」「低所得者に対する支援と生活保護」の要点整理
8	(共通科目) 要点整理⑤	「保険医療サービス」「権利擁護と成年後見制度」の要点整理
9	(専門科目) 要点整理①	「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」の要点整理
10	(専門科目) 要点整理②	「社会調査の基礎」「福祉サービスの組織と経営」の要点整理
11	(専門科目) 要点整理③	「高齢者に対する新給付と介護保険制度」「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」の要点整理
12	(専門科目) 要点整理④	「就労支援サービス」「更生保護制度」の要点整理
13	(専門科目) 要点整理	精神保健福祉士の専門科目の要点整理
14	学内模擬試験①	社会福祉士、精神保健福祉士の国試共通科目11科目の模擬試験を行い、各自の理解していないところを確認する。
15	学内模擬試験②	社会福祉士の専門科目8科目の模擬試験を行い、各自の理解していないところを確認する。

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	社会福祉特別講義Ⅱ		科目ナンバリング	SFFD20002
担当者氏名	小林 茂			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ◎ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）			

《授業の概要》

4年間の学びの集大成として社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の合格をめざし、各受験科目の学習の振り返りと到達点の確認を行います。受験準備に向けて自主学習を進めつつ、不明な点を各教員に質問できるようにします。また、適時、受験科目の特別講座を開いていきます

《テキスト》

社会福祉国家試験ワークブック（適時指定する）
精神保健福祉士ワークブック（適時指定する）

《参考図書》

各学生の到達段階に合わせて、個別に提示します

《授業の到達目標》

- ①社会福祉士国家試験、精神保健福祉士の各試験の出題基準と傾向を理解する
- ②各試験科目の要点やキーワードを整理し理解する
- ③模擬試験などを通じて、自己の学習到達点を積み上げ、合格を目指す

《成績評価の方法》

- (1) 授業内での取り組む問題の成果 50%
- (2) 模擬試験の結果 50%

※授業内で取り組む問題については採点コメントを付して返却する

《授業時間外学習》

1. 本授業時間だけではなく、学生による学習グループをつくり毎日受験勉強をする習慣を身につけること。
2. 誤った箇所、不明な点は放置せず、分かるまで調べる習慣を身につけること。
3. 学習してきたノートを整理する習慣を身につけること。
4. 本試験時間は合計4時間。模擬試験も同様の時間をかけます

《備考》

国家試験受験が履修条件となります。国家試験を受験するか否か、履修登録前によく考えて登録してください。受験しない学生は履修する必要はありません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	国家試験の傾向、各学生の個別の到達点に合わせた学習計画を立てる
2	問題演習①	社会福祉士・精神保健福祉士の共通科目11科目のうちから、練習問題を解きながら、自己の知識の不足を補っていきます
3	問題演習②	社会福祉士、精神保健福祉士の専門科目の練習問題を解きながら、自己の知識の不足を補っていきます
4	問題演習③	社会福祉士・精神保健福祉士の共通科目11科目のうちから、練習問題を解きながら、自己の知識の不足を補っていきます
5	問題演習④	社会福祉士、精神保健福祉士の専門科目の練習問題を解きながら、自己の知識の不足を補っていきます
6	学内模擬試験①	模擬試験を通じて、国家試験の出題傾向を理解してきます。
7	学内模擬試験②	模擬試験を通じて、国家試験の出題傾向を理解してきます。
8	(共通科目) 要点整理	模擬試験を通じて判明した苦手科目の要点整理を再度行います
9	(専門科目) 要点整理①	模擬試験を通じて判明した苦手科目の要点整理を再度行います
10	(専門科目) 要点整理②	模擬試験を通じて判明した苦手科目の要点整理を再度行います
11	学内模擬試験③	模擬試験を通じて、国家試験の出題傾向を理解してきます
12	学内模擬試験④	模擬試験を通じて、国家試験の出題傾向を理解してきます
13	学内模擬試験⑤	模擬試験を通じて、国家試験の出題傾向を理解してきます
14	学内模擬試験⑥	模擬試験を通じて、国家試験の出題傾向を理解してきます
15	総括	これまで学習してきたことを各自で総括整理します

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習	科目ナンバリング	STSW44003
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

授業のねらいは、教育実習の目的を達成することにある。具体的には、事前指導において、教育現場や教員の職務範囲などについて理解するとともに、すでに履修している教職に関わる科目の振り返りによって、実習時に必要な知識と理論を統合化する。事後指導においては、教育実習の成果を自己確認するとともに、他の実習生との意見交換、情報交換、討議などにより経験の共有化を図る。

《授業の到達目標》

- (1) 教職に関する科目の振り返りを行い、それらの知識や技術を現場実習のどの場面でもどのように用いるのか説明できる。
- (2) 教科に関する科目の振り返りを行い、それらの知識や技術を現場実習のどの場面でもどのように用いるのか説明できる。
- (3) 教職を希望する者にとって、教育実習がどのような意義をもつか説明できる。

《成績評価の方法》

実習校による実習評価(50%)、およびレポート(30%)、実習報告会における発表(20%)の総合評価
提出物については、コメントを付し返却する。

《テキスト》

『教育実習の研究』 教師養成研究会（学芸図書，2001）

《参考図書》

『教育実習の新たな展開』 有吉秀樹・長沢憲保（ミネルヴァ書房，2001）
『福祉教育論』 村上尚三郎他（1998、北大路書房）
『福祉教育の理論と実践』 阪野貢編著（2000、相川書房）

《授業時間外学習》

履修期間だけでなく、日常生活および学業生活全体のなかで、教職をめざす者としての自覚を持って行動することが求められる。

《備考》

授業案作成および模擬授業に関しては授業外の指導も合わせて行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習全体の理解	教科「教育実習」の目的と方法を理解する
2	教育実習の全体（1）	1）教員養成と教育実習 2）教育実習の目的を理解する
3	教育実習の全体（2）	3）教育実習の展開 4）教育実習の心得を理解する
4	教育実習の内容（1）	1）学校経営 2）学校の組織を理解する
5	教育実習の内容（2）	3）生徒の理解 4）教育課程 5）学習指導を理解する
6	教育実習の実際（1）	1）教材研究の実際 2）学習指導の実際を理解する
7	教育実習の実際（2）	3）学習指導案の事例を理解する
8	教育実習の実際（3）	4）授業研究の実際を理解する
9	教育実習の実際（4）	5）道徳・特別活動・生活指導の実際 6）教育実習の評価を理解する
10	教育の方法及び技術（1）	1）授業の仕組みとはたらきを理解する
11	教育の方法及び技術（2）	2）教育方法および教育技術を理解する
12	教材研究と指導案づくり（1）	1）学習指導要領 2）学習分野を理解する
13	教材研究と指導案づくり（2）	3）発問や応答 4）時間配分 5）学習目標と評価を理解する
14	模擬授業（1）	1）授業の位置づけ 2）授業の構成要素を理解する
15	模擬授業（2）	3）授業内容の難易度 4）授業目標の達成と評価を理解する

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（高）		科目ナンバリング	STSW44004	
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

学生は「教職」を教科指導を中心とした教職イメージで捉えがちである。本演習では、学校現場の視点から見た教員の仕事内容とその職務について学習することを中心として、これまでの教職課程で得られた知識・技術を総合的に用いる能力を実践的授業方法により養う。

《テキスト》

・「自己成長を目指す教職実践演習」（原田 恵理子、森山賢一著）

《参考図書》

「教職実践演習ワークブック -ポートフォリオで教師力アップ」（西岡 加名恵、川地 亜弥子著）

《授業の到達目標》

- (1) 教職課程において既に習得している専門的な知識・技能および教育実習経験の統合を図ることができる。
- (2) 教員としての使命感や責任感を説明できる。
- (3) 教科指導のほか生徒指導など教員の多様な職務内容を説明できる。
- (4) 教育現場で実践するために必要な諸能力（汎用的技能など）を身につけ、示すことができる。

《授業時間外学習》

本科目では、授業ごとの予習復習というよりは、日頃から教育問題に関心を持ち、「教育とは何か」「子どもを導くとはどのようなことか」などについて自分なりの考えを述べられるようにまとめておくことが大切である。教授・指導上の観点だけでなく、教育法規的な側面、学校の社会的な役割、世界の動向など、多面的・複眼的に捉える力を養う努力が求められる。

《成績評価の方法》

毎回の授業記録（ポートフォリオ等）に基づく学生による自己評価（40%）と教員による評価（60%）の相互評価を実施する。提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実践演習とは何か 教育実習のふり返り	教職実践演習の科目としての意義を理解するとともに、教育実習のふり返りを通して教職に就く者として必要な能力・技能について検討する。
2	学習指導要領の内容理解 学習指導案作成のまとめ	学習指導要領の内容についてふりかえり、学習指導案作成の要点や技術についてまとめる（事例研究および討議）
3	模擬授業	模擬授業を実施する（授業実施および討議）
4	道徳教育と特別活動(1)	道徳教育と特別活動について知識としてふり返りを行うとともに、多様な事例を検討し実践的課題を検討する（事例研究および討議）
5	道徳教育と特別活動(2)	道徳教育と特別活動について知識としてふり返りを行うとともに、多様な事例を検討し実践的課題を検討する（事例研究および討議）
6	子どもの発達の理解	思春期・青年期の特性と発達課題を理解するとともに、認知的発達、人間関係の発達について考察する
7	生徒指導と教育相談(1)	生徒指導および教育相談の概念についてふり返るとともに、一次的援助と二次的援助、三次的援助について理解する
8	生徒指導と教育相談(2)	一次的援助と二次的援助、三次的援助について事例（不登校、いじめ、発達障害、問題行動等）をもとに理解を深める（ロールプレイングおよび討議）
9	特別支援教育	就学指導のあり方、個別の指導計画の活用、発達検査等について知識の確認を行うとともに、協働による子ども支援、専門機関・地域・保護者との連携等について検討する
10	学級経営のあり方について(1)	学級担任の役割を理解するとともに、学級経営の進め方、保護者との関わり方などについて、困難事例を中心として検討する（事例研究および討議）
11	学級経営のあり方について(2)	学級担任の役割を理解するとともに、学級経営の進め方、保護者との関わり方などについて、困難事例を中心として検討する（事例研究および討議）
12	教師のコミュニケーション力について	教師は学校組織の一員である一方、児童生徒に対しては指導的立場にある。これらを理解し、教員のコミュニケーション力について検討する（ロールプレイングおよび討議）
13	保護者・地域社会への対応について	保護者および地域との連携・協働の重要性について理解するとともに、それに必要なソーシャルスキルについて、事例を検討し習得する
14	教師としての使命感・責任感、倫理観、教育的愛情	現場で求められている教師の資質・能力とはなにかについて理解するとともに、教育委員会や社会が求める教師の力量についても検討し、自己成長の重要性を知る
15	学習のまとめ	学習のふり返りと学習成果の評価